

# 磐越自動車道関係発掘調査報告書

沖ノ羽遺跡Ⅲ（C地区）

2003

新潟県教育委員会

財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団

# 磐越自動車道関係発掘調査報告書

おき は  
沖ノ羽遺跡Ⅲ（C地区）

2003

新潟県教育委員会

財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団

## 序

新潟県教育委員会では、道路建設などの開発事業に伴う発掘を行っており、その成果を発掘調査報告書として公表してまいりました。

本書は磐越自動車道建設工事に伴い実施した、新津市沖ノ羽遺跡C地区の発掘調査報告書です。

磐越自動車道は、福島県いわき市と新潟市を結ぶ総延長123kmの高速道路で、平成9年に全線開通し、太平洋側と日本海側が結ばれるとともに常磐・東北・北陸自動車道とも連結され、それぞれの地域の発展に寄与しています。

地域の発展に貢献する開発事業と発掘調査を円滑に調整しながら、調査を実施することは難しい面もあります。しかし、発掘調査により明らかにされた結果は、その地域の歴史について多くを語り、これらの調査成果が地域社会の歴史や文化を見直す契機になることも少なくありません。

調査の結果、沖ノ羽遺跡C地区は、古代から中世にわたる遺跡であることが明らかになり、当時の建物跡や井戸・畑の跡とともに多くの土器が発見されました。土器は大半の遺跡で発見される最も一般的な考古資料であり、各遺跡の土器を詳細に分析することにより、当時の物流や手工業の様子を垣間見ることができます。たかが「焼き物」ですが、そこには新津地域の古代・中世史を考える上で重要なヒントが隠されています。

今回の報告が今後の古代・中世史研究に資すると共に、県民の皆様様の埋蔵文化財に対する理解と認識を深める一助となれば幸いです。

最後に、この発掘調査に際し多大な御協力と御援助を賜りました新津市教育委員会並びに地元の方々、また調査から報告書刊行に至るまで格別の御配慮を賜った日本道路公団新潟建設局・同新潟工事事務所に対し、深甚なる敬意と感謝を表します。

平成15年3月

新潟県教育委員会

教育長 板屋越 麟一

## 例 言

- 1 本報告書は、新潟県新津市大字七日町字沖ノ羽3255他に所在する沖ノ羽遺跡調査報告の第3冊である。
- 2 発掘調査は磐越自動車道いわき～新潟線の建設に伴い、新潟県教育委員会（以下、県教委）が日本道路公団から委託を受け実施したものである。
- 3 本書は沖ノ羽遺跡の西端（C地区）の発掘調査報告書である。沖ノ羽遺跡は東より、A地区・B地区・C地区に大別し、調査面積が膨大であることから調査区別に順次報告することとなった。今回はC地区について報告する。A地区の調査報告書は『新潟県埋蔵文化財調査報告第58集 沖ノ羽遺跡Ⅰ（A地区）』、『新潟県埋蔵文化財調査報告第80集 沖ノ羽遺跡Ⅱ（B地区）』として既に刊行されている。
- 4 発掘調査は新潟県教育委員会が調査主体となり、平成2年度から4年度にかけて実施した。ただし、平成4年度の発掘調査については、財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団（以下、埋文事業団）が新潟県教育委員会より委託し、調査にあたった。
- 5 遺構航空写真は、国際航業株式会社に撮影を委託した。
- 6 整理作業は県教委から依頼を受けて、平成14年度に埋文事業団で実施した。
- 7 出土遺物及び記録類については、県教委が新潟県埋蔵文化財センターにおいて保管・管理している。遺物の注記記号は「沖」とし、土器位置・層位・取り上げ日などを併記した。
- 8 本書で示す方位はすべて真北である。ここでいう真北とは、国家座標軸のX軸方向を表す。
- 9 既成の図面を挿入・図版で用いた場合はその出典を記した。
- 10 引用文献は筆者及び発行年（西暦）を文中に〔 〕で示し、巻末に一括して掲載した。ただし第Ⅵ章 自然科学分析は引用文献を巻末に掲載した。
- 11 本書の作成は、北村亮（埋文事業団整理担当課長代理）の指導のもとに、春日真実（埋文事業団主任調査員）が担当し、嘱託員が遺物接合・復元・実測・トレース・写真撮影などを行った。遺構図と挿入の製図、図面図版・写真図版の版組み及び全体のデジタル編集・データ化は、株式会社セブアスに委託した。
- 12 本文中の敬称は省略した。
- 13 自然科学分析（樹種同定）とそれに係わる第Ⅵ章の記述は、株式会社パレオ・ラボに委託した。
- 14 12に示す以外の本書の記述・編集は、春日があたった。ただし、第Ⅰ章は既存の沖ノ羽遺跡の報告書や、また第Ⅱ章1・2Aと2Cの一部は既存の沖ノ羽遺跡の報告書、田中一徳・立木宏明〔2002〕「2 周辺の遺跡」『内野遺跡発掘調査報告書』新津市教育委員会、田中一徳〔2002〕「3 歴史的環境」同前を基礎とした。
- 15 本遺跡については、埋文事業団1993『沖ノ羽遺跡』『年報』に概要が報告されているが、これらの間に齟齬が生じた場合は本報告をもって正とする。
- 16 発掘調査から本書の作成に至るまで、下記の方々並びに機関から多大な御教示と御協力を賜った。記して厚くお礼申し上げる。（敬称略 五十音順）

浅井勝利 朝岡政康 伊藤秀和 宇野隆夫 柿田祐司 川畑 誠 川村 尚 北野博司  
坂井秀弥 笹沢正史 立木宏明 戸根与八郎 新津土地改良区 野水晃子 藤森健太郎  
山崎 天 渡邊朋和

# 目 次

第 I 章 序 説 .....	1
1 調査に至る経緯 .....	1
2 調査と整理作業 .....	1
A 一次調査 .....	1
B 二次調査 .....	1
C 調査体制 .....	2
D 整理作業 .....	3
第 II 章 遺跡の位置と環境 .....	4
1 位置と地理的環境 .....	4
A 周辺の地形 .....	4
B 遺跡の位置 .....	4
2 歴史的環境 .....	7
A 周辺の遺跡 .....	7
1) 古代 .....	7
2) 中世 .....	7
B 新潟平野の前期古墳 .....	11
C 文献史料からみた新津市周辺 .....	12
第 III 章 調査の概要 .....	14
1 調査方法 .....	14
A 地区の名称 .....	14
B グリッドの設定 .....	14
2 基本層序 .....	15
3 遺構・遺物の概要 .....	15
A 上層(中世) .....	15
B 下層(古代) .....	16
第 IV 章 遺 構 .....	17
1 記述の方法 .....	17
2 上層の遺構 .....	18
3 下層の遺構 .....	20
第 V 章 遺 物 .....	22
1 基本方針 .....	22
2 上層の土器・陶磁器 .....	22
A 概 要 .....	22
B 器 種 分 類 .....	23

C 観 察 表 .....	24
D 遺 物 各 説 .....	25
3 下 層 の 土 器 .....	26
A 概 要 .....	26
B 分 類 .....	26
C 観 察 表 .....	30
D 遺 物 各 説 .....	30
4 土 製 品 ・ 石 器 ・ 木 器 ・ 金 属 器 .....	37
<b>第VI章 木製品の樹種</b> .....	<b>38</b>
1 方 法 .....	38
2 結 果 .....	38
3 考 察 .....	39
<b>第VII章 ま と め</b> .....	<b>43</b>
1 土 器 編 年 .....	43
A 上 層 (中世) .....	43
B 下 層 (古代) .....	44
2 古代の土器類の観察結果 .....	47
A 回 転 方 向 .....	47
B 降 灰 (黒化) .....	49
C 須恵器食器具の使用痕跡 .....	50
3 西川流域の古代土器様相との比較 .....	50
A 食 器 具 .....	51
B 煮 炊 具 .....	53
《 要 約 》 .....	54
《 引 用 ・ 参 考 文 献 》 .....	55
《 観 察 表 》 .....	58

## 挿 図 目 次

第 1 図 沖ノ羽遺跡一次調査試掘坑位置図 .....	2	第 10 図 土器・陶磁器の出土状況 (破片数) .....	16
第 2 図 沖ノ羽遺跡周辺の地形 .....	5	第 11 図 遺構の分類 .....	17
第 3 図 沖ノ羽遺跡周辺の旧地割り .....	6	第 12 図 蔵板組み井戸の分類 .....	21
第 4 図 周辺の遺跡 (古代) .....	8	第 13 図 中世土器・陶磁器器種分類 .....	23
第 5 図 周辺の遺跡 (中世) .....	9	第 14 図 古代土器器種分類 (1) .....	28
第 6 図 新津丘陵窪窪跡群を中心とした7世紀末～9 世紀の須恵器 .....	11	第 15 図 古代土器器種分類 (2) .....	29
第 7 図 新潟平野南西部の前期古墳 (群) .....	12	第 16 図 杯蓋・有台杯の重ね焼分類 .....	31
第 8 図 グリッドと地区の名称 .....	14	第 17 図 木製品切片の光学顕微鏡写真 (1) .....	41
第 9 図 基本順序 .....	15	第 18 図 木製品切片の光学顕微鏡写真 (2) .....	42
		第 19 図 上層遺構出土の主な遺物 .....	43

第20図	関連遺物	43
第21図	沖ノ羽遺跡C地区出土土師器皿の変遷案	44
第22図	下層土器の変遷(1)	45
第23図	下層土器の変遷(2)	46
第24図	下層土器の変遷(3)	47
第25図	黒色土器の焼成方法	49

第26図	底部外面の棒状黒斑	49
第27図	口縁部外面の黒化	49
第28図	磨耗部位	50
第29図	杯類の収納方法	50
第30図	食器具の構成比率	51
第31図	各遺跡出土の煮炊具	52

## 表 目 次

第1表	沖ノ羽遺跡発掘調査実施状況	2
第2表	新津市周辺の古代遺跡	10
第3表	新津市周辺の中世遺跡	10
第4表	基本層序	15
第5表	主な遺構の略称	17
第6表	上層の土器・陶磁器	23
第7表	土器の一生	24
第8表	生産段階と生産痕跡	24
第9表	土器に見られる使用段階以降の痕跡	25
第10表	下層の土器	26
第11表	7区下層の土器	27
第12表	8区下層の土器	27
第13表	下層の食器具	27
第14表	須恵器胎土の特徴	30
第15表	7下SK134出土土器の器種構成比率	31
第16表	7下SK134食器具構成比率	31
第17表	8下SK43出土土器の器種構成比率	32
第18表	8下SK43食器具構成比率	32
第19表	8下SD40出土土器の器種構成比率	32
第20表	8下SD40食器具構成比率	32
第21表	8下SE205出土土器の器種構成比率	32
第22表	8下SE205食器具構成比率	33

第23表	8下SD31出土土器の器種構成比率	33
第24表	8下SD31食器具構成比率	33
第25表	8下SK36出土土器の器種構成比率	33
第26表	8下SK36食器具構成比率	33
第27表	8下SK17出土土器の器種構成比率	34
第28表	8下SK17食器具構成比率	34
第29表	8下SD21出土土器の器種構成比率	34
第30表	8下SD21食器具構成比率	34
第31表	8下SK44出土土器の器種構成比率	35
第32表	8下SK44食器具構成比率	35
第33表	8下SE27出土土器の器種構成比率	35
第34表	8下SE27食器具構成比率	35
第35表	8下SK100出土土器の器種構成比率	35
第36表	8下SK100食器具構成比率	36
第37表	8下SK14出土土器の器種構成比率	36
第38表	8下SK14食器具構成比率	36
第39表	沖ノ羽遺跡C地区出土木製品の樹種同定結果	39
第40表	器種別の樹種構成	40
第41表	水挽き成形器種の口クロ回転方向	48
第42表	叩き成形の回転方向	48
第43表	杯蓋の重ね焼き	49

## 図 版 目 次

### 【図面図版】

図版 1	上・下層全体図
図版 2	上層遺構平面図(1)
図版 3	上層断面図(1)
図版 4	上層断面図(2)
図版 5	上層遺構平面図(2)
図版 6	上層遺構平面図(3)
図版 7	上層断面図(3)
図版 8	下層遺構平面図(1)
図版 9	下層断面図(1)
図版 10	下層遺構平面図(2)
図版 11	下層断面図(2)
図版 12	下層遺構平面図(3)
図版 13	下層断面図(3)
図版 14	下層遺構平面図(4)

図版 15	下層断面図(4)
図版 16	掘立柱建物(1)
図版 17	掘立柱建物(2)
図版 18	掘立柱建物(3)
図版 19	掘立柱建物(4)
図版 20	井戸(下層)
図版 21	中・近世の土器・陶磁器
図版 22	古代の土器(1)
図版 23	古代の土器(2)
図版 24	古代の土器(3)
図版 25	古代の土器(4)
図版 26	古代の土器(5)
図版 27	古代の土器(6)
図版 28	古代の土器(7)

図版 29 古代の土器 (8)  
図版 30 古代の土器 (9)  
図版 31 古代の土器 (10)  
図版 32 古代の土器 (11)  
図版 33 古代の土器 (12)  
図版 34 古代の土器 (13)  
図版 35 古代の土器 (14)  
図版 36 古代の土器 (15)

【図面図版】

図版 44 上層完掘  
図版 45 上層掘立柱建物・井戸 (1)  
図版 46 上層井戸 (2)  
図版 47 上層土坑 (1)  
図版 48 上層土坑 (2)  
図版 49 上層土坑 (3)  
図版 50 上層土坑 (4)・溝 (1)  
図版 51 上層溝 (2)  
図版 52 下層完掘 (1)  
図版 53 下層完掘 (2)  
図版 54 下層井戸 (1)  
図版 55 下層井戸 (2)  
図版 56 下層土坑 (1)  
図版 57 下層土坑 (2)  
図版 58 下層土坑 (3)  
図版 59 下層土坑 (4)・溝 (1)

図版 37 古代の土器 (16)  
図版 38 土製品・石器 (1)  
図版 39 石器 (2)・木器 (1)  
図版 40 木器 (2)  
図版 41 木器 (3)  
図版 42 木器 (4)  
図版 43 木器 (5)・金属器・追加土器

図版 60 下層溝 (2)  
図版 61 中・近世の土器・陶磁器、古代の土器 (1)  
図版 62 古代の土器 (2)  
図版 63 古代の土器 (3)  
図版 64 古代の土器 (4)  
図版 65 古代の土器 (5)  
図版 66 古代の土器 (6)  
図版 67 古代の土器 (7)  
図版 68 古代の土器 (8)  
図版 69 古代の土器 (9)  
図版 70 古代の土器 (10)  
図版 71 古代の土器 (11)  
図版 72 古代の土器 (12)  
図版 73 古代の土器 (13)・土製品・石器  
図版 74 木器 (1)  
図版 75 木器 (2)・金属器・追加土器



# 第1章 序 説

## 1 調査に至る経緯

磐越自動車道のうち沖ノ羽遺跡にかかる区間（新潟～津川）は、昭和53年12月に基本計画路線が決定され、また昭和56年12月には建設省北陸地方建設局より、新潟～津川間の路線概要・環境影響評価の説明が新潟県教育委員会（以下、県教委）及び関係6市町村に行われ、昭和57年1月には整備計画に格上げされた。昭和59年8月には日本道路公団新潟建設局（以下、公団）は、県教委に新潟～津川間の計画路線内及びその周辺の埋蔵文化財蔵地の分布調査依頼を行った。同年10月、県教委は分布調査を周知の遺跡の確認にとどめるが、平野部や段丘上には未周知の遺跡の存在する可能性があり、今後とも分布調査及び一次調査を実施する必要がある旨を回答した。

昭和60年2月、公団に新潟～津川間（約46km）の工事施工命令が出され、昭和61年8月には最後の路線発表を行った。昭和62年4月、県教委は新潟市～北蒲原郡安田町間の遺跡分布調査の依頼を受け、法線内の第1回遺跡分布調査を実施した。その結果、沖ノ羽遺跡を含めた計16か所の一次調査必要地点があること、その調査面積を回答し、昭和63年1月には公団との間で新潟～安田間の文化財発掘工程打ち合せ会議を開催した。また同年2月、県教委は一次調査の各地点の調査面積を回答した。

昭和63年8月、県教委は「昭和63年度上半期発掘調査結果」の協議で、第2回分布調査の結果と今後の調査必要地点を示した。平成元年1月、公団と県教委は協議を行い、ここで沖ノ羽遺跡は発掘調査の対象地点とされた。平成2年1月、公団から沖ノ羽遺跡の第一次調査希望が提示され、同年4月の調査の決定に基づいて、県教委は4月から6月末までの間に計4回、延30日間、沖ノ羽遺跡の第一次調査を実施した。

平成3年1月、「磐越自動車道埋蔵文化財調査工程会議」では沖ノ羽遺跡の第二次調査必要面積61,600m<sup>2</sup>を公団側へ示し、平成3年度・4年度に第二次調査を実施した。

## 2 調査と整理作業

### A 一 次 調 査

一次調査は、県教育委員会により平成2年4月12日～13日・5月14日～24日・5月30日～6月2日・6月18日～30日の4回行われた。方法は、対象地域全体に任意にトレンチを設定し、遺構・遺物の有無を確認するものである。トレンチ数は190基（2,048m<sup>2</sup>）で、調査範囲面積73,020m<sup>2</sup>に占める割合は約3%である。結果、STA（センター杭）867付近からSTA870+80付近、及びSTA872+20付近からSTA877+30付近の範囲に遺物包含層が認められた。遺構として、溝・土坑・ピットなどが検出され、9～10世紀の土師器・須恵器が多く出土した。西側（7・8区に相当）には遺物包含層が2枚存在した。この調査結果により、遺物包含層の確認された範囲に次年度第二次調査を実施する必要が生じた。

### B 二 次 調 査

平成3年は4月15日～12月19日まで調査を行った。当年度の調査予定地区を8調査区に分割し、

## 2 調査と整理作業

1・2区、3・4区、5・6区、7・8区上層の順に調査に入る予定であったが、公団との協議の結果、7・8区を優先して公団に引き渡すため、調査順序を変更し、3・4区と7・8区（次年度調査予定であった下層を含む）を並行して調査する事になった。しかし天候不順と、7・8区から予想以上の遺構・遺物が検出されたため、調査途中の7区下層を残し、撤収せざるを得なかった。7区下層の残りは次年度の調査に回すことになった。

平成4年は4月9日～12月10日まで調査を行った。7区の調査は5月末に終了し9区・5区・6区・10～13区の順で調査を行った。

### C 調査体制

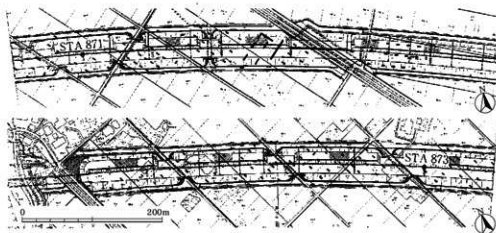
発掘調査は新潟県教育委員会が主体となり、下記の体制で実施した。

#### 平成2年度【一次調査】

調査期間 平成2年4月12・13日、5月14～24日、5月30日～6月2日、6月18日～30日

主 体 新潟県教育委員会（教育長 堀川徹夫）

総 括	大嶋 圭己（新潟県教育庁文化行政課長）		
管 理	吉倉 長幸（ 同 課長補佐）		
監 務	地原 信夫（ 同 埋蔵文化財第一係主事）		
調査指導	本間 信昭（ 同 埋蔵文化財第二係長）		
調査担当	北村 亮（ 同 埋蔵文化財第二係主任）		
調査職員	小野塚徹夫（ 同 埋蔵文化財第二係文化財専門員）		



第1図 沖ノ羽遺跡一次調査試掘坑位置図

（〔石川ら、1994〕より転載）

年度/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	備考
平成2年度	1次調査									
平成3年度	1・2区			7・8区			3区			7区の未調査部分は次年度へ繰り越す
	3・4区			6区			12区			
平成4年度	7区		6区			12区				
	9区		5区			10区		13区		

第1表 沖ノ羽遺跡発掘調査実施状況

（〔石川ら、1994〕より作成）

## 平成3年度〔二次調査〕

調査期間 平成3年4月15日～12月19日

主 体 新潟県教育委員会（教育長 堀川徹夫）

総 括	大嶋 圭己（新潟県教育庁文化行政課長）		
管 理	吉倉 長幸（ 同 課長補佐）		
庶 務	藤田 守彦（ 同 埋蔵文化財第一係主事）		
調査指導	横山 勝栄（ 同 埋蔵文化財第一係長）		
	本間 信昭（ 同 埋蔵文化財第二係長）		
調査担当	伊與那倫夫（ 同 埋蔵文化財第二係文化財専門員）		
調査職員	亀井 功（ 同 埋蔵文化財第二係文化財主事）		
	望月 正樹（ 同 埋蔵文化財第二係文化財主事）		
	沢田 敦（ 同 埋蔵文化財第二係文化財専門員）		
	上田 順二 木村 孝一 春日 真実（ 同 埋蔵文化財第二係嘱託員）		

## 平成4年度

調査期間 平成4年9月～12月10日

調査主体 新潟県教育委員会（教育長 本間栄三郎）

調 査 財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団

総 括	藍原 直木（事務局長）		
管 理	渡辺 耕吉（総務課長）		
庶 務	藤田 守彦（総務課主事）		
調査総括	茂田井信彦（調査課長）		
調査指導	戸根与八郎（調査第一係長）		
調査担当	高橋 保雄（ 同 主任）		
調査職員	亀井 功（ 同 主任）	佐藤 正知（ 同 主任）	須藤 高志（ 同 専門員）
	木村 康裕（ 同 専門員）	石川 智紀（ 同 専門員）	星野 信明（ 同 専門員）
	塩路 真澄（ 同 嘱託員）	上田 順二（ 同 嘱託員）	佐藤 恒（ 同 嘱託員）

## D 整 理 作 業

二次調査を行った平成3・4年度の冬季（12～3月）にかけて基礎整理を行った。本格的な整理作業は、平成14年度に実施した。県教委が公団から受託し、埋文事業団が整理作業に当たった。平成14年度の整理の体制は以下のとおりである。

整理期間 平成14年4月1日～平成15年3月31日

整理主体 新潟県教育委員会（教育長 板屋越麟一）

整 理 財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団

総 括	黒井 幸一（事務局長）		
管 理	長谷川司郎（総務課長）		
庶 務	高野 正司（総務課主任）		
整理指導	北村 亮（調査課整理担当課長代理）		
整理担当	春日 真実（調査課主任調査員）		
作 業	小嶋 洋子 小倉 晴子 加藤 祐子 小山 たか子 笹川 陽子（以上、調査課嘱託員）		

## 第Ⅱ章 遺跡の位置と環境

### 1 位置と地理的環境

#### A 周辺の地形

沖ノ羽遺跡の所在する新津市は、新潟平野を東西に二分するように突出する第三系からなる新津丘陵を南端に、東は阿賀野川、西は信濃川、北は小阿賀野川に囲まれた地域に位置している。

**平野と砂丘** 新津市の低地を含む新潟平野は、平野の出口を砂州の形成でさえぎられて発達してきたいわゆる潟湖充填平野であり、信濃川・阿賀野川等の流入河川で運搬・堆積された土砂が被覆している〔永田・神田ほか1973〕。この新潟平野には北東から南西方向に約80kmにわたって新潟砂丘が発達している。新潟平野の形成と深い関わりをもつこの砂丘は、その配列により内陸側から第Ⅰ（亀田砂丘を含む）、第Ⅱ（沼重砂丘）、第Ⅲ（狭義の新潟砂丘）砂丘列に大別できる。この砂丘列の存在によって新潟平野の海岸線の移動がとらえることができ、埋没する遺物からⅠ列は縄文時代前期以前、Ⅱ列は古墳時代以前、Ⅲ列は室町時代以前に形成されたものと推定されていたが〔新潟古砂丘グループ1974〕、近年の考古学的調査の進展により上記の形成年代をより古くする傾向にある〔加藤ほか2001、加藤・尾崎2002〕。なお沖ノ羽遺跡はこの第Ⅰ砂丘列の約5km南方に位置している。

新潟平野は以上のような砂丘地を除けば低平な湿地帯であり、いたるところに堆積の変遷を示す旧河道の氾濫原・蛇行跡・鳥畑・自然堤防等が見られる〔永田・神田ほか1973〕。

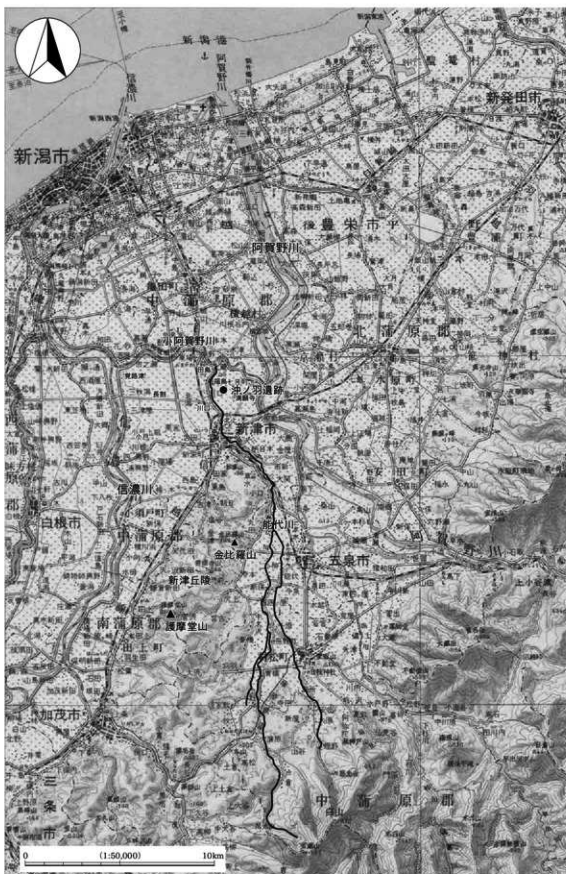
阿賀野川・信濃川・小阿賀野川・新津丘陵に囲まれた沖積地にも地形起伏の小さな微高地や自然堤防が存在している。①新津市街地から西方の小合まで続くもの、②新津市街地から北西方向の長割・覚路津までほぼ連続するもの、③能代川左岸で新津市街地から北上・川口・福島・田島へと続くもの、④結の東方から満願寺へと断続的に追えるもの等が認められる。これらはかつて阿賀野川が形成した自然堤防と考えられ、阿賀野川が西から東へ流路を変化させてきた結果と推測されている〔鈴木1989〕。なお、沖ノ羽遺跡は④の自然堤防上に位置している。

**丘陵** 新津丘陵は新津市の南端に位置し南南西―北北東に走る。加茂川を南限とし、北に行くに従い標高を下げ、金比羅山（134m）以北は標高70～80mとなり、この周囲には標高10～70mの間に段丘面が4段みられる。

#### B 遺跡の位置

沖ノ羽遺跡は、能代川・阿賀野川・小阿賀野川に囲まれた沖積平野に立地し、付近の標高は4.0～5.0mを測る。現在は耕地の整理が進み、地形の起伏がほとんど認められず一面の水田地帯となっている。この景観は、昭和15年～25年に行われた土地改良事業によって形成されたものである。水田の中になぜか残る畑は鳥状に分布しており、その比高は水田面より50～80cm前後高い。この比高差は、旧河川の作り出した自然堤防や微高地の一部が部分的に残存したことにより、生じているものと考えられる。

土地改良以前の状況については、『新津町東部整理組合現景図』などから知ることができる。第3図が示すように、遺跡の南西方には方形に区画された水田が広がり、遺跡が立地している地域やその周縁には、



第2図 沖ノ羽遺跡周辺の地形  
 国土地理院発行 1:200,000「新潟」 昭和53年編集 昭和57年要部修正



第3図 沖ノ羽遺跡周辺の旧地割  
新津市東部整理組合現景園 同組合作成 1:1,800 昭和15年

畑地一枚一枚を取り囲むように作られている「掘田」と呼ばれる水田が分布する。

土地改良以前の沖ノ羽遺跡周辺の土地には微高地が散在し、現在のような平坦な地形ではなかったと考えられる。自然地形を生かし、平坦部は水田に、微高地は畑に、微高地周縁は掘田と畑が混在するという土地利用がなされたものと推察できる。以上のことから、沖ノ羽遺跡は、河川が形成した自然堤防・微高地上または、微高地の周縁部に立地していたものと理解される<sup>(註1)</sup>。

## 2 歴史的環境

新津市域の主な古代・中世遺跡の分布は第4図のとおりである。なお、旧石器～弥生時代については数例であるが、新津丘陵周縁部の台地で確認されている。古墳時代の遺跡としては、古津八幡山古墳を初めてとして古津地域に集中している。

### A 周辺の遺跡

#### 1) 古 代 (第4図、第2表)

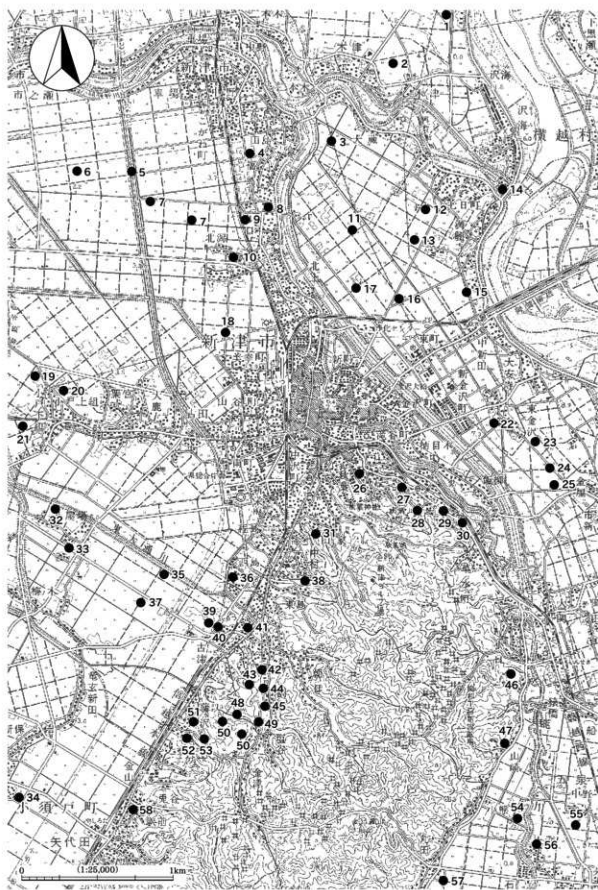
丘陵周辺や沖積地上の微高地上に多くの遺跡が確認でき、近年の大規模開発に伴う埋蔵文化財の発掘調査により、広大な範囲を持つ遺跡の存在も明らかになってきている(第4図)。

**生産遺跡** 新津丘陵上には手工業生産に関連する遺跡がみられ、須恵器窯跡群(以下では総称して新津丘陵窯跡群とする)は丘陵東側に、製鉄遺跡群(以下、総称して金津丘陵製鉄遺跡群とする)は丘陵西側に分布している。須恵器窯には47五泉市山崎窯跡[川上1981]、27新津市七本松窯跡[中川ほか1956、川上ほか1989]、30同市草水町2丁目窯跡[新津市教育委員会1993]、28滝谷窯跡[川上ほか1989]などがあり、早ければ7世紀後半に始まった可能性があり、8世紀後半～9世紀中頃に主な操業時期である(第6図)。これは越後国内の他地域の須恵器生産動向とほぼ一致する。また草水2丁目窯跡では土師器焼成遺構も検出されており、遅くとも9世紀中葉には土師器生産を行っていたとされる。一方金津丘陵製鉄遺跡群には、居村遺跡群・大入C遺跡などがあり、9世紀代2四半期以降とされる[渡邊1997]。

**集落遺跡** 平野部に位置する集落遺跡では7上浦遺跡[川上1997、渡辺1992]、3中谷内遺跡[立木ほか1999]、川根遺跡[立木ほか2000]、25細池遺跡[小池ほか1994、立木ほか1998]、23寺道上遺跡[小池ほか1994、渡邊ほか2001]などが調査されている。いずれも9世紀前半から10世紀初頭頃の遺跡である。上浦遺跡では掘立柱建物が発見され、円面硯や銅製帯金具・分銅型石製品・三彩小壺・無文鏡や墨書土器が、川根遺跡からは緑釉陶器や墨書土器が出土している。これらの調査を基に、新津丘陵に近接した遺跡(細池遺跡・寺道上遺跡)では他の遺跡に比べ土師器食膳具の比率が高いことが指摘されており[春日1999]、これについては土師器生産地に近いことがこのような組成を生じさせているという解釈がある[渡邊2001]。

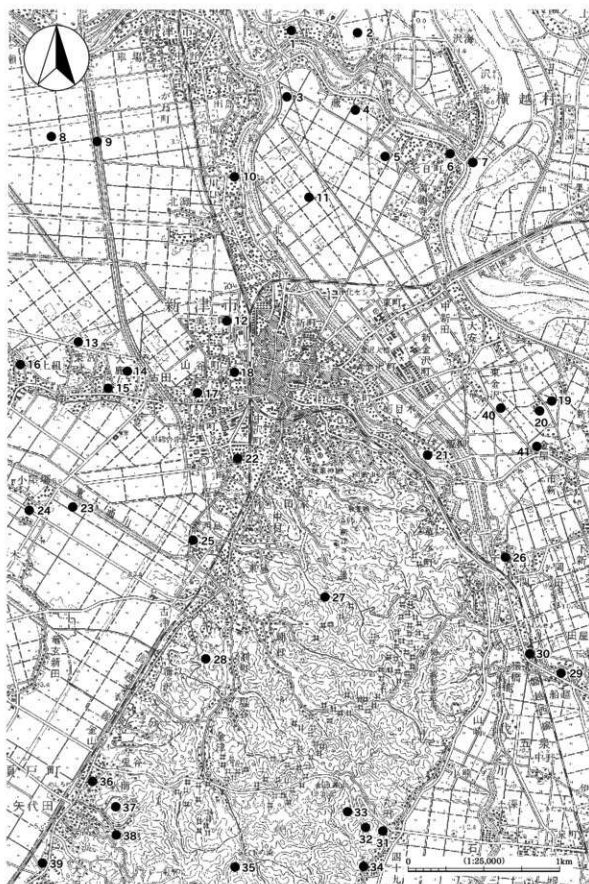
#### 2) 中 世 (第5図、第3表)

中世の遺跡には城館跡が新津市内8か所、山城として東島城・金津城など[横山・竹田ほか1987]が知られる(第5図)。集落跡は奈良・平安時代同様平野部微高地に立地する。10江内遺跡[春日ほか1996]、5内野遺跡[立木・高野ほか2002]の発掘に伴い、14～15世紀の集落が発見された。また40細池遺跡[小池ほか1994]では中世以降の圃場の各単位施設と思われる遺構が検出されている。このほか大正5年



第4図 周辺の遺跡(古代) (国土地理院「新宿」1:50,000原図 平成3年発行)





第5図 周辺の遺跡（中世）（国土地理院「新津」1:25,000原図平成3年発行）

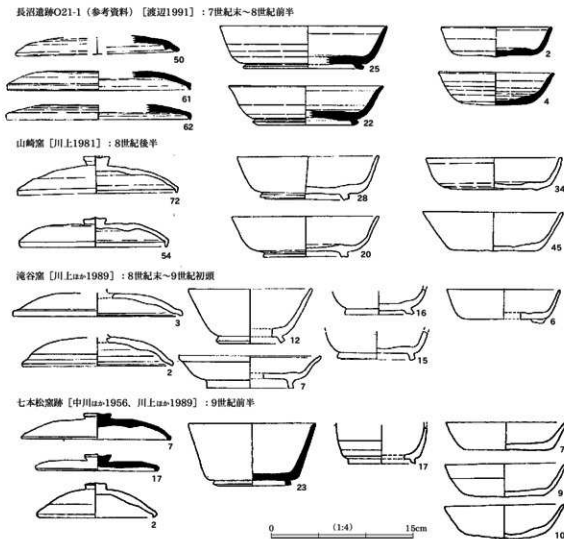
No	遺跡名	時代	種別	No	遺跡名	時代	種別
1	横越町上郷B	奈良・平安	遺物包含地	30	草水町2丁目	平安	塚跡
2	天王杉	平安	遺物包含地	31	城見山	縄文・古代・中世	遺物包含地
3	新津市中谷内	平安	遺物包含地	32	下郷ノ木	平安・鎌倉・室町	遺物包含地
4	結7島	平安	遺物包含地	33	曾根	平安・鎌倉	遺物包含地
5	結島	奈良	遺物包含地	34	小須戸町東殿村	平安	遺物包含地
6	長沼	奈良～平安	遺物包含地	35	新津市古通	平安	遺物包含地
7	上浦	平安	集落跡	36	板大門	平安	遺物包含地
8	江内	平安・中世・近世	遺物包含地	37	大坪	奈良～平安	遺物包含地
9	川口甲	平安	遺物包含地	38	中郷	平安	遺物包含地
10	川口乙	平安	遺物包含地	39	北郷	奈良～平安	遺物包含地
11	神ノ羽	奈良～平安	遺物包含地	40	船戸	古墳・古代・中世	集落跡
12	内野	平安	遺物包含地	41	塩辛	奈良～平安	遺物包含地
13	無頭	平安	遺物包含地	42	古津初越B	奈良～平安	製鉄跡
14	寺嶋	平安・鎌倉	遺物包含地	43	八幡山	弥生・古墳・平安	遺物包含地
15	久保	平安	遺物包含地	44	古津初越A	奈良・平安	製鉄跡
16	大下	平安	遺物包含地	45	金津初越B	奈良～平安	遺物包含地
17	山王浦	平安	遺物包含地	46	五泉市小突山	縄文・弥生・古代	遺物包含地
18	山谷乙	古代	遺物包含地	47	山崎窪跡	奈良	窯跡
19	西沼	平安	遺物包含地	48	新津市大入	平安	製鉄跡
20	小戸下組	平安・鎌倉・室町	遺物包含地	49	金津初越A	奈良～平安	製鉄跡
21	長左エ門沼	平安	遺物包含地	50	厨村C	縄文・弥生・平安	製鉄跡
22	西江浦	平安	遺物包含地	51	神田	縄文・奈良・平安	遺物包含地
23	寺道上	平安・中世	遺物包含地	52	厨村A	平安	製鉄跡
24	本津橋	平安	遺物包含地	53	新津市厨村B	平安	製鉄跡
25	瀬池	平安・中世	遺物包含地	54	五泉市見下	奈良・平安	遺物包含地
26	秋葉ブドウ園	縄文中期(古代を含む)	遺物包含地	55	中野	奈良・平安	遺物包含地
27	七本松窯跡群	平安	窯跡	56	村付	奈良・平安	遺物包含地
28	滝谷窯跡	平安	窯跡	57	丸田	平安	遺物包含地
29	草水町1丁目	旧石器・縄文・平安	窯跡	58	小須戸町三沢B	奈良・平安・中世	遺物包含地

第2表 新津市周辺の古代遺跡

No	遺跡名	時代	種別	No	遺跡名	時代	種別
1	横越町円通寺石仏	室町	石造物	22	程鳥館	戦国	城館跡
2	天王杉	鎌倉・南北朝	遺物包含地	23	下郷ノ木	鎌倉～室町	遺物包含地
3	新津市中谷内	平安・中世	遺物包含地	24	曾根	平安・鎌倉	遺物包含地
4	新久免の塚	室町～江戸	塚	25	西鳥館	中世	城館跡
5	内野	平安・中世	遺物包含地	26	大関館	中世	城館跡
6	寺嶋	平安・鎌倉	遺物包含地	27	東鳥館	室町	城館跡
7	長崎(城跡)	室町	遺物包含地	28	金津城	中世	遺物包含地
8	長沼	平安・鎌倉	遺物包含地	29	五泉市総越古蹟土その2	中世	遺物包含地
9	結	室町	遺物包含地	30	船越古蹟出土その1	中世	石仏
10	江内	中世・江戸	遺物包含地	31	丸田館	室町	城館跡
11	神ノ羽	古代～中世	遺物包含地	32	堤	室町	遺物包含地
12	埋塚	中世	遺物包含地	33	城之内宝篋印塔	中世	石仏
13	浄室	室町	遺物包含地	34	延命寺石仏群	中世	石仏
14	腰懸	室町・安土桃山	遺物包含地	35	新津市金津城	南北朝	城館跡
15	諏訪神社	中世	石仏	36	小須戸町三沢	室町	製鉄跡
16	小戸下組	鎌倉～室町	遺物包含地	37	了尊寺館	中世	寺院跡
17	新津城跡	室町	城館跡	38	西善寺石仏	中世	石造物
18	本町石仏	中世	石造物	39	五本田館	室町	城館跡
19	土手外	鎌倉	遺物包含地	40	新津市寺道上	平安・中世	遺物包含地
20	盛岩寺石仏	中世	石造物	41	瀬池	平安・中世	遺物包含地
21	池尻の塚	室町	塚				

第3表 新津市周辺の中世遺跡

(1916)の阿賀野川改修工事で河中に没して遺構は確認できないが、大字満願寺に7長崎城があったという『温古の泉』34篇1893。



第6図 新津丘陵窯跡群を中心とした7世紀末~9世紀の須恵器

## B 新潟平野の前期古墳 (第7図)

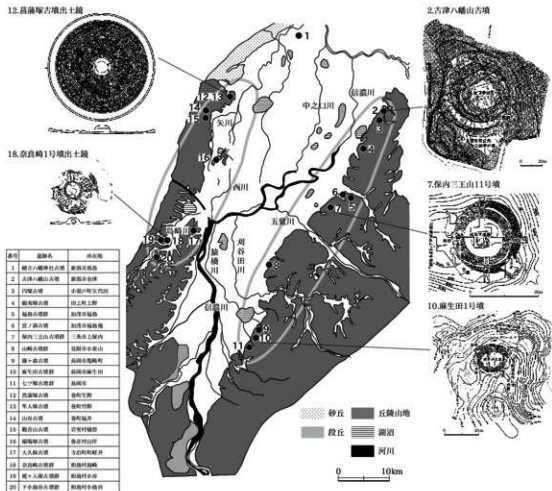
信濃川右岸に位置する2新津市古津八幡山古墳(円墳、墳長56m) [甘粕ほか1992]、7三条市保内三王山11号墳(円墳、墳長22m) [甘粕ほか1994]、10長岡市麻生田1号墳(円墳、墳長18.6m) [小野ほか1990]は①造出付円墳という墳形、②丘陵上に位置し、かつ平野よりに築造している、③造出を平野側に設けている、④丘陵の頂部側に位置し、墳頂平坦面よりも標高が低く、墳頂平坦面と遜色のない広さを持つ平坦面(以下、山頂側傾丘外広域平坦面とする)を持つ、⑤丘陵頂部側(造出の対面、山頂側傾丘外広域平坦面に接する地点)に陸橋部が存在するなどの点において共通し相互に関連する古墳であることが指摘されている [広井1996, 川村2000]。

一方、信濃川の対岸となる矢川流域には16弥彦村稲場塚古墳(前方後円墳、墳長26m) [稲場塚古墳測量調査団1993]、14巻町山谷古墳(前方後方墳、墳長38m) [甘粕ほか1994]、12同町萬苗塚古墳(前方後円墳、墳長53m) [甘粕1994]、15岩室村観音山古墳(円墳、径26m) [甘粕ほか1989]などがあり、これらは同一の首長墓系列の古墳である可能性が指摘されている [広井1996, 川村2000]。

また、和島村奈良崎遺跡の調査により、18 奈良崎 1 号墳（円墳、直径 16 m?）から板文鏡が出土した [春日 et al. 2002]。板文鏡は龍鏡の文様の一部を主文として用いており、近年では大型鏡の多い龍鏡と小型鏡の多い板文鏡が、文様の一部を共有しながら作り分けられたものと考えられている。また、これらの鏡の大小がそれを分け与えられる地方首長に対する「信任の程度の象徴」を表すとする考えもある [車崎 1993]。巻町菖蒲塚古墳からは、龍鏡が出土しており、森下章司はこのような鏡の分布状況を「大型龍鏡—前方後円墳、小型板文鏡—小古墳」という組合せが一定の地域内で成り立つことになる [森下 2002] と評価し両古墳の関連を示唆する。このような古墳（群）の関係は古代の行政区分（蒲原郡・古志郡）と一致しておらず、こうした古墳時代前期の政治勢力の動向を念頭におきつつ、蒲原・古志郡の古代遺跡の検討を行うことが今後必要であろう。

### C 文献史料からみた新津市周辺

**古代越後国の領域** 古代の新津市域は、蒲原郡に属していた。現在の蒲原郡は北・中・西・東・南蒲原の 5 郡に分かれているが、古代における範囲は、およそ近代の中・西・南蒲原を含むものであったと考えられる。7 世紀後半（690 年頃）、蒲原郡は、頸城・古志・魚沼とともに越中国に属していた。なお、沼垂・磐船の 2 郡は越後国に属し、阿賀野川が両国の境となっていた。その後、8 世紀初頭に越中国 4 郡の



第 7 図 新潟平野西部の前期古墳（群）

越後国併合(702年)、出羽国の分立(712年)により、後世の越後国の領域が定まる。

**郷と式内社** 10世紀に成立した『倭名類聚抄』によれば、蒲原郡には「日置・桜井・勇礼・青海・小伏」の5郷が存在している。また、延長5年(927)の『延喜式』神名帳には、「青海(2座)・宇都良波志・伊久礼・槻田・小布施・伊加良志・伊夜比古・長瀬・中山・巨飯野・船江・土生田」の蒲原郡の式内社(12社13座)が記されている。これらの所在については、地名や遺跡の分布を手掛かりとして検討されているが、諸説一致をみていない。その中で、『大日本地名辞書』は日置郷を新津市あるいは中蒲原郡村松町付近に比定している。また巨飯野神社の論社には、新津市朝日の巨飯野神社、北蒲原郡笹神村の巨飯野神社の2つあるが、北蒲原郡は古代には、沼垂郡であったと考えられることから、笹神村説は成立し得ない。古津八幡山古墳や弥生時代の高地性集落などを考慮すると、新津市周辺に日置郷・巨飯野神社が存在した可能性が考えられる〔木村宗1988〕。

**蒲原郡衙** 八幡林1号木簡〔坂井ほか1991〕の記載より、8世紀前半の蒲原郡司の一人(小丁)が青海郷に存在したことが知られる。青海郷は加茂市周辺と考えられ、近年加茂市では鬼倉遺跡〔伊藤2001b〕、馬越遺跡〔伊藤2000〕、中沢遺跡〔伊藤2001a〕などの官衙関連遺跡が調査されており、蒲原郡衙との関連が注目される。なお、古墳(群)との関連では、上述の加茂市の遺跡(群)は立地から加茂市福島古墳群、同市宮ノ浦古墳群、三条市保内三王山古墳群との関連が推測できるが、新津市周辺(新津市古津八幡山古墳・小須戸町円塚古墳)、矢川流域にも古墳分布のまとまりが見られ(本章B参照)、古代にも複数の政治勢力が並存していた可能性がある。一極集中型の郡衙が存在しなかった可能性もあろう。

**金津保** 古代末から中世にかけて、新津市域は金津保の保域であった。金津保の地頭職を最初に得たのは、信濃源氏平賀氏であり、史料の初見は、『吾妻鏡』承久3年(1221)6月8日条に見える「金津(平賀)藏人資義」であるが、地頭職を得たのはそれ以前にさかのぼる可能性があり、保の成立は越後の諸保と同様に、11世紀後半から12世紀の院政期であろう。建武3年(1336)11月18日「羽黒義成軍忠状写」で「同日、引籠干金津保新津城、対干小国正光以下御敵等、到散々合戦畢、」(『新潟県史』資料編4-1935)とあり、北朝方である三浦和田(羽黒)義成は金津保にあった新津城に籠り、南朝方の小国正光らと戦ったとある。この史料によって金津保には新津城が含まれていたとわかり、この新津城とは新津城・程島館・東島城のいずれであろうとされる〔田村1993〕。また天正5年(1577)「三条衆給分帳」に「金津保之内遊川」(『新潟県史』資料編5-2704)とあり、遊川は田上町湯川と見られ、さらに天文13年(1544)10月10日「上杉玄清定実知行宛行状」・同「長尾晴景副状」(『新潟県史』資料編4-1495・1496)に「金津保下条村」とあるのは、五泉市下条と考えられる。以上のことから金津保の領域は年代によって若干の違いがあった可能性はあるが、新津市から田上町北部と五泉市の一部を含む範囲と推定される。

# 第三章 調査の概要

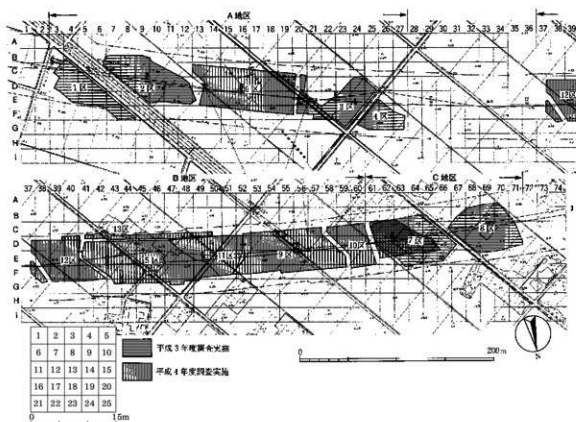
## 1 調査方法

### A 地区の名称

調査区割りの番号は、調査範囲全体の通し番号とした。カルバートボックス工事や橋脚など公団側の工事が優先される区域から先に調査に入り、基本的にはその順番を区の番号とした。全体を13区に分けたが、C地区は東西に長く延びる沖ノ羽遺跡の西側にあたり東側から7区・8区が位置する。7区と8区は農道により分けられる(第8図)。

### B グリッドの設定

グリッドは調査範囲全体に共通したものである。グリッドは大・小の2種類あり、大グリッドは15m四方を単位とし、小グリッドは大グリッドを3m四方に25等分したものである。大グリッドの方向と区割りは、センター杭を基準にした。STA871 (X=201,670.2251, Y=55,802.8850旧座標)とSTA873 (X=201,711.6923, Y=55,607.2689旧座標)を結んだ線を横軸とした。横軸は真西より11度58分07秒北偏しているものの、ほぼ東西を示すといえよう。横軸は南から順にアルファベットを付した。STA873



第8図 グリッドと地区の名称

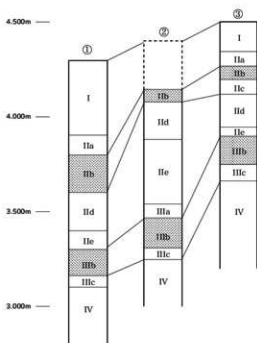
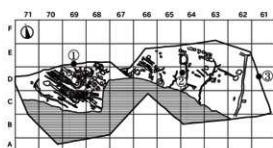
を中心に横軸と直交する線を縦軸とした。これはほぼ南北を示し、東から順に算用数字を付した。両者の交点に杭を打ち「1A」などと組み合わせて呼称した。大グリッドは南東側の杭番号優位で呼称した。小グリッドは、1～25の算用数字を「1A25」などと大グリッド表示の後の付けて呼称した（第8図）。大グリッド及び調査区端のグリッド境界への杭打ちは業者に依頼して行った。

## 2 基本層序

4層に大別し、2層は5、3層は3に細分した。各層の色調・土質などについては第4表に示した。II b・II c層が中世（上層）の包含層、II d層が中世（上層）の遺構検出面、III b層が古代（下層）の包含層、III c層がIII b層とIV層の漸移層、IV層が古代（下層）の遺構検出面である。現地地形は東から西に向かって標高が低くなるが、古代・中世もこうした傾向は見られる（第9図）。

## 3 遺構・遺物の概要

中世・古代の遺構・遺物が層位的に検出された。以下、時代別に概要を記す。



第9図 基本層序

### A 上層（中世）

遺構 調査区南半は近世～近代の旧河道に切られる。掘立柱建物・井戸・土坑・溝などが確認でき、63DE・64Dと68D・69CDに集中する。61CD・62CDEには幅広で浅い溝状の遺構（SD4・11）が検出された。稲など低地で栽培する作物と関連する遺構の可能性が考えられる（図版1）。

遺物 青磁碗・皿、珠洲壺・甕・すり鉢、土

層位	土質・色調ほか
I層	茶褐色土。水田・畑地の耕作土。
II a層	明褐色シルト。粘性弱い
II b層	褐色シルト。II a層に似るが色調がやや暗い。炭化物片含む。上層包含層。
II c層	褐色シルト。II b層に比べ色調がやや明るい。II b層とII d層との漸移層。
II d層	黄褐色シルト。粘性弱い。上層遺構検出面。
II e層	青灰色シルト質粘土。II d層に似るが、やや粒子が細かく、グライ化し青灰色を呈する。
III a層	褐色シルト質粘土。マンガング粒多量に含む。
III b層	暗褐色粘土。炭化物片多く含む。調査区東側ではシルト質となる。下層包含層。
III c層	暗青灰色粘土。III b層とIV層の漸移層。
IV層	青灰色粘土と青灰色シルトの互層。上部には灰色粘土が混じる。下層遺構検出面。

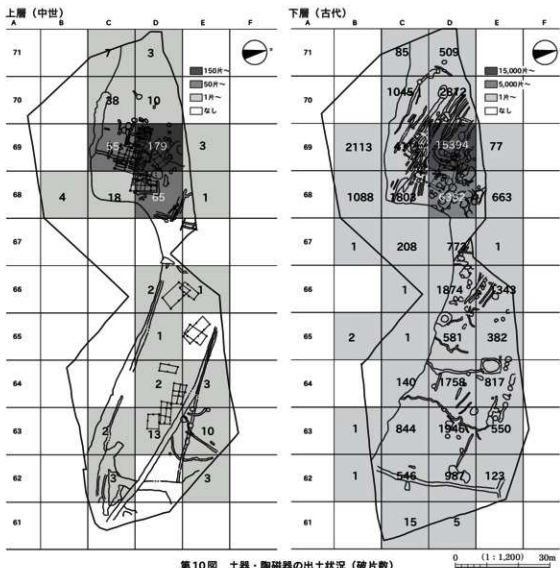
第4表 基本層序

師器皿・小皿、鉄器(刀子・鎌など)、砥石、鉄滓・羽口などが出土している。土器・陶磁器類の出土量が最も多く、平箱(54×34×10cm内法)換算で約4箱、鉄器・砥石・鉄滓・羽口などは合わせて平箱1箱程度である。珠洲にはI期(12世紀後半)～IV期(14世紀)のものが見られ、他の遺物も概ねこの時期幅には収まるものと考えられる。土器・陶磁器類の出土状況は68D・69CDに集中する(第10図)。

## B 下 層 (古代)

**遺 構** 上層と同様に調査区南半は近世～近代の旧河道に切られる。掘立柱建物・井戸・土坑・溝などが確認でき、68D・69CDには畝状遺構が見られ、68・69Dには掘立柱建物・井戸・土坑がある。また69C・70CD63～67Eには土坑が集中する。

**遺 物** 土師器・黒色土器・須恵器などの土器類、木器・砥石・鉄器・鉄滓・羽口などが出土している。遺物の大半を占めるのは土器類で平箱(54×34×10cm内法)換算で約106箱、土製品1箱、木器は約15箱、石器3箱、鉄器・鉄滓・羽口は合わせて1箱である。土器類は『新潟県の考古学』の編年[春日1999]では、V～VI期(9世紀前半～末)のものと考えている。木器の大半は井戸側の部材である。土器類の出土状況は、各地区から出土しているが、特に68・69Dに集中する(第10図)。



第10図 土器・陶磁器の出土状況(破片数)



# 第IV章 遺 構

## 1 記述の方法

遺構説明には観察表・本文(挿図含む)・図面図版・写真図版を用いる。遺構の種類には掘立柱建物・井戸・溝・土坑などがあり、これらについては、大半のものについて観察表を作成し、位置・規模・形状・出土遺物切り合い関係などを記載した。遺構個々の形状・規模・切り合い関係・特徴などに関しては、図面図版と観察表の記載に譲り、本文中では特別な場合を除き触れない。またピットについては、建物跡などと関連するもの以外は観察表も含め基本的に触れない。

### 遺構番号

個々の遺構の名称は、地区と層位・遺構種類・(遺構の)番号の順に表記した遺構番号で表す。遺構種類は略称を用いた。主な略称は第5表に示した。

遺構の番号は地区・層位に、種別・グリッドに関係なく1から通し番号とすることを基本とした。ただし掘立柱建物については、調査終了後の整理の過程で認識したのもも定量存在すること、誤解をまねきかねないことから、年度に関係なく別途に通し番号を付した。

遺構名の表記例

8下	SK	102
地区と層位	遺構種類	遺構番号

略称	遺構種類	略称	遺構種類
SA	竈	SE	井戸
SB	掘立柱建物	SI	竪穴建物
SD	溝	SX	不明遺構
SK	土坑・地下式坑		

第5表 主な遺構の略称

### 図 版

遺構の図面図版は1/600の全体図と1/200の分割平面図、1/50のセクション図、1/100のエレベーション図、個別図から構成され、個別図は建物跡・井戸側を持つ井戸以外は作成していない。平面図は、遺構の切り合い(新旧)関係を表示することを基本としたが、統一は取れていない。現場での記録が充分でなかったため、新旧に関係なくより深い遺構が浅い遺構を切っているように表現された場合もある。遺構の新旧関係については観察表を参照していただきたい。遺構の写真は、観察表を作成したすべての遺構を網羅していない。重要な遺構・遺存状態の良い遺構・遺構の特徴が良く捉えられているカットなどを選択して掲載した。

### 遺構の形態分類(第11図)

遺構の平面形態・断面形態の分類は、和泉A遺跡[荒川+加藤ほか1999]の分類に基づいた(第11図)。

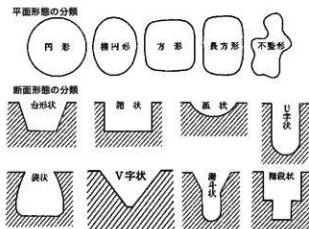
#### a. 平面形態

円形: 長径が短径の1.2倍未満のもの

楕円形: 長径が短径の1.2倍以上3倍未満のもの

長楕円形: 長径が短径の3倍以上のもの

方形: 長軸が短軸の1.2倍未満のもの



第11図 遺構の分類

## 2 上層の遺構

長方形：長軸が短軸の1.2倍以上のもの

不整形：凸凹で一定の平面形を持たないもの

### b.断面形態

台形状：底部に平坦面を持ち、緩やか～急傾斜に立ち上がるもの

箱状：底部に平坦面を持ち、ほぼ垂直に立ち上がるもの

弧状：底部に平坦面を持たない皿状で、緩やかに立ち上がるもの

U字状：確認面の長径よりも深さの値が大きく、ほぼ垂直に立ち上がるもの

袋状：確認面の径よりも底部の径が大きく、内傾して立ち上がるもの

V字状：点的な底部を持ち、急傾斜に立ち上がるもの

漏斗状：下部がU字状、上部がV字状の二段構造からなるもの

階段状：階段状の立ち上がりを持つもの

### 掘立柱建物

掘立柱建物の各数値の計測方法や部位の名称は、以下のものである。

- ① 柱間の多い方向を「桁行」（長軸）、少ない方向を「梁間」（短軸）として、個別図版の左側を桁行1、右側を桁行2、上方を梁間1、下方を梁間2とした。
- ② 「柱掘形」は確認面での形状、「柱痕」は平面・断面及び底面で確認できる柱が位置した部分、「柱根」は残存した柱材である。
- ③ 方向は「桁行」（長軸）方向が、北を中心に東西に偏する角度で表した。
- ④ 面積は基本的に長軸×短軸である。

### 井戸・土坑・ピット

井戸・土坑・ピットの区分及び各数値の計測方法は、以下のものである。

- ① 規模は最大径を計っているが、部分的に極端な張り出しがある場合は、全体の形状をよく残していると思われる位置で計測している。長軸方向の計測は平面形態を考慮して計測し、短軸は長軸と直交する方向の最長部で計測した。
- ② 深度（深さ）は確認面からの最深部を計測した。
- ③ 長軸（長径）及び短軸（短径）が80cm以上の掘り込みを井戸・土坑に分類し、それに満たない大きさの掘り込みをピットに分類することを基本としたが、そうでないものもある。
- ④ 井戸と土坑の分類については、深度が長軸に比して1.2倍を超えるものを基本的に井戸としたが、覆土の堆積状況や遺物出土状況を考慮して井戸に分類したものもある。

## 2 上層の遺構

掘立柱建物12・井戸6・土坑39のほか多数の溝・ピットが検出されている。個々の遺構の細かな年代比定はできないが、出土遺物から考え大半の遺構が吉岡編年〔吉岡1994〕珠洲1～Ⅳ期（12世紀後半～14世紀）の中に収まるものと考えられる。

### 掘立柱建物

SB1（図版16） 69Dに位置する2×3間の総柱建物。主軸方向は西偏64°、面積は18.0m<sup>2</sup>、ピットの平面形は円形である。SB2・3、8上SD52と重複する。

**SB2** (図面 16) 69Dに位置する2×3間の総柱建物。主軸方向は西偏60°、面積は18.0m<sup>2</sup>、ピットの平面形は円形である。SK36に切られる。SB1・3、8上SD52・SK56と重複する。

**SB3** (図面 17) 69Dに位置する2×2間の総柱建物。主軸方向は東偏16°、面積は8.8m<sup>2</sup>、ピットの平面形は円形である。SB2・3と重複する。

**SB4** (図面 16) 69Dに位置する2×4間の総柱建物。主軸方向は東偏45°、面積は41.0m<sup>2</sup>、ピットの平面形は円形である。8上SD64を切り、8上SK1に切られる。また8上SD49・61・62・63、SE48・60と重複する。

**SB5** (図面 17) 68CDに位置する2×5間の総柱建物。主軸方向は東偏18°、面積は26.9m<sup>2</sup>、ピットの平面形は円形である。8上SK12に切れ、8上SD21・44と重複する。また、8上SD10が近接して存在する。

**SB6** (図面 18) 68CD・69CDに位置する3×3間の総柱建物。主軸方向は西偏29°、面積は66.9m<sup>2</sup>、ピットの平面形は円形である。8上SD42・SK41を切り、8上SD29・31・32・33・44・49、8上SK30・37、SB7などと重複する。

**SB7** (図面 17) 68CDに位置する2×3間の総柱建物。主軸方向は西偏60°、面積は27.0m<sup>2</sup>、ピットの平面形は円形である。8上SD34・SK36を切り、8上SD42・44・49などと重複する。また、8上SD32・52が近接して存在する。

**SB8** (図面 16) 65Eに位置する1×3間の側柱建物。主軸方向は西偏31°、面積は28.1m<sup>2</sup>、ピットの平面形は円形である。ほかの遺構との重複は見られない。

**SB9** (図面 17) 65Eに位置する1×3間の側柱建物。主軸方向は東偏21°、面積は11.9m<sup>2</sup>、ピットの平面形は円形である。ほかの遺構との重複は見られない。

**SB10** (図面 18) 63・64Dに位置する2×3間の総柱建物。主軸方向は西偏68°、面積は22.7m<sup>2</sup>、ピットの平面形は円形である。SB12と重複する。

**SB11** (図面 17) 63Dに位置する2×2間の側柱建物。主軸方向は西偏72°、面積は16.1m<sup>2</sup>、ピットの平面形は円形である。ほかの遺構との重複は見られない。

**SB12** (図面 18) 63・64Dに位置する2×3間の総柱建物。主軸方向は西偏74°、面積は22.1m<sup>2</sup>、ピットの平面形は円形と方形がある。SB12と重複する。

## 井 戸

68・69Dで6基(8上SE5・23・24・48・59・60)、64Eで1基(7上SE11)確認でき、いずれも素掘りの井戸である。平面形は円形もしくは楕円形で、断面形はSE48・11が階段状となる以外は、台形状もしくはU字状である。SE23・24からは遺物が定量出土した。

## 土 坑

69C20・25周辺69D16～20周辺、69E1～5周辺に多く確認できる。平面形は円もしくは楕円形で、断面形は弧状もしくは台形状のものが多い。大半が廃棄穴と考えられる。ただし平面形が長楕円形となるSK3からは釘(図版43 629～631)、SK32からは環状の鉄製品(図版58)が出土しており、墓坑となる可能性がある。同様の形態の土坑には8上SK2・38があり、これらも墓坑の可能性が考えられる。

また土坑に含めたが平面形がやや歪な方形となる大型の土坑8上SK1は竪穴状遺構とすべきものかもしれない。覆土は暗茶褐色シルトの単層で8上SK67に切れ、8上SE60を切る。遺物が定量出土した。

## 溝

略称はSDとしたが、SD4・11は浅く幅広く底面には耕作に起用すると思われる凹凸がある。低地で栽培する作物と関連する遺構と考えられる。類例は細池遺跡・寺道上遺跡〔小池ほか1994〕にある。

7上SD8・10は7上SD4・11に接することから農業水路の可能性が考えられる。なお、SD8は7下SK1・3・4・5に切られ、上層の遺構の中では比較的古いものの可能性が高い。8上SD500・501・502は位置と方位から考え、SD10と一連の溝の可能性が高く、同様な機能が想定できる。68CD・69CDに分布する小規模な溝は、施設の区画などを行う溝の可能性が考えられる。また、8下SD1・SD34からは遺物が定量出土した。

## 3 下層の遺構

掘立柱建物4・井戸11・土坑79、畝状遺構のほか、溝・ピットが検出されている。個々の遺構の細かな年代比定はできないが、出土遺物から考え大半の遺構が、「新潟県の考古学」での古代の土器編年〔春日1999〕のV・VI期（9世紀前半～10世紀初頭）の中に取まるものと考えられる。

## 掘立柱建物

**SB13**（図版19） 68・69C、68・69Dに位置する1×5間ないし1×6間の側柱建物。主軸方向は東偏32°、面積は44.9m<sup>2</sup>、ピットの平面形は円形である。8下SD201に切られ、8下SK8、SE27、SD119・126、SB14・16などと重複する。

**SB14**（図版19） 68・69Dに位置する2×4間の側柱建物。主軸方向は西偏45°、面積は69.5m<sup>2</sup>、ピットの平面形は円形・楕円形である。8下SK14・SE26に切られ、SD21を切る。また、8下SK6・8・11・12・SE27、SD24、SB13・16などと重複する。

**SB15**（図版19） 69Dに位置する1×2間の側柱建物。主軸方向は東偏30°、面積は20.3m<sup>2</sup>、ピットの平面形は円形である。8下SD38・131、SK57に切られる可能性が高い。また、8下SD21・54、SK76などと重複する。

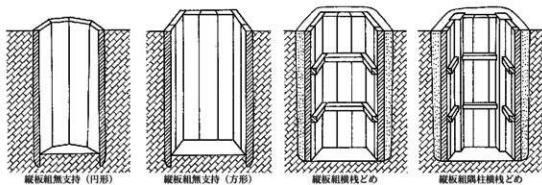
**SB16**（図版19） 69Dに位置する2×4間の側柱建物。主軸方向は西偏71°、面積は24.0m<sup>2</sup>、ピットの平面形は円形である。8下SK12・57・SD12を切り、8下SE27・SD24、SB13・14などと重複する。ピットから土師器無台碗（409・410）が出土している。

## 井戸

68・69Dで7基（8下SE18・26・27・50・201・205・207）、62～64Dで4基（7下SE126・135・137・142）確認できる。平面形は円形もしくは楕円形で、断面形には漏斗状・U字状・台形状など多様なものがある。井戸側を持つものはSE18・205・206の3基で、ほかは素掘りである。8下SE27（344～370）・205（159～171・609～621・640～644）は覆土上層を中心に遺物が定量出土した。以下、井戸側を持つ井戸3基について記述する。なお井戸側については宇野隆夫の分類〔宇野1982〕を用いる。

**8下SE18**（図版20） 68D3に位置する縦板組横棧どめ井戸。検出時の井戸側は一辺40cm前後の方形を呈していたが、縦板の構成などを考えるとこれは土圧などによって縮んだためと考えられ、本来は一辺50～60cm前後の方形であったと考えられる。水溜めには径約33cmの円形曲物側板を用いる。

**8下SE205**（図版20） 遺存状態は良好ではないが、縦板一辺（約60cm）と、桟木と思われる部材



第12図 縦板組み井戸の分類

〔宇野1982〕より転載)

(614・615) が出土している。縦板組横棧どめ井戸となる可能性が高い。

8下SE206 (図版20) 井戸検出時の平面形は円形にも見えるが、椀木と思われる部材 (598・599) が出土しており、一辺50～60cmの縦板組横棧どめ井戸であった可能性が高い。縦板には丸木船を分割・加工し、転用している。

#### 土 坑

ほとんどのグリッドで確認できるが、68・69D、66DE、63DEに多く確認できる。平面形は円もしくは楕円形で、断面形は弧状もしくは台形状のものが多いが、不整形のものや長さ5mを越える長大な土坑 (8下SK14・43、7下SK80・60) もある。大半が廃棄穴と考えられる。8下SK14・31・36・43・100、7下SK134からは多くの遺物が出土した。

#### 畝 状 遺 構

68～70C、69・70Dで確認できる。西偏45°前後の溝 (8下SD38・42・44～47・102・109・110・114～117・129・130・132・180・181など) で構成されるもの (A群) と、西偏75°前後の溝 (8下SD101・118・218・219) で構成されるもの (B群) に分類できる。8下SD118 (B群) が8下SD102・129・130 (A群) を切ることからA群がB群に先行するものと思われる。

#### その他の溝

南南西-北北東方向の溝7下SD66・101・102・136・139は何らかの区画溝の可能性が考えられる。7下SD16・17・21・75も区画溝の可能性があろう。7下SD118・129・130・144は畝状遺構の一部であった可能性が考えられる。

#### 遺構の変遷

前節で、切り合い関係から西偏45°前後の畝状遺構A群が古く、西偏75°前後の畝状遺構B群が新しいことを指摘したが、掘立柱建物にも西偏45°のSB14と、西偏71°のSB16があり、畝状遺構の変遷を当てはめれば、SB14→SB16という変遷が考えられる。このことは、SB16のピットから、VI 2期 (第V章参照) の遺物が出土していることや、畝状遺構A群を切り、畝状遺構B群と重複しない8下SK100からVI 2期の遺物が出土していることと矛盾しない。

なお、このほかに主軸方位が東偏30°ないし西偏60°前後の遺構 (SB13・15、7下SD1・4・117・128・130・144など) があるが、これについては時期は不明である。ただし、7区には西偏45°前後の遺構と東偏30°ないし西偏60°の遺構は定量見られるが、西偏75°前後の遺構はほとんど確認できず、V期 (第V章参照) の遺物が主体であることから、西偏45°前後の遺構に近い時期を考えたい。

# 第V章 遺 物

## 1 基本方針

**遺物の実測** 出土した遺物の種類には土器・陶磁器、土製品、石器、木器、金属器があり、遺物量は整理終了後で平箱（54×34×10cm内法）約130箱、内訳は土器・陶磁器類110箱、土製品1箱、石器3箱、木器15箱、金属器1箱である。実測にあたっては遺構出土のもの、残りのよいもの、出土例の少ないものを任意に抽出し図化した。また、鉄滓類は図化せずに写真のみで示した。各遺物の実測数と1箱あたりの実測数の平均（小数点2桁以下四捨五入）は、土器・陶磁器570点で5.18点、土製品16点で16点、石器17点で5.67点、木器35点で2.33点、金属器11点で11点、実測図総数は649点で4.99点ある。

**記述の方法** 遺物の説明については本文・観察表・図面図版・写真図版を用いる。遺物個々の特徴については観察表に譲り、本文は各種遺物の概要や、主要な一括遺物の概要・組成などを記述する。

**観察表・計測表** 図面図版で示した遺物全ての観察表・計測表を作成し、遺物の種類（土器・陶磁器、土製品、石器、木器、金属器）毎に作成した。遺物番号・出土地点・層位などとともに遺物の特徴を記載した。ライフヒストリー的な観察が必要と考えたが、土器・陶磁器以外はできなかった。また、土器・陶磁器も力量不測から不十分なものとなった。項目毎の観察・計測方法は遺物種類により異なるため2～4節で後述する。

**図版** 図版は図面図版と写真図版からなり、図面図版と写真図版の遺物番号は一致する。図面図版は個々の遺物を種別毎に大別し、出土量の多い土器・陶磁器は出土層位により細分し、上層のものは種類毎、下層のものは遺構毎にレイアウトすることを基本とした。遺物の縮尺は、土師器・須恵器・施軸陶磁器・土製品・石器・金属器は1/3、珠洲・瓷器系陶器は1/4を基本としたが、小型の金属器（釘）・土製品（土鏃）は1/2、大型の須恵器（甕）・金属器（鍋?）は1/6のものもある。また、木器は大きさに応じ1/3・1/4・1/6・1/8のものがある。同一プレートに複数の縮尺がある場合は、複数のスケールを併記し、各縮尺に対応する遺物番号を記入した。写真図版は実測図で示した大半の遺物を掲載したが、小片のため省略したものもある。レイアウトは図面図版に準じている。写真図版の縮尺は図面図版と概ね一致するが、レイアウトの都合で異なった縮尺となっているものもある。

## 2 上層の土器・陶磁器

### A 概 要

上層からは中世～近世の土器・陶磁器が出土しており、中世の土器・陶磁器には土師器皿・小皿、青磁碗・皿、珠洲（系陶器）すり鉢・壺T種・壺R種・甕、瓷器陶器壺か甕が確認でき、近世の土器・陶磁器には肥前系磁器碗・皿が確認できる。

中世の土器・陶磁器類の組成は、第6表に示した。種類別の比率は破片数で土師器75.3%、珠洲20.7%、青磁3.3%、瓷器陶磁器0.4%であり、土師器が大半を占める、次いで珠洲（系陶器）が多く、青磁・白磁などの施軸陶磁器は少ない。

青磁碗5点、同皿1点、土師器皿18点、同小皿18点、珠洲すり鉢10点、同壺T種3点、壺R種1点、壺1点、変器陶器壺か壺1点、肥前系磁器碗1点、同小皿1点を図示した。青磁は図化し得るほとんどの個体を図化している。また、珠洲も、個体の異なる口縁部・底部破片の大半を図化した。

## B 器 種 分 類

土器・陶磁器の種類（土師器・青磁・珠洲（系陶器）・変器陶器）・器形により大別した。珠洲（系陶器）は、吉岡康輔氏分類〔吉岡1994〕に従った。土師器皿、小皿については成形技法・細部の形態などにより細分した。口径12cm前後のものを皿、口径8～9cmのものを小皿とし、ロク口成形のものをA類、手づくね成形のものをB類とし以下のように細分した。

皿A1類：A類のうち底径が小さく、身が深いもの。

皿A2類：A類のうち底径が大きく、身が浅いもの。

皿B1類：B類のうち器壁が薄手のもの。口径端部に面取りを行うものが多い。

皿B2類：B類のうち器壁が厚手のもの。

小皿A1類：A類のうち底径が小さく身が深いもの。

小皿A2類：A類のうち底径が大きく身が浅いもの。

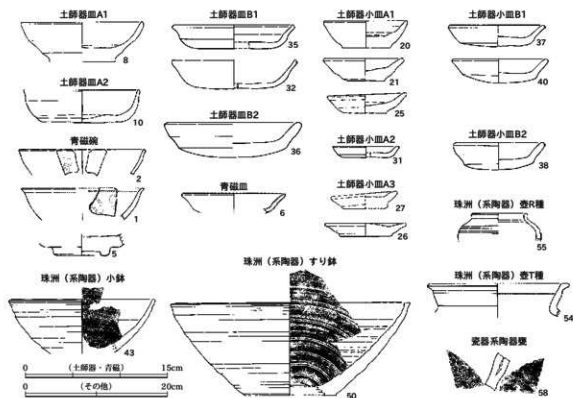
小皿A3類：A類のうち底部が柱状高台となるもの。

小皿B1類：B類のうち器壁が薄手のもの。

小皿B2類：B類のうち器壁が厚手のもの

種類	器種	口縁部 数/比率	破片数	比率 (数/比率)	比率 (破片数)
土師器	皿・小皿	370	363	77.4%	75.3%
青磁	碗	8	14	1.7%	2.9%
青磁	皿	9	2	1.9%	0.4%
白磁	碗	0	1	0.0%	0.2%
青磁・白磁計		17	17	3.6%	3.5%
珠洲	すり鉢	61	53	12.8%	11.0%
珠洲	壺R種	18	4	3.8%	0.8%
珠洲	壺T種	8	2	1.7%	0.4%
珠洲	壺	4	20	0.8%	4.1%
珠洲	壺少壺T種	0	21	0.0%	4.4%
珠洲計		91	100	19.0%	20.7%
変器系	壺	0	2	0.0%	0.4%
総 計		478	482	100.0%	100.0%

第6表 上層の土器・陶磁器



第13図 中世土器・陶磁器器種分類

## C 観察表

前述のようにライフヒストリー的な観察が必要と考え、川畑 誠の研究〔川畑 1999・2001〕を参考にし（第7～9表）、これに添った観察表作成を試みたが不十分なものとなった。以下の①～⑯の観察項目を設定し、これらを第7表の各段階に当てはめると、①は廃棄後段階、②は廃棄段階から廃棄後段階、③は生産段階素地作り工程と焼成工程、④～⑩・⑫は生産段階製作工程、⑪は生産段階製作工程と乾燥工程、⑬・⑭は製作段階焼成工程、⑮・⑯は消費段階に伴う属性・痕跡である。

①No：図面図版・写真図版の遺物番号を記入した。

②出土地点：グリッド・遺構・遺構層位・取り上げNoなどを表記した。

③種類：土師器・青磁・珠洲（系陶器）・瓷器陶器・肥前系陶器などを記入した。珠洲としたものは、能登半島の珠洲市周辺で作られたもの。珠洲系陶器は、技法的には珠洲と同じであるが異なった産地のものである。珠洲と珠洲系陶器は胎土（主に海面骨針の有無）で判断した。珠洲系陶器のうち産地が推定できるものは備考欄に記入した。

④器種：本節Bで示した器種分類に対応した器種を記入した。

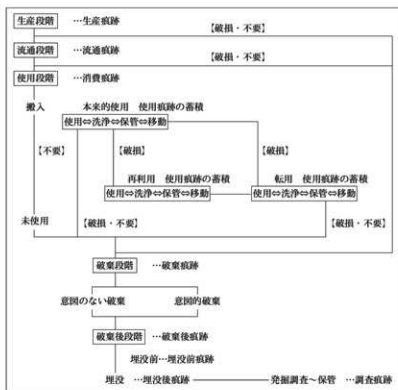
⑤胎土：胎土中に含まれる小礫・鉱物・化石などを記入した。「英」は石英、「長」は長石、「雲」は雲母、「チャ」はチャート、「海

針」は海綿骨針の略称である。風化などにより、判断がつかないものを白色粒子、赤色粒子などと表現する場合もある。

⑥口径：倒位に置いた場合の接地面を計測した。

⑦器高：正位に置いた時の最も高い点を計測した。

⑧底径：高台のあるもの



第7表 土器の一生 (〔川畑1999〕を転載)

工程	生産痕跡	特徴など
素地作り	胎土	素地、混和材よりなる。須恵器の生産地特定の指標のひとつ。
製作	形状、法量、容量	前2者は研究の蓄積多い。
	製作に伴う痕跡（製作痕跡）	工具痕、指痕など。後述。
乾燥	乾燥に伴うヒビ割れ・剥離、敷物圧痕など	
	付着痕跡	自然陥・黒化、火だすきなど 他個体・焼き台との接触・溶着痕跡窯土の付着など
焼成	変色痕跡	焼成の状況を示し、焼成技術復元の指標のひとつ。
	除去痕跡	焼け具合、堅さ、焼き歪み、ヒビ割れなど 元の状態、完成品の許容範囲を示す。
	除去痕跡	他個体・焼き台の除去、窯土の除去など
選別	(窯周辺での大量出土)	完成品の許容範囲、流通のあり方を示す。

第8表 生産段階と生産痕跡 (〔川畑2001〕を転載)



は、高台の接地面を計測した。

⑨最大径：口径が最大径の場合は省略した。

⑩回転方向：ロクロ・ヨコナデ・叩きなど回転方向がわかるものは記入した。右は時計回り、左は反時計回りである。ロクロの回転方向は水挽き痕・底部切り離し痕・ロクロケズリ痕などで判断し、一致しない場合は併記した。「水」は水挽き、「切」は底部切り離し、「ケ」はロクロケズリの略称である。

⑪底部調整：底部外面の切り離し技法や再調整を記載した。また川畑の乾燥段階の痕跡と考えられる板目圧痕なども、紙数の関係がありここに記入した。

⑫その他の調整：底部以外の調整を記入した。「口」は口縁部、「体」は体部、「外」は外面、「内」は内面、「上」は上部、「下」は下部の略称である。

⑬降灰（黒化）：陶器は、焼成の際の降灰（あるいは黒化）部位、無軸部位を記入した。降灰は焼成時の上面、黒化は下面に発生しやすいが、明確に区分別できないものも多くすべて「降灰」として示した。降灰・無軸部位から重ね焼き方法が推定できるものは第16図の分類を記入した。土師器は黒斑の形状・部位を記入した。施軸陶磁器は軸の色調、施軸部位を記入した。

⑭焼成：陶器は焼成の具合を記入した。「酸硬」は酸化硬質、「酸軟」は酸化軟質、「環硬」は環元硬質、「環軟」は環元軟質の略称である。施軸陶磁器は陶胎か磁胎かを記入した。土師器は表面と断面の色調が著しく異なるもの以外は、特に記入を行っていない。

⑮使用痕跡：一次的（本来的）使用による損傷（欠け・磨耗）や付着物の種類とその部位を記入した。「底」は底部の略称で、他は「その他の調整」の部位略称に従う。食器・貯蔵具の炭化物・煤などの付着は使用痕跡に含めるべきかもしれないがここに含めた。一次的（本来的）使用と後述する二次的（本来的でない）使用の区別は明確でなく感覚的なものとなっている。

⑯転用痕跡：二次的（本来的でない）使用を行うための打ち欠き、割揃え、転用などの加工を記入した。

⑰備考：上記にあてはまらない特徴的な生産痕跡・消費痕跡などがあつた場合は記入した。

観察項目	観察点	区分など
① 遺存痕	全体の形	完形・一部欠損（略完形）・部分・小片
	構成する破片の数・大きさ	
	部位	
	割れ 割り 剥離 穿孔	全面・部分・単独などの連続性の有無、水平・非水平 大きさ・数 大・中・小、多い～少ない 打点位置、順序
② 接触痕	部位	
	欠け 欠き	全面・環状・帯状・部分・単独など連続性の有無、水平・非水平
	細かい剥離	頻度は規則的・非規則的、多い～少ない
	打点位置、順序	
③ 磨耗	部位	
	範囲	全面・環状・帯状・部分・単独など連続性の有無、水平・非水平
	頻度	極度の摩耗、普通の摩耗、弱い摩耗
	方向・順序	
④ 付着物	内容	煤、こげ、炭化物、漆、粘土、編物痕、シミ、汚れなど
	部位	
	範囲	全面・環状・帯状・部分・単独など連続性の有無、水平・非水平
	頻度	多い～少ない
⑤ 文字記号	取れ具合	取れた範囲、頻度、要因
	記入方法	墨書（黒墨、朱墨）・漆書・刻書・印刷など
	記入内容	文字・文字様・記号・記号様など
	記入部位 大きさ	
⑥ 色調の変化	筆法、筆原形	
	取れ具合	取れた範囲・頻度・要因、摩耗など記入後の使用状況の確認
⑦ 堅さの変化	色調の変化	変化の部位・範囲、変化の要因（煮炊きなど）
	堅さの変化	変化の部位・範囲、変化の要因（煮炊きなど）
⑧ 出土状況		

第9表 土器に見られる使用段階以降の痕跡

〔川畑1999〕を転載

## D 遺物各説（図版21）

青磁（1～6） 内面割花文の碗（1・3）、同安窯系の外面に毛彫りの文様がみられる碗（2）、幅広・低

平の高台を持ち、高台内側・豊付が無軸の碗(4・5)、小皿(6)がある。

土師器皿(7~18・32~36) A1類(7・8・11・13~19)・A2類(9・10・12)・B1類(32~35)・B2類(36)があり、A1類が主体を占める。

土師器小皿(21~31・37~42) A1類(20~25)・A2類(31)・A3類(26~28)・B1類(37・39・40)・B2類(38・41)があり、A1類が主体を占める。

珠洲(43~57) すり鉢(43~52)、壺T種(53・54)、壺R種(55)、甕(56・57)がある。52は吉岡編年〔吉岡1994〕のIV期、53は須恵器となる可能性が高い。他は、吉岡編年I・II期に納まるものであろう。

瓷器系陶器(58) 甕か壺の体部が出土している。

肥前系磁器(59・60) 見込み蛇ノ目軸割ぎを行う皿(59)と、「くらわんか手」の碗(60)がある。

### 3 下層の土器

#### A 概要

古代の土器には須恵器杯蓋・有台杯・無台杯・折縁杯・無台碗・高杯・鉄鉢・鉢・長頸瓶・壺蓋・球胴

壺広口壺・狭口壺・横瓶・中甕・小甕、土師器無台碗・有台皿・無台杯・小釜・長釜・鍋、黒色土器無台碗・有台皿などが確認できる。年代は『新潟県の考古学』の古代の土器編年〔春日1999〕のV~VI期と考えられ、機能別の比率は口縁部残存率計測法で食膳具67.2%、貯蔵具2.3%、煮炊具30.4%であり、食膳具が半数以上を占めるが、煮炊具も定量存在する(第10表)。食膳具の組成は、口縁部残存率計測法で須恵器(A群:新津産)21.5%、須恵器(C群:阿賀北産)2.8%、須恵器(B群:小泊産)30.8%、須恵器(その他)2.2%、土師器38.5%、黒色土器3.4%であり、土師器と須恵器(B群)が拮抗し、須恵器(A群)がこれに次ぐ(第13表)。7区と8区で食膳具の組成に差があり、7区は須恵器が主体だが、8区は土師器・黒色土器が定量確認できる(第11・12表)。

#### B 分類

土器の種類(須恵器・土師器・黒色土器)・器形により大まかな分類を行い、須恵器杯類、土師器・黒色土器・無台碗については法量で細分した(第14図)。須恵器貯蔵具については、北野博司氏(北野1999)を用いた(第15図上段)。煮炊具は器種による大まかな分類しか行っていない(第15図下段)。

種類	器種	口縁部 残存率	破片数	比率 (残存率)	比率 (破片数)
須恵器	杯蓋	841	337	4.0%	0.6%
須恵器	有台杯	1057	531	5.0%	1.0%
須恵器	折縁杯	55	20	0.3%	0.0%
須恵器	無台杯	6200	3501	29.4%	6.7%
須恵器	無台杯+有台杯	8	119	0.0%	0.2%
須恵器	無台碗	6	13	0.0%	0.0%
須恵器	高杯	8	1	0.0%	0.0%
須恵器	鉄鉢・鉢	12	2	0.1%	0.0%
土師器	無台杯	219	178	1.0%	0.3%
土師器	有台碗	12	14	0.1%	0.0%
土師器	無台碗	5209	9015	24.7%	17.3%
土師器	有台皿	41	21	0.2%	0.0%
土師器	高杯	5	2	0.0%	0.0%
土師器	鉄鉢	4	1	0.0%	0.0%
黒色土器	有台碗	0	5	0.0%	0.0%
黒色土器	無台碗	473	656	2.2%	1.3%
黒色土器	有台皿	6	1	0.0%	0.0%
食膳具 計		14156	14417	67.2%	27.7%
須恵器	壺・瓶類	307	576	1.5%	1.1%
須恵器	甕	154	1356	0.7%	2.6%
須恵器	小甕	17	9	0.1%	0.0%
須恵器	壺・瓶類+甕	13	13	0.1%	0.0%
貯蔵具 計		491	1954	2.3%	3.7%
土師器	長釜	1607	2990	7.6%	5.7%
土師器	小釜	2270	14435	10.8%	27.7%
土師器	鍋	759	746	3.6%	1.4%
土師器	台付鍋	5	1	0.0%	0.0%
土師器	長釜+鍋	1767	17389	8.4%	33.4%
土師器	甕	5	1	0.0%	0.0%
煮炊具 計		6413	35562	30.4%	68.2%
土師器	小釜+碗類	5	204	0.0%	0.4%
総 計		21065	52137	100.0%	100.0%

第10表 下層の土器

種類	器種	口縁部 数/36	破片数	比率 (残存率)	比率 (破片数)
須恵器	杯蓋	363	170	7.2%	1.3%
須恵器	有台杯	343	153	6.8%	1.2%
須恵器	折縁杯	53	14	1.1%	0.1%
須恵器	無台杯	2029	1148	40.3%	8.8%
須恵器	無台杯 <small>有台杯</small>	4	9	0.1%	0.1%
須恵器	無台碗	2	4	0.0%	0.0%
須恵器	高杯	8	1	0.2%	0.0%
須恵器	鉄鉢・鉢	12	2	0.2%	0.0%
土師器	無台杯	2	6	0.0%	0.0%
土師器	有台碗	0	3	0.0%	0.0%
土師器	無台碗	533	1440	10.6%	11.0%
黒色土器	無台碗	19	33	0.4%	0.3%
食膳具	計	3368	2983	67.0%	22.7%
須恵器	壺・瓶類	156	231	3.1%	1.8%
須恵器	甕	52	542	1.0%	4.1%
須恵器	壺・瓶類 <small>か</small>	13	9	0.3%	0.1%
貯蔵具	計	221	782	4.4%	6.0%
土師器	長釜	339	750	6.7%	5.7%
土師器	小釜	467	3560	9.3%	27.1%
土師器	鍋	254	320	5.1%	2.4%
土師器	長釜 <small>か</small>	377	4683	7.5%	35.7%
煮炊具	計	1437	9313	28.6%	71.0%
土師器	小釜 <small>か</small>	3	37	0.1%	0.3%
総計		5029	13115	100.0%	100.0%

第11表 7区下層の土器

種類	器種	口縁部 数/36	破片数	比率 (残存率)	比率 (破片数)
須恵器	杯蓋	463	155	3.0%	0.4%
須恵器	有台杯	713	372	4.6%	1.0%
須恵器	折縁杯	2	6	0.0%	0.0%
須恵器	無台杯	4003	2246	25.8%	6.0%
須恵器	無台杯 <small>有台杯</small>	4	22	0.0%	0.1%
須恵器	無台碗	4	9	0.0%	0.0%
土師器	無台杯	176	134	1.1%	0.4%
土師器	有台碗	41	21	0.3%	0.1%
土師器	無台碗	4582	7359	29.5%	19.7%
土師器	有台皿	12	10	0.1%	0.0%
土師器	高杯	5	2	0.0%	0.0%
土師器	鉄鉢	4	1	0.0%	0.0%
黒色土器	有台碗	0	5	0.0%	0.0%
黒色土器	無台碗	451	608	2.9%	1.6%
黒色土器	有台皿	6	1	0.0%	0.0%
食膳具	計	10466	10951	67.4%	29.3%
須恵器	壺・瓶類	151	333	1.0%	0.9%
須恵器	甕	116	803	0.7%	2.2%
須恵器	壺・瓶類 <small>か</small>	0	9	0.0%	0.0%
貯蔵具	計	267	1145	1.7%	3.1%
土師器	長釜	1235	2205	8.0%	5.9%
土師器	小釜	1754	10423	11.3%	27.9%
土師器	鍋	482	403	3.1%	1.1%
土師器	長釜 <small>か</small>	1311	12186	8.4%	32.6%
土師器	甕	5	1	0.0%	0.0%
煮炊具	計	4787	25218	30.8%	67.5%
土師器	小釜 <small>か</small>	2	29	0.0%	0.1%
総計		15522	37343	100.0%	100.0%

第12表 8区下層の土器

器種	口縁部 数/36	破片数	比率 (残存率)	比率 (破片数)
須恵器A群	3102	1498	21.9%	10.4%
須恵器B群	4370	2708	30.8%	18.8%
須恵器C群	403	147	2.8%	1.0%
須恵器D群	312	42	2.3%	0.3%
須恵器計	8187	4396	58.1%	30.5%
土師器	5490	9360	38.8%	64.9%
黒色土器	479	662	3.4%	4.6%
総計	14156	14417	100.0%	100.0%

第13表 下層の食膳具

## 食膳具

須恵器杯蓋：有台杯につく蓋。12～14cm前後のものをⅠ、口径15～17cm前後のものをⅡとした。

須恵器有台杯：杯のうち高台のつくもの。口径10～11cm・器高5～7cm前後のものをⅠ、口径11～14cm・器高4cm前後のものをⅡ、口径15～17cm・器高5～7cm前後のものをⅢとした。

須恵器無台杯：杯のうち高台を持たないもの。口径12～13cm前後のものをⅠ、口径14cm前後のものをⅡとした。

須恵器無台碗：体部から口縁部にかけて内彎し、底径が小さいものを無台杯と区別し無台碗とする。底部は回転糸切りとなる。

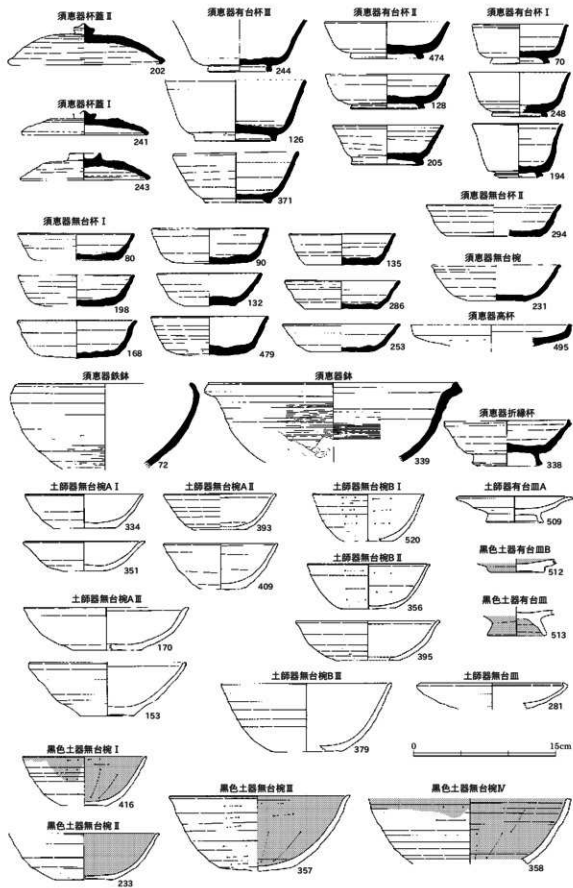
須恵器折縁杯：有台杯のうち、杯蓋のように屈曲する口縁部を持つもの。

土師器無台碗：須恵器無台碗と同様に体部から口縁部にかけて内彎し、底径が小さいものを無台杯と区別し無台碗とする。底部・体部・口縁部のいずれかに再調整（ロクケズリ・手持ちケズリ・ハマガキなど）を行うB類と行わないA類に大別した。無台碗B類と黒色土器の内面が酸化したものとの区別は、底部外面の棒状黒斑の有無で判断した（第Ⅶ章・2参照）。また、口径12～13cm前後のものをⅠ、口径14～16cm前後のものをⅡ、口径17～20cm前後のものをⅢ、口径20cmを越えると思われるものをⅣとする。

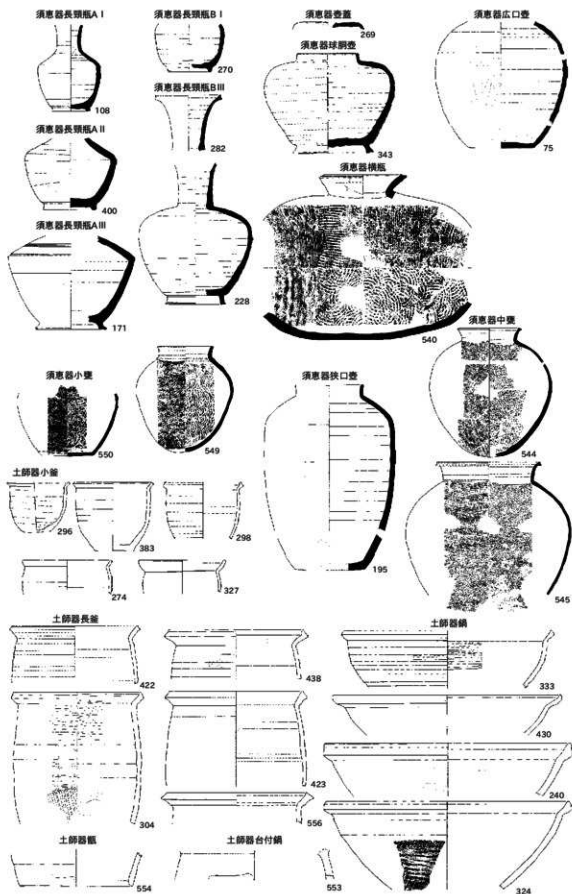
黒色土器無台碗：土師器無台碗に準じた法量による細分を行った。

土師器・黒色土器有台皿：輪高台のものをA類、削り出しの柱状高台のものをB類とする。

土師器無台皿：口縁部が屈曲する皿（281）は、



第14図 古代土器器種分類(1)



第15圖 古代土器器種分類 (2)

横越町上郷遺跡(310) [春日ほか1997] や和島村門新外割田遺跡(14) [田中1996] などの事例から、黒台皿と考えた。

#### 貯蔵具

須恵器長頸瓶：肩部に稜を持つものをA類、なで肩のものをB類とし、最大径10cm前後のものをⅠ、最大径15cm前後のものをⅡ、最大径20cm前後のものをⅢとした。

須恵器壺類：「瓶」に比べ短い口縁部を持つものを「壺」とする。短胴で肩部が張り、比較的広い口縁部をもつものを球胴壺、やや長胴でなで肩となり比較的広い口縁部を持つものを広口壺、長胴・なで肩で狭い口縁部を持つものを狭口壺とする。

須恵器甕：器高・最大径とも40cm前後かそれ以下のものを小甕、器高・最大径とも50～60cm前後のものを中甕とする。

#### 煮炊具

器高より口径が小さいものを釜、器高より口径が大きいものを鍋とし [宇野1992]、釜は小型で平底の小釜と、大型で丸底の長釜に分ける。このほか量的には少ないが、台付き鍋、甌などがある。口縁端部の形態による細分を試みたが、成しえなかった。

釜は従来「甕(型土器)」と呼ばれてきたものであり、研究史的には適切でないかもしれないが、計量的な分析を行う際に須恵器甕と混同をきたさないため、「釜」という呼称を便宜的に用いる。機能と名称を一致させることが目的ではない。機能的には長釜と鍋はともに湯沸し用の釜と考えられ、小釜は汁物を煮る鍋であろう [坂井1989]。

## C 観察表

上層(本章2-C)に準じた項目を立てた。以下で触れないものは、上層と同じである。

種類：須恵器・土師器・黒色土器などを記入した。両面黒色土器は両黒土器とした。

器種：本節Bの器種分類に対応した器種を記入した。

胎土：須恵器は第14表に示した分類を記入した。土師器・黒色土器は胎土中に含まれる小礫・鉱物・化石などを記入した。小礫・鉱物・化石の略称は上層と同じ。

底径：底径と切り離し径が大きく異なる場合は両者を併記した。「底」が底径、「切」が切り離し径の略称である。高台のあるものは、上層と同じ。

降灰・黒化：杯蓋の依存状態の良好なものは第16図の分類を記入した。

焼成：土師器は上層と同じ。須恵器は上層の陶器に準じた記入を行った。

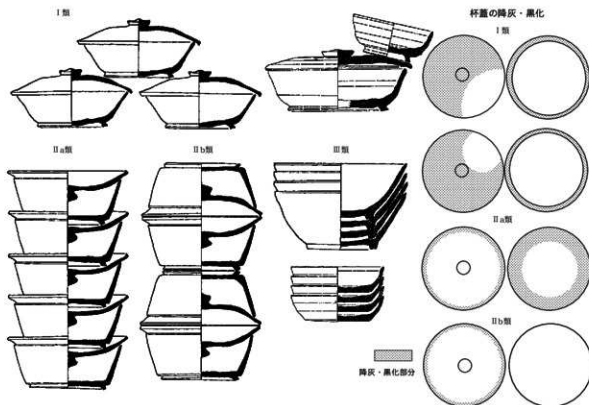
使用痕跡：上層に準じるが、墨書もこれに含めた。

## D 遺物各説

器種構成比率・食膳具の構成比率を中心に記述する。土器群の年代は『新潟県の考古学』の古代の土器編年 [春日1999] に対応した時期区分を示した。詳細は第Ⅶ章・1を参照していただきたい。

胎土	特徴
A類	素地は粘土質が強い。1mm前後の石英・長石粒を定量含む。生産地は新津丘陵産群の可能性が高い。
B類	素地は砂質が強い。混入物の少ない精白な胎土のものが多いが、1mm以下の白色粒子を多量に含むものもある。生産地は佐渡小泊産群産の可能性が高い。
C類	素地は粘土質が強い。石英・長石を多量に含む。雲母が含まれる場合もある。管神丘陵などを中心とした阿賀北地域で造られた須恵器の可能性が高い。
D類	上記以外のものを一括した。

第14表 須恵器胎土の特徴



第16図 杯蓋・有台杯の重ね焼分類

7下SK134 (図版22 61~78, 第15・16表)

破片数で165片、口縁部残存率計測法で225/36個体の遺物が出土した。須恵器杯蓋3点、同有台杯3点、同無台杯5点、同鉢1点、同広口壺1、土師器長釜1点、同小釜1点、同鍋3点を図示した。機能別の構成比率は口縁部残存率計測法で食膳具92.4%、煮炊具7.6%で食膳具が大半を占め、他のものは少ない。食膳具の構成は口縁部残存率計測法で須恵器(A群)79.8%、須恵器(C群)6.7%、須恵器(B群)13.5%であり、土師器・黒色土器は出土していない。須恵器(A群)が多い。V1期の良好な資料と考える。

8下SK43 (図版23 84~102, 第17・18表)

破片数で541片、口縁部残存率計測法で469/36個体の遺物が出土した。須恵器杯蓋1点、同有台杯3点、同無台杯7点、同球壺蓋1点、同甕1点中甕、土師器無台碗1点、同長釜2点、同小釜2点、同鍋1点を図示した。機能別の構成比率は口縁部残存率計測法で食膳具73.6%、貯蔵具4.1%、煮炊具22.4%で食膳具が多いが、煮炊具も定量存在する。食膳具の構成は口縁部残存率計測法で須恵器(A群)44.3%、須恵器(B群)12.2%、須恵器(C群)11.9%、須恵器(D群)11.0%、土師器20.6%であり、須恵器

種類	器種	口縁部 残存率(%)	破片数	比率 (残存率)	比率 (破片数)
須恵器	杯蓋	54	21	24.0%	12.7%
須恵器	有台杯	36	5	16.0%	3.0%
須恵器	無台杯	110	24	48.9%	14.5%
須恵器	鉄鉢・鉢	8	1	3.6%	0.6%
食膳具 計		208	51	92.4%	30.9%
須恵器	甕	0	16	0.0%	9.7%
貯蔵具 計		0	16	0.0%	9.7%
土師器	長釜	4	3	1.8%	1.8%
土師器	小釜	6	36	2.7%	21.8%
土師器	鍋	6	10	2.7%	6.1%
土師器	長釜か鍋	1	49	0.4%	29.7%
煮炊具 計		17	98	7.6%	59.4%
総計		225	165	100.0%	100.0%

第15表 7下SK134出土土器の器種構成比率

器種	口縁部 残存率(%)	破片数	比率 (残存率)	比率 (破片数)
須恵器B群	28	10	13.5%	19.6%
須恵器A群	166	29	79.8%	56.9%
須恵器C群	14	12	6.7%	23.5%
須恵器計	208	51	100.0%	100.0%
総計	208	51	100.0%	100.0%

第16表 7下SK134食膳具構成比率

種類	器種	口縁部 数/36	破片数	比率 (残存率)	比率 (破片数)
須恵器	杯蓋	32	9	6.8%	1.7%
須恵器	有台杯	55	16	11.7%	3.0%
須恵器	無台杯	187	47	39.9%	8.7%
須恵器	有台杯+無台杯	0	1	0.0%	0.2%
土師器	無台碗	71	97	15.1%	17.9%
食膳具	計	345	170	73.6%	31.4%
須恵器	壺・瓶類	19	4	4.1%	0.7%
須恵器	甕	0	3	0.0%	0.6%
貯蔵具	計	19	7	4.1%	1.3%
土師器	長釜	18	37	3.8%	6.8%
土師器	小釜	63	148	13.4%	27.4%
土師器	鍋	6	7	1.3%	1.3%
土師器	長釜か鍋	18	172	3.8%	31.8%
煮炊具	計	105	364	22.4%	67.3%
総計		469	541	100.0%	100.0%

第17表 8下SK43出土土器の器種構成比率

器種	口縁部 数/36	破片数	比率 (残存率)	比率 (破片数)
須恵器B群	42	28	12.2%	15.6%
須恵器A群	153	32	44.3%	18.8%
須恵器C群	41	8	11.9%	4.7%
須恵器D群	38	5	11.0%	2.9%
須恵器計	274	73	79.4%	42.9%
土師器	71	97	20.6%	57.1%
総計	345	170	100.0%	100.0%

第18表 8下SK43食膳具構成比率

種類	器種	口縁部 数/36	破片数	比率 (残存率)	比率 (破片数)
須恵器	杯蓋	19	5	3.3%	0.8%
須恵器	有台杯	26	16	4.5%	2.6%
須恵器	無台杯	287	86	50.1%	13.9%
須恵器	有台杯+無台杯	0	1	0.0%	0.2%
土師器	有台碗	12	3	2.1%	0.5%
土師器	無台碗	140	137	24.4%	22.1%
食膳具	計	484	248	84.5%	40.1%
須恵器	壺・瓶類	0	2	0.0%	0.3%
貯蔵具	計	0	2	0.0%	0.3%
土師器	長釜	29	61	5.1%	9.9%
土師器	小釜	47	171	8.2%	27.6%
土師器	鍋	6	6	1.0%	1.0%
土師器	長釜か鍋	7	131	1.2%	21.2%
煮炊具	計	89	369	15.5%	59.6%
総計		573	619	100.0%	100.0%

第19表 8下SD40出土土器の器種構成比率

器種	口縁部 数/36	破片数	比率 (残存率)	比率 (破片数)
須恵器B群	218	68	45.0%	27.4%
須恵器A群	114	36	23.6%	14.5%
須恵器C群	9	4	1.9%	1.6%
須恵器D群	0	0	0.0%	0.0%
須恵器計	332	108	68.5%	43.5%
土師器	152	140	31.5%	56.5%
黒色土器	0	0	0%	0%
総計	484	248	100.0%	100.0%

第20表 8下SD40食膳具構成比率

(A群)が多く、他のものは10%前後である。V1期の良好な資料と考える。

## 8下SD40 (図版23 123～158, 第19・20表)

破片数で619片、口縁部残存率計測法で573/36個体の遺物が出土した。須恵器杯蓋3点、有台杯6点、同無台杯13点、同球胴壺1点、土師器無台碗8点、同長釜2点、同小釜1点、黒色土器無台碗2点を図示した。機能別の構成比率は口縁部残存率計測法で食膳具84.5%、煮炊具15.5%で食膳具が多いが、煮炊具も定量存在する。食膳具の構成は口縁部残存率計測法で須恵器(A群)23.6%、須恵器(C群)1.9%、須恵器(B群)45.0%、土師器31.5%であり、須恵器(B群)が半数近くを占めるが、土師器・須恵器(A群)も20～30%前後存在する。後述するV2期を中心とする資料と考えるが、須恵器(B群)有台杯・無台杯などの形態には多様性があり、土師器無台碗(145・147・149～154)は深身のものが多い。新しい時期の遺物を定量含む可能性が高い。

## 8下SE205 (図版24・43 159～171・640～644, 第21・22表)

破片数で136片、口縁部残存率計測法で242/36個体の遺物が出土した。須恵器有台杯3点、同無台杯9点、同長頸瓶1点、土師器無台碗2点、同小釜2点を図示した。機能別の構成比率は口縁部残存率計測法で食膳具95.0%、貯蔵具1.7%、煮炊具3.3%で食膳具が多い。食膳具の構成は口縁部残存率計測法で須恵器(A群)6.1%、須恵器(C群)30.4%、須

種類	器種	口縁部 数/36	破片数	比率 (残存率)	比率 (破片数)
須恵器	有台杯	59	5	24.4%	3.7%
須恵器	無台杯	160	36	66.1%	26.5%
土師器	無台碗	11	44	4.5%	32.4%
食膳具	計	230	85	95.0%	62.5%
須恵器	壺・瓶類	0	2	0.0%	1.5%
須恵器	甕	4	5	1.7%	3.7%
貯蔵具	計	4	7	1.7%	5.1%
土師器	長釜	8	22	3.3%	16.2%
土師器	小釜	0	8	0.0%	5.9%
土師器	長釜か鍋	0	14	0.0%	10.3%
煮炊具	計	8	44	3.3%	32.4%
総計		242	136	100.0%	100.0%

第21表 8下SE205出土土器の器種構成比率



器種	口縁部 数(片/36)	破片数	比率 (残存率)	比率 (破片数)
須恵器B群	135	34	58.7%	40.0%
須恵器A群	14	4	6.1%	4.7%
須恵器C群	70	3	30.4%	3.5%
須恵器計	219	41	95.2%	48.2%
土師器	11	44	4.8%	51.8%
総計	230	85	100.0%	100.0%

第22表 8下SE205食器具構成比率

器(B群)58.7%、土師器4.8%であり、須恵器(B群)が多い。須恵器(B群)無台杯の形態にはまともがあり、土師器無台碗(642)は、やや深身だが、底径は大きい。V2期の良好な資料と考える。

## 8下SD31(図版25 172~192、第23・24表)

破片数で127片、口縁部残存率計測法で264/36個体の遺物が出土した。須恵器有台杯4点、同無台杯4点、同長頸瓶1点、土師器無台碗3点、同長釜4点、同小釜5点、同鍋1点を図示した。機能別の構成比率は口縁部残存率計測法で食膳具83.5%、煮炊具17.5%で食膳具が大半を占める。食膳具の構成は口縁部残存率計測法で須恵器(A群)58.3%、須恵器(B群)11.0%、土師器30.7%であり、須恵器(A群)が多い。V2期を中心とする資料と考えるが、須恵器(B群)無台杯の形態には多様性があり、土師器無台碗にも底径が比較的大きいもの(181)と小さなもの(182)がある。新しい時期の遺物を定量含む可能性がある。

## 8下SK36(図版26 202~222、第25・26表)

破片数で524片、口縁部残存率計測法で860/36個体の遺物が出土した。須恵器杯蓋2点。同有台杯4点、同無台杯7点、土師器無台碗2点、同長釜6点、同小釜3点、同鍋1点、黒色土器無台碗1点を図示した。機能別の構成比率は口縁部残存率計測法で食膳具64.5%、貯蔵具0.4%、煮炊具35.1%で食膳具が多いが煮炊具も定量存在する。食膳具の構成は口縁部残存率計測法で須恵器(A群)35.8%、須恵器(B群)36.7%、土師器20.4%、黒色土器7.1%であり、須恵器(A群)と須恵器(B群)が多いが、土師器も定量確認できる。V2期を中心とする時期の資料と考えるが、須恵器(B群)無台杯には、薄手で体部の間

種類	器種	口縁部 数(片/36)	破片数	比率 (残存率)	比率 (破片数)
須恵器	杯蓋	25	2	9.6%	1.6%
須恵器	有台杯	76	8	28.8%	6.3%
須恵器	無台杯	50	6	19.7%	4.7%
土師器	無台碗	67	36	25.4%	28.3%
黒色土器	無台碗	0	1	0%	0.8%
食膳具 計		218	53	83.5%	41.7%
須恵器	壺・瓶類	0	2	0%	1.6%
須恵器	甕	0	1	0%	0.8%
貯蔵具計		0	3	0%	2.4%
土師器	長釜	38	18	14.4%	14.1%
土師器	小釜	2	12	0.8%	9.4%
土師器	鍋	5	2	1.9%	1.6%
土師器	釜釜か鍋	1	39	0.4%	30.7%
煮炊具 計		46	71	17.5%	55.8%
総計		264	127	100%	100%

第23表 8下SD31出土土器の器種構成比率

器種	口縁部 数(片/36)	破片数	比率 (残存率)	比率 (破片数)
須恵器B群	24	6	11.0%	11.3%
須恵器A群	127	9	58.3%	17.0%
須恵器D群	0	1	0.0%	1.9%
須恵器計	151	16	69.3%	30.2%
土師器	67	36	30.7%	67.9%
黒色土器	0	1	0.0%	1.9%
総計	218	53	100.0%	100.0%

第24表 8下SD31食器具構成比率

種類	器種	口縁部 数(片/36)	破片数	比率 (残存率)	比率 (破片数)
須恵器	杯蓋	69	4	13.2%	0.5%
須恵器	有台杯	31	12	5.9%	1.4%
須恵器	無台杯	145	55	27.6%	6.4%
土師器	無台碗	69	112	13.2%	13.0%
黒色土器	無台碗	24	16	4.6%	1.9%
食膳具計		338	199	64.5%	23.2%
須恵器	壺・瓶類	2	12	0.4%	1.4%
須恵器	甕	0	7	0%	0.8%
貯蔵具計		2	19	0.4%	2.2%
土師器	長釜	89	100	17.0%	11.6%
土師器	小釜	61	228	11.6%	26.5%
土師器	鍋	9	5	1.7%	0.6%
土師器	釜釜か鍋	25	309	4.8%	35.9%
煮炊具計		184	642	35.1%	74.6%
総計		524	860	100%	100%

第25表 8下SK36出土土器の器種構成比率

器種	口縁部 数(片/36)	破片数	比率 (残存率)	比率 (破片数)
須恵器B群	124	43	36.7%	21.6%
須恵器A群	121	28	35.8%	14.1%
須恵器計	245	71	72.5%	35.7%
土師器	69	112	20.4%	56.3%
黒色土器	24	16	7.1%	8.0%
総計	338	199	100.0%	100.0%

第26表 8下SK36食器具構成比率

き大きいもの(214)もあり、新しい時期の遺物を含む可能性がある。

#### 8下SK17 (図版26 202~222 第26・27表)

破片数で509片、口縁部残存率計測法で265/36個体の遺物が出土した。須恵器無台杯3点、土師器無台杯1点、同長釜1点、同小釜5点、同鍋1点、黒色土器無台杯1点を図示した。機能別の構成比率は口縁部残存率計測法で食膳具66.0%、貯蔵具1.5%、煮炊具32.4%で食膳具が多いが煮炊具も定量存在する。食膳具の構成は口縁部残存率計測法で須恵器(A群)3.4%、須恵器(B群)28.0%、土師器62.3%、黒色土器6.3%であり、土師器が主体を占めるが、須恵器(B群)も定量存在する。VI1期の資料と考えるが、食膳具の数が少なく、確実性に欠ける。

#### 8下SD21 (図版27 241~284 第28・29表)

破片数で1314片、口縁部残存率計測法で692/36個体の遺物が出土した。須恵器杯蓋3点、有台杯6点、無台杯6点、土師器無台杯11点、同長釜2点、同小釜5点、同鍋2点、黒色土器無台杯2点を図示した。機能別の構成比率は口縁部残存率計測法で食膳具68.6%、貯蔵具1.9%、煮炊具29.5%で食膳具が多いが煮炊具も定量存在する。食膳具の構成は口縁部残存率計測法で須恵器(A群)25.1%、須恵器(C群)1.3%、須恵器(B群)17.1%、土師器49.5%、黒色土器7.1%であり土師器が多いが、須恵器(A群)、須恵器(B群)も定量存在する。VI1期を中心とする時期の資料と考えるが、古い時期の遺物を相当数含んでいる可能性が高い。

#### 8下SK44 (図版28 285~291 第30・31表)

破片数で340片、口縁部残存率計測法で176/36個体の遺物が出土した。須恵器無台杯5点、土師器長釜1点、同小釜1点、同鍋1点を図示した。機能別の構成比率は口縁部残存率計測法で食膳具71.6%、貯蔵具0.6%、煮炊具27.8%で食膳具が多いが煮炊具も定量存在する。食膳具の構成は口縁部残存率計測法で須恵器(A群)1.6%、須恵器(B群)67.5%、土師器31.0%、黒色土器0%であり、須恵器(B群)が主体を占めるが、土師器も定量存在する。出土点

種類	器種	口縁部 残存率	破片数	比率 (残存率)	比率 (破片数)
須恵器	杯蓋	0	1	0%	0.2%
須恵器	有台杯	5	2	1.9%	0.4%
須恵器	無台杯	50	27	18.9%	5.3%
土師器	無台杯	109	171	41.1%	33.6%
黒色土器	無台杯	11	19	4.1%	3.7%
黒色土器	有台杯	0	2	0%	0.4%
食膳具計		175	222	66.0%	43.6%
須恵器	粟	4	18	1.5%	3.5%
貯蔵具計		4	18	1.5%	3.5%
土師器	長釜	17	11	6.4%	2.1%
土師器	小釜	49	107	18.5%	21.0%
土師器	鍋	3	3	1.1%	0.6%
土師器	長釜か鍋	17	148	6.4%	29.1%
煮炊具計		86	269	32.4%	52.8%
総計		265	509	100%	100%

第27表 8下SK17出土土器の器種構成比率

器種	口縁部 残存率	破片数	比率 (残存率)	比率 (破片数)
須恵器B群	49	17	28.0%	7.7%
須恵器A群	6	13	3.4%	5.9%
須恵器計	55	30	31.4%	13.5%
土師器	109	171	62.3%	77.0%
黒色土器	11	21	6.3%	9.5%
総計	175	222	100%	100%

第28表 8下SK17食膳具構成比率

種類	器種	口縁部 残存率	破片数	比率 (残存率)	比率 (破片数)
須恵器	杯蓋	50	12	7.2%	0.9%
須恵器	有台杯	39	35	5.6%	2.7%
須恵器	無台杯	117	89	16.9%	6.8%
土師器	無台杯	46	31	6.6%	2.4%
土師器	無台杯	186	202	26.9%	15.4%
土師器	有台杯	3	10	0.4%	0.8%
黒色土器	無台杯	34	35	4.9%	2.7%
食膳具計		475	414	68.6%	31.5%
須恵器	壺・瓶類	0	6	0.0%	0.5%
須恵器	粟	13	35	1.9%	2.7%
貯蔵具計		13	41	1.9%	3.1%
土師器	長釜	40	53	5.8%	4.0%
土師器	小釜	90	403	13.0%	30.7%
土師器	鍋	14	10	2.0%	0.8%
土師器	長釜か鍋	60	393	8.7%	29.9%
煮炊具計		204	859	29.5%	65.4%
総計		692	1314	100.0%	100.0%

第29表 8下SD21出土土器の器種構成比率

器種	口縁部 残存率	破片数	比率 (残存率)	比率 (破片数)
須恵器B群	81	62	17.1%	15.0%
須恵器A群	119	67	25.1%	16.2%
須恵器C群	6	7	1.3%	1.7%
須恵器計	206	136	43.5%	32.9%
土師器	235	243	49.5%	58.7%
黒色土器	34	35	7.1%	8.4%
総計	475	414	100.0%	100.0%

第30表 8下SD21食膳具構成比率

種類	器種	口縁部 数/36	破片数	比率 (残存率)	比率 (破片数)
須恵器	有台杯	0	2	0.0%	0.6%
須恵器	無台杯	87	25	49.4%	7.4%
土師器	無台碗	39	67	22.2%	19.7%
食膳具	計	126	94	71.6%	27.6%
須恵器	壺	1	3	0.6%	0.9%
貯蔵具	計	1	3	0.6%	0.9%
土師器	長釜	0	30	0.0%	8.8%
土師器	小釜	31	104	17.6%	30.6%
土師器	鍋	5	10	2.8%	2.9%
土師器	長釜か鍋	13	99	7.4%	29.1%
煮炊具	計	49	243	27.8%	71.5%
総計		176	340	100.0%	100.0%

第31表 8下SK44出土土器の器種構成比率

数はそれほど多くないが、須恵器（B群）無台杯は形式的にまとまりがあり、煮炊具も定量見られVI1期の良好など考える。

## 8下SE27（図版30 344～370、第32・33表）

破片数で205片、口縁部残存率計測法で270/36個体の遺物が出土した。須恵器長頸瓶3点、土師器無台碗13点、同小釜5点、黒色土器無台碗6点を図示した。機能別の構成比率は口縁部残存率計測法で食膳具89.6%、煮炊具10.3%で食膳具が多い。食膳具の構成は口縁部残存率計測法で須恵器（B群）1.2%・土師器75.2%・黒色土器23.6%であり、土師器が主体を占める。須恵器食膳具の比率が非常に少ないが、浅身で底径が大きい土師器無台碗の形態などからVI1期の資料と考えた。

## 8下SK100（図版28 371～383、第34・35表）

破片数で645片、口縁部残存率計測法で269/36個体の遺物が出土した。須恵器有台杯1点、土師器無台碗8点・同有台皿1点・同長釜1点・同小釜2点・同鍋点を図示した。機能別の構成比率は口縁部残存率計測法で食膳具72.1%、煮炊具27.9%で食膳具が多い。食膳具の構成は口縁部残存率計測法で須恵器（A群）5.2%、須恵器（B群）25.2%、土師器63.9%、黒色土器5.7%であり、土師器が主体を占める。土師器が食膳具の大半を占める構成は8下SE27・8下SK14出土土器群と同じだが、土師器無台碗には深身で底径が小さいものが多いことから、これらに後続するVI2期の資料と考える。

器種	口縁部 数/36	破片数	比率 (残存率)	比率 (破片数)
須恵器B群	85	24	67.5%	25.5%
須恵器A群	2	3	1.6%	3.2%
須恵器計	87	27	69.0%	28.7%
土師器	39	67	31.0%	71.3%
黒色土器	0	0	0.0%	0.0%
総計	126	94	100.0%	100.0%

第32表 8下SK44食膳具構成比率

種類	器種	口縁部 数/36	破片数	比率 (残存率)	比率 (破片数)
須恵器	有台杯	0	1	0%	0.5%
須恵器	無台杯	3	4	1.1%	2.0%
土師器	有台碗	0	1	0%	0.5%
土師器	無台碗	182	67	67.4%	32.7%
黒色土器	無台碗	57	32	21.1%	15.6%
食膳具計		242	105	89.6%	51.2%
須恵器	壺・瓶類	0	5	0%	2.4%
貯蔵具計		0	5	0%	2.4%
土師器	長釜	0	1	0%	0.5%
土師器	小釜	17	40	6.3%	19.5%
土師器	鍋	2	3	0.7%	1.5%
土師器	長釜か鍋	9	51	3.3%	24.9%
煮炊具計		28	95	10.3%	46.4%
総計		270	205	100%	100%

第33表 8下SE27出土土器の器種構成比率

器種	口縁部 数/36	破片数	比率 (残存率)	比率 (破片数)
須恵器B群	3	4	1.2%	3.8%
須恵器D群	0	1	0.0%	1.0%
須恵器計	3	5	1.2%	4.8%
土師器	182	68	75.2%	64.8%
黒色土器	57	32	23.6%	30.5%
総計	242	105	100.0%	100.0%

第34表 8下SE27食膳具構成比率

種類	器種	口縁部 数/36	破片数	比率 (残存率)	比率 (破片数)
須恵器	杯蓋	0	1	0.0%	0.2%
須恵器	有台杯	45	10	16.7%	1.6%
須恵器	無台杯	12	7	4.5%	1.1%
須恵器	有台杯/有台皿	2	3	0.7%	0.5%
土師器	有台碗	0	3	0.0%	0.5%
土師器	無台碗	124	301	46.1%	46.7%
黒色土器	有台碗	0	2	0.0%	0.3%
黒色土器	無台碗	11	13	4.1%	2.0%
食膳具	計	194	340	72.1%	52.7%
須恵器	壺・瓶類	0	2	0.0%	0.3%
貯蔵具	計	0	2	0.0%	0.3%
土師器	長釜	7	16	2.6%	2.5%
土師器	小釜	59	191	21.9%	29.6%
土師器	長釜か鍋	9	96	3.3%	14.9%
煮炊具	計	75	303	27.9%	47.0%
総計		269	645	100.0%	100.0%

第35表 8下SK100出土土器の器種構成比率

## 8下SK14 (図版31 384~404, 第36・37表)

破片数で272片、口縁部残存率計測法で272/36個体の遺物が出土した。須恵器有台杯1点・同無台杯2点・同長頸瓶3点・同横瓶1点、土師器無台椀13点・同小釜1点を図示した。機能別の構成比率は口縁部残存率計測法で食膳具91.5%、貯蔵具0.7%、煮炊具7.7%で食膳具が多い。食膳具の構成は口縁部残存率計測法で須恵器(新津産)4.0%、須恵器(小泊産)13.0%、土師器82.0%、黒色土器1.0%であり、土師器が主体を占める。須恵器食膳具の比率が非常に少ないが須恵器(B群)有台杯(385・386)の形態、浅身で底径が大きい土師器無台椀の形態などからVI1期の資料と考えた。

その他の遺構出土遺物 8下SD42 (図版22 79~83:V期)、8下SD47 (図版23 103~108:V期)、7下SK122 (図版23 112~115:V期)、7下SK109 (図版23 116~118:V期)、7下SK5 (図版23 119~122:V期)、7下SK104 (図版25 198~201:V期)、8下SE201 (図版28 294~298:VI1期)、8下SD46 (図版28 299~304:VI期)、8下SE201 (図版28 294~298)、8下SD105 (第28図 305~307:VI期)、7下SK132 (第29図 334~339:VI期)、8下SK58 (第31図 405~408:VI期)などから、時期的にもまとまりがあると思われる遺物が比較的多く出土している。なお、8下SD407 (図版32 428~432)、8下SK34 (図版33 452~455)、8下SK33 (図版34 460・461)は平面図で遺構を確認できなかった。遺物の出土グリッドから8下SK33は8下SK43、8下SK34は8下SK39のラベルか注記の書き間違いの可能性が高い。

その他 261は胎土B群の壺蓋、447は胎土B群の球壺蓋、550は胎土B群の平底となる小甕で、生産地を含めても類例が少ないものである。261・477は降灰状況から蓋を倒れて置いて焼成したと思われる。479は胎土B群の無台杯で底部外面から体部下半にかけてロクロケズリを行う。東海地方などに類例があり、佐渡小泊窯跡群でもK-402窯に類例がある。533は体部下半に湿台跡が残る。540は両面閉塞の横瓶で内面の当て具跡の状況から実測図の右側が製作段階初期の下側であったと思われる。547は焼成後底部付近に径約7cm前後の孔を穿つ。

器種	口縁部 残存率	破片数	比率 (残存率)	比率 (破片数)
須恵器B群	49	13	25.2%	3.8%
須恵器A群	10	8	5.2%	2.3%
須恵器計	59	21	30.4%	6.1%
土師器	124	304	63.9%	89.4%
黒色土器	11	15	5.7%	4.4%
総計	194	340	100.0%	100.0%

第36表 8下SK100食膳具構成比率

種類	器種	口縁部 残存率	破片数	比率 (残存率)	比率 (破片数)
須恵器	杯蓋	5	2	1.8%	0.7%
須恵器	有台杯	6	3	2.2%	1.1%
須恵器	無台杯	31	6	11.4%	2.2%
土師器	無台杯	0	15	0.0%	5.5%
土師器	無台椀	204	120	75.0%	44.1%
黒色土器	無台椀	3	6	1.1%	2.2%
食膳具 計		249	152	91.5%	55.9%
須恵器	壺・瓶類	2	7	0.7%	2.6%
須恵器	甕	0	2	0.0%	0.7%
貯蔵具 計		2	9	0.7%	3.3%
土師器	長釜	8	26	2.9%	9.6%
土師器	小釜	5	37	1.8%	13.6%
土師器	鍋	3	11	1.1%	4.0%
土師器	長釜か鍋	5	37	1.8%	13.6%
煮炊具 計		21	111	7.7%	40.8%
総計		272	272	100.0%	100.0%

第37表 8下SK14出土土器の器種構成比率

器種	口縁部 残存率	破片数	比率 (残存率)	比率 (破片数)
須恵器B群	32	4	13%	2.6%
須恵器A群	10	7	4%	4.6%
須恵器計	42	11	17%	7.2%
土師器	204	135	82%	88.8%
黒色土器	3	6	1%	3.9%
総計	249	152	100%	100%

第38表 8下SK14食膳具構成比率

## 4 土製品・石器・木器・金属器

## 土製品 (図版38)

細型土鍾 (562～567) 10点出土しており、6点を図化した。重量は7～8g前後である。7下SK134から3点まとまって出土している。

大型土鍾 (588・569) 3点出土しており、残りのよい2点を図化した。568は8上SD1、569は下層出土。

羽口 (570・571) 2点とも下層出土であり、直径約6～7cm前後になる可能性が高い。

土器片円盤 (572～575) 土師器片を用いたもの (572) と須恵器有台杯底部を用いたもの (573～575) がある。572は側縁が磨耗するが、573～575には側縁の磨耗は見られない。

円筒形土製品 (576・649) 天地逆の可能性もある。2点とも須恵器技法 (ロクロナデ・カキメなど) を用いたものである。649は口縁部がすぼまる。

## 石 器 (図版38・39)

礫石 (577～592) 上層のもの (577・578・580～583) と下層のもの (579・584～542) がある。在地の凝灰岩・流紋岩などを用いたものが大半で、遠隔地系のもは確認していない。切石を素材としたと思われるもの (578・581・583など) のほかに自然礫を素材としたと思われるもの (577・582・592など) が確認できる。592は節理により破損した上・下側面を作業面として用いている。

凹石 (593) 石材は軽石で、正裏面、上・下側面に凹部が正面、左右側面に磨り面が確認できる。

## 木 器 (図版39～43、第39表)

8下SE206 (595～608) 598・599・604～608は井戸側を構成する部材で他は覆土中の遺物と思われる。595は曲物側板、596は円形板で側面に木釘が確認できる。598・599は井戸側椀木であり、結合には目違いやを用いる。604～608は井戸側縦板で断面形などから丸木舟を分割・転用したのと思われる。

8下SE205 (609～621) 614・615・617～622は井戸側を構成する部材で他は覆土中の遺物と思われる。611は稜碗の口縁部破片と考えられ劣化が激しいため樹種同定・写真撮影ができなかった。614・615は井戸側椀木であり、結合には目違いやを用いる。617～622は井戸側の縦板で一端を薄くする加工を行う。

8下SE28 (622～627) 図化した遺物はいずれも井戸側を構成する部材で622～626が縦板、627が水溜めである。図化しなかった椀木と考えられる。芯持ち丸太材が縦板底面付近から出土している。縦板 (622～626) はいずれも片面に加工痕があり、下端が釘となり先端が突る。

## 金属器 (図版43)

釘 (629～631) いずれも8下SK3から出土しており、下端を欠損する。

刀子 (632～636) 632は木質部が残っており基部には釘が確認できる。土師器皿 (36) が共件しており、13～14世紀のものであろう。635・636は基部に釘穴が確認できる。

鎌 (637・638) ともに曲刃鎌と考えられる。637は上層、638は下層からの出土である。

その他 (639) 横断面に彎曲が見られた事から容器と考えた。鉄鍋などの可能性が考えられる。

## 第VI章 木製品の樹種

### 1 方 法

出土材から横断面・放射断面・接線断面の3断面について剃刀を用いて切り取り、ガムクロラル（アラビアゴム・抱水クロラル・グリセリン・蒸留水を混合したもの）で封入してプレパラートを作成した。検鏡は光学顕微鏡にて40-400倍で行い、現生標本との対照により同定を行った。なお、同定したプレパラートはNGT-の頭文字と通し番号を付してパレオ・ラボに保管されている。

### 2 結 果

樹種同定の結果、計35点の木製品中には4分類群が認められた（第38表）。次に、検出された分類群の解剖学的記載を行うと共に、写真図版を付して同定の根拠とする。

**スギ** *Cryptomeria japonica* (L.f.) D. Don スギ科 (第17図 1a~1c)

仮道管と放射柔組織、及び樹脂細胞からなる針葉樹材。早材から晩材への移行はやや急で、樹脂細胞はこの移行部分にかけて散在し、しばしば接線方向に配列する。また晩材部は量多く明瞭。分野壁孔はスギ型で大きく、1分野にふつう2個。

スギは高木になる常緑針葉樹である。現在ではいたるところに植栽されているが天然分布は降水量の多い地域に限られて点在し、特に東日本の日本海側に多く、湿地周辺や尾根沿い、谷沿いなどに生育する。材質は軽軟で保存性は中庸、割裂性・加工性に優れる。

**ヤナギ属** *Salix* ヤナギ科 (第18図 2a~2c)

小さな（直径約40-80 $\mu$ m）放射方向に伸びた丸い薄壁の導管が、ほぼ単独で密に分布する散孔材。導管の直径は年輪の始めと終わりで小さくなる傾向にある。導管の穿孔は単一。放射組織は単列異性で、導管と放射組織との壁孔は蜂の巣形のふるい状。

ヤナギ属には山地に生育する種や、河畔・湿地周辺に生育する種などが含まれ、また低木から高木になる種まで様々であるが、多くが向陽地の土壌の薄い適湿~湿潤で水はけの良い立地を好む。材質は軽軟で、加工は容易、耐久性は低い。

**コナラ属** *Quercus* sect. *Prinus* ブナ科 (第18図 3a~3c)

年輪の始めに大型（直径約180-220 $\mu$ m）の丸い道管が単独で年輪の始めに並び、そこから径を減じて晩材では小型（直径約20-50 $\mu$ m）でやや角張った道管が火炎状に配列する環孔材。木部柔組織はいびつな接線状で1-2列。道管の穿孔は単一で、道管内部にはチロースが著しい。放射組織は単列同性であるが、大型の広放射組織が混在する。道管と放射柔細胞との壁孔は対列状、または柵状。

コナラ属には温帯下部~暖温帯に分布するコナラ *Quercus serrata* Thunb. ex Murray、温帯上部~冷温帯に分布するミズナラ *Quercus crispula* Blume、主に暖温帯の沿海地に多いカシワ *Quercus dentata* Thunb. ex Murray、暖温帯に点在して分布するナラガシワ *Quercus aliena* Blume などが含まれる。いずれも重硬で弾性を持つ材で、保存性は中庸、割裂・加工は難易であり、乾燥収縮に伴い割れが入りやす

No.	地区	グリッド	遺構	層位・No.	器種	長さ	幅	厚さ	樹種	木取り	時代	備考
594	8区		P 105		柱根	327	205	157	スギ	芯持?	9世紀	
595	8区	68D21	SE206	No.7	曲物側板	165	15	3.5	スギ	榫目	9世紀	
596	8区	68D21	SE206	No.12	円形板	226(直径)	173	9	スギ	榫目	9世紀	
597	8区	68D21	SE206		板材	247	213	19	スギ	榫目	9世紀	
598	8区	68D21	SE206	No.8	角材	374	41	34	スギ	芯外し斜め	9世紀	
599	8区	68D21	SE206	No.8	角材	445	68	38	スギ	芯外し斜め	9世紀	
600	8区	68D21	SE206	No.9	板材	273	130	13	スギ	榫目	9世紀	
601	8区	68D21	SE206	No.10	板材	176	121	12	スギ	榫目	9世紀	
602	8区	68D21	SE206	No.11	板材	317	90	22	スギ	榫目	9世紀	
603	8区	68D21	SE206	No.1	井戸側部材	550	203	20	スギ	榫目	9世紀	丸木船を転用
604	8区	68D21	SE206	No.2	井戸側部材	1011	249	34	スギ	榫目	9世紀	丸木船を転用
605	8区	68D21	SE206		井戸側部材	664	254	51	カツラ属	榫目	9世紀	丸木船を転用
606	8区	68D21	SE206	No.5	井戸側部材	890	284	60	スギ	榫目	9世紀	丸木船を転用
607	8区	68D21	SE206	No.4	井戸側部材	624	425	46	カツラ属	榫目	9世紀	丸木船を転用
608	8区	68D21	SE206		井戸側部材	983	335	66	スギ	榫目	9世紀	丸木船を転用
609	8区	68D17-22	SE205	No.3	不明	138	51	30	コナラ属	半截状	9世紀	
610	8区	68D17-22	SE205	No.5	板材	336	86	31	スギ	榫目	9世紀	
611	8区	68D17-22	SE205		稜塊	219(口徑)	-	-				
612	8区	68D17-22	SE205		板材	473	131	28	スギ	榫目	9世紀	
613	8区	68D17-22	SE205		杭	108	54	54	ヤナギ属	芯持	9世紀	
614	8区	68D17-22	SE205	No.3	角材	659	36	40	スギ	芯外し	9世紀	
615	8区	68D17-22	SE205	No.5	板材	632	92	31	スギ	榫目	9世紀	
616	8区	68D17-22	SE205	No.6	井戸側部材	467	133	35	スギ	榫目	9世紀	
617	8区	68D17-22	SE205	No.4	井戸側部材	924	115	15	スギ	榫目	9世紀	
618	8区	68D17-22	SE205	No.4	井戸側部材	1234	297	28	スギ	榫目	9世紀	
619	8区	68D17-22	SE205	No.4	井戸側部材	1218	255	13	スギ	榫目	9世紀	
620	8区	68D17-22	SE205		井戸側部材	927	125	13	スギ	榫目	9世紀	
621	8区	68D17-22	SE205	No.4	井戸側部材	812	96	10	スギ	榫目	9世紀	
622	8区	68E3	SE18	No.6	井戸側部材	686	80	23	スギ	榫目	9世紀	
623	8区	68E3	SE18	No.1	井戸側部材	603	183	35	スギ	榫目	9世紀	
624	8区	68E3	SE18	No.2	井戸側部材	581	109	23	スギ	榫目	9世紀	
625	8区	68E3	SE18	No.2	井戸側部材	532	140	17	スギ	榫目	9世紀	
626	8区	68E3	SE18	No.16	井戸側部材	592	149	22	スギ	榫目	9世紀	
627-1	8区	68E3	SE18		円形曲物側板	320~342 (口徑)	310~324 (威徑)	218 (高さ)	スギ	榫目	9世紀	井戸水溜め
627-2	8区	68E3	SE18		円形曲物側板	-	-	-	スギ	榫目	9世紀	井戸水溜め
628	8区	不明	不明		板材	203	179	80	スギ	榫目	9世紀	

第39表 沖ノ羽遺跡C地区出土木製品の樹種同定結果

い。

カツラ属 *Cercidiphyllum* カツラ科 (第18図 4a~4c)

小型(直径約50~70μm)の薄壁でやや角張った導管が密に分布する散孔材。導管の穿孔は階段状で20~30本程度。放射組織は異性で2~3列、上下端に直立細胞が顕著でしばしば数個連なる。

カツラ属の母植物はカツラが考えられる。カツラは高木になる落葉広葉樹で、河畔や溪畔などの過湿地にみられる。現在の新潟県の植物相からみるとカツラは稀な樹種である。

### 3 考 察

木製品の器種別にみると、計17点の井戸側部材にはスギが15点見いだされ、スギが多用されていることがわかる(第39表)。スギは材が通直であり、また軟らかく加工・切削が容易で、また軽い材である割には強度があり、板材として適材であることから用いられたとみられる。井戸材にスギが多用される例は新保遺跡においても確認されている[松葉2001]。残りの2点はカツラ属であったが、井戸枠に軽軟

な広葉樹が見出されることは全国的にもしばしば認められ、おそらく軽軟な材は割裂性に優れるので板材への加工が容易であることが大きな要因であると推測される。遺構別にみると、SE205とSE28の井戸側部材はすべてスギから成っているが、SE206ではスギとカツラ属の2種類の材から成っていることがわかる。井戸建築材の部位によって樹種が使い分けられる例はあるが〔例えば、高橋・橋本1995、松葉2001〕、今回はすべて井戸側と考えられるので、SE206の井戸側が補修された際に異なる材が使用されたことも想定されよう。木取りでみると井戸側のほとんどが板目取りであり、強度に配慮した板材の加工が行われていたと考えられる。

角材・板材にはすべてスギが用いられており、井戸側と同様な材質への着目からスギが選択されたものとみられる。新潟県内のほぼ同時期の遺跡において板材にスギが多用されている例は、蔵ノ坪遺跡〔パリノ・サーヴェイ株式会社2002〕、城田遺跡〔パリノ・サーヴェイ株式会社2001〕、新保遺跡〔松葉2001〕などをはじめ多く確認されており、本遺跡の結果はこれらと調和的である。また、板材の木取りはほとんどが板目であり、強度を必要とする使用法を採っていた可能性が想定される。

柱根にもスギが見出された。県内における奈良・平安時代や中世の遺跡での柱根の樹種同定は比較的行われており、その結果多くの遺跡でクリが多用されている〔例えば、川村1983、パリノ・サーヴェイ株式会社1997・2002、松葉2001、古環境研究所2002〕。その他、トネリコ属やヤマグワが多用されている例もあり〔パリノ・サーヴェイ株式会社2001〕、したがって重硬な部類の材質でかつ大径の得やすい樹種が選択されているといえる。スギは上記の報告でも少ないながら見出されているものの、県内の諸遺跡で多用されているクリ・トネリコ属・ヤマグワといった樹種に比べれば軽軟である。今回の点数は1点でありどの程度全体の柱材の樹種構成を反映したものが明らかではないが、建物の使用法や利用者等の違い、遺跡の性格や周辺植生による違いを反映している可能性もある。

製品では曲物側板にスギが用いられていた。割裂性が良く薄板を挽くのに適し、また従曲性がある材特性から選択されたのであろう。木取りも薄板を挽くのに適する柾目取りである。このように曲物の用材としてスギが用いられるのは、新潟県内の他の遺跡でも類例がある〔例えば、パリノ・サーヴェイ株式会社1994・2002〕。しかしながら、一方で新保遺跡〔松葉2001〕や八反田遺跡〔松葉2002〕ではヒノキが多く、また城田遺跡〔パリノ・サーヴェイ株式会社2001〕やー之口遺跡東地区〔パリノ・サーヴェイ株式会社2002〕においても一部にヒノキが認められる。ヒノキは中部以北の日本海側には分布しない樹種で、現在の新潟県においても天然分布は認められない。八反田遺跡では櫛に関東南部以西に分布が限られるイスノキが〔松葉2002〕、蔵ノ坪遺跡では合子に新潟県内にはほとんど分布しないツゲが〔パリノ・サーヴェイ株式会社2002〕それぞれみだされていることを考慮すると、この時代には木材あるいは製品そのものが流通していたと考えられ、ヒノキも他地域から木材や製品として搬入されたと考えられる。本遺跡では搬入と考えられる樹種は見出されておらず、近辺の花粉分析結果〔金原1998・1999・2000〕からも身近なスギの材が用いられたと推察されるが、これが時代的な差異によるものなのか、遺跡の性格によるものなのか今後検討を有するであろう。

杭にはヤナギ属が見出されたが、杭材は全国的に特定の樹種が用いられているということではなく多種多様な樹種が用いられる。また護岸杭材な

樹種/部材	井戸側部材	板材	角材	曲物側板	円形曲物側板	円形曲物櫛	円形板	杭
スギ	15	8	3	1	1	1	1	
カツラ属	2							
コナラ属								
ヤナギ属								1
計	17	8	3	1	1	1	1	1

第40表 器種別の樹種構成



どではヤナギ属などの湿生の樹種が検出されることが多く、それゆえ近辺に生育していたも樹木から無操作性的に木材を得ていたと想定されるが、今回検出されたヤナギ属の材もそのような範疇で捉えるのが妥当であると推測される。

全体の樹種構成でみると、スギをはじめヤナギ属・カツラ属・コナラ属といった河畔や溪畔に生育し得る樹種が検出されていることは、本遺跡の立地環境に対応した植生を良く反映しているものであるかもしれない。

(株式会社 パレオ・ラボ 三村 昌史)

#### 引用文献

- 川村恵洋 1983 「曽根遺跡出土木材の識別」『新潟大学農学部演習林報告』16 75-82
- 金原正子 1998 「細池遺跡西地区における花粉分析」『細池遺跡発掘調査報告書』新潟市教育委員会 39-45
- 金原正子 1999 「中谷内遺跡における花粉分析」『中谷内遺跡発掘調査報告書』新潟市教育委員会 62-71
- 金原正子 2000 「川根遺跡における花粉分析」『川根遺跡発掘調査報告書』新潟市教育委員会 35-48
- 古環境研究所 2002 「鴨侍遺跡出土木材の樹種同定」『荒川町埋蔵文化財発掘調査報告書第8集 鴨侍遺跡』新潟県 荒川町教育委員会39-40
- バリノ・サーヴェイ株式会社 1994 「一之口遺跡東地区から出土した木質遺物及び種実遺体の同定」『新潟県埋蔵文化財調査報告書第60集 一之口遺跡東地区(本文編)』新潟県教育委員会・新潟県埋蔵文化財調査事業団147-167
- バリノ・サーヴェイ株式会社 1997 「岩田遺跡第2次調査における自然科学分析調査報告」『越路町文化財報告書 第21 岩田遺跡 第2次発掘調査報告書』越路町教育委員会 18-25
- バリノ・サーヴェイ株式会社 2001 「城田遺跡の自然科学分析」『神林村埋蔵文化財報告第10集 城田遺跡(本文編)』新潟県岩船郡神林村教育委員会 山武考古学研究所 57-71
- バリノ・サーヴェイ株式会社 2002 「蔵ノ坪遺跡から出土した木材の樹種」『新潟県埋蔵文化財調査報告書第115集 蔵ノ坪遺跡』新潟県教育委員会・新潟県埋蔵文化財調査事業団 45-59
- 松業礼子 2001 「新保遺跡出土木製品の樹種同定」『新潟県埋蔵文化財調査報告書第103集 新保遺跡』新潟県教育委員会・新潟県埋蔵文化財調査事業団78-82
- 松業礼子 2002 「木製品の樹種同定」『新潟県埋蔵文化財調査報告書第110集 八反田遺跡・高畑遺跡(C地点・二期線)』新潟県教育委員会・新潟県埋蔵文化財調査事業団78-82
- 高橋敦・橋本貞紀夫 1995 「造構建築材料の同定」『飯田町遺跡』飯田町遺跡調査会 467-480

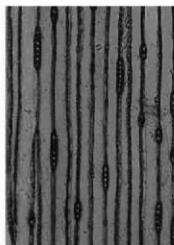
a:横断面 b:放射断面 c:接線断面



1a.スギ(599) bar:1.0mm



1b.同 bar:0.1mm



1c.同 bar:0.4mm

第17図 木製品切片の光学顕微鏡写真(1)

a:横断面 b:放射断面 c:接線断面



2a.ヤナギ属 (613) bar:1.0mm



1b.同 bar:0.2mm



2c.同 bar:0.4mm



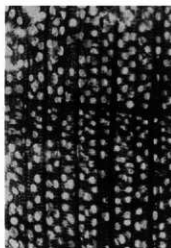
3a.コナラ属 (609) bar:1.0mm



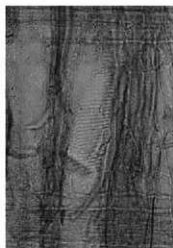
3b.同 bar:0.4mm



3c.同 bar:1.0mm



4a.カツラ属 (607) bar:1.0mm



4b.同 bar:0.2mm



4c.同 bar:0.4mm

第18図 木製品切片の光学顕微鏡写真(2)

## 第七章 まとめ

### 1 土器編年

#### A 上層(中世)

土師器皿・小皿について記述する。上層で、ある程度まとまって土師器皿・小皿を出土した遺構として、8上SD1、8上SE23・24、8上SK1がある(第19図)。

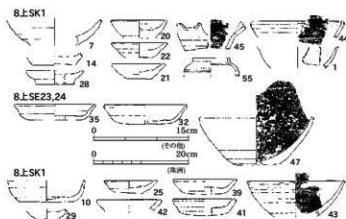
8上SD1からは土師器皿・小皿A1類、土師器小皿A3類が出土しており、8上SE23・24からは、土師器皿B1類が出土している。また8上SK1からは、土師器皿A2類、土師器小皿B2類が出土している。既存の編年【品田1991・1997・1999】に対応させれば、土師器皿・小皿A類が主体を占めB類が確認できない。8上SD1出土土器が8上SE23・24、8上SK1出土土器に先行するものと思われる。

8上SE23・24出土土器と8上SK1出土土器の前後関係は同一系譜上の器種がなく比較が難しいが8上SE23・24出土土器が先行する可能性が高いと考えている。このことは燕市長所遺跡出土の土師器皿を介して考えると理解しやすい。長所遺跡からは第20図上段の土師器皿・小皿が出土しており、共存した珠洲すり鉢は、Ⅱ期(13世紀前半)に限定できる。土師器皿・小皿には手づくね成形のものど口縁成形のものがあり、手づくね成形の土師器皿(6・7)は薄手で口縁端部に面を持つ。体部にヨコナデによる稜はみられないが、この点を除けば8上SE23・24出土のもの(32・35)に類似する。一方口縁成形の皿(5)は、SK1出土のもの(7)よりは体部の立ち上がりが急だが、8上SK1出土のもの(10)と比較すると底径は小さく体部の立ち上がりはゆるい。従って長所遺跡出土土師器は8上SE23・24出土土師器と近接した時期と考えられ、8上SK1出土土師器はこれに後続する

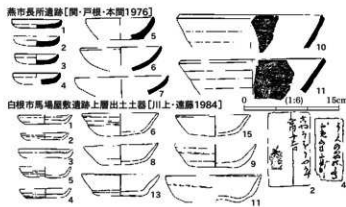
可能性が高い。

これらのことから、沖ノ羽遺跡出土土師器は以下のように変遷したと考えた。

1期:皿・小皿A1類、小皿A3類などにより構成される時期。当期に手づくね成形の皿・小皿が存在した可能性は高いが、実態は不明である。存在してもその数は少なかった



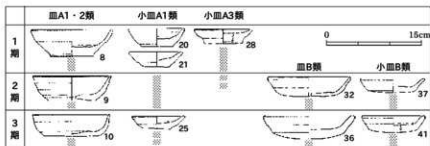
第19図 上層遺構出土の主な遺物



第20図 関連遺物

ものと考えられる。  
8上SD1出土土器  
などが当期の資料で  
ある。

2期：皿B1類が  
定量存在するよう  
になる時期。長所遺跡  
の状況を参考にする



第21図 沖ノ羽遺跡C地区出土土器器皿の変遷案

ならば、A2類のうち底径がやや小さい皿(9)、B1類の小皿(37など)も在した可能性が高い。8上SE23・24出土土器などが当期の資料と考えられる。

3期：皿・小皿B2類が確認できるようになる時期。土器器皿A2類は引き続き確認できるが、2期に比べ底径が大きく、体部の立ち上がりも急である。小皿A1も確認できるが1期に比べ浅く底径が大きい。土器器皿B類の形態は、良好な共存関係を持つ資料がなく不明であるが、2期のB1類(32・35)に後続する資料としてB2類(36)が考えられる。8上SK1出土土器などが当期の資料と考えられる。

土器の暦年代は以下のように考える。長所遺跡出土の珠洲すり鉢はⅡ期にほぼ限定でき、これと近接した時期と考えられる。従って2期は13世紀前半、これに先行する1期は12世紀後半、後続する3期は13世紀後半を中心とする時期を考えたい。

なお13世紀末頃の木簡を伴った白根市馬場屋敷下層出土の土器器皿には、A類(ロクロ成形)は確認できず、B類も36に比べ深身で口縁部のナデ幅が広い(第20回下段)。これらの要素はいずれも新しい要素と考えられ、このことから3期の暦年代は支持される。

## B 下 層 (古代)

7下SK134・8下SK43・8下SK36・8下SE205・8下SD41・8下SK31・8下SE27・8下SK14・8下SK100から、まとまった土器群が検出されている。以下ではこれらの資料を用い沖ノ羽遺跡C地区出土土器の変遷について記述する。時期区分は〔春日1999〕を用いる。

### V 期

須恵器B群(小拍産)が流入しはじめる時期。底部回転系切りの土器器・黒色土器無台碗も、当期には組成として定着する。須恵器B群の型式変化は充分検討できていないが、須恵器A群の形態と須恵器B群、土器器無台碗の多少により2期に細分する。

V1期：食膳具の大半を須恵器A群が占めるがB群も少量確認できる。7下SK134・8下SK43が当期の資料と考えられる。食膳具に占めるA群とB群の比率は、口縁部残存率計測法で、7下SK134がA群79.8%、B群13.5%、8下SK43はA群44.3%、B群12.2%である。

須恵器A群(新津産)の杯蓋はⅠ・Ⅱがある。有台杯はⅠ・Ⅱが確認できる。有台杯Ⅲは杯蓋Ⅱが確認できることから、本来存在するものと思われるが良好な資料がない。無台杯はⅠのみ確認でき、器高2.7cm前後の浅いもの(89)、器高3cm前後のやや深身のもの(94)、器高3.3cm以上の深身のもの(65)がある。

須恵器B群は無台杯Ⅰ(69)・有台杯Ⅱ(64)のほか、幅広で外端接地の高台を持つ有台杯Ⅰ(87)、

擬宝珠型の摘みを持つ杯蓋(62)などが確認できる。

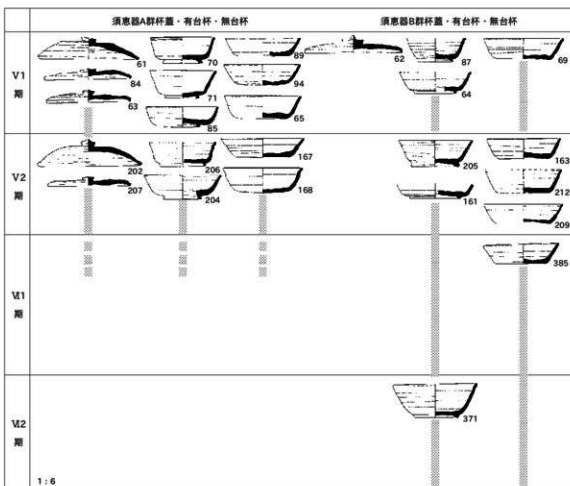
土師器食膳具は本来存在したと思われるが、良好な共伴例が無く詳細は不明である。煮炊具は口縁端部に面を持つもの(78・98・101・102)が主体を占め、少量ではあるが西古志型長釜(74)も確認できる。貯蔵具は球胴壺(100)・中甕(99)が確認できる。

V2期：須恵器B群，土師器食膳具が増加する時期8下SK36，8下SE205が当期の資料と考える。食膳具の構成比率は8下SK36が須恵器A群35.8%、同B群36.7%、土師器・黒色土器27.5%、8下SE205が須恵器A群6.1%、同B群58.7%、土師器・黒色土器4.8%である。

須恵器A群(新津産)の杯蓋はI・IIが確認できる。V1期のもものと比較し、大きな変化は見られない。有台杯はV1期と同様I・IIが確認でき、V1期と比較し体部が外傾するもの(204)がある。有台杯IIIは、杯蓋IIが確認できることから、本来存在するものと思われるが、良好な資料がない。無台杯はIのみ確認でき、器高2.7cm前後の浅いものは確認できない。器高3cm前後のやや深身のもの(167)はV1期のものに比べ体部が外傾する。器高3.3cm以上の深身のもの(168)は底部が丸底気味となる。

須恵器B群の無台杯I(163・212)はV1期のもものと比較し大きな変化は見られない。他に幅広の高台を持つ有台杯II(205)、底部外面から体部下端付近にロクロケズリを行う有台杯III(161)がある。

土師器無台碗には浅身で底径が大きいもの(170・215)、やや深身で底径が大きいもの(217・642)が確認できる。煮炊具はV1期と同様に口縁端部に面を持つもの(218・221・223・224・227)が主体



第22図 下層土器の変遷(1)

を占める。貯蔵具は須恵器C群（阿賀北産）の長頸瓶A（171）が確認できる。

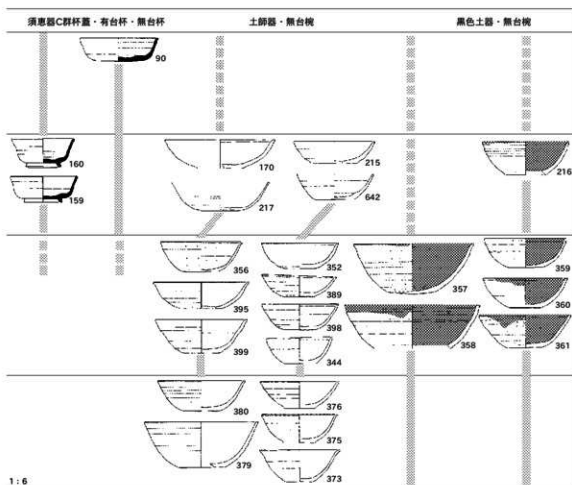
## VI 期

須恵器A群（新津産）減少し、土師器・黒色土器が食膳具の主体を占める時期。須恵器B群（小泊産）も存在するが、量的にはそれほど多くない。須恵器B群、土師器無台椀の形態から2期に細分する。

VI 1期：食膳具の大半を土師器が占めるがB群も少量確認できる。8下SK14・8下SE27が当期の資料と考えられ、8下SD21も古い遺物を定量含むが、当期が主体を占めるものと思われる。食膳具の構成は、口縁部残存率計測法で、8下SK14が須恵器B群13.0%、土師器82.0%、黒色土器1.0%であり、8下SE27は須恵器B群1.2%、土師器75.2%、黒色土器23.6%である。

須恵器B群は無台杯I（385）が確認できる。V 2期と比較し底径が小さく体部の外傾度が大きい。土師器無台椀は身が浅く底径が小さいもの（352・389・395）、やや深身で底径が小さいもの（398）、深身で底径が大きいもの（344・356）、深身で底径が小さいもの（399）などがある。煮炊具は口縁部を積み上げるもの（271・363・364）、口縁部付近が厚手となるもの（278・279）が主体を占める。貯蔵具は横瓶（404）・長頸瓶A（400・401）、同B（403）が確認できる。

VI 2期：食膳具の大半を土師器が占めるがB群も少量確認できる点はVI 1期と同じである。8下SK100が当期の資料と考えられる。食膳具の構成は、口縁部残存率計測法で、須恵器B群25.2%、土師



第23図 下層土器の変遷(2)

器63.9%、黒色土器5.7%である。

須恵器B群は有台杯Ⅲ(371)が確認できる。幅広だが低い高台を持ち、体部の外傾度は大きい、土師器無台碗は深身で底径が小さいもの(373・375・376)が主体を占め、深身で底径が大きいもの(379・380)も確認できる。煮炊具は口縁端部を揃み上げるもの(381・382)が主体を占める。貯蔵具の様相は不明である。

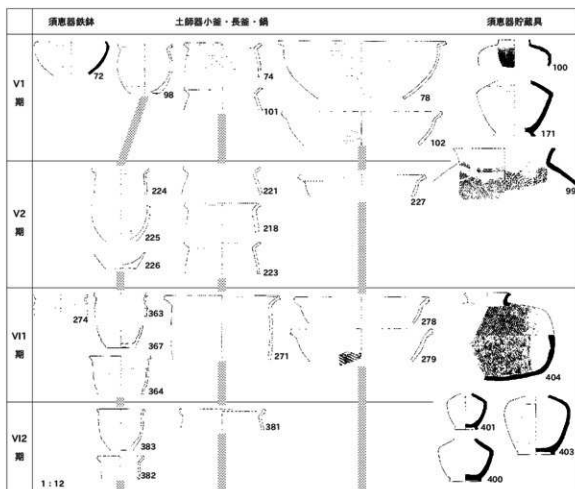
## 2 古代の土器類の観察結果

観察表に示した項目で、なんらかの傾向が読み取れる点について簡単に触れる。

### A 回 転 方 向

#### 水挽き成形の器種

第40表は水挽き成形を行う土器について、ロクロ回転方向を集計したものである。対象とした器種は杯蓋・有台杯・無台杯・高杯・盤・無台碗・無台皿・有台皿等の食膳具と中・小型の壺・瓶類、土師器小釜である。須恵器は胎土(産地)別に集計したが、土師器・黒色土器は胎土の分類ができなかったため一括した。ただし、本道跡で土出土した土師器・黒色土器の大半は新津丘陵かその周辺で生産されたもので、



第24図 下層土器の変遷(3)

他地域から供給されたものは少ないと推測している。須恵器A・C群はV期を中心とする。資料、土師器・黒色土器・椀・皿類はVI期を中心とする資料、須恵器B群・土師器小釜はV～VI期の資料で同列には扱えないが、ある程度の傾向は示せるものと考えている。

ロクロ回転方向の判断は北野博司らの研究成果を参考にした。検討水挽き痕、底部切り離し痕、ロクロケズリ痕等を観察している。水挽き痕は①見込みの螺旋状の水挽き痕・②器面の砂粒の動きや有色粒子の擦痕、切り離し痕は①回転ヘラ切り・回転糸切りの痕跡、ロクロケズリ痕は①砂粒の動きなどをそれぞれ観察し回転方向を判定した<sup>(註2)</sup>。ただし3者とも確認できる例は多くなく、1つの痕跡で回転方向を判断した個体も少なくない。第41表には、水挽きと底部切り離し・ロクロケズリで回転方向が異なった場合は、水挽き痕の回転方向、底部切り離しとロクロケズリで回転方向が異なった場合は、底部切り離しの回転方向で集計した。ただしそうした事例は数例程度で非常に少ない。

須恵器A・C群、土師器・黒色土器椀皿類・土師器小釜は、右回転のものが90%前後を占める。これに対し須恵器B群は左回転が75%前後を占める<sup>(註3)</sup>。

#### 叩き成形の器種

回転方法の判断は主に当て具の切り合い関係から判断した。製品を回転代の上に乗せ、少しずつ回転しながら叩き成形を行ったという前提に立ち<sup>(註4)</sup>当て具痕が右から左へ移動している場合が右回転、逆に左から右に移動している場合は左回転と判断した。叩き成形を行う器種には、須恵器横瓶・甕・土師器長釜・鍋などがあるが、土師器長釜・鍋については当て具痕が明瞭に残っているものが少なく、検討できていない。

第42表は須恵器横瓶・甕の回転方向を胎土(産地)別にまとめた。水挽き成形のものと同様にA・C群はV期を中心とする資料、B群はV～VI期の資料であり、同列に扱えない。また資料数も少ないため、不確定な要素を残すが、A群は右回転2例で50%、左回転2例で50%、B群は右回転2例で40%、左回転3例で60%である。水挽き成形のものに比べ特定の回転方向に偏るといって傾向は弱い。

#### 小 結

以上のように水挽き成形のものと叩き成形のものでは、同一の産地と推定されるものであって、ロクロ回転の左右の比率は一致しない可能性が高い。

水挽き成形による須恵器のロクロ回転方向が右回転主体であることは、6世紀後半以降の須恵器窯跡(群)では一般的で、左回転が全く確認できない事例も多くある。北野博司らはこのような様相が生じた背景に、多様な要素の存在を想定しつつも、水挽き成形の技術の伝習方法が最も大きな影響を与えたとする。また、叩き成形の回転方向については利き手との関連を指摘している[北野2001]。水挽き成形がロクロで行われたとすれば、利き手は関連しないが、利き足とは関連する可能性がある。

また叩き成形の場合も、同じ利き手であっても回転台を手前に引くか、奥に回すかで回転方向は異なる。水挽き成形、叩き成形とも利き手(足)と技術の伝習方法の2つに関係し、特に後者が大きな影響を与えていた可能性が高い<sup>(註5)</sup>。このように考えるならば、水挽き成形に比べ叩き成形は、よりルーズな伝習

種類/回転方向	右	左	計
須恵器A部(新津)	128 (90.8%)	13 (9.2%)	141
須恵器B部(小泊)	48 (23.6%)	155 (76.4%)	203
須恵器C部(豊神)	6 (20.0%)	24 (80.0%)	30
土師器・黒色土器	117 (89.3%)	14 (10.6%)	131

第41表 水挽き成形器種のロクロ回転方向

種類/回転方向	右	左	計
須恵器A部(新津)	2 (50%)	2 (50%)	4
須恵器B部(小泊)	2 (40%)	3 (60%)	6

第42表 叩き成形の回転方向



方向が行われたか、指導的な立場にある工人集団が多様性を持っていたかのどちらかと考える。叩き成形の須恵器が水挽き成形に比べ大形により高い技術が必要としたとすれば、後者の可能性が高いだろう。

## B 降 灰 (黒化)

### 須 恵 器

杯蓋と有台杯の重ね焼きについて主に検討する。第43表は杯蓋の降灰状況から推定される重ね焼きの方法を胎土(産地)

種類/重ね焼き	I類	IIa類	IIb類	III類	計
須恵器A群(新津)	72 (66.1%)	16 (14.7%)	17 (15.6%)	4 (3.7%)	109
須恵器B群(小泊)	4 (12.1%)	6 (18.1%)	23 (69.7%)	0	33
須恵器C群(笹神)	17 (100%)	0	0	0	17

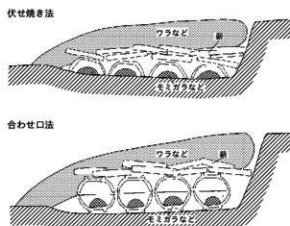
第43表 杯蓋の重ね焼き

別にまとめたものである。A群(新津産)・C群(笹神産)はⅤ期を中心とする資料、B群(小泊産)はⅤ～Ⅳ期の資料であり同列にあつかえないが、A・C群ではⅠ類が大半を占めるのに対し、B群はⅡA類が主体を占め、Ⅰ類はほとんど確認できない傾向は指摘できるであろう。

Ⅰ類と比較しⅡa・b類が量産に適した焼成方法である一方で、垂直に製品を重ねるために倒壊などにより失敗品を生み出しやすいという欠点もある。北陸(加賀・越中)ではⅣ期にはⅡA類の重ね焼きが大半を占めるようになる[北野1988、木立1988、宇野ほか1989]。また杯蓋を伴わないと考えられる有台杯Ⅰの重ね焼きも、須恵器A群はB群に比べⅢ類は少なく、杯蓋の上に単体で置き焼成を行うものが定量確認できる。小泊窯跡群や北陸の他の窯跡群に比べ、新津丘陵窯跡群や阿賀北地域の諸窯はそれほど量産化を意識しない生産体制が維持されたものと思われる。

### 黒 色 土 器

黒色土器無台碗の大半が底部外面か底部外面付近に棒状黒斑を持ち口縁部外面に黒色処理がはみ出ている(註6)。こうした特徴は「伏せ置き法」(第25図上段)によって黒色土器生産が行われた結果と考えられる[久世ほか1996]。沖ノ羽遺跡で出土する黒色土器の大半はⅥ期のもと考えられ、大半が新津丘陵かその周辺で生産されたものと推測できるが、同時期の加賀では「合わせ口法」(第25図下段)と呼ばれる焼成方法も存在した。伏せ置き法よりも合わせ口

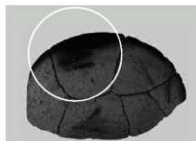


第25図 黒色土器の焼成方法

法は量産に適した方法であるが、内面酸化の不良品を生じやすい欠点も指摘されている[久世ほか1996]。須恵器有台杯・杯蓋の重ね焼きと同様に量産をそれほど意識しない黒色土器の生産が、新津丘陵(周辺)で



第26図 底部外面の棒状黒斑



第27図 口縁部外面の黒化

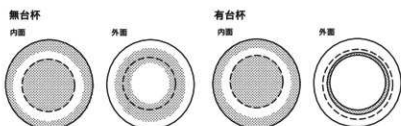
行われた可能性が考えられる。

## 小 結

以上のように新津丘陵（周辺）では加賀や越中と比較し量産を強く意識しない品質重視の土器生産体制が後の時期（V～VI期）まで維持された可能性が高い。このような生産体制が維持された背景については多様な要因が考えられ、充分検討できていないが、その一因として土器の使用法と関連する可能性が考えられる。吉岡康暢は古代末～中世の土器組成や土器量を比較し、東北地方と畿内周辺差を、「西日本の複合的消耗品示向、東日本の単一的耐久品示向といった物質文化に対する価値観の差異が伏在したとする解釈が生まれる余地があらう。」と評価した〔吉岡1991〕。このような傾向が古代にも存在した可能性が考えられ、越後は東日本と、加賀は西日本に近似した様相であった可能性が高く、土器に対する価値観の違いが土器生産に影響を与えている可能性もあらう。

## C 須恵器食膳具の使用痕跡

**無台杯** ①口縁部内面、  
②体部下半から底部外縁付近、③見込みが磨耗するものが多数確認できた。  
①と②は重ねて収納した時の対応する磨耗痕と考えられる（第28図）。③は収納時以外に生じた痕跡の可能性が高く、食事時やその後の洗浄時に生じた可能性も考えられる。



第28図 磨耗部位（アミが磨耗部位）

**杯蓋・有台杯** 有台杯は①口縁部内面、②体部



第29図 杯類の収納方法

下半、③見込みに磨耗がみられ、また④高台には磨耗・欠けがみられる。①・②から無台杯と同様の収納方法が推測できる。また③も無台杯と同様に食事時や洗浄時に生じた可能性が高く、④は食事時・収納時両方で生じるものと思われる。

杯蓋は、①内面、②摘み先端部に磨耗が確認できた。また③口縁端部には磨耗・カケが確認できるものもある。①～③から直接重ねる収納方法が推測でき、有台杯とは別にまとめて収納されていた可能性が高い。なお②は範囲が広く、磨耗も強いものが認められることから、全てが収納時に生じたとは考えにくく、倒位にして食器として使用した場合もあったと考えられる。

## 3 西川流域の古代土器様相との比較

新津丘陵周辺と西川流域は、ともに律令制下の蒲原郡に属したが、古墳時代前期にはそれぞれ異なった政治勢力が存在し、新津丘陵周辺は長岡市東部の東山丘陵周辺と、西川・矢川周辺は島崎川流域の地域と

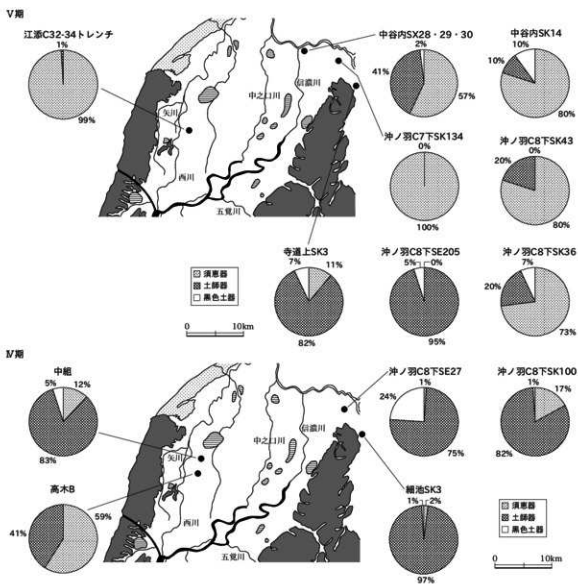
それぞれ関連が強いことを第Ⅱ章2-Bで指摘した。西川流域の土器様相についてはかつて触れたことがあり〔春日2000・2001〕、これと一部重複するが、以下では、新津丘陵周辺と西川・矢川周辺では土器様相が異なることを示し(註7)、古墳時代以来の伝統的な政治的関係が9世紀前半～末の土器様相にも影響を与えていた可能性を示したい。

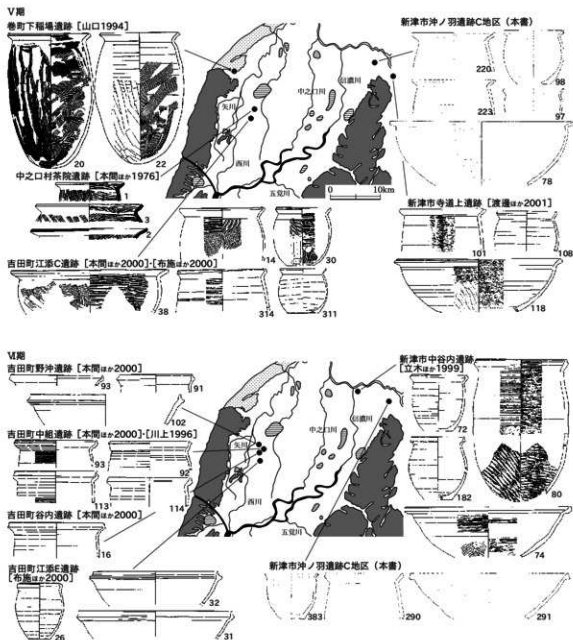
## A 食 膳 具

食膳具の須恵器・土師器・黒色土器の構成比率について検討し、必要に応じ須恵器の産地にも触れる。土器の計測法は特に断らない限り口縁部残存率計測法による。

西川流域の吉田町江添C遺跡32・34トレンチ(V2期)では食膳具の90%以上を須恵器が占め、75%前後はB群である〔春日2000〕。

一方、新津丘陵周辺の中谷内遺跡SK14(V2期)は土師器が10%、SX28・29・30(V2期)は土師器が41%を占める〔立木1999〕。沖ノ羽遺跡7下SK134・8下SK43(ともにV1期)は、80～90%前





第31図 各遺跡出土の煮炊具

後を須恵器が占め、須恵器の80%前後はA群である。8下SK43・8下SK36(ともにV2期)では、土師器が30%前後確認でき、さらに新津丘陵に近い寺道上遺跡SK3(V2期)では土師器が90%以上を占める。V1期の様相は不明だが、V2期の西川流域は、新津丘陵周辺に比べ土師器が少く須恵器B群が多い傾向がみられる。

こうした様相はVI1期までは続くと思われる。西川流域の吉田町高木B遺跡(VI1期)は須恵器が59%、土師器が41%であり、須恵器の大半はB群である【春日2000】。一方新津丘陵周辺の沖ノ羽遺跡8下SE27(VI1期)は須恵器1%、土師器73%、黒色土器24%。細池遺跡SK3(VI1期)は須恵器2%、土師器97%、黒色土器1%であり【立木1998】、西川流域に比べ新津丘陵周辺は土師器の比率が高い。

こうした状況はVI2期には解消される可能性が高く、中組遺跡(VI2期)【川上1996・本間ほか2000・春日2000】、沖ノ羽遺跡SK100ではともに土師器が80%強を占める。

## B 煮 炊 具

煮炊具の口縁部形態・調整について検討する。Ⅴ期の煮炊具をみると、西川流域の巻町下稲場遺跡20〔山口1994〕、中之口村茶院遺跡1～3〔本間ほか1976〕、吉田町江添C遺跡14・30・38〔本間ほか2000、布施ほか2000〕など、口縁部端部に面を持ち体部にハケメ成形を行ういわゆる「西古志型釜」が多く見られ、ロクロナデ・カキメ・叩きなど須恵器の成形技法を用いる小釜・長釜・鍋は確認できないわけではないが比較的少ない。一方、新津丘陵周辺では、ロクロナデ・カキメを多用する煮炊具が主体を占め「西古志型釜」は確認できないわけではないが（沖ノ羽遺跡C地区74など）、存在しても僅かである（第31図上段）。

Ⅵ期には、西川流域でもロクロカキメなどの須恵器技法を用いる煮炊具が一般的になるが、吉田町の沖遺跡91・93・102〔本間ほか2000〕、同町中組遺跡93・113〔川上1996、本間ほか2000〕、同町谷内遺跡20〔本間ほか2000〕、同町江添E遺跡26・31・32〔本間ほか2000、布施ほか2000〕など口縁部が上方に長く屈曲するものが多く確認できる。一方新津丘陵周辺ではこのような例は少ない。

以上のように西川流域と新津丘陵周辺はⅤ・Ⅵ期の食膳具・煮炊具に差が見られた。このことが、古墳時代以来の伝統的な政治的關係によるかは、①政治的な関係がどのような経緯で土器様相に反映されるのか、②古墳時代前期～8世紀の間も土器様相に差が見られるのか<sup>〔註8〕</sup>、などの問題を明らかにしなければならぬ。今後の課題としたい。

### 註

- 1) 8上SD 1、8上SE23・24、8上SK 1ともⅠ～Ⅱ期にかけての珠洲すり鉢が出土している。
- 2) このほか北野博司らは、①口縁部で水挽き痕が放ける方向、②変形に伴う小ジワや縮れジワの傾斜、③体部のロクロ目の傾斜などを水挽きのロクロ回転方向を判断する観察項目として挙げている〔北野ほか2002〕
- 3) 須恵器B群（小泊産）のロクロ回転方向に関しては、渡邊〔2001〕、川村〔2002〕、春日〔2003〕を参照していたきたい。
- 4) 作り手が回転しながら叩き成形を行う可能性も考えられるが、特大の甕以外は回転台に載せるほうが合理的と考える。
- 5) 叩き成形の須恵器の回転方向が利き手と関連すると考えるならば、経験的に知る左利きの人の比率に比べ、左回転の須恵器の比率が高すぎるように思える。
- 6) 黒色土器の大半のものが、口縁部外面にヘラミガキを行う。このことは、黒化が口縁部外面まで及ぶことを想定していたとも考えられる。
- 7) 西川流域と新津丘陵を結ぶ信濃川河口周辺や亀田砂丘周辺の様相については資料数が定量存在するにもかかわらず力量不足から検討できなかった。信濃川河口周辺は西川流域に近い土器様相、亀田砂丘周辺は須恵器に近い土器様相と考えている。別の機会に検討したい。
- 8) 古墳時代前期（後半）は小型精製器種の形態、8世紀は須恵器技法を用いた煮炊具の普及度合いなどが異なる可能性が高いと考えているが資料数が少ない。資料の増加を待つて検討したい。

## 要 約

- 1 沖ノ羽遺跡C地区は、新津市大字七日町字沖ノ羽3255ほかに位置する。
- 2 遺跡は新潟平野の野東に位置する新津丘陵に近く、東は阿賀野川、西は能代川に囲まれた微高地上に位置し、標高は約4.5mである。
- 3 磐越自動車道建設に伴い、平成2年4～6月に一次調査を行い、平成3・4年4月～12月にかけて二次調査を行った。
- 4 調査の結果、中世（12世紀後半～14世紀）と古代（9世紀）の遺構・遺物が層的に検出された。中世は掘立柱建物12基・井戸6基・土坑39基・溝36基、古代は掘立柱建物4基・井戸11基・土坑79基・溝67基を検出した。
- 5 中世の土器・陶磁器60点、古代の土器・陶磁器510点、土製品16点、石製品17点、木器35点、金属器11点を図示し、土器・陶磁器はライフヒストリー論的な観察を試みた。
- 6 中世の土師器は、既存の編年案を参考にしながら変遷案を示した。
- 7 古代の土師器・須恵器は、既存の編年案を参考にしながら変遷案を示した。また、西川流域の土器様相との差異を指摘し、背景に古墳時代以来の伝統的な政治関係が存在する可能性を指摘した。

## 引用・参考文献

- 甘粕 健・小野昭<sup>1)</sup> 1984 『山谷古墳』巻町教育委員会
- 甘粕 健・荒木勇次<sup>2)</sup> 1989 『保内三王山古墳』三条市教育委員会
- 甘粕 健<sup>3)</sup> 1989 『新潟県岩室村観音山古墳測量調査報告』『新潟大学人文科学研究』76、『新潟大学人文学部』
- 甘粕 健・川村浩司<sup>4)</sup> 1992 『古津八幡山古墳Ⅰ』新津市教育委員会
- 甘粕 健・小野昭<sup>5)</sup> 1993 『越後山谷古墳』巻町教育委員会
- 甘粕 健 1994 『葛藤塚古墳・牟人塚古墳』『巻町史 資料編Ⅰ 考古』巻町
- 荒川隆史・加藤 学 1999 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第93集 和泉人遺跡』新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 石川智紀<sup>6)</sup> 1994 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第58集 沖ノ羽遺跡Ⅰ（A地区）』新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 伊藤秀和 2000 『新潟 馬越遺跡』『木簡研究』第22号 木簡学会
- 伊藤秀和 2001a 『加茂市下条中沢遺跡発掘調査速報』『加茂郷土史』加茂郷土調査研究会
- 伊藤秀和 2001b 『鬼倉遺跡』新潟県加茂市教育委員会
- 稲場塚古墳測量調査団 1993 『新潟県弥生村稲場塚古墳測量調査報告』『磐越地域における古墳文化形成の研究』磐越地域における古墳文化出現過程の研究会（代表 甘粕健）
- 上田秀夫 1982 『14～16世紀の青磁碗の分類について』『貿易陶磁研究』第2号 貿易陶磁研究会
- 宇野隆夫 1982 『井戸考』『史林』第65巻第5号
- 宇野隆夫 1992 『食器計量の意義と方法』『国立歴史民俗博物館研究報告』第40集 国立歴史民俗博物館
- 宇野隆夫<sup>7)</sup> 1989 『富山大学考古学研究報告第3集 越中上末室』富山大学考古学研究室
- 大橋康二 1989 『肥前陶磁』ニュー・サイエンス社
- 小野昭<sup>8)</sup> 1991 『長岡市麻生田古墳群測量調査報告』『長岡市史研究』2』長岡市史編さん室
- 温古談話会 1893, 1977復刊 『温古の架』(下) 歴史図書社

- 春日真実 1999 『第4章古代 第2節土器編年と地域性』『新潟県の考古学』高志書院
- 春日真実 2000 『考古編 第5章 まとめ』『吉田町史資料編1 考古・古代・中世』吉田町
- 春日真実 2003 『消費遺跡出土佐渡小泊産須恵器のロクロ回転方向―越後出土の資料を中心に―』『研究紀要』第4号 財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 春日真実<sup>1)</sup> 1996 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第76集 江内遺跡』新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 春日真実・小池義人<sup>2)</sup> 2002 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第116集 奈良崎遺跡』新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 加藤学<sup>3)</sup> 2001 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第106集 松影A遺跡』新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 加藤学・尾崎高宏 2002 『阿賀野川河口採集の遺物―採集地点をめぐる二、三の問題―』『新潟考古』第13号 新潟県考古学会
- 川上貞雄 1981 『山崎須志窯跡 緊急発掘調査報告書』五泉市教育委員会
- 川上貞雄・木村宗文・鈴木郁夫 1989 『新津市史 資料編第1巻 原始・古代・中世』新津市
- 川上貞雄 1992 『川口甲遺跡発掘調査報告書』新津市教育委員会
- 川上貞雄 1994 『八幡山遺跡Ⅰ 遺構編』新津市教育委員会
- 川上貞雄・遠藤孝司 1994 『馬場屋敷遺跡等発掘調査報告書』白根市教育委員会
- 川上貞雄 1995 『舟戸遺跡発掘報告書』新津市教育委員会
- 川上貞雄 1996 『金津丘陵製鉄遺跡群 居村B・D地区』新津市教育委員会
- 川上貞雄 1996 『吉田町文化財調査報告書 第4集 中組遺跡』吉田町教育委員会
- 川上貞雄 1997 『上涌A遺跡 新津市工業団地第2期工事地内発掘調査報告書』新津市教育委員会
- 川畑 誠 1999 『須恵器貯蔵具の消費痕跡試論』『須恵器貯蔵具を考えるⅠ つぼとかめ 北陸古代土器研究』第8号 北陸古代土器研究会
- 川畑 誠 2001 『須恵器貯蔵具の製作痕跡試論』『須恵器貯蔵具を考えるⅡ つぼとかめのつくり方 北陸古代土器研究』第9号 北陸古代土器研究会
- 川村浩司 1992 『山頂側に存在する墳丘外広域平坦面』『古津八幡山古墳』新潟大学考古学研究室・新津市教育委員会
- 川村浩司 2000 『信濃川右岸の古墳群』『季刊 考古学』第71号 雄山閣出版
- 川村 尚 2002 『佐渡郡羽茂町小泊窯跡』『新潟県考古学会 第14大会研究発表要旨』新潟県考古学会
- 木立雅朗 1988 『竹生野遺跡出土須恵器について』『竹生野遺跡』石川県立埋蔵文化財センター
- 北野博司<sup>4)</sup> 1988 『辰口西部遺跡群Ⅰ』石川県立埋蔵文化財センター
- 北野博司<sup>5)</sup> 2002 『須恵器成形におけるロクロ回転』『日本考古学協会第68回総会研究発表要旨』日本考古学協会
- 木村宗文 1986 『越後国延喜式内社の所在をめぐる』『政治社会史論叢書』山田秀雄先生退官記念会編 近藤出版社
- 木村宗文 1989 『城館跡』『新津市史』資料編第1巻 新津市
- 車崎正彦 1993 『龜籠鏡考』『翔古論叢』久保哲三先生追悼論文集
- 久世建二・北野博司・小島俊彰・小林正史<sup>6)</sup> 1996 『内面黒色土器の焼成方法』『日本考古学協会第62回総会研究発表要旨』日本考古学協会
- 久保田正寿 1997 『土師器の焼成方法―二つの覆い焼き』『古代の土師器生産と焼成遺構』窯跡研究会
- 小池義人<sup>7)</sup> 1994 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第59集 細池遺跡 寺道上遺跡』新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 駒見和夫 1997 『下小島谷古墳群』『和島村史』通史編 和島村
- 坂井秀弥<sup>8)</sup> 1984 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第35集 今池遺跡・下新町遺跡・子安遺跡』新潟県教育委員会
- 坂井秀弥 1988 『越後・佐渡における古代土器の生産と―8～10世紀を中心として―』『シンポジウム北陸の古代

- 坂井秀弥 1989 「第Ⅶ章まとめ 2 奈良・平安時代の土器」『新新バイパス関係開発掘調査報告書 山三賀Ⅱ遺跡』新潟県教育委員会・建設省北陸地方建設局新潟国道工事事務所
- 坂井秀弥・田中 靖 1991 「新潟県八幡林遺跡と出土土器」『日本歴史』1991年第10号 吉川弘文館
- 坂井秀弥・鶴岡正昭・春日真実 1991 「佐渡の須恵器」『新潟考古』第2号 新潟県考古学会
- 坂井秀弥 1996 「水辺の古代官衛遺跡—越後平の内水面・舟運・漁業」『越と古代の北陸』名著出版
- 坂井秀弥 1999 「第Ⅳ章古代 第1節 総論」『新潟県の考古学』新潟県考古学会
- 品田高志 1991 「越後の中世土器」『新潟考古学談話会』第8号 新潟考古学談話会
- 品田高志 1997 「越後における土器の変遷と諸相」『中近世の北陸—考古学が語る社会史』北陸中世土器研究会
- 品田高志 1999 「第5章3—1 中世土器」『新潟県の考古学』新潟県考古学会
- 菅井良咲 1998 「姥ヶ入南遺跡」『新潟県埋蔵文化財調査事業団年報』平成9年度 財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 鈴木郁夫 1989 「自然」『新津市史』資料編第1巻 新津市
- 鈴木俊成 1994 「第Ⅵ章まとめ 1 平安時代の土器」『新潟県埋蔵文化財調査報告書第60集 一之口遺跡東地区 (本文編)』新潟県教育委員会・財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 関 雅之・戸根与八郎・本間信明 1976 「燕市長所遺跡発掘調査報告」『新潟県埋蔵文化財調査報告書第6集 長所遺跡・蛇山遺跡・地蔵塚』新潟県教育委員会
- 田嶋明人 1988 「古代土器編年軸の設定」『シンポジウム北陸の古代土器研究の現状と課題』報告編 石川考古学研究会・北陸古代土器研究会
- 田中 靖 1996 「和島村埋蔵文化財調査報告書第5集 門新遺跡 外羽田地区」と和島村教育委員会
- 田村 裕 1993 「第三章 荘・保と武士の世」『新津市史 通史編・上巻』新津市史編さん委員会
- 立木宏明<sup>ほか</sup> 1998 『細池遺跡発掘調査報告書』新津市教育委員会
- 立木宏明<sup>ほか</sup> 1999 『中谷内遺跡発掘調査報告書』新津市教育委員会
- 立木宏明<sup>ほか</sup> 2000 『川根遺跡発掘調査報告書』新津市教育委員会
- 立木宏明・高野裕子<sup>ほか</sup> 2002 『内野遺跡発掘調査報告書』新津市教育委員会
- 寺村光晴 1991 「大久保古墳群」『寺泊町史』資料編1 原始・古代・中世 寺泊町
- 中村成夫・倉田芳郎 1956 「新津田屋七本松須恵器窯址発掘調査報告書」『越後研究』第11集 新潟県人文研究会
- 永田聡・神田草<sup>ほか</sup> 1973 土地分類基本調査「新潟」新潟県農地部農地計画課
- 新潟古砂丘グループ 1974 「新潟砂丘と人類遺跡—新潟砂丘の形成史—」『第四紀研究』13—2 日本第四紀学会
- 新潟市史編さん原始古代中世史部会 1994 『新潟市史』資料編1 原始 古代 中世 新潟市
- 新津市教育委員会 1993 『草水町2丁目遺跡現地説明会資料』
- 広井 造 1996 「新潟平野南部における古墳時代開始期の考察」『考古学と遺跡の保護』甘粕健先生退官記念論集 刊行会
- 広井 造・小熊博史 1999 「信濃川の歴史的意義」『長岡市立科学博物館研究報告』第34号長岡市立科学博物館
- 布施智也<sup>ほか</sup> 2000 『吉田町文化財調査報告書 第5集 江添C遺跡』吉田町教育委員会・山武考古学研究所
- 布施智也<sup>ほか</sup> 2000 『吉田町文化財調査報告書 第7集 江添E遺跡』吉田町教育委員会・山武考古学研究所
- 星野信明<sup>ほか</sup> 1996 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第80集 神ノ羽遺跡Ⅱ (B地区)』新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 本間敬則<sup>ほか</sup> 2000 「第3章 吉田町の遺跡」『吉田町史 資料編1 考古・古代・中世』吉田町
- 本間信明・家田順一郎 1976 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第5集 茶院書跡』新潟県教育委員会
- 森下章司 2002 「板文鏡について」『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第116集 奈良崎遺跡』新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 森田 勉 1982 「14—16世紀の白磁の分類と編年」『貿易陶磁研究』第2号
- 山崎 天 1999a 『橋田B遺跡』五泉市教育委員会
- 山崎 天 1999b 『小天山遺跡』五泉市教育委員会



- 山口栄一 1994 『下稻場遺跡』『巻町史 資料編1 考古』巻町
- 横田賢次朗・森田勉 1978 「大宰府出土の輸入中国陶磁器について」『九州歴史資料館研究論集』4
- 横山勝栄・竹田和夫ほか 1987 『新潟県中世城館等分布調査報告書』新潟県教育委員会
- 吉岡康暢 1989 『日本海の土器・陶磁（中世論）』六興出版
- 吉岡康暢 1991 「中世的食器組成の成立と時期区分覚え書—90年シンポに寄せて—」『中近世土器の基礎研究』中世土器研究会
- 吉岡康暢 1994 『中世須恵器の研究』吉川弘文館
- 吉田恵二 1982 『緒立八幡神社遺跡』黒崎町教育委員会
- 吉田東吾 1902 『大日本地名辞書』富山房
- 米沢 康 1980 「大宝二年の越中国四部分割をめぐって」『信濃』32-6 信濃史学会
- 渡邊明和 1991 『長沼遺跡発掘調査報告書』新津市教育委員会
- 渡邊明和 1992 『上涌遺跡発掘調査報告書』新津市教育委員会
- 渡邊明和 1994a 『八幡山遺跡発掘調査報告書—平成5年度範囲確認調査—』新津市教育委員会
- 渡邊明和 1994b 『平成5年度 新津市内遺跡確認調査報告書』新津市教育委員会
- 渡邊明和 1995 「新津市八幡遺跡：高地性環濠集落と方形周溝墓」『新潟県考古学会第7回 大会研究発表会発表要旨』
- 渡邊明和ほか 1997 『金津丘陵製鉄遺跡群発掘調査報告書Ⅱ 居村遺跡E・A・C地点 大入遺跡A地点』新津市教育委員会
- 渡邊明和ほか 1998 『金津丘陵製鉄遺跡群発掘調査報告書Ⅲ（分折・考察編）』新津市教育委員会
- 渡邊明和ほか 2001 『寺道上遺跡発掘調査報告書』新津市教育委員会
- 渡邊明和 2001 『まとめ』『寺道上遺跡発掘調査報告書』新津市教育委員会
- 和田寿久 1997 「姥ヶ入製鉄遺跡・姥ヶ入南遺跡」『新潟県埋蔵文化財調査事業団年報』平成9年度 財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団

遺構観察表

上層土坑・井戸・溝観察表

遺構名	グリッド	平面図	断面図	奥面記号	写真	平面形	断面形	長 (cm)	幅 (cm)	深 (cm)	前後関係	出土遺物	備考
8上SK72	70C21 69C25	2	3	abc	47	円	弧状	195	180	55	-	-	
8上SK70	69C20・25	2	3	d	47	楕円	弧状	185	135	14	8上SK71を切る。	-	
8上SK71	69C24・25	2	3	de	47	不整	弧状	310	90	10	8上SK70・P318に切られる。	-	
8上P318	69C24・25	2	3	fg	47	楕円	弧状	90	60	20	-	-	
8上P428	70D16・21	2	3	h	47	円	箱状	80	70	22	-	-	
8上P422	69D19・20	2	3	ij	47	楕円	弧状	95	70	23	-	-	
8上SK82	69D20 70D16	2	3	kl	-	円	弧状	120	110	52	-	-	
8上SK81	69D19	2	3	m	-	楕円	弧状	120	95	44	8上SK80に切られる。	-	
8上SK80	69D19	2	3	n	-	楕円	階段状	135	90	42	8上SK81を切る。	-	
8上SK36	69C23 69D3	2	3	o	47	楕円	弧状	145	115	54	SB7に切られる。	580	
8上SK2	69C12・13	2	3	pqr	-	長楕円	箱状	305	75	14	8上SK38・SD34を切る。	-	
8上SK66	69D18・ 19・23	2	3	st	-	円	弧状	130	115	25	8上SK1との前後関係は不明。	12・637	
8上SK30	69C16・21	2	3	uv	48	長楕円	台形状	300	85	22	-	-	
8上SK58	68D25 69D21	2	3	w	46	円	弧状	120	100	25	-	-	
8上SD21	68D9・10・ 14	2	3	x	-	-	弧状	-	35	8	8上SK12・16・SD29を切る。	-	
8上SK12	68D4・5・ 9・10	2	3	x	-	方形	弧状	180	160	20	8上SD21に切られる。8上SK16との前後関係は不明。	-	
8上SK9	68D3	2	3	y	-	円	弧状	120	(110)	15	8上SD10との前後関係は不明。	-	
8上SK8	68D3・8	2	3	z	-	楕円	弧状	120	60	15	-	-	
8上SK16	68D10	2	3	A	-	-	弧状	110	100	20	8上SD21との前後関係は不明。	-	
8上SK3	68D19・20	2	3	BC D	48	長楕円	台形状	370	115	45	-	-	
8上SE48	69D7・8・ 12・13	2	4	E	45	円	階段状	190	175	142	-	27	
8上SE60	69D17	2	4	FG	46	円	台形状	140	130	55	8上SK1に切られる。	16・636	
8上SE59	69D21	2	4	H	46	円	U字状	80	75	105	8上SD65・SK1との前後関係は不明。	-	
8上SE5	68D20 69D16	2	4	I	46	楕円	階段状	110	95	85	-	-	
8上SE23	68D15 69D11	2	4	J	46	楕円	台形状	290	210	110	99SE24を切る。8上SD29との前後関係は不明。	32・34・35・47・ 51・577・583	
8上SE24	68D10・15 69D6・11	2	4	K	46	円	弧状	275	(165)	105	99SE23に切られる。	32・34・35・47・ 51・583・577	
8上SK67	69D22・23 69E2	2	4	L	-	楕円	箱状	280	(140)	35	8上SK1を切る。	-	
8上SK1	69D16・ 17・21・23	2	4	L	46 49	方形	台形状	-	60	30	8上SK67に切られる。8上SD64・65・SE60を切る。8上SD62・SK66・63・SE59との前後関係は不明。	10・39・41・42・ 43・49・635	堅穴遺構か
8上SD1	69・70C	2	4	M	51	-	階段状	-	270	45	8上SD34との前後関係は不明。	1・7・13・14・ 20・21・22・28・ 44・45・53・55	
8上SD34	69CD	2	4	NO	50	-	弧状	-	85	25	8上SK2・SO35・SB7に切られる。8上SD39・42・44を切る。	37・40	
8上SD62	69D12・17	2	4	P	-	-	弧状	-	20	10	8上SD61を切る。8上SK1との前後関係は不明。	-	
8上SD64	69D16・17	2	4	Q	-	-	弧状	-	60	15	8上SK1に切られる。8上SD65を切る。	31	
8上SD10	68D3・8・ 13・14	2	4	RS	-	-	弧状	-	190	14	8上SK9との前後関係は不明。	-	
8上SK14	68D6・10	2	4	T	-	-	台形	90	85	55	8上SD29との前後関係は不明。	-	
8上SD49	69D13・14	2	4	U	-	-	弧状	-	40	25	-	11・50	
8上SD46	69D3・4・ 7・8	2	4	V	-	-	弧状	-	35	24	8上SD44・SK45との前後関係は不明。	-	
8上SK504	68D21・22	2	4	W	-	楕円	台形	150	80	32	8上SD501・502を切る。	-	
8上SK665	67D20	2	4	X	-	円	弧状	100	95	32	8上SD507を切る。	-	
8上SD63	69D11・ 12・16・17	2	-	-	-	-	弧状	-	20	15	8上SK1・61との前後関係は不明。	-	

遺構名	グリッド	平面 図	断面 図	断面 記号	写真	平面形	断面形	長 (cm)	幅 (cm)	深 (cm)	前後関係	出土遺物	備考
8上SD73	70C	2	-	-	-	-	弧状	-	25	10	-	-	-
8上SK85	70D3・4	2	-	-	-	円	弧状	160	160	31	8上SD84との前後関係は不明。	-	-
8上SD29	69C21 68D5・16	2	-	-	-	-	弧状	-	50	25	8上SE24・SD22・44、SK14・15との前後関係は不明。	4	-
8上SD31	69C11・12 16・17・21	2	-	-	-	-	弧状	-	30	10	8上SD32との前後関係は不明。	-	-
8上SD32	69C16・21	2	-	-	-	-	弧状	-	50	10	8上SD31との前後関係は不明。	-	-
8上SD33	69C25 69D1	2	-	-	-	-	弧状	-	50	10	8上SD44との前後関係は不明。	-	-
8上SD35	69C21・22	2	-	-	-	-	弧状	-	20	8	8上SD34を切る。	-	-
8上SD39	69C12・13	2	-	-	-	-	弧状	-	25	8	8上SD34に切られる。	-	-
8上SD42	69D1・2・6	2	-	-	-	-	弧状	-	65	18	8上SK41、SD34、SB2に切られる。8上SD44を切る。	-	-
8上SD44	68・69C 68・69D	2	-	-	-	-	弧状	-	140	-	8上SD34・42・SK40・SB3に切られる。8上SD29・33・46との前後関係は不明。	-	-
8上SD47	69D6・11	2	-	-	-	-	弧状	-	40	10	8上SE23との前後関係は不明。	488	-
8上SD500	68D21・22 68E2・3・4	2	-	-	-	-	弧状	-	50	15	-	-	-
8上SD501	67D20 68D11・21	2	-	-	-	-	弧状	-	70	10	8上SD502・SK504に切られる。	-	-
8上SD502	67D20 68D21	2	-	-	-	-	弧状	-	30	20	8上SD501を切る。8上SK504に切られる。	-	-
8上SD503	68D16・17 22	2	-	-	-	-	弧状	-	30	5	-	-	-
8上SD52	69D4・8・9	2	-	-	-	-	弧状	-	35	5	-	-	-
8上SD65	68D16・21	2	-	-	-	-	弧状	-	70	10	8上SK1・SD64に切られる。8上SE59との前後関係は不明。	-	-
8上SK15	68D6・10	2	-	-	-	円	弧状	80	75	32	8上SD29との前後関係は不明。	-	-
8上SK37	69C18	2	-	-	-	楕円	階段状	145	105	15	-	-	-
8上SK38	69C12～14	2	-	-	-	長楕円	弧状	340	80	15	8上SK2に切られる。	576	-
8上SK40	69D1	2	-	-	-	楕円	弧状	125	90	24	8上SD44を切る。	-	-
8上SK41	69D1・2・6 7	2	-	-	-	円	弧状	120	100	25	8上SD42を切る。SB2に切られる。	-	-
8上SK65	69D13・14 18・19	2	-	-	-	楕円	-	145	65	15	-	-	-
8上SK69	70C16	2	-	-	-	楕円	弧状	100	60	8	-	-	-
8上SK77	70D6	2	-	-	-	楕円	弧状	125	65	10	-	-	-
8上SK74	70C21 70D1	2	-	-	-	楕円	弧状	170	130	31	-	-	-
8上SD61	69D11～13 18	2	-	-	-	直線	弧状	-	50	10	8上SD62に切られる。8上SD63との前後関係は不明。	-	-
8上SD84	70C24 70D3・4	2	-	-	-	直線	弧状	-	50	10	8上SK85との前後関係は不明。	-	-
8上SK7	68D2・3	2	-	-	-	楕円	弧状	125	45	10	-	-	-
8上SK56	68D3・4	2	-	-	-	楕円	-	105	80	30	-	-	-
8上SK506	68D11.16	2	-	-	-	-	弧状	-	40	15	8上SD501に切られる。	-	-
8上SK507	67D15・20 68D11・2	2	-	-	-	-	弧状	-	30	15	8上SK505に切られる。	-	-
7上SD10	62・63C	5・6	7	ab	51	-	弧状	-	95	15	-	-	-
7上SD8		5・6	7	cp	51	-	弧状	-	80	20	7上SD3・5・9・SK1～5に切られる。7上SD6を切る。7上SD4・7との前後関係は不明。	-	-
7上SD3	63CD 63CDE・ 64E・65E	5・6	-	-	-	-	弧状	-	175	20	7上SD4・6・8・SK11を切る。	23	-
7上SD2	62CB・7・8	6	7	d	51	-	弧状	-	50	10	7上SD11との前後関係は不明。	-	-
7上SD1	62C1・2・7 ～10	6	7	e	-	-	弧状	-	40	10	7上SD12との前後関係は不明。	57	-

遺構観察表

遺構名	グリッド	平面図	断面図	断面記号	写真	平面形	断面形	長 (cm)	幅 (cm)	深 (cm)	前後関係	出土遺物	備考
7上SD6	62・63D 62E	6	7	f	-	-	弧状	-	70	10	7上SD3・8に切られる。	-	
7上SK2	63E15	6	7	g	50	円	弧状	115	110	20	7上SD8を切る。	-	
7上SK1	63E5・10 64E1・6	6	7	hi	49	円	弧状	140	130	50	7上SD8を切る。	25・29	
7上SK5	63E3・4・8 ・9	6	7	jk	50	円	弧状	140	140	20	7上SD8を切る。	15	
7上SK3	63E2	6	7	lm	50	楕円	弧状	215	110	10	7上SD8を切る。	629～630	
7上SK4	63E1	6	7	no	49	楕円	弧状	210	70	20	7上SD8を切る。	30	
7上SE11	63D4・25 63E4・5	6	7	qr	-	円	階段状	190	200	110	7上SD3・9に切られる。	36・632	
7上SD4	62CDE	6	-	-	-	直線	弧状	-	270	10	7上SD3に切られる。7上SD8・11との前後関係は不明。	-	
7上SD7	63E5・10・ 15	6	-	-	-	弧状	弧状	-	50	15	7上SD8との前後関係は不明。	8	
7上SD9	63E3～5・8	6	-	-	-	蛇行	弧状	-	25	5	7上SD8・SE11を切る。7上SD5との前後関係は不明。	-	
7上SD5	63E3・7・8 ・11・12・ 16	6	-	-	-	直線	弧状	-	60	5	7上SD8を切る。7上SD9との前後関係は不明。	-	8下SD101と一緒
7上SD11	62D 63D6	6	-	-	51	-	-	-	350	25	7上SD1・2・4・10との前後関係は不明	-	

下層土坑・井戸・溝観察表

遺構名	グリッド	平面図	断面図	断面記号	写真	平面形	断面形	長 (cm)	幅 (cm)	深 (cm)	前後関係	出土遺物	備考
8下SK46	71D6	8	9	a	-	楕円	台形状	125	60	19	8下SD110を切る。	299～304	
8下SK47a	71D1・6	8	9	b	-	楕円	台形状	140	105	21	8下SD109を切る。	-	
8下SK45	70D8～10	8	9	cd	-	楕円	台形状	405	270	20	8下SD44との前後関係は不明。	421～423・555	
8下SK47b	70D6・7・ 11・12	8	9	-	-	楕円	-	280	110	15	8下SD42・45・47を切る。	109～111	
8下SD44	70D1～3・7 ・8	8	9	e	59	-	弧状	-	145	20	8下SK45,SD115・116との前後関係は不明。	285～291・554	
8下SD109	69・70・71C 71D	8	9	f	-	-	弧状	-	50	13	8下SK47a・134に切られる。	481	
8下SD46	69D4・5 70D1・6・7 ・12～14・ 19	8	9	g	-	-	弧状	-	40	21	8下SK47b・SK51・SD116に切られる。8下SD150・129・130との前後関係は不明。	244・299～304・453	
8下SD42	70D6・11・ 12・17・18	8	9	hot	-	-	弧状	-	35	22	8下SK43を切る。	79～83・98・134・494	8下SD101、 134と一緒
8下SK39	70D1・2・6 ・7	8	9	i	-	楕円	弧状	130	70	18	-	157・424～427・552	
8下SK51	70D1・6	8	9	j	-	楕円	台形状	160	120	25	8下45・46を切る。	308～311・500	
8下SK113	69C19・24	8	9	k	-	円	弧状	140	120	40	8下SD115・116・117を切る。	533	
8下SK144	69C20	8	9	l	-	円	台形状	70	60	35	-	-	
8下SD115	69C13・14 ・18～20・ 25 70C21	8	9	mpa	59	-	弧状	-	60	25	8下SD44との前後関係は不明。8下SK100・113に切られる。	-	
8下SD116	69C13・18 ・20・25 70C21	8	9	ma	59	-	弧状	-	60	20	8下SD44との前後関係は不明。8下SK100・113に切られる。	-	
8下SK100	69C12・13 ・17・18	8	9	nm	-	楕円	弧状	320	255	30	8下SD114・115・116・117を切る。	371～383	
8下SD47	69D・9・10 ・15 70D11・12 ・17・18	8	9	o	-	-	弧状	-	75	16	8下SK43を切る。8下SD50との前後関係は不明。	84・103～107・369・488	
8下SK43	69D3～5・9 ・10 70D6	8	9	ot	56	長楕円	弧状	1260	60	35	8下SD42・47に切られる。	80・84～102・245・452・470	
8下SD114	69C11・12 ・17～19・ 23・24	8	9	q	59	-	弧状	-	60	20	8下SK100に切られる。8下SD201との前後関係は不明。	433～436	
8下SD117	69C18・19 ・24・25 70C21 70D1	8	9	s	59	-	弧状	-	60	30	8下SK100・113に切られる。	99	

遺構名	グリッド	平面 図	断面 図	断面 記号	写真	平面形	断面形	長 (cm)	幅 (cm)	深 (cm)	前後関係	出土遺物	備考
8 FSD118	68C20 69C16・21 ・22	8	9	uv	-	-	弧状	-	-	-	8 FSD45・102・129・130を切る。	458・459・576	
8 FSD45	69D4・5・10 70D6・12・13 18・19	8	9	uv	-	-	弧状	-	70	30	8 FSK47b・51・SD118に切られる。8 FSD50との前後関係は不明	108・417~420	
8 FSK26	69D19・20	8	9	w	-	楕円	弧状	300	195	5	8 FSD40 (21・54) を切る。	126・158・202~227・243・246・275・368	
8 FSD131	69D19・24 ・25	8	9	w	-	-	弧状	-	60	15	8 FSD40 (21・54) に切られる。8 FSK31との前後関係は不明	-	
8 FSD40	69D18~20 ・24・25	8	9	w	-	-	弧状	-	160	27	8 FSK36・76に切られる。8 FSK57・SD131を切る。	123~158・213・237・241・267	
8 FSD21	69D2・3・7 ・8・11・12 ・14	8	9	xy	59	-	弧状	-	145	20	8 FSK32・SK57を切る。8 FSK12・76に切られる。	199・241~279	FFSD21・ 図と一致
8 FSK57	69D12・17	8	9	y	-	楕円	弧状	(115)	(75)	30	8 FSD21 (40・54) に切られる。	-	
8 FSK76	69D12	8	9	y	-	楕円	弧状	(145)	(95)	32	8 FSD21 (40・54) を切る。	-	
8 FSD24	69D1~3・6 ・7・11	8	9	z	-	-	台形	-	90	35	8 FSK12に切られる。	253・267	8 FSD34 と一致
8 FSK32	69D12	8	9	A	-	円	台形	80	75	45	8 FSD21 (40・54) に切られる。	545・549・561	
8 FSK31	69D17・18	8	9	B	-	楕円	弧状	(340)	120	39	8 FSD40・131との前後関係は不明	125・172~192・242・271・414	
8 FSK30	69D22	8	9	C	-	長楕円	弧状	395	115	20	8 FSK23・32・SD29に切られる。	245・441~445	
8 FSK23	69D16・17 ・21・22	8	9	D	-	円	弧状	120	100	29	8 FSK30を切る。	-	
8 FSK12	69D11・12 ・16	8	9	E	-	円	弧状	230	225	22	8 FSD24 (38)・21 (40・54) を切る。	-	
8 FSD105	68D13	8	9	F	-	-	弧状	-	-	-	-	305~307	
8 FSK134	70C20・25	8	-	-	-	円	-	150	135	45	8 FSD109を切る。	-	
8 FSD29	69D17・22 ・23	8	-	-	-	-	-	-	60	29	8 FSK30を切る。8 FSK31との前後関係は不明	414~416	
8 FSD49	70D16・21	8	-	-	-	-	弧状	-	60	23	8 FSD28・54との前後関係は不明	490	
8 FSD201	69C16・21 ・22	8	-	-	-	-	弧状	-	40	15	8 FSD102・114・138・119・126・128・129・130との前後関係は不明	-	
8 FSD128	69C16・21 ・22	8	-	-	-	-	弧状	-	55	16	8 FSD114・129・130・201との前後関係は不明	302	
8 FSD119	69C21・22	8	-	-	59	-	弧状	-	30	10	8 FSD126・201・SK198との前後関係は不明	-	
8 FSD126	69C21・22	8	-	-	-	-	弧状	-	25	15	8 FSD119・201との前後関係は不明	-	
8 FSD50	69D10 70D6	8	-	-	-	-	弧状	-	60	20	8 FSD28・42・45・46・47・48・SK43との前後関係は不明	-	
8 FSD129	68C20 69C16・17 ・22・23	8	-	-	59	-	弧状	-	55	19	8 FSD118に切られる。8 FSD201との前後関係は不明	-	
8 FSD130	68C15 69C11・16 ・18・23	8	-	-	-	-	弧状	-	35	21	8 FSD118に切られる。8 FSD201との前後関係は不明	470・493	
8 FSD111	69C7~9・13 ~15 20 70C16	8	-	-	-	-	弧状	-	60	10	-	-	
8 FSD132	69C15・20 70C16・21 ~22	8	-	-	-	-	弧状	-	65	20	-	-	
8 FSD38	69D3・8・9 ・14・15 70D11・16 ・17・23	8	-	-	-	-	弧状	-	90	13	8 FSD49・50との前後関係は不明	108・157・314~325・576	8 FSD34 と一致
8 FSD54	69D15・20 70D16・17 ・22	8	-	-	-	-	弧状	-	55	23	8 FSD49との前後関係は不明	456・457・549	FFSD21・ 図と一致
8 FSE50	69D20 70D16	8	-	-	円	弧状	110	100	90	-	-	484	
8 FSK58	68C17	8	-	-	円	弧状	100	90	-	-	-	405~408	
8 FSK106	68C20 69C16	10	11	a	-	楕円	台形状	190	100	26	8 FSD102を切る。	-	
8 FSD102	68C13~15 ・19・20	10	11	b	59	-	弧状	-	150	19	8 FSK106・SD118に切られる。8 FSD201との前後関係は不明	-	
8 FSD180	68C7~10 ・14・15	10	11	c	-	-	台形	-	150	26	-	448・449	

遺構観察表

遺構名	グリッド	平面 図	断面 図	断面 記号	写真	平面形	断面形	長 (cm)	幅 (cm)	深 (cm)	前後関係	出土遺物	備考
8 F SK11	69D16	10	11	d	-	楕円	弧状	175	90	17	-	-	
8 F SK17	68D20・24 ・25 69D21	10	11	e	56	-	階段状	450	210	40	8 F SD203・SK6との前後関係は不明。	228～240・544	
8 F SK13	68D5	10	11	f	56	楕円	弧状	115	65	22	-	-	
8 F SE27	68D9・10・ 14・15	10	11	h	55	円	扇斗状	235	215	80	8 F SE26との前後関係は不明。	344～370	
8 F SK8	68D4・9	10	11	i	56	-	階段状	240	140	30	-	-	
8 F SE26	68D13・14	10	11	j	55	円	扇斗状	245	230	77	8 F SK14を切る。8 F SE27との前後関係は不明。	171	
8 F SK209	68E2・3	10	11	k	-	楕円	箱状	75	50	55	-	-	
8 F SK55	68D3	10	11	l	-	-	弧状	180	120	18	8 F SE18を切る。	-	
8 F SE45	68D12・13 ・17	10	11	m	-	円	弧状	180	150	88	-	-	
8 F SE201	68D22 68E2	10	11	n	54	円	台形状	190	180	41	8 F SD202に切られる	294～298	
8 F SD202	68D22・23 68E3・4	10	11	n	-	-	弧状	-	30	15	8 F SE201を切る。8 F SD203・204との前後関係は不明。	-	
8 F SK208	68D18・23	10	11	o	56	楕円	弧状	255 (145)	51	-	-	-	
8 F SK14	68D6・7・8 ・12・13	10	11	pqr	56	楕円	台形状	600	280	19	8 F SK15・SE26を切る。	384～404・545	
8 F SK15	68D7	10	11	qr	-	楕円	台形状	195	145	45	8 F SK14に切られる。	-	
7 F SK79	67D16・17	10	11	s	56	円	弧状	100	95	36	-	437～440	
7 F SK78	67D16	10	11	t	-	楕円?	弧状	215	140	61	-	-	
8 F SD25	68D20 69D16・21	10	-	-	-	-	弧状	-	20	15	8 F SK17との前後関係は不明。	-	
8 F SK207	68D16・17 ・21・22	10	-	-	-	-	-	-	135	95	8 F SE205・206に切られる	-	
8 F SD203	68D23・24 68E3	10	-	-	-	-	-	-	10	4	8 F SD202との前後関係は不明。	-	
8 F SD204	68E2・3	10	-	-	-	-	-	-	30	9	8 F SD202との前後関係は不明。	-	
8 F SK2	68D18	10	-	-	-	楕円	-	220	100	17	-	-	
8 F SK37	68D1・2	10	-	-	-	楕円	-	(115)	(95)	(20)	引河道に切られる。	-	
8 F P8	68D19	10	-	-	-	楕円	-	130	85	19	-	-	
8 F P24	68D10	10	-	-	-	楕円	-	105	80	20	-	-	
8 F SD16	68D19・20 ・24	10	-	-	-	-	-	-	35	13	8 F SD203との前後関係は不明。	-	
8 F SK6	68D20	10	-	-	-	円	-	115	100	16	8 F SK17との前後関係は不明。	-	
8 F SD101	68C17・19	10	-	-	-	-	-	-	45	20	-	449	
8 F SD218	68C18・19 ・23・24	10	-	-	-	-	-	-	45	5	-	-	
8 F SK198	68C25	10	-	-	-	楕円	-	125	60	20	8 F SD119との前後関係は不明。	-	
8 F SD219	68C23～25	10	-	-	-	-	-	-	45	17	-	521	
8 F SD181	68C9・10	10	-	-	-	-	-	-	20	13	-	-	
8 F SE205	68D17・22	10・20	20	a	54	円	台形状	265	210	140	8 F SK207を切る	159～171・609～621・640～644	
8 F SE206	68D21	10・20	20	b	54	円	台形状	220	155	128	8 F SK207を切る	544・595～608	
8 F SE18	68D3	10・20	20	c	54	円	台形状	110	110	98	8 F SK55に切られる。	622～627	
7 F SD74	66D15・20 67D11・16 ・21	12	13	a	-	-	弧状	-	125	27	引河道に切られる。	515	
7 F SK55	66D20・25	12	13	b	-	楕円	弧状	175	100	-	7 F SK54を切る。	646	
7 F SK67	66D25	12	13	c	57	楕円	弧状	95	55	24	-	292・293	
7 F SK53	66D19	12	13	d	-	楕円	台形状	115	80	26	7 F SK54を切る。	476	
7 F SK54	66D19・20 ・24・25	12	13	e	57	-	台形状	275	275	9	7 F SK53・55に切られる。	-	
7 F SK52	66D23・24	12	13	f	57	楕円	弧状	180	120	33	-	312・313・486	

遺構名	グリッド	平面 面	断面 面	奥面 記号	写真	平面形	断面形	長 (cm)	幅 (cm)	深 (cm)	前後関係	出土遺物	備考
7FSK51	66D23	12	13	g	57	円	孤立	110	95	10	-	312・313	
7FSK62	66D12・17	12	13	h	57	不整	孤立	145	120	18	-	-	
7FSK61	66D11・12	12	13	i	-	不整	孤立	250	85	13	-	-	
7FSK63	66D17	12	13	j	-	円	孤立	160	140	20	-	280・462・463	
7FSD21	66D16・17 ・22・23 66E3・4	12	13	kl	60	-	階段状	-	65	19	7FSK20を切る。7FSK69との前後関係は不明。	280～284	
7FSK69	66E4・9	12	13	m	-	楕円	階段状	120	85	34	7FSK20・SD21との前後関係は不明。	-	
7FSK20	66E3・4・8 ・9	12	13	no	-	楕円	孤立	170	85	11	7FSK71を切る。7FSD21に切られる。7FSK69との前後関係は不明。	492	
7FSK71	66E3	12	13	p	-	楕円	孤立	60	25	12	7SK19・20に切られる。	-	
7FSK19	66E3	12	13	r	-	楕円	孤立	100	80	27	-	-	
7FP60	66E3	12	13	s	-	円	孤立	80	85	-	7FSK73を切る。7FP35に切られる。7FSD75との前後関係は不明。	446・447	
7FP35	66E3	12	13	s	-	円	孤立	80	75	18	7FP60・SD75を切る。	-	
7FSK76	66D22 66E2	12	13	t	-	楕円	孤立	135	75	17	7FSD75を切る。	-	
7FSD75	66D22 66E2・3	12	13	u	-	-	孤立	-	60	15	7FP35・SK76に切られる。7FP60との前後関係は不明。	-	
7FSK18	66E7・8・ 12・13	12	13	vw	-	-	孤立	195	190	15	-	195	
7FSK80	65D4・5・9 ・10・15	12	13	x	57	楕円	階段状	560	400	32	針河道に切られる。7FSD138との前後関係は不明。	340～343・473	
7FSK15	65E10・15	12	13	y	-	楕円	台形状	110	75	23	-	-	
7FSK14	65E15	12	13	z	-	円	台形状	115	100	44	-	-	
7FSK13	65E20 66E16	12	13	A	-	-	台形状	110	80	37	-	-	
7FSK5	62D18・20 65E11・16 ・17	12	13	B	-	楕円	台形状	195	160	38	-	75・119～122	
7FSK7	64E20	12	13	C	-	円	台形状	140	120	26	-	-	
7FSK104	64E3・4	12	13	D	58	楕円	孤立	220	100	10	-	198～201	
7FSK9	64E14・15 ・19・30	12	13	E	58	-	孤立	120	120	20	-	-	
7FSK2	64E18・19 ・29・34	12	13	F	-	楕円	孤立	345	130	12	-	464・465	
7FSK8	64E17・18	12	13	G	58	楕円	孤立	155	115	44	-	195・491・540・ 645	
7FSK109	65D19	12	13	H	-	楕円	孤立	(40)	(40)	35	-	116～118・481	
7FSK82	67D17・18 ・23	12	-	-	-	楕円	孤立	-	35	18	7FSK81との前後関係は不明。	530	
7FSD66	67D23 67E2・3	12	-	-	-	-	孤立	-	45	21	7FSD63を切る。7FSK81に切られる。	-	
7FSD83	67D17・22	12	-	-	-	-	孤立	-	60	22	7FSD66に切られる。	-	
7FSK81	67D17	12	-	-	-	楕円?	孤立	215	60	35	7FSD66を切る。7FSK82との前後関係は不明。	-	
7FSD66	66D13	12	-	-	-	-	孤立	-	35	29	針河道に切られる。	-	
7FSK64	66D16・21	12	-	-	-	長楕円	孤立	180	55	40	-	-	
7FSK73	66E2・3	12	-	-	-	楕円	孤立	70	40	9	7FP60に切られる。	-	
7FSD17	66E1・2・7 ・8・9	12	-	-	60	-	孤立	-	40	15	-	-	
7FSD16	66E1・2・7 ・8	12	-	-	60	-	孤立	-	40	19	-	-	
7FSD138	65D9・34・ 15・20	12	-	-	-	-	孤立	550	80	-	7FSK80との前後関係は不明。	-	
7FSD141	65D24・25	12	-	-	-	-	孤立	420	30	-	7FSD103に切られる。	-	
7FSD139	65D10・7・8 ・11・12・ 16・17・21	12	-	-	-	-	孤立	-	70	-	針河道に切られる。	-	

遺構観察表

遺構名	グリッド	平面 図	断面 図	断面 記号	写真	平面形	断面形	長 (cm)	幅 (cm)	深 (cm)	前後関係	出土遺物	備考
7FSK60	63C2,64C10 64D18,65D16 66D3	14	15	abc	58	-	階段状	640	480	68	7FSD136を切る。	-	
7FSK3	63D25,63E5 64D21	14	15	d	58	楕円形	弧状	260	215	50	-	450・451	
7FSK30	63E9・10・ 14・15	14	15	e	-	円	弧状	150	145	63	-	-	
7FSD4	63E10・15 64E6・11	14	15	fg	60	-	階段状	-	56	47	-	196・197	
7FSK102	63E9・10	14	15	h	59	楕円	台形状	300	220	38	-	-	
7FSD136	64C6,64D6,64E	14	15	ijk	60	-	弧状	-	170	30	1号河原に切られる。	483	
7FSK133	64D24	14	15	l	-	円	階段	110	110	25	7FSD136を切る。	-	
7FSK132	64D18	14	15	m	-	円	弧状	100	100	10	-	334～339	
7FSD144	64D2・3・8 ・9	14	15	n	-	-	V字状	670	60	30	-	466・467	
7FSE145	64D3	14	15	o	55	円	袋状	140	130	105	7FSD144を切る。	-	
7FSD120	63D9・14	14	15	p	60	-	弧状	-	50	25	-	-	
7FSK122	63D13	14	15	r	-	長方形	弧状	220	150	20	7FSD121を切る。	112～115	
7FSE126	63D8・9・ 13	14	15	s	-	円	台形状	100	90	86	-	-	
7FSK125	63D16	14	15	t	-	-	弧状	150	90	25	-	326～333	
7FSK123	63D16	14	15	uv	-	楕円	弧状	150	100	25	7FSE137を切る。	-	
7FSE137	63D12・17	14	15	v	55	円	-	100	80	-	-	-	
7FSK124	62D18・ 19・23・24	14	15	w	-	楕円	弧状	130	100	25	-	-	
7FSK134	62D13・14 ・18・19	14	15	x	58	不整	弧状	400	300	15	-	61～78	
7FSE135	62C6,62D6,62E	14	15	y	-	楕円	弧状	350	240	70	-	-	
7FSD101	62C12・13	14	15	AC	-	-	弧状	-	120	30	-	68・78	
7FSK146	62C12・13	14	15	B	-	楕円	階段状	270	150	35	-	-	
7FSD1	63E14・15 ・20	14	15	D	60	-	階段状	-	110	22	-	-	
7FSD118	63D20 64D21	14	-	-	-	-	-	530	40	9	-	-	
7FSD130	64D11・12 ・17・18	14	-	-	-	-	-	400	60	14	-	493	
7FSK140	62C14・19	14	-	-	-	長楕円	-	200	60	9	-	480	
7FSD131	62E1 62D21	14	-	-	-	-	-	200	30	9	-	-	
7FSD128	62D14・15 ・19・20	14	-	-	-	-	-	450	80	-	7FSE137に切られる。	75	
7FSD117	63D16・21 ・22・23	14	-	-	-	-	-	570	60	-	-	99	
7FSD119	63D18・23	14	-	-	-	-	-	210	40	-	-	-	
7FSD121	63D9・10・ 14	14	-	-	-	-	-	320	30	-	7FSK122に切られる。	-	
7FSD129	64D16・17 ・22	14	-	-	-	-	-	650	40	-	-	-	
7FSD147	63D8	14	-	-	-	-	-	120	20	-	-	-	
7FSK127	63D7・8・ 12・13	14	-	-	-	円	-	140	130	-	-	-	
8FSD407	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	428～432	
8FSK34	70D6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	452～455	8FSK39 の裏面
8FSK33	69D9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	460・461	



据立建物観察表

遺構名	階位	グリッド	桁行 (間)	梁間 (間)	長さ (m)	幅 (m)	構造	主軸方位	面積	ピット平面形	前後関係	備考
SB1	上	69D	3	2	51	36	総柱	西偏64°	18.0㎡	円形	SB2・3、8上SD52と重覆。	
SB2	上	69D	3	2	53	35	総柱	西偏60°	18.0㎡	円形	SK36に切られる。SB1・3、8上SD52・SK56と重覆。	
SB3	上	69D	2	2	36	26	総柱	東偏16°	8.8㎡	円形	SB2・3と重覆。	
SB4	上	69D	4	2	76	57	総柱	東偏45°	41.0㎡	円形	8上SD64を切り、8上SK1に切られる。また8上SD49・61・62・63、SE48・60と重覆。	
SB5	上	68CD	5	2	82	39	総柱	東偏18°	26.9㎡	円形	8上SK12に切られ、8上SD21・44と重覆。	
SB6	上	68CD 69CD	3	3	90	78	総柱	西偏29°	66.9㎡	円形	8上SD42、SK41を切り、8上SD29・31・32・33・54・44・49、8上SK30・37・SB7などと重覆。	
SB7	上	68CD	3	2	56	50	総柱	西偏60°	27.0㎡	円形	8上SD34・SK36を切り、8上SD42・44・49などと重覆。	
SB8	上	65E	3	1	88	32	側柱	西偏31°	28.1㎡	円形	他の遺構との重覆はみられない。	
SB9	上	65E	3	1	56	23	側柱	東偏21°	11.9㎡	円形	他の遺構との重覆はみられない。	
SB10	上	63・ 64D	3	2	66	40	総柱	西偏68°	22.7㎡	円形	SB12と重覆。	
SB11	上	63D	2	2	47	37	側柱	西偏72°	16.1㎡	円形	他の遺構との重覆はみられない。	
SB12	上	63・ 64D	3	2	71	33	総柱	西偏74°	22.1㎡	円・方形	SB12と重覆。	
SB13	下	68CD 69CD	5・6	1	102	45	側柱	東偏32°	44.9㎡	円形	8F SK8・SE27・SD119・126、SB14・16などと重覆。	
SB14	下	68・ 69D	4	2	115	61	側柱	西偏45°	69.5㎡	円・楕円形	8F SK14・SE28に切られ、SD21を切る。また、8F SK6・8・11・12・SE27・SD24、SB13・14などと重覆。	
SB15	下	69D	2	1	60	35	側柱	東偏30°	20.3㎡	円形	8F SD38・131、SK57に切られる可能性が高い。また、8F SD21・54・SK76と重覆。	
SB16	下	69D	4	2	73	49	側柱	西偏71°	24.0㎡	円形	8F SK12・57・SD12を切り、8F SE27・SD24、SB13・14などと重覆。	

遺物観察表

上層土器・陶磁器観察表

№	遺物	検出 No.	グリッド	種類	器種	口径	高さ	器内 径内径	器入径	胎土	胎紋 方向	主要 部装飾	その他の装飾	採火 (黒化)	焼成	使用段階	転用 段階	備考
1	上SD1	---	70C22	青磁	碗	130	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
2	上P30	---	69D4	青磁	碗	130	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
3	---	---	69D10	青磁	碗	---	---	---	---	---	---	---	内面筋文	---	---	---	---	---
4	上SD29	---	68D10	青磁	碗	---	---	49	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
5	---	---	69D9	青磁	碗	---	---	52	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
6	---	---	69D21	青磁	碗	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
7	上SD1	炭焼	69C10	土曜	皿A1	---	---	80	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
8	上SD7	---	63E10	土曜	皿A1	130	42	69	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
9	---	---	69D24	土曜	皿A2	124	39	74	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
10	上SK1	---	69D	土曜	皿A2	122	35	90	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
11	上SD49	---	69D14	土曜	皿A1	140	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
12	上SD66	---	69D23	土曜	皿A2	110	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
13	上SD1	---	69C10	土曜	皿A1	---	---	68	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
14	上SD1	中焼	69C10	土曜	皿A1	---	---	68	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
15	上SK5	---	63E2	土曜	皿A1	---	---	60	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
16	上SD60	---	69D23	土曜	皿A1	---	---	70	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
17	---	中焼	71C15	土曜	皿A1	---	---	70	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
18	上SK56	---	69D4	土曜	皿A1	---	---	62	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
19	---	---	69D	土曜	皿A1	---	---	60	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
20	上SD1	炭焼	70C	土曜	小皿A1	90	28	52	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
21	上SD1	---	69C12	土曜	小皿A1	83	24	39	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
22	上SD1	---	69C17	土曜	小皿A1	88	24	42	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
23	上SD3	---	63D4	土曜	小皿A1	92	23	48	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
24	河原	中焼	69D25	土曜	小皿A1	82	22	44	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
25	上SK1	3期	---	土曜	小皿A1	85	21	45	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
26	---	---	69D29	土曜	小皿A3	86	14	54	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
27	上SD48	---	69D7	土曜	小皿A3	---	---	33	46	---	---	---	---	---	---	---	---	---
28	上SD1	---	70C7	土曜	小皿A3	92	22	60	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
29	上SK1	3期	---	土曜	小皿A1	---	---	38	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
30	上SD4	2期	63E1	土曜	小皿A1	---	---	48	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
31	上SD64	---	69D16	土曜	小皿A2	70	12	50	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
32	上SD23・24	---	69D15	土曜	皿B1	132	31	88	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
33	---	---	69D11	土曜	皿B1	---	---	84	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
34	上SD23・24	---	69D15	土曜	皿B1	---	---	70	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
35	上SD23・24	---	69D15	土曜	皿B1	130	25	70	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
36	上SD1	---	---	土曜	皿B2	128	37	114	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
37	上SD34	---	69C12	土曜	小皿B1	99	23	79	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
38	上P3	---	69D18	土曜	小皿B2	90	19	75	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
39	上SK1	---	69D21	土曜	小皿B1	100	24	76	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
40	上SD4	---	69C12	土曜	小皿B1	98	25	79	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
41	上SK1	---	69D24	土曜	小皿B2	100	27	80	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
42	上SK1	---	69D22	土曜	小皿B2	100	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
43	上SK1	---	69D17・18・24	灰洲	千円鉢	200	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
44	上SD1	---	70C14	灰洲	千円鉢	181	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
45	上SD1	---	70C14	灰洲	千円鉢	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
46	---	---	70C13	灰洲系 灰洲	千円鉢	---	---	90	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
47	上SD23・24	---	69D10・15	灰洲系 灰洲	千円鉢	236	102	94	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
48	---	---	69D24	灰洲系 灰洲	千円鉢	---	---	104	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
49	上SK1	---	69D22・23	灰洲	千円鉢	---	---	110	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
50	上SD40・ SD49	---	68C21, 69C3, 69D13, 71C16	灰洲	千円鉢	322	131	130	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
51	上SD23・24	---	69D10・15	灰洲系 灰洲	千円鉢	234	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
52	---	---	68E4	灰洲	千円鉢	250	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
53	上SD1	---	70C7	灰洲?	壺? 樽?	230	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
54	---	---	---	灰洲	壺? 樽?	186	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
55	上SD1	---	69C22, 70C1	灰洲	壺? 樽?	80	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
56	---	---	70C9	灰洲	壺	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
57	上SD1	下層	63E7	灰洲	壺	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
58	上SD47	---	69D15	灰洲系 灰洲	壺	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
59	河原	---	69D11	灰洲系 灰洲	有白磁	120	25	43	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
60	河原	---	---	灰洲系 灰洲	丸瓶	132	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

下層土器観察表

No.	遺跡	検出 No.	グリッド	種類	器種	口径	高さ	底径	取付 部内径	取入径	取手	取付 方向	主要 部取動	その他の取動	跡長(単位)	状況	使用時期	取付 状態	備考	
61	F8SK134	F7 E	62D14・18・ 23, 62C4	底意器	杯蓋目	155	34	23	—	—	—	—	—	回転ヘリ	ロクロナデ	1型	埋蔵	内磨耗	—	
62	F8SK101 SK134	F7 E	62D17・18・ 23, 62D16	底意器	杯蓋目	152	28	34	—	—	—	左	ロクロナ デ	ロクロナデ	1型	埋蔵	内磨耗	—		
63	F8SK134	F7 E	62D12・18	底意器	杯蓋目	132	19	20	—	—	—	右	ロクロナ デ	ロクロナデ	1型	埋蔵	内磨耗, 口上下 磨耗	—		
64	F8SK134	—	62D23	底意器	有台杯目	114	34	64	—	—	—	—	—	体高下ロクナ デリ, 他ロクナ デ	蓋とセツト	埋蔵	見込み・体高下 ・内磨耗	—		
65	F8SK134	—	62D19・23, 62C11	底意器	無台杯目	120	35	76	—	—	—	右	回転ヘリ	ロクロナデ	1型	埋蔵	見込み・体高下 ・内磨耗	—		
66	F8SK134	F7 E	62C4, 62D18	底意器	無台杯目	120	31	80	—	—	—	右	回転ヘリ	ロクロナデ	1型	埋蔵	見込み・体高下 ・内磨耗	—		
67	F8SK134	—	62D23	底意器	無台杯目	120	31	86	—	—	—	—	—	回転ヘリ	ロクロナデ	1型	埋蔵	見込み・体高下 ・内磨耗	—	
68	F8SK101 SK134	—	62D18	底意器	無台杯目	117	32	86	—	—	—	右	回転ヘリ	ロクロナデ	1型	埋蔵	見込み・体高下 ・内磨耗	—		
69	F8SK134	—	62D18・23・ 24	底意器	無台杯目	124	34	90	—	—	—	左	回転ヘリ	ロクロナデ	1型	埋蔵, 内面磨 損	磨耗	希薄	—	
70	F8SK134	—	62D18	底意器	有台杯目	100	41	高38 底58	—	—	—	—	—	回転ヘリ	ロクロナデ	1型	埋蔵, 内面ヒ ズナキ	見込み・体高下 磨耗, 高台だけ	—	
71	F8SK134	—	62D23	底意器	有台杯目	104	45	55	—	—	—	—	—	回転ヘリ	ロクロナデ	希薄	埋蔵	内面磨, 体高下 磨耗, 高台だけ	—	
72	F8SK134	—	62D23	底意器	蓋跡	180	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	埋蔵	口磨耗	—	
73	F8SK134	F7 E	62D18・22	土師器	小盃	—	—	84	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	希薄	—
74	F8SK134	—	62D23	土師器	長盃	200	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	西占志
75	F8SK5 SK134	—	62D18・20, 64E19・20, 65E11・16, 17	土師器	山形盃	—	—	105	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
76	F8SK134	—	62D18	土師器	盃	385	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
77	F8SK134	—	62D23	土師器	盃	360	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
78	F8SK134 SD101	—	62D17・18	土師器	盃	440	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
79	F8SD42	—	7306	底意器	有台杯目	101	46	74	—	—	—	右	回転ヘリ	ロクロナデ	—	埋蔵	見込み・底内磨 耗	—		
80	F8SD42, SK43	—	69D10	底意器	無台杯目	122	39	90	—	—	—	右	回転ヘリ	ロクロナデ	1型	埋蔵	見込み・口内上 ・体高下磨耗	—		
81	F8SD42	—	7306	底意器	無台杯目	120	31	82	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
82	F8SD42	—	69D25	土師器	盃	374	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
83	F8SD42	—	69C19	土師器	盃	340	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
84	F8SK43・ SD47	—	69D9・10	底意器	杯蓋目	135	19	24	—	—	—	右	ロクナ デ	ロクロナデ	1型	埋蔵	内磨耗	—		
85	F8SK43	—	69D9	底意器	有台杯目	113	34	54	—	—	—	右	回転ヘリ	ロクロナデ	蓋とセツト	埋蔵	見込み・口内上 ・体高下・高台 磨耗	—		
86	F8SK43	—	69D9	底意器	有台杯目	112	35	62	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
87	F8SK43	—	69D9	底意器	有台杯目	—	—	54	—	—	—	左	回転ヘリ	ロクロナデ	—	埋蔵	見込み・高台磨 損磨耗	—		
88	F8SK43	—	69D10	底意器	無台杯目	123	35	80	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
89	F8SK43	—	69D10	底意器	無台杯目	117	29	78	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
90	F8SK43	—	69D9	底意器	無台杯目	123	38	81	—	—	—	右	回転ヘリ 破損目	ロクロナデ 目	1型	埋蔵	見込み・口内上 ・体高下磨耗	—		
91	F8SK43	—	—	底意器	無台杯目	118	33	86	—	—	—	右	回転ヘリ	ロクロナデ	1型	埋蔵	見込み・口内上 ・体高下磨耗	—		
92	F8SK43	—	69D9	土師器	無台盃A1	—	—	90	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
93	F8SK43	—	—	底意器	無台杯目	119	28	84	—	—	—	右	回転ヘリ	ロクロナデ	1型	埋蔵	見込み・口内上 ・体高下磨耗	—		
94	F8SK43	—	69D9	底意器	無台杯目	120	34	80	—	—	—	右	回転ヘリ	ロクロナデ	1型	埋蔵	見込み・口内上 ・体高下磨耗	—		
95	F8SK43	—	69D9	土師器	無台盃A1	123	44	48	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
96	F8SK43	—	69D10	土師器	小盃	154	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
97	F8SK43	—	69D10	土師器	小盃	140	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
98	F8SD42・ SK43	—	69D10・15	土師器	小盃	141	121	76	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
99	F8SD21・ 117・407・ SK43	—	69D2～5・7・ 8・12・13	底意器	盃	250	—	—	—	—	—	左	—	—	—	—	—	—	—	—
100	F8SK43	—	69D9	底意器	杯蓋目	81	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
101	F8SK43	—	69D3	土師器	長盃	200	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

遺物観察表

No.	遺物	埋込 %	グリッド	種類	遺物 名	口径	長さ	幅	厚さ	重さ	出土 状況	出土 層	埋込 方向	遺物- 出土位置	その他の遺物	跡長(黒化)	状況	使用箇所	埋込 時期	備考	
102	8FSK43	—	60E9	土師器	甕	420	—	—	—	—	チャ・長・笠	—	—	白ロコナデ 体長下平直タテ キ、体長キメ	—	—	—	—	—	—	
103	8FS47	—	71D1	灰土器	有台杯	116	35	64	—	—	A群	右	回転ヘラ	ロコナデ	蓋とセット	埋込	見込み・白内上 ・体長下脚底 高白穴付	—	—		
104	8FS47	—	60E9	灰土器	有台杯	130	36	60	—	—	A群	右	回転ヘラ	ロコナデ	蓋とセット	埋込	見込み・白内上 ・体長下・高白脚 底	—	—		
105	8FS47	—	60D15	土師器	無台碗1	—	—	—	—	—	65	—	左	回転系	ロコナデ	—	内面凹状底	—	—		
106	8FS47	—	60D10	土師器	小蓋	—	—	—	—	—	64	—	右	回転系	ロコナデ	—	扁平化・スス	—	—		
107	8FS47	—	60E10	土師器	甕	380	—	—	—	—	チャ・長・笠	—	—	体長下キメ、他 ロコナデ	—	—	—	—	—		
108	8FS48 SD47	—	60D10・14・ 15	土師器	長脚碗1	—	—	—	—	—	61	100	群	左	回転ヘラ	体長下ロコナデ 又リ、他ロコ ナデ	埋込	高白穴付・脚底 見	—	—	
109	8FS47	—	70E11	灰土器	無台杯1	127	27	80	—	—	群	左	回転ヘラ	ロコナデ	皿蓋	埋込	内外脚底	—	—		
110	8FS47	—	70D11	土師器	無台碗1	119	39	45	—	—	チャ・長・笠	—	—	回転系	ロコナデ	—	—	—	—		
111	8FS47	—	70E11	土師器	小蓋	—	—	—	—	—	62	—	右	回転系	ロコナデ	—	内面凹状、赤色 化・スス・炭化物	—	—		
112	7FSK122	—	62C10、 62C11、 62D9・14	灰土器	神蓋1	132	16	23	—	—	C群	—	—	回転ヘラ	ロコナデ	皿蓋	埋込	内・無台脚底	—	—	
113	7FSK122	—	63D14、 64E14、 65E14・15	灰土器	神蓋1	122	24	21	—	—	A群	右	ロコナ デ又リ	ロコナデ	1脚	埋込	内・無台脚底	—	—		
114	7FSK122	—	62C19、62C12	灰土器	神蓋1	—	—	—	—	—	22	—	—	回転ヘラ	ロコナデ	1脚	埋込	内・無台脚底	—	—	
115	7FSK122	—	62D14	土師器	長蓋	210	—	—	—	—	チャ・長・笠・ 蓋	—	—	—	ロコナデ	—	—	—	—		
116	7FSK109	—	65D19	灰土器	無台杯1	118	35	90 E90	—	—	C群	右	回転ヘラ	ロコナデ	皿蓋	埋込	見込み・白内上 ・体長下脚底	—	—		
117	7FSK109	—	65D19	灰土器	無台杯1	120	34	—	—	—	A群	右	回転ヘラ	ロコナデ	皿蓋	埋込	見込み・白内上 ・体長下脚底	—	—		
118	7FSK109	—	65D19・20、 60E08	灰土器	無台杯1	—	—	—	—	—	68	—	群	—	回転ヘラ	ロコナデ	—	埋込	見込み・体長下 脚底	—	
119	7FSK5	—	65E16	灰土器	有台杯	106	36	52	—	—	C群	右	回転ヘラ	ロコナデ	単体	埋込	内面凹状底、 高白脚底	—	—		
120	7FSK5	—	65E16	灰土器	有台杯	116	38	—	—	—	A群	—	—	回転ヘラ	ロコナデ	蓋とセット	埋込	見込み・体長下 脚底、高白 穴付	—	—	
121	7FSK5	—	65E16・17	灰土器	無台杯1	107	33	—	—	—	A群	—	—	回転ヘラ	ロコナデ	皿蓋	埋込	見込み・白内上 ・体長下脚底	—	—	
122	7FSK5	—	65E16・17	土師器	長蓋	216	—	—	—	—	チャ・長・笠・ 蓋	—	—	—	体長下キメ、他 ロコナデ	—	—	—	—	—	
123	8FS40	—	68D19	灰土器	神蓋1	132	15	21	—	—	A群	—	—	ロコナ デ又リ	ロコナデ	1脚	埋込	内・無台脚底	—	—	
124	8FS40	—	68D19	灰土器	神蓋1	140	23	26	—	—	D群	—	—	ロコナ デ又リ	ロコナデ	皿蓋	埋込	内・無台脚底	—	—	
125	8FSK21・ SD40	—	68D19、 68D17	灰土器	神蓋1	130	24	21	—	—	A群	右	ロコナ デ又リ	ロコナデ	1脚	埋込	内・無台脚底	—	—		
126	8FSK26・ SD40	—	68D19、 68D19・25	灰土器	有台杯	148	64	84	—	—	A群	左	ロコナ デ又リ	体長下ロコナ デ又リ、他ロコ ナデ	蓋とセット	埋込	見込み・高白脚 底脚底	—	—		
127	8FS40	—	68D19	灰土器	有台杯	140	—	—	—	—	群	—	—	ロコナデ	蓋とセット	埋込	内上脚底	—	—		
128	8FS40	—	68D	灰土器	有台杯	126	37	78	—	—	A群	右	回転ヘラ	ロコナデ	蓋とセット	埋込	内外脚底	—	—		
129	8FS40	—	70D	灰土器	有台杯	—	—	—	—	—	91	—	右	ロコナ デ又リ	体長下ロコナ デ又リ、他ロコ ナデ	蓋とセット	埋込	内外脚底	埋込時 欠		
130	8FS40	—	68D18・23	灰土器	有台杯	—	—	—	—	—	66	—	群	—	回転ヘラ	ロコナデ	皿蓋	埋込	見込み・高白脚 底	—	
131	8FS40	—	69C25	灰土器	有台杯	—	—	—	—	—	70	—	群	左	回転ヘラ	ロコナデ	蓋とセット	埋込	見込み・高白脚 底	—	
132	8FS40	—	68D19	灰土器	無台杯1	110	34	53	—	—	C群	右	回転ヘラ	ロコナデ	—	埋込	見込み・白内上 脚底	—	—		
133	8FS40	—	68D19	灰土器	無台杯1	—	—	—	—	—	73	—	群	右	回転ヘラ	ロコナデ	—	埋込	見込み・体長下 脚底	—	
134	8FS40・42	—	68D19、70D0	灰土器	無台杯1	120	33	86	—	—	A群	—	—	回転ヘラ	ロコナデ	—	埋込	見込み・白内上 ・体長下脚底	—	—	
135	8FS40	—	68D19	灰土器	無台杯1	112	33	76	—	—	D群	左	—	回転ヘラ	ロコナデ	皿蓋	埋込	赤色	—	—	
136	8FS40	—	68D19	灰土器	無台杯1	120	32	82	—	—	A群	—	—	回転ヘラ	ロコナデ	皿蓋	埋込	見込み・白内上 ・体長下脚底	—	—	
137	8FS40	—	68D19	灰土器	無台杯1	120	31	80	—	—	A群	左	—	回転ヘラ	ロコナデ	皿蓋	埋込	見込み・白内上 ・体長下脚底	—	—	
138	8FS40	—	69C25	灰土器	無台杯1	116	36	80	—	—	群	左	回転ヘラ	ロコナデ	皿蓋	埋込	見込み・白内上 ・体長下脚底	—	—		
139	8FS40	—	69C25	灰土器	無台杯1	120	34	72	—	—	群	右	回転ヘラ	ロコナデ	皿蓋	埋込	見込み・白内上 ・体長下脚底	—	—		
140	8FS40	—	69C25	灰土器	無台杯1	116	28	86	—	—	群	—	—	回転ヘラ	ロコナデ	皿蓋	埋込	見込み・白内上 ・体長下脚底	—	—	
141	8FS40	—	68D18	灰土器	無台杯1	123	30	76	—	—	A群	左	—	回転ヘラ	ロコナデ	皿蓋	埋込	見込み・白内上 ・体長下脚底	—	—	
142	8FS40	—	69E23	灰土器	無台杯1	121	30	74	—	—	群	左	—	回転ヘラ	ロコナデ	皿蓋	埋込	見込み・白内上 ・体長下脚底	—	—	
143	8FS40	—	68D14	灰土器	無台杯1	114	30	76	—	—	群	左	—	回転ヘラ	ロコナデ	皿蓋	埋込	見込み・白内上 ・体長下脚底	—	—	
144	8FS40	—	68D13	灰土器	無台杯1	—	—	—	—	—	81	—	群	左	回転ヘラ	ロコナデ	皿蓋	埋込	見込み・体長下 脚底	—	—
145	8FS40	—	68D18	土師器	無台碗1	114	45	46	—	—	チャ・長・笠	—	—	回転系	ロコナデ	皿蓋	—	—	—	—	
146	8FS40	—	68D18	土師器	小蓋?	—	—	—	—	—	65	—	—	—	チャ・長・赤色 化	—	—	—	—	—	
147	8FS40	—	68D18	土師器	無台碗1	124	—	—	—	—	—	—	—	—	—	ロコナデ	—	—	—	—	
148	8FS40	—	68D18	黒色土 器	無台碗	—	—	—	—	—	62	—	—	チャ・長・笠	ロコナ デ又リ埋ヘ タテキメ	ヘラタテキメ	武内師収復品	—	—	—	

No.	機種	積込率	グリッド	機型	羽種	口径	積込体積	容積	積込高さ	積込量	積込方向	積込位置	その他の積込物	鶏糞(混入)	飼料	使用設備	積込設備	備考
149	FSSD40	—	60018	上層部	無白粉A	—	55	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
150	FSSD40	—	60018	上層部	無白粉A	118	40	50	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
151	FSSD40	—	60018	上層部	無白粉A	133	45	60	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
152	FSSD40	—	60019, 60C25	上層部	無白粉A	150	55	74	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
153	FSSD40	—	60C25	上層部	無白粉A	162	57	57	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
154	FSSD40	—	60018	上層部	無白粉A	166	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
155	FSSD40	—	60018	黒色上層部	無白粉	—	—	—	64	—	—	—	—	—	—	—	—	—
156	FSSD40	—	60017・18・21・22	底層部	無白粉	—	—	—	104	100	A層	—	—	—	—	—	—	—
157	FSSK4・39 SD38・40	—	6004・10・15, 60C17, 7001	上層部	長型	196	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
158	FSSD40・SK36	—	60019	上層部	長型	224	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
159	FSSZ05	フック上	—	底層部	無白粉1	108	41	60	—	—	C層	右	回転ヘラ	口口ロナデ	—	—	—	—
160	FSSZ05	—	—	底層部	無白粉1	100	47	46	—	—	C層	右	回転ヘラ	口口ロナデ	—	—	—	—
161	FSSZ05	フック上	—	底層部	無白粉1	—	—	—	80	—	—	—	—	—	—	—	—	—
162	FSSZ05	フック上	—	底層部	無白粉1	—	—	—	66	—	—	—	—	—	—	—	—	—
163	FSSZ05	フック上	—	底層部	無白粉1	116	32	80	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
164	FSSZ05	フック上	—	底層部	無白粉1	124	35	76	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
165	FSSZ05	—	—	底層部	無白粉1	117	30	80	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
166	FSSZ05	フック上	—	底層部	無白粉1	112	32	70	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
167	FSSZ05	フック上	—	底層部	無白粉1	130	30	86	—	—	A層	左	回転ヘラ	口口ロナデ	—	—	—	—
168	FSSZ05	フック上	—	底層部	無白粉1	126	40	90	—	—	A層	—	—	—	—	—	—	—
169	FSSZ05	フック上	—	底層部	無白粉1	124	25	74	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
170	FSSZ05	—	—	上層部	無白粉A	174	46	72	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
171	FSSZ05・SK2	フック上	60018	底層部	長型無白粉	—	—	—	112	201	C層	左	—	—	—	—	—	—
172	FSSK31	—	60017	底層部	無白粉1	116	38	71	—	—	A層	—	—	—	—	—	—	—
173	FSSK31	—	60017	底層部	無白粉1	116	40	75	—	—	A層	右	回転ヘラ	口口ロナデ	—	—	—	—
174	FSSK31	—	60017	底層部	無白粉1	115	32	50	—	—	A層	右	回転ヘラ	口口ロナデ	—	—	—	—
175	FSSK31	—	60017, 71012	底層部	無白粉1	130	63	89	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
176	FSSK31	—	60017	底層部	無白粉1	119	37	90	—	—	A層	右	回転ヘラ	口口ロナデ	—	—	—	—
177	FSSK31	—	60017	底層部	無白粉1	124	34	82	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
178	FSSK31	—	60017	底層部	無白粉1	120	35	86	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
179	FSSK31	—	60017	底層部	無白粉1	120	28	71	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
180	FSSK31	—	60017	黒色上層部	無白粉1	—	—	—	70	—	—	—	—	—	—	—	—	—
181	FSSK31	—	60017	上層部	無白粉A	120	39	64	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
182	FSSK31	—	60017	上層部	無白粉A	—	—	—	47	—	—	—	—	—	—	—	—	—
183	FSSK31	—	60017	上層部	小型	—	—	—	130	—	—	—	—	—	—	—	—	—
184	FSSK31	—	60019	上層部	小型	—	—	—	86	—	—	—	—	—	—	—	—	—
185	FSSK31	—	60017	上層部	小型	144	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
186	FSSK31	—	60017	上層部	小型	—	—	—	72	—	—	—	—	—	—	—	—	—
187	FSSK31	—	60017	上層部	小型	—	—	—	54	—	—	—	—	—	—	—	—	—
188	FSSK31	—	60017	上層部	長型	224	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
189	FSSK31	—	60017	上層部	長型	200	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
190	FSSK31	—	60017	上層部	長型	180	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
191	FSSK31	—	6006・7	上層部	小	390	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
192	FSSK31	—	60017	底層部	長型無白粉	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
193	FSSD1	—	64E16	底層部	長型無白粉	165	50	74	—	—	C層	—	—	—	—	—	—	—
194	FSSD1	—	64D16	底層部	無白粉1	95	57	39	—	—	A層	右	回転ヘラ	口口ロナデ	—	—	—	—

遺物観察表

No.	遺構	埋込 %	グリッド	種類	建物	口徑	直径 [cm]	高さ [cm]	出土	出土 層	採取 方向	遺物・ 土器品類	その他調査品	跡長(直径)	状況	使用段階	発掘 記録	備考				
195	7FSSD1- SD4・SK8・ SD3・SK18・ SD37	—	B3D2, 63D3・15, 64C17, 64E1・11・ 2B, 65D7	底意部	開口窓	107	—	107	20B	A層	—	下調整	体系外カキメ, 体系外ヘラウ式 すり、他口コナ ナズ	蓋とセツツ, 蓋1葉	埋蔵	—	—	—				
196	7FSSD4	—	64E11	底意部	無台枠1	—	—	42	—	A層	右	回転ヘラ	口コナナズ	土器	埋蔵	—	—	内カキツバ状況 込みの状況、高台 部分欠け				
197	7FSSD4	—	64E11	底意部	無台枠口	118	38	74	—	A層	—	回転ヘラ	口コナナズ	蓋とセツツ	埋蔵	—	—	見込み、口内上 、体系下調整、 高台欠け				
198	7FSSK104	—	64E2・4	底意部	無台枠1	121	33	74	—	掘削・D層	右	回転ヘラ	口コナナズ	土器	埋蔵	—	—	見込み、口内上 、体系下調整、 底外意部				
199	7FSSK104	—	163E10	底意部	無台枠1	—	—	90	—	A層	右	回転ヘラ	口コナナズ	土器	埋蔵	—	—	見込み、体系下 調整、底外意部				
200	7FSSK104	—	64E4	底意部	無台枠1	124	31	84	—	A層	—	回転ヘラ	口コナナズ	土器	埋蔵	—	—	見込み、口内上 、体系下調整				
201	7FSSK104	—	63E20, 64E4 ・16, 65D11	底意部	無台枠口	94	43	49	—	A層	右	回転ヘラ	口コナナズ	土器	埋蔵	—	—	高台調整				
202	8FSSK36	—	(60D14)	底意部	神蓋口	156	43	22	—	A層	右	口コナナズ	口コナナズ	土器	埋蔵	—	—	内・筋込調整				
203	8FSSK36	—	60D20	底意部	無台枠口	130	41	74	—	A層	—	口コナナズ	口コナナズ	蓋とセツツ	埋蔵	—	—	高台調整				
204	8FSSK36	—	60D19	底意部	無台枠口	120	39	62	—	A層	—	口コナナズ	口コナナズ	蓋とセツツ	埋蔵	—	—	内外調整				
205	8FSSK36	—	60D19	底意部	無台枠口	116	42	76	—	B層	左	回転ヘラ	口コナナズ	蓋とセツツ	埋蔵	—	—	見込み、口内上 、高台調整				
206	8FSSK36	—	60D19	底意部	無台枠口	102	39	68	—	A層	—	回転ヘラ	口コナナズ	蓋とセツツ	埋蔵	—	—	見込み、口内上 、体系下、高台 調整				
207	8FSSK36	—	60D19	底意部	神蓋1	128	16	19	—	A層	右	口コナ ズリ	口コナナズ	1葉	埋蔵	—	—	内・筋込調整				
208	8FSSK36	—	60D19	底意部	無台枠1	122	32	82	—	B層	左	回転ヘラ	口コナナズ	土器	埋蔵	—	—	見込み、口内上 、体系下調整				
209	8FSSK36	—	60D19	底意部	無台枠1	124	31	86	—	B層	左	回転ヘラ	口コナナズ	土器	埋蔵	—	—	見込み、口内上 、体系下調整				
210	8FSSK36	—	60D19	底意部	無台枠1	120	33	90 高100	—	A層	—	回転ヘラ	口コナナズ	土器	埋蔵	—	—	見込み、口内上 、体系下調整				
211	8FSSK36	—	(60D14)	底意部	無台枠口	131	39	88	—	B層	—	回転ヘラ	口コナナズ	土器	埋蔵	—	—	筋込調整				
212	8FSSK36	—	—	底意部	無台枠1	119	38	87	—	B層	左	回転ヘラ	口コナナズ	土器	埋蔵	—	—	内調整				
213	8FSSK36・ SD40	—	60D19・14	底意部	無台枠1	116	38	90	—	A層	—	回転ヘラ	口コナナズ	土器	埋蔵	—	—	見込み、口内上 、体系下調整				
214	8FSSK36	—	60D19	底意部	無台枠1	127	35	86	—	B層	左	回転ヘラ	口コナナズ	土器	埋蔵	—	—	筋込				
215	8FSSK36	—	60D19	土調整	無台枠A	128	35	74	—	—	—	回転系	口コナナズ	—	—	—	—	—				
216	8FSSK36	—	60D18・19	黑色土 器	無台枠口	136	53	66	—	—	—	チャ・真・黄・ 白調整	内へツギ可 、体系下口コナ ズリ	体系・底外意 部	—	—	—	—				
217	8FSSK36	—	(60D14)	土調整	無台枠口	—	—	60	—	—	—	チャ・真・白色 粘	口コナナズ・体系下口コナ ズリ・内へツギ 可、内へツギ ラミ可、若手	土器等	—	—	—	—				
218	8FSSK36	—	60D19	土調整	長蓋	200	—	—	—	—	—	チャ・真・白 土	体系外カキメ、他 口コナナズ	—	—	—	—	—				
219	8FSSK36	—	60D19・20	土調整	長蓋	186	—	—	—	—	—	チャ・真・白 土	口コナナズ・ 体系外カキメ	—	—	—	—	体系外又				
220	8FSSK36	—	60D19	土調整	長蓋	195	—	—	—	—	—	チャ・真・白 土	体系外カキメ、他 口コナナズ	—	—	—	—	—				
221	8FSSK36	—	60D19	土調整	長蓋	202	—	—	—	—	—	チャ・真・白 土	口内カキメ、他 口コナナズ	—	—	—	—	—	体系外又			
222	8FSSK36	—	60D19	土調整	長蓋	190	—	—	—	—	—	チャ・真・白 土	体系外カキメ、他 口コナナズ	—	—	—	—	—	—			
223	8FSSK36	—	60D19	土調整	長蓋	200	—	—	—	—	—	チャ・真・白 土	体系外カキメ、他 口コナナズ	—	—	—	—	—	体系			
224	8FSSK36	—	60D19	土調整	小蓋	162	—	—	—	—	—	チャ・真・白 土	口コナナズ	—	—	—	—	—	—			
225	8FSSK36	—	60D19・20	土調整	小蓋	—	—	—	—	—	—	チャ・真・白 土	内カキメ、再び 口コナナズ	—	—	—	—	—	—			
226	8FSSK36	—	60D19	土調整	小蓋	—	—	80	—	—	—	チャ・真	下調整	体系外ヘラウ ズリ、内カキメ	—	—	—	—	体系外、底外意 部			
227	8FSSK36	—	60D19・20	土調整	小蓋	330	—	—	—	—	—	チャ・真・白 土	口コナナズ	—	—	—	—	—	体系外、内意化 物			
228	8FSSK17・ 210	—	68D, 68E	底意部	具無脚取口	—	—	98	180	C層	—	—	体系下口コナ ズリ、他口コナ ナズ	—	—	—	—	—	—	物破	高台欠け	[埋 込・掘 削両り 調査]
229	8FSSK17	—	68D25, 69D9	底意部	無台枠1	125	31	84	—	B層	—	回転ヘラ	口コナナズ	土器	埋蔵	—	—	—	—	内調整		
230	8FSSK17	—	68D25	底意部	無台枠1	113	30	63	—	B層	右	回転ヘラ	口コナナズ	土器	埋蔵	—	—	—	—	見込み、体系外 調整		
231	8FSSK17	—	69D21	底意部	無台枠口	136	37	58	—	A層	左	回転系	口コナナズ	土器	埋蔵	—	—	—	—	見込み、体系下 調整		
232	8FSSK17	—	69D21	土調整	無台枠A	121	44	44	—	—	—	チャ・真・白 土	回転系口コナナズ	—	—	—	—	—	—	—		
233	8FSSK17	—	68D25	黑色土 器	具無脚取口	158	49	60	—	—	—	チャ・真・白 土	口コナナズ・体系下口コナ ズリ・内へツギ 可、内へツギ ラミ可、若手	土器等	—	—	—	—	—	体系外口コナ ズリ調整、内へツギ ラミ可、若手		
234	8FSSK17	—	69D21	土調整	小蓋	150	—	—	—	—	—	チャ・真	口コナナズ	—	—	—	—	—	—	口内意化物		
235	8FSSK17	—	68D25	土調整	小蓋	140	—	—	—	—	—	チャ・真・白 土	口コナナズ	—	—	—	—	—	—	体系外又、口 内・体内上意化 物		
236	8FSSK17	—	68D19	土調整	長蓋	224	—	—	—	—	—	チャ・真・白 土	内務カキメ	—	—	—	—	—	—	体系外又、内口コ ナズ		
237	8FSSK17・ SD40	—	68D25, 69D14・18	土調整	小蓋	—	—	60	—	—	—	チャ・真	右	回転系	口コナナズ	—	—	—	—	—	体系外又	
238	8FSSK17	—	68D21	土調整	小蓋	—	—	60	—	—	—	チャ・真・白 土	右	回転系	口コナナズ	—	—	—	—	—	—	体系外又

No.	産卵 日付	孵化 日付	孵化 率 %	グリッド	種類	産卵 数	孵化 数	孵化 率 %	産卵 時間	産卵 場所	産卵 方向	産卵 高さ	産卵 温度	産卵 湿度	産卵 時間	産卵 時間	産卵 方向	産卵 高さ	産卵 温度	産卵 湿度	その他の産卵 状況	卵の 状態	孵化 日付	孵化 時間	孵化 率 %
239	8/28	9/17	—	69D21	主産卵 小産	—	—	—	70	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
240	8/28	9/17	—	69D25	主産卵 小産	300	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
241	8/28	9/20	40	69D4+19	副産卵 種産	130	26	23	—	A群	右	30cm	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
242	8/28	9/21	—	69D14+17	副産卵 種産	135	30	26	—	A群	右	30cm	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
243	8/28	9/22	6- SK30	69D2+6- 12+19	副産卵 種産	133	29	34	—	B群	左	30cm	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
244	8/28	9/23	46	70D1, 69D2+8+7	副産卵 種産	—	—	—	65	A群	左	30cm	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
245	8/28	9/23	20+ SK43	69D12+17+ 11	副産卵 種産	—	—	—	89	B群	左	30cm	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
246	8/28	9/26	SK36, SD1+105+ P56	69D5, 69D21, 69D13,	副産卵 種産	118	40	70	—	C群	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
247	8/28	9/23	—	69D12+17	副産卵 種産	—	—	—	63	C群	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
248	8/28	9/23	—	69D13+18	副産卵 種産	106	47	59	—	A群	右	30cm	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
249	8/28	9/23	—	69D3	副産卵 種産	97	38	63	—	B群	右	30cm	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
250	8/28	9/23	—	69D7	副産卵 種産	—	—	—	70	A群	右	30cm	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
251	8/28	9/23	—	69D3	副産卵 種産	—	—	—	70	A群	右	30cm	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
252	8/28	9/23	—	69D4	副産卵 種産	120	32	90	—	B群	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
253	8/28	9/23	24	69D12+17	副産卵 種産	124	29	70	—	B群	左	30cm	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
254	8/28	9/23	—	69D2+7	副産卵 種産	124	33	90	—	B群	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
255	8/28	9/23	—	69D12+17	副産卵 種産	130	19	74	—	B群	左	30cm	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
256	8/28	9/23	—	69D12+17	副産卵 種産	122	37	48	—	種産	右	30cm	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
257	8/28	9/23	—	69D6+12	主産卵 無自採	131	36	60	—	—	右	30cm	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
258	8/28	9/23	—	69D12+17	主産卵 無自採	115	39	53	—	—	右	30cm	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
259	8/28	9/23	—	69D12	主産卵 無自採	118	42	40	—	—	右	30cm	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
260	8/28	9/23	—	69D12+17	主産卵 無自採	124	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
261	8/28	9/23	—	69D12+17	主産卵 無自採	120	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
262	8/28	9/23	—	69D12+17	主産卵 無自採	124	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
263	8/28	9/23	—	69D12	主産卵 無自採	1	—	—	70	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
264	8/28	9/23	—	69D17+18	主産卵 無自採	1	—	—	50	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
265	8/28	9/23	—	69D12+17	主産卵 無自採	1	—	—	48	—	種産	右	30cm	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
266	8/28	9/23	—	69D7	副産卵 無自採	170	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
267	8/28	9/23	24+40	69D17+18+ 19	主産卵 無自採	151	52	60	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
268	8/28	9/23	—	(69D16)	副産卵 無自採	170	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
269	8/28	9/23	—	69D12	副産卵 無自採	—	—	—	—	B群	右	30cm	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
270	8/28	9/23	—	69D2+6- 12, 68C10	副産卵 無自採	1	—	—	69	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
271	8/28	9/23	—	69D12+17	主産卵 無自採	300	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
272	8/28	9/23	—	(69D14)	主産卵 無自採	200	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
273	8/28	9/23	—	69D12+13	主産卵 無自採	146	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
274	8/28	9/23	—	(69D14)	主産卵 無自採	146	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
275	8/28	9/23	—	69D5+12+ 15, 63B8	副産卵 無自採	—	—	—	64	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
276	8/28	9/23	—	69D12	主産卵 無自採	—	—	—	53	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
277	8/28	9/23	—	69D14	主産卵 無自採	—	—	—	80	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
278	8/28	9/23	—	69D12	主産卵 無自採	350	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
279	8/28	9/23	—	69D12+17	主産卵 無自採	370	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
280	8/28	9/23	—	69D3+4, 69D17	主産卵 無自採	128	36	55	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
281	8/28	9/23	—	69D22	主産卵 無自採	130	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
282	8/28	9/23	—	69D17, 60D4	副産卵 無自採	103	—	—	—	A群	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
283	8/28	9/23	—	69D3+4	主産卵 無自採	196	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
284	8/28	9/23	—	69D3+4	主産卵 無自採	220	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
285	8/28	9/24	—	70D2	副産卵 無自採	124	30	80	—	B群	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
286	8/28	9/24	—	70D6	副産卵 無自採	120	30	79	—	B群	左	30cm	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
287	8/28	9/24	—	70D2	副産卵 無自採	120	18	72	—	B群	左	30cm	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
288	8/28	9/24	—	(69D6)	副産卵 無自採	116	30	75	—	B群	左	30cm	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	

遺物観察表

No.	遺物	検出率	グリッド	種類	遺物	口徑	直径	高さ	最大径	出土	採取方向	遺物・出土状況	その他の遺物	跡長(黒色)	状況	使用箇所	転写箇所	備考	
289	8FS104	—	7001・2	灰土層	無白粉土	130	34	78	—	掘削	左	回転ヘリ	ロクロナデ	田圃	埋蔵	見込み・白内上・係舟下敷土	—	—	
290	8FS104	—	7001・2	土層	長葎	184	—	—	—	—	—	—	ロクロナデ	—	—	係舟スス	—		
291	7FS104	—	7002・3、6006	土層	藁	380	—	—	—	—	—	—	—	—	—	係舟スス	—		
292	7FSK37	—	66025	灰土層	無白粉土	120	31	73	—	掘削	右	回転ヘリ	ロクロナデ	田圃	埋蔵	見込み・白内上・係舟下敷土	—	—	
293	7FSK37	—	66025	土層	無白粉土	126	42	46	—	—	右	回転ヘリ	ロクロナデ	白内縁状遺物	—	—	—	—	
294	8FS1201	—	7001	土層	無白粉土	141	34	102	—	掘削	—	回転ヘリ	—	—	—	見込み・白内上・係舟下敷土	—	—	
295	8FS1201	—	68022, 6802	灰土層	無白粉土	122	24	80	—	掘削	右	回転ヘリ	ロクロナデ	田圃	埋蔵	見込み・白内上・係舟下敷土	—	—	
296	8FS1201	—	68C5	土層	小葎	94	83	39	—	—	右	回転ヘリ	ロクロナデ	—	—	ホスス、白内縁化物	—	—	
297	8FS1201	—	—	灰土層	長葎残片	—	—	64	—	掘削	左	回転ヘリ	ズリ、他ロクロナデ	—	埋蔵	高白粉土、漆製器片類	—	—	
298	8FS1201	—	7001	土層	小葎	120	—	—	—	—	—	—	—	—	—	ホスス、白内縁化物	—	—	
299	8FSD46	—	71D1	灰土層	無白粉土	115	28	58	—	掘削	右	回転ヘリ	ロクロナデ	—	埋蔵	見込み・白内上・係舟下敷土	—	—	
300	8FSD46	—	7001	灰土層	無白粉土	119	29	82	—	掘削	左	回転ヘリ	ロクロナデ	田圃	埋蔵	見込み・白内上・係舟下敷土	—	遺物なし	
301	8FSD46	—	71D1	灰土層	無白粉土	118	—	—	—	掘削	—	—	—	田圃	埋蔵	白内上敷土	—	—	
302	8FSD46・SK105・SD128	—	7001	灰土層	有白粉土	—	—	83	—	—	左	ロクロナデ	係舟下ロクロナデズリ、他ロクロナデ	遺物とセット	埋蔵	見込み・高白粉土	—	遺物なし	
303	8FSD46	—	69D5	黒色土層	無白粉土	175	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
304	8FSD46	—	71D1・6	土層	長葎	200	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
305	8FSD105	—	(69C21)	灰土層	無白粉土	118	26	78	—	掘削	—	回転ヘリ	ロクロナデ	田圃	埋蔵	白内上・見込み敷土	—	—	
306	8FSD105	—	69C24	灰土層	無白粉土	129	30	70	—	掘削	左	回転ヘリ	ロクロナデ	田圃	埋蔵	内縁部の跡	—	—	
307	SK105	—	69C21	土層	長葎	210	—	—	—	—	—	—	—	—	—	係舟カキメ	—	—	
308	8FSK31	—	7001	土層	無白粉土	—	—	54	—	—	右	回転ヘリ	ロクロナデ	—	—	—	—	—	
309	8FSK31	—	7001	土層	無白粉土	130	28	48	—	掘削	—	—	—	—	—	—	—	—	
310	8FSK31	—	7001	土層	無白粉土	—	—	72	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
311	8FSK31	—	70D1	土層	藁	380	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	係舟下ヘラクズズリ、他ロクロナデ	—	SK31か
312	7FSK31・52	—	66023・24	灰土層	無白粉土	123	32	75	—	掘削	左	回転ヘリ	ロクロナデ	田圃	埋蔵	見込み敷土	—	—	
313	7FSK31・52	—	66023・24	土層	藁	430	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
314	8FS108	—	69D9	灰土層	神葎	124	16	25	—	掘削	右	回転ヘリ	ロクロナデ	田圃	埋蔵	内・他土敷土	—	—	
315	8FS108	—	69D9	灰土層	無白粉土	120	24	80	274	掘削	—	回転ヘリ	ロクロナデ	田圃	埋蔵	見込み・白内上・係舟下敷土	—	—	
316	8FS108	—	69D15	灰土層	無白粉土	120	29	62	—	掘削	左	回転ヘリ	ロクロナデ	田圃	埋蔵	見込み・白内上・係舟下敷土	—	—	
317	8FS108	—	69D9	土層	無白粉土	—	—	50	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
318	8FS108	—	69D14	土層	無白粉土	—	—	52	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
319	8FS108	—	69D14	黒色土層	無白粉土	—	—	55	—	掘削	—	—	—	—	—	—	—	—	
320	8FS108	—	69D9	土層	無白粉土	—	—	50	—	掘削	—	—	—	—	—	—	—	—	
321	8FS108	—	69D14	土層	有白粉土	—	—	—	—	掘削	—	—	—	—	—	—	—	—	
322	8FS108	—	69D9	灰土層	小葎	200	—	—	—	掘削	—	—	—	—	—	—	—	—	
323	8FS108	—	69D9	土層	藁	390	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
324	8FS108	—	68D5・6、69D15	土層	藁	386	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
325	8FS108	—	69D9	土層	小葎	—	—	68	—	—	右	回転ヘリ	ロクロナデ	—	—	—	—	—	
326	7FSK25	—	63C20	灰土層	無白粉土	122	33	82	—	掘削	左	回転ヘリ	ロクロナデ	田圃	埋蔵	見込み・白内上・敷土	—	—	
327	7FSK25	—	63C15	土層	小葎	134	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
328	7FSK25	—	63C20	土層	小葎	—	—	70	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
329	7FSK25	—	63C20	土層	長葎	195	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
330	7FSK25	—	63C15	土層	長葎	218	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
331	7FSK25	—	63D13	土層	長葎	200	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
332	7FSK25	—	63C20	土層	長葎	174	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
333	7FSK25	—	63C15	土層	藁	328	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	



No.	産別	標記 %	グリッド	産地	産種	口径	直径 幅内	長さ	鉱土	採 取 方 向	産 部 - 出 露 地 所	その他の産部	跡長(黒化)	状況	使用箇所	利用 箇所	備考
334	FSSK132	—	64D18	主産部	無白銅A	126	26	66	—	チャ・具	—	ロクロナデ	—	—	—	—	—
335	FSSK132	—	64D18	主産部	無白銅A	124	—	—	—	チャ・具・笠	—	ロクロナデ	—	—	—	—	—
336	FSSK132	—	64D18	主産部	無白銅B	—	—	54	—	チャ・具・笠	右	回転ホウ	—	—	—	—	—
337	FSSK132	—	64D18	主産部	無白銅B	172	56	66	—	チャ・具・笠	右	回転ホウ	—	—	—	—	—
338	FSSK132	—	—	副産部	長銅棒	134	49	64	—	A研	左	回転ヘウ	田畑	確認	—	—	—
339	FSSK132	—	64D18	副産部	鉄	200	—	—	—	A研	—	—	—	—	—	—	—
340	FSSK80	フ 上	—	副産部	無白銅1	123	33	66	—	田研	赤石 地先	回転ヘウ	田畑	確認	—	—	—
341	FSSK80	—	65D15	副産部	有白銅B	—	—	71	—	田研	左	回転ヘウ	ロクロナデ	—	—	—	—
342	FSSK80	—	65D15	主産部	無白銅A1	126	34	44	—	チャ・具・笠	右	回転ホウ	ロクロナデ	—	—	—	—
343	FSSK80	—	65D2~9 13・15・ 64C17	副産部	副産物	95	159	—	—	A研	右	不調整	—	—	—	—	—
344	FSSK27	—	68D14	主産部	無白銅A	105	43	52	—	チャ・具・笠	右	ロクロナ ズリ	ロクロナデ	—	—	—	—
345	FSSK27	—	68D14	主産部	無白銅A1	129	43	44	—	チャ・具・笠・ 赤色鉛	右	回転ホウ	ロクロナデ	—	—	—	—
346	FSSK27	—	68D14	主産部	無白銅A1	126	38	49	—	チャ・具・笠・ 赤色鉛	右	回転ホウ	ロクロナデ	—	—	—	—
347	FSSK27	—	68D14	主産部	無白銅A1	120	36	50	—	チャ・具	右	回転ホウ	ロクロナデ	—	—	—	—
348	FSSK27	—	68D14	主産部	無白銅A1	130	36	52	—	チャ・具	—	回転ホウ	ロクロナデ	—	—	—	—
349	FSSK27	—	(67D14)	主産部	無白銅A1	120	37	40	—	チャ・具	右	回転ホウ	ロクロナデ	—	—	—	—
350	FSSK27	—	68D14	主産部	無白銅A1	131	46	52	—	チャ・具	右	回転ホウ	ロクロナデ	—	—	—	—
351	FSSK27	—	68D14	主産部	無白銅A1	120	32	44	—	チャ・具	—	回転ホウ	ロクロナデ	—	—	—	—
352	FSSK27	—	68D14	主産部	無白銅A1	123	40	47	—	チャ・具・笠	右	回転ホウ	ロクロナデ	—	—	—	—
353	FSSK27	—	68D14	主産部	無白銅A1	142	51	55	—	チャ・具・笠	右	回転ホウ	ロクロナデ	—	—	—	—
354	FSSK27	—	68D15	主産部	無白銅A1	125	31	61	—	チャ・具	—	回転ホウ	ロクロナデ	—	—	—	—
355	FSSK27	—	68D14	主産部	無白銅A1	120	44	56	—	チャ・具	—	回転ホウ	ロクロナデ	—	—	—	—
356	FSSK27	—	68D14	主産部	無白銅B1	130	48	52	—	精治	右	ロクロナ ズリ	—	—	—	—	—
357	FSSK27	—	68D14	黒色土 部	無白銅B	100	40	—	—	具・笠	右	—	—	—	—	—	—
358	FSSK27	—	68D14	黒色土 部	無白銅IV	—	—	—	—	チャ・笠	—	—	—	—	—	—	—
359	FSSK27	—	67D14、 68D14	黒色土 部	無白銅1	130	46	52	—	笠	—	—	—	—	—	—	—
360	FSSK27	—	68D14	黒色土 部	無白銅1	134	47	50	—	チャ・具	—	—	—	—	—	—	—
361	FSSK27	—	68D14	黒色土 部	無白銅II	148	54	56	—	チャ・笠	右	—	—	—	—	—	—
362	FSSK27	フ 上	—	黒色土 部	無白銅B	169	—	—	—	精治	—	—	—	—	—	—	—
363	FSSK27	—	68D14	主産部	小産	140	—	—	—	チャ・具・笠・ 笠	—	—	—	—	—	—	—
364	FSSK27	—	68D14	主産部	小産	160	—	—	—	チャ・具・笠・ 笠	—	—	—	—	—	—	—
365	FSSK27	—	68D14	主産部	小産	—	—	60	—	チャ・具・笠・ 笠	右	回転ホウ	—	—	—	—	—
366	FSSK27	—	68D14	主産部	小産	—	—	120	—	チャ・具・笠	—	不調整	ロクロナデ	—	—	—	—
367	FSSK27	—	68D14	主産部	小産	—	—	81	—	チャ・具・笠・ 笠	左	静止ホウ	ロクロナデ	—	—	—	—
368	FSSK27・ 3036	—	69D19、 70D3・13、 68D14・19	副産部	長銅板B	—	—	175	田研	右	不調整	—	—	—	—	—	—
369	FSSK27・ 3047	—	68D14、69D	副産部	長銅板B	88	—	—	田研	—	—	—	—	—	—	—	—
370	FSSK27	—	67D14	副産部	長銅板B	—	—	184	田研	—	—	—	—	—	—	—	—
371	FSSK100	—	69C18・19	副産部	有白銅B	132	54	68	田研	右	回転ヘウ	ロクロナデ	田畑	確認	—	—	—
372	FSSK100	—	69C18	主産部	無白銅A	130	47	46	—	田研	具	回転ヘウ	ロクロナデ	—	—	—	—
373	FSSK100	—	69C18・19	主産部	無白銅A1	121	52	44	—	チャ・具・笠	—	回転ホウ	ロクロナデ	—	—	—	—
374	FSSK100	—	69C18・19	主産部	無白銅A1	124	—	—	—	チャ・具・笠・ 赤色鉛	—	—	—	—	—	—	—
375	FSSK100	—	69C18	主産部	無白銅A1	120	46	50	—	チャ・笠	右	回転ホウ	ロクロナデ	—	—	—	—
376	FSSK100	—	69C18	主産部	無白銅A1	125	43	48	—	チャ・笠	—	回転ホウ	ロクロナデ	—	—	—	—
377	FSSK100	—	69C18・19	主産部	有白銅A	—	—	—	—	チャ・具・笠	右	—	—	—	—	—	—
378	FSSK100	—	69C18	主産部	無白銅A	128	—	—	—	チャ・笠	—	—	—	—	—	—	—
379	SSK100	—	69C18・19	主産部	無白銅A	180	72	76	—	精治	—	—	—	—	—	—	—
380	FSSK100	—	68C18・19	主産部	無白銅B	138	48	60	—	精治	右	—	—	—	—	—	—

遺物観察表

No.	遺物	埋蔵 %	グリッド	種類	遺物 目録	数量	調査 範囲	遺物 目録	出土 位置	出土 方向	遺物 目録	その他の遺物	跡長(単位)	状況	使用時期	発掘 時期	備考	
381	8FSSK100	—	68B15・20・25, 69C22・4・5・12・18	土曜部 瓦葺	220	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
382	8FSSK100	—	69C17・18	土曜部 小瓦	120	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
383	8FSSK100	—	69C18	土曜部 小瓦	120	109	62	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
384	8FSSK14	—	68D13	瓦葺部 無白釉I	118	33	77	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
385	8FSSK14	% 14	68D13	瓦葺部 無白釉I	118	33	77	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
386	8FSSK14	% 13	68D13	瓦葺部 無白釉I	120	36	50	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
387	8FSSK14	% 8	—	土曜部 無白釉A	120	36	50	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
388	8FSSK14	% 10	—	土曜部 無白釉A	118	36	46	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
389	8FSSK14	% 11	—	土曜部 無白釉A	118	36	46	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
390	8FSSK14	% 11	—	土曜部 無白釉A	118	36	46	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
391	8FSSK14	% 10	—	瓦葺部 瓦	—	—	110	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
392	8FSSK14	% 10	—	土曜部 無白釉A	124	39	60	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
393	8FSSK14	% 9	68D13	土曜部 無白釉A	118	37	67	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
394	8FSSK14	% 9	—	土曜部 無白釉A	120	40	45	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
395	8FSSK14	% 9	—	土曜部 無白釉B	160	42	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
396	8FSSK14	% 2	—	土曜部 無白釉A	112	39	48	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
397	8FSSK14	% 12	68D12	土曜部 無白釉A	126	40	40	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
398	8FSSK14	% 6	—	土曜部 無白釉A	120	42	51	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
399	8FSSK14	% 7	68D12	土曜部 無白釉B	146	54	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
400	8FSSK14	% 7	—	瓦葺部 瓦葺部A	—	—	85	146	A	右	—	—	—	—	—	—	—	—
401	8FSSK14	% 2	—	瓦葺部 瓦葺部A	—	—	62	104	C	右	—	—	—	—	—	—	—	—
402	8FSSK14	% 8	—	土曜部 無白釉A	168	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
403	8FSSK14	% 5	—	瓦葺部 瓦葺部B	—	—	99	174	新津	—	—	—	—	—	—	—	—	—
404	8FSSK14	% 11 12	—	瓦葺部 瓦葺部	112	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
405	8FSSK58	—	68C17	黒色土 器	無白釉B	188	78	74	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
406	8FSSK58	—	68C17	黒色土 器	無白釉B	136	51	50	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
407	8FSSK58	—	68C17	土曜部 瓦葺	169	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
408	8FSSK58	—	68C17	土曜部 瓦	370	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
409	8FSP20 (SB16)	—	69D6	土曜部 無白釉A	119	49	45	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
410	8FSP20 (SB16)	—	69D6	土曜部 無白釉A	—	—	48	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
411	8FSD103	—	69C23	土曜部 無白釉A	—	—	60	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
412	8FSD103	—	69C23	土曜部 無白釉A	127	42	61	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
413	8FSD103	—	69C10・23, 69D6	土曜部 瓦	340	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
414	8FSD103	—	69D17	土曜部 無白釉B	124	40	54	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
415	8FSD103	—	69D17	土曜部 無白釉A	142	42	52	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
416	8FSD103	—	69D17	黒色土 器	無白釉I	130	51	48	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
417	8FSD45	—	69D5	瓦葺部 瓦葺部I	120	37	25	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
418	8FSD45	—	69D5	土曜部 瓦葺	170	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
419	8FSD45	—	69D5	土曜部 瓦	360	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
420	8FSD45	—	69D5	土曜部 瓦	360	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
421	8FSSK45	—	70D13	土曜部 瓦葺	200	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
422	8FSSK45	—	70D9・14・15	土曜部 瓦葺	200	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
423	8FSSK45	—	70D9	土曜部 瓦葺	210	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

No.	産種	標記 %	グリッド	種別	樹種	口径	直径 樹高	樹冠 幅	方位	露土	傾斜 方向	露土 高さ	露土 面積	そのほかの露土	露土(黒化)	状況	使用樹種	利用 樹種			
428	FSSK29	—	7001	主樹類	小葉	134	—	—	—	チャ・長	—	—	—	ロクロナデ	—	—	—	—	—		
429	FSSK29	—	7001・ 6005	主樹類	小葉	—	—	66	—	チャ・長	右	斜転	露土	ロクロナデ	露土体幹下部 敷き	—	—	—	—		
429	FSSK29	—	7001	主樹類	小葉	—	—	66	—	チャ・長・長	右	斜転	露土	ロクロナデ	—	—	—	—	—		
427	FSSK29 SD45	—	7001	主樹類	小葉	386	146	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
430	FSD407	—	—	従道類	無白幹1	130	30	80	—	A群	—	—	—	斜転ヘラ	ロクロナデ	主樹	埋樹	見込み・白内上・ 体幹下部	—		
429	FSD407	—	—	主樹類	長葉	200	—	—	—	チャ・長・長・ 葉	—	—	—	体幹カキメ、他 ロクロナデ	—	—	—	—	—		
430	FSD407	—	—	主樹類	葉	360	—	—	—	チャ・長・長	—	—	—	体幹カキメ、他 ロクロナデ	—	—	—	—	—		
431	FSD407	—	—	主樹類	葉	332	—	—	—	チャ・長・長	—	—	—	体幹カキメ、他 ロクロナデ	—	—	—	—	—		
432	FSD407	—	—	主樹類	葉	400	—	—	—	チャ・長・長・ 葉	—	—	—	体幹カキメ、口ロ クロナデ	—	—	—	—	—		
430	FSD114	—	70C18	従道類	無白幹1	116	31	74	—	B群	—	—	—	斜転ヘラ	ロクロナデ	主樹	埋樹	見込み・白内上・ 体幹下部	—		
434	FSD114	—	60C18・24	主樹類	葉	314	—	—	—	チャ・長・長	—	—	—	ロクロナデ	—	—	—	—	—		
435	FSD114	—	60C18・24	主樹類	長葉	220	—	—	—	チャ・長・長	—	—	—	体幹カキメ、他 ロクロナデ	—	—	—	—	—		
436	FSD114	—	70C18・19	主樹類	長葉	230	—	—	—	葉・チャ・長・ 葉	—	—	—	ロクロナデ	—	—	—	—	—		
427	FSSK29	—	67D17	従道類	中葉	244	—	—	—	—	—	—	—	白内下カキメ、 他ロクロナデ	—	—	—	埋樹	口筒状		
438	FSSK29	—	67D17	主樹類	長葉	214	—	—	—	チャ・長・長	—	—	—	内・体幹カキ メ、他ロクロナ デ	—	—	—	—	—		
439	FSSK29	—	67D17	主樹類	小葉	120	—	—	—	チャ・長・長	—	—	—	ロクロナデ	—	—	—	—	—		
440	FSSK29	—	67D17	主樹類	葉	360	—	—	—	チャ・長・長	—	—	—	ロクロナデ	—	—	—	—	—		
441	FSSK30	—	6906・ 70C21・22	従道類	林道1	134	12	25	—	A群	右	斜転ヘラ	露土	ロクロナデ	1型	埋樹	内筒状	—	—		
442	FSSK30	—	(6906)	従道類	無白幹1	130	29	92	—	B群	—	—	—	斜転ヘラ	ロクロナデ	1型	埋樹	見込み・白内上・ 体幹下部	—		
443	FSSK30	—	(6901)	従道類	無白幹1	120	30	92	—	B群	—	—	—	斜転ヘラ	ロクロナデ	主樹	埋樹	見込み・露土・ 体幹下部	—		
444	FSSK30	—	(6906)	主樹類	葉	344	—	—	—	チャ・長・長	—	—	—	白内・体幹カキ メ、他ロクロナ デ	—	—	—	—	—		
445	FSSK30	—	—	主樹類	葉	350	—	—	—	チャ・長・長・ 葉	—	—	—	白ロクロナデ、 体幹下ハケツマ リ、他カキメ	—	—	—	—	—		
446	FSSK30	—	—	従道類	無白幹1	103	31	63	—	B群	左	斜転ヘラ	露土	ロクロナデ	主樹、内筒状 敷	埋樹	高台筒状	—	—		
447	FSSK30	—	60C2・64C10 64C18・ 65D16	従道類	林道敷	80	167	102	106	露土	左	ロクロナ デ、 ズリ	露土	体幹下ロクロナ デ、 ズリ、他ロクロナ デ	露土セツツ、 露土	埋樹	口・高台筒状	—	—		
448	FSD180	—	68C4・5・14	従道類	無白幹1	—	—	88	—	B群	左	斜転ヘラ	露土	体幹下ロクロナ デ、 ズリ	露土セツツ	埋樹	見込み・高台・ 体幹下部	—	—		
449	FSD101・ 180	—	68C4・14・ 18	従道類	無白幹1	150	—	—	—	A群	—	—	—	ロクロナデ	露土セツツ	埋樹	見込み・白内上・ 体幹下部	—	—		
450	FSSK3	—	68D22	従道類	無白幹1	122	32	84	—	B群	—	—	—	斜転ヘラ	ロクロナデ	主樹	埋樹	見込み・白内上・ 体幹下部	—		
451	FSSK3	—	68D22	従道類	無白幹1	126	42	70	—	B群	—	—	—	斜転ヘラ	ロクロナデ	主樹	埋樹	内・体幹筒状	—	—	
452	FSSK24・43	—	7006	従道類	林道1	124	31	24	—	A群	右	斜転ヘラ ズリ	露土	ロクロナデ	1型	埋樹	内・筒状	—	SK30 カ		
453	FSSK24・ SD40	—	7001	主樹類	小葉	136	—	—	—	チャ・長・長・ 葉	—	—	—	ロクロナデ	—	—	—	—	—		
454	FSSK24	—	7001	主樹類	小葉	—	—	—	—	チャ・長・長・ 葉	—	—	—	体幹カキメ、他 ロクロナデ	—	—	—	—	—		
455	FSSK24	—	7006	主樹類	長葉	190	—	—	—	チャ・長・長	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
456	FSD54	—	69D14	従道類	無白幹1	118	28	84	—	A群	—	—	—	斜転ヘラ	ロクロナデ	主樹	埋樹	見込み・白内上・ 体幹下部	—		
457	FSD54	—	69D14	主樹類	葉	390	—	—	—	チャ・長・長・ 葉	—	—	—	ロクロナデ	—	—	—	—	—		
458	FSD118	—	69C22	従道類	無白幹1	117	32	97 B群1	—	C群	右	斜転ヘラ	露土	ロクロナデ	主樹	埋樹	見込み・体幹下 部	—	—		
459	FSD118	—	69C24	主樹類	長葉	240	—	—	—	チャ・長・長	—	—	—	体幹カキメ、他 ロクロナデ	—	—	—	—	—		
460	FSSK33	—	6909	従道類	無白幹1	123	34	74	—	B群	右	斜転ヘラ	露土	ロクロナデ	主樹	埋樹	見込み・白内上・ 体幹下部	—	—		
461	FSSK33	—	6909	主樹類	小葉	124	—	—	—	チャ・長・長・ 葉	—	—	—	体幹下ハケツマ リ、他ロクロナ デ	—	—	—	—	—		
462	FSSK33	—	69D17	主樹類	無白幹1	126	37	47	—	チャ・長・長	—	—	—	斜転ヘラ	ロクロナデ	—	—	—	—		
463	FSSK33	—	69D17	主樹類	葉	310	—	—	—	チャ・長・長・ 葉	—	—	—	ロクロナデ	—	—	—	—	—		
464	FSSK2	—	—	従道類	無白幹1	126	30	80	—	B群	左	斜転ヘラ	露土	ロクロナデ	主樹	埋樹	見込み・白内上・ 体幹下部	—	—		
465	FSSK2	—	64E14	主樹類	葉	326	—	—	—	チャ・長・長・ 葉	—	—	—	体幹下ハケツマ リ、他ロクロナ デ、 内下ハケツマ、他 ロクロナデ	—	—	—	—	—		
466	FSD144	—	64D3	主樹類	無白幹1	118	44	58	—	チャ・長	右	斜転	露土	ロクロナデ	—	—	—	—	—		
467	FSD144	—	64D3	主樹類	葉	360	—	—	—	チャ・長・長・ 葉	—	—	—	白内下ロクロナ デ、体幹下ロク ロナデ、 他カキメ	—	—	—	埋樹	体幹下部	—	—

遺物観察表

No.	遺物	種別	グリッド	種類	遺物	口徑	長さ	幅	厚さ	素材	形状	用途	その他	発見	状況	使用場所	備考	
465	8FPP4	—	69011	土曜器	無白粉A	123	46	47	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
465	8FP14	—	69011	土曜器	無白粉A	—	—	—	53	—	—	—	—	—	—	—	—	
470	8FSS43-SD130	—	69C17	灰磁器	柿蓋目	172	—	—	—	A形	右	—	—	—	—	—	—	
471	—	—	69011	灰磁器	柿蓋目	146	31	26	—	A形	右	—	—	—	—	—	—	
472	7FSD131	—	62C13	灰磁器	有白粉目	116	40	52	—	A形	右	回転ヘラ	ロクロナデ	—	蓋とセット	埋蔵	見込み・口内上・体外下・高白粉性	
473	7FSS80	—	65D15	灰磁器	有白粉目	116	37	81	—	A形	右	回転ヘラ	ロクロナデ	—	蓋とセット	埋蔵	見込み・口内上・高白粉性	
474	—	—	64E4, 63E15	灰磁器	有白粉目	132	39	78	—	C形	右	回転ヘラ	ロクロナデ	—	蓋とセット	埋蔵	見込み・口内上・高白粉性	
475	—	—	62E2	灰磁器	有白粉目	—	—	—	58	—	D形	—	—	—	—	—	—	
476	7FSS53	—	66D25	灰磁器	有白粉目	100	48	64	—	B形	—	—	—	—	—	—	—	
477	—	—	62E1	灰磁器	有白粉目	—	—	—	66	—	B形	—	—	—	—	—	—	
478	江戸瓦	群	60E6	灰磁器	無白粉目	130	33	60	—	A形	—	回転ヘラ	ロクロナデ	—	—	埋蔵	見込み・口内上・高白粉性	
479	—	—	62D19	灰磁器	無白粉目	122	41	70	—	B形	左	—	—	—	—	—	—	
480	7FSS140	—	63C19, 63C9	灰磁器	無白粉目	130	36	75	—	A形	—	回転ヘラ	ロクロナデ	—	—	埋蔵	見込み・口内上・高白粉性	
481	8FSD109	—	69C14	灰磁器	無白粉目	130	30	371 377	—	A形	—	回転ヘラ	ロクロナデ	—	—	埋蔵	見込み・体外下・高白粉性	
482	—	—	—	灰磁器	無白粉目	120	29	91	—	D形	右	回転ヘラ	ロクロナデ	—	—	埋蔵	見込み・体外下・高白粉性	
483	7FSD136	—	64D4	灰磁器	無白粉目	135	39	80	—	C形	右	回転ヘラ	ロクロナデ	—	—	埋蔵	見込み・口内上・高白粉性	
484	8FSS50	—	70D10	灰磁器	無白粉目	132	31	82	—	B形	右	回転ヘラ	ロクロナデ	—	—	埋蔵	見込み・口内上・高白粉性	
485	—	—	65D6	灰磁器	無白粉目	132	34	85	—	C形	—	—	—	—	—	—	—	
486	7FSS52	—	66D23-24	灰磁器	無白粉目	124	27	78	—	B形	左	回転ヘラ	ロクロナデ	—	—	埋蔵	見込み・口内上・高白粉性	
487	—	—	64E20	灰磁器	無白粉目	130	31	94	—	C形	—	—	—	—	—	—	—	
488	8FSS47	—	70D11, 69D15	灰磁器	無白粉目	—	—	—	84	—	B形	—	—	—	—	—	—	
489	—	—	68E25-26, 69C4, 69B	灰磁器	無白粉目	123	31	86	—	A形	左	回転ヘラ	ロクロナデ	—	—	埋蔵	見込み・口内上・高白粉性	
490	8FSS49	—	69D18-23	灰磁器	無白粉目	132	31	82	—	B形	—	—	—	—	—	—	—	
491	7FSS8	—	64E14	灰磁器	無白粉目	118	36	79	—	B形	左	回転ヘラ	ロクロナデ	—	—	埋蔵	見込み・口内上・高白粉性	
492	7FSS20	—	66D22-23, 69C1-4	灰磁器	無白粉目	118	30	70	—	B形	右	回転ヘラ	ロクロナデ	—	—	埋蔵	見込み・口内上・高白粉性	
493	7FSD130	—	64D17	灰磁器	無白粉目	—	—	—	97D 97E	—	A形	右	回転ヘラ	ロクロナデ	—	—	埋蔵	見込み・体外下・高白粉性
494	8FSS42	—	70D11	灰磁器	無白粉目	—	—	—	50	A形	右	回転ヘラ	ロクロナデ	—	—	埋蔵	見込み・体外下・高白粉性	
495	—	—	62D24	灰磁器	高粉	170	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
496	—	—	64E1, 62E9	灰磁器	高粉	190	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
497	—	—	63D16-22	灰磁器	柿蓋目	126	27	28	—	A形	右	回転ヘラ	ロクロナデ, 内蓋へつぎ	—	—	埋蔵	口内上	
498	—	—	63E7	灰磁器	有白粉目	109	45	52	—	A形	右	回転ヘラ	ロクロナデ, 蓋へつぎ	—	—	埋蔵	見込み・口内上・高白粉性	
499	—	—	70C14	灰磁器	有白粉目	—	—	—	56	A形	—	—	—	—	—	—	—	
500	8FSS31	—	70D11	灰磁器	無白粉目	123	30	78	—	A形	—	—	—	—	—	—	—	
501	8FPP75	—	69D12	灰磁器	無白粉目	118	30	79	—	A形	右	回転ヘラ	ロクロナデ, 蓋へつぎ	—	—	埋蔵	見込み・口内上・高白粉性	
502	—	—	68D-E	灰磁器	無白粉目	124	37	78	—	A形	右	回転ヘラ	ロクロナデ, 蓋へつぎ	—	—	埋蔵	見込み・口内上・高白粉性	
503	—	—	63D16	灰磁器	無白粉目	117	31	76	—	A形	右	回転ヘラ	ロクロナデ, 蓋へつぎ	—	—	埋蔵	見込み・口内上・高白粉性	
504	—	—	63E15	灰磁器	無白粉目	121	38	79	—	C形	右	回転ヘラ	ロクロナデ, 蓋へつぎ	—	—	埋蔵	蓋	
505	—	—	64D23	灰磁器	無白粉目	—	—	—	76	A形	—	—	—	—	—	—	—	
506	—	—	63C23	灰磁器	無白粉目	124	35	74	—	A形	—	—	—	—	—	—	—	
507	—	—	64E8	灰磁器	無白粉目	114	31	82	—	A形	—	—	—	—	—	—	—	
508	—	—	—	灰磁器	無白粉目	114	31	69	—	A形	右	回転ヘラ	ロクロナデ, 蓋へつぎ	—	—	埋蔵	蓋	
509	—	—	69D17	土曜器	有白粉A	124	28	60	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
510	—	—	69D19	土曜器	有白粉A	120	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
511	—	—	69D8	土曜器	有白粉A	—	—	—	54	—	—	—	—	—	—	—	—	
512	—	—	68D-E	土曜器	有白粉目	—	—	—	58	—	—	—	—	—	—	—	—	
513	—	—	69D23	土曜器	有白粉A	—	—	—	60	—	—	—	—	—	—	—	—	
514	8FPP127	—	68C	土曜器	無白粉A	124	40	45	—	—	—	—	—	—	—	—	—	

No.	産期	産日 %	グリッド	種別	産期	口徑	産高 胎内高	産長	胎上	胎前 胎後	胎前- 胎後動物	その他の産物	胎衣(消化)	胎衣	使用記録	胎前 記録	備考		
515	7F5274	—	68D2	上産期	胎内側A1	127	37	53	—	チヤ・具・雲	右	胎前胎後	口クロナデ	口内汚染記録	—	—	—		
516	7F5P40	—	68D6	上産期	胎内側A1	123	42	50	—	チヤ	—	胎前胎後	口クロナデ	—	—	—	—		
517	7F5P42	—	68D13	上産期	胎内側A1	122	42	52	—	チヤ・具	右	胎前胎後	口クロナデ	—	—	—	—		
518	7F5P123	—	68D	上産期	胎内側A1	127	42	52	—	チヤ・具・雲	—	胎前胎後	口クロナデ 口クロナデ 口クロナデ	内へクミガキ 内へクミガキ	—	—	—		
519	—	—	68D3	上産期	胎内側A1	—	—	60	—	チヤ・具・夕	右	胎前胎後	口クロナデ 内へクミガキ	産後汚染記録	—	—	—		
520	7F5P56	—	68D12	上産期	胎内側B1	118	50	50	—	種乳	—	胎前胎後	口クロナデ	体高下口クロナ デで胎上入り、他へクミ ガキ有	—	—	—		
521	7F5D219	—	68C23	上産期	胎内側A1	134	54	50	—	チヤ・具・具・ 雲	右	胎前胎後	口クロナデ	—	—	—	—		
522	—	—	68D10	上産期	胎内側A1	—	—	46	—	チヤ・具	—	胎前胎後	口クロナデ	—	—	—	—		
523	豆河産	卵	68D14・15	上産期	産卵	200	—	—	—	チヤ・具	—	—	内務有キ	—	—	—	—		
524	—	—	68D3・8	産高期	長尾側B1	120	—	—	—	卵	—	—	口クロナデ	—	—	—	産後 口内欠け		
525	—	—	68D22	産高期	長尾側B1	126	—	—	—	卵	—	—	口クロナデ	—	—	—	産後 口内欠け		
526	—	—	64D1	産高期	長尾側B1	83	—	—	—	卵	—	—	口クロナデ	—	—	—	産後 口内欠け・欠け		
527	—	—	68C4, 68D4 68D	産高期	長尾側B1	100	—	—	—	卵	—	—	口クロナデ	—	—	—	産後 口内欠け		
528	—	—	63C2	産高期	長尾側A1	—	—	118	—	卵	—	—	口クロナデ	—	—	—	産後 体高産後 頸り筋欠		
529	7F5K135	—	(70C19)	産高期	長尾側B1	—	—	59	—	卵	—	—	胎前胎後	口クロナデ	—	—	産後 高台産後 欠け		
530	7F5K82	—	67D19	産高期	長尾側B1	—	—	101	—	卵	—	—	不調産	口クロナデ	—	—	産後 高台産後 欠け		
531	—	—	68E1	産高期	長尾側B1	—	—	96	—	卵	左	不調産	口クロナ デ入り、内口クロナ デ	産後 高台・体高下 産後	—	—	—		
532	7F5P68	—	68D13	産高期	長尾側B1	—	—	100	—	卵	左	不調産	口クロナデ	産後 高台産後	—	—	産後大		
533	7F5K113	—	68D16, 68E17	産高期	長尾側B1	—	—	102	190	卵	左	不調産	口クロナ デ入り、胎口クロナ デ入り	産後 高台産後 欠け	—	—	産後大 体内 下産乳		
534	—	—	68D・E	産高期	産卵	96	—	—	—	卵	—	—	口クロナデ	産後	—	—	産後 口内欠け		
535	—	—	68B5, 6C5・ 9, 68D5, 70C19	産高期	産卵	—	—	236	—	卵	—	—	口クロナ デ入り	産後 高台打ち欠き	—	—	—		
536	—	—	68E0	産高期	産	—	—	118	—	卵	—	—	口クロナデ	産後 高台欠け	—	—	—		
537	—	—	63D10, 64D8	産高期	長尾側B1	—	—	—	—	卵	—	—	胎前胎後	口クロナデ	—	—	—	産後 高台産 後下産乳	
538	7F5E24	—	68D20, 68D15, 68C25, 68D1	産高期	産卵	—	—	360	—	卵	右	口クロナ デ入り	体高下口クロナ デ入り、胎口クロナ デ入り	産後	—	—	—	産後 高台打 ち欠き	
539	—	—	68D9, 70D16	産高期	産後	112	—	—	—	卵	左	—	再産胎子タギ キ、再胎心内当 て具	上腹面が土	産後 口内欠け・欠け	—	—	—	
540	7F5K8 8D11	—	62C7, 64D4 ・8・10・12 ・14・15・17 ・20, 68D11 ・12・13・ 16, 64D2・ 14	産高期	産後	121	263	—	—	卵	右	—	体高下口クロナ デ入り、体 高下産後、体 内胎前胎後 具、胎口クロナ デ	上腹面が土	産後 口内欠け	—	—	—	
541	—	—	68D23	産高期	中腹	540	—	—	—	卵	—	—	口クロナデ	産後 口内欠け・欠け	—	—	—		
542	—	—	68E16, 68D3, 68D23, 68D25	産高期	中腹	346	—	—	—	卵	左	—	体高下口クロナ デ入り、胎前胎後 具、胎口クロナ デ入り	産後 口内欠け、胎 内産後	—	—	—		
543	—	—	63B8・9	産高期	中腹	452	—	—	—	卵	—	—	口クロナ デ入り	産後 口内欠け・欠け	—	—	—		
544	7F5K17・ 8E206	—	68D10・18・ 20, 68D15・ 21	産高期	中腹	186	—	—	380	卵	左	タギ出 し	口クロナ デ入り、胎 前胎後、胎前胎 後具	1腹	産後 口内欠け	—	—	—	
545	7F5K14・ 32・P27	—	68D2・7・ 13・19・24, 68D11	産高期	中腹	326	—	—	526	卵	左	—	体高胎子タギ キ、胎前胎後 具、胎口クロナ デ入り	—	—	—	—	産後 産後	
546	7F5K20 E1P産	卵	68E4, 68C3 ・12, 68D13 ・14・15・ 18・20・21・ 22・23・25, 68C5, 70C24, 67C13	産高期	中腹	343	—	—	455	卵	—	—	体高下口クロナ デ入り、胎 前胎後、胎前 胎後具	胎前小型 産後	産後 口・胎前胎後	—	—	—	
547	—	—	68C10・18, 68D14, 70C14・15, 71C11, 71D1	産高期	中腹	334	522	—	464	卵	右	タギ出 し	口内胎前胎後 口クロナデ、胎 前胎後、胎前 胎後具、胎前 胎後具、胎前 胎後具、胎前 胎後具	—	—	—	産後 口内欠け	産後小 型上は 産後 90% の産乳	
548	—	卵	68D15・20・ 25, 68C3, 68D2, 68E, 68D12・18・ 23, 産後	産高期	中腹	198	—	—	—	卵	—	—	体高下口クロナ デ入り、胎 前胎後、胎前 胎後具、胎前 胎後具	—	—	—	—	—	
549	7F5D54・ 3K32	—	68D18・22	産高期	小腹	90	170	—	—	卵	右	タギ出 し	口クロナ デ入り	1腹、胎前胎 後具	産後 胎前胎後、口欠 け	—	—	—	
550	7F5P101	—	63D14・20, 63E4, 64C21, 64D9・11, 17・18	産高期	小腹	—	—	80	—	卵	—	—	中腹不調 産、胎前 胎後具、胎前 胎後具	体高下口クロナ デ入り	産後 胎前胎後、胎前胎 後具	—	—	—	産後 胎前胎 後具

遺物観察表

%	遺物	単位	グリッド	種類	形状	口径	長さ	幅	厚	重	備考
551	8FPP70	---	68012	土師器	長蓋	275	---	---	---	---	チャ・真・瓦、具
552	8FSS20・SK52	---	7001	土師器	長蓋	235	---	---	---	---	301 チャ・真・瓦、具
553	---	---	---	土師器	白付蓋	---	---	---	---	---	チャ・真・瓦
554	8FSD44	---	60006	土師器	瓢	---	---	---	---	---	180 チャ・真・瓦
555	8FSS45	---	7000	土師器	長蓋	200	---	---	---	---	チャ・真・瓦
556	---	---	60016	土師器	長蓋	220	---	---	---	---	チャ・瓦
557	---	---	60003	土師器	高杯	170	---	---	---	---	チャ・瓦
558	---	---	68024	土師器	高杯	---	---	---	---	---	180 チャ・瓦
559	---	---	70027	土師器	蓋	400	---	---	---	---	チャ・真・瓦
560	---	---	70016	土師器	蓋	400	---	---	---	---	チャ・真・瓦
561	8FSS32	---	60022	土師器	蓋	430	---	---	---	---	チャ・真・瓦、蓋
640	8FSS205	中割	---	須恵器	無白粉1	114	28	74	---	---	---
641	8FSS205	中割	---	須恵器	無白粉1	124	36	76	---	---	---
642	8FSS205	中割	---	須恵器	無白粉1	118	40	65	---	---	チャ・真・瓦、右
643	8FSS205	中割	---	土師器	小蓋	---	---	---	---	---	80 チャ・真・瓦
644	8FSS205	中割	---	土師器	小蓋	---	---	---	---	---	104 チャ・真・瓦、右
645	7FSS8	---	64010	須恵器	無白粉1	121	36	80	---	---	A群、海射、右
646	7FSS55	---	66025	土師器	無白粉1	120	39	44	---	---	チャ・瓦
647	---	---	64019	須恵器	広口壺	120	---	---	---	---	---
648	---	---	64016・21	須恵器	広口壺	---	---	---	---	---	96 ---

鉄器計測表

%	単位	遺物	グリッド	形状	長さ (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	備考
630	上	8JSS00	69017	刀	72	16	3	
638	下	---	62020	鎌	206	33	4	
637	上	8JSS06	69018	鎌	71	32	3	
634	上	8JPS08	---	刀	69	12	4	
635	上	8JSS1	69022	刀	61	15	4	
633	---	---	---	刀	162	29	6	
632	上	7FSS11	63024・25	刀	299	31	7	輪の本数異なる
629	上	8JSS3	68020	釘	54	10	5	
630	上	8JSS3	68020	釘	51	12	5	
631	上	8JSS3	68020	釘	36	9	5	

石器計測表

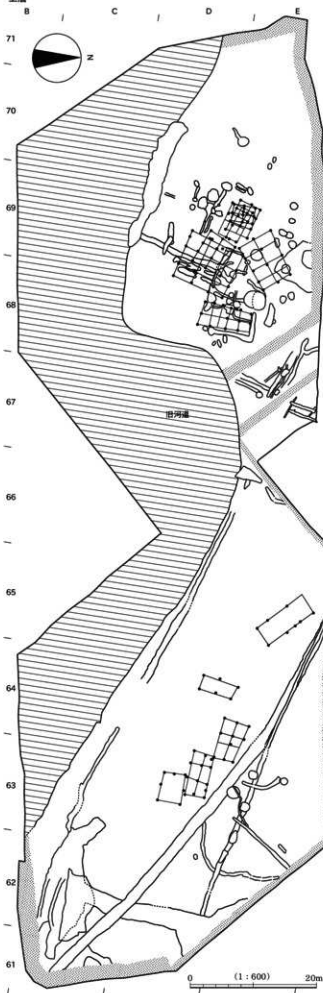
%	形状	単位	遺物	グリッド	長さ (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重 (g)	石種
677	碇石	上	8JSS23・24	68015	69	62	37	70	頁岩
678	碇石	上	---	6901	63	21	30	48	緑色凝灰岩
679	碇石	下	---	69012・13	49	33	27	59	砂岩
580	碇石	上	8JSS36	69033	106	64	36	219	頁岩
581	碇石	上	---	69016	66	62	36	140	頁岩
583	碇石	上	8JSS23	69015	156	66	62	433	頁岩
583	碇石	上	---	68019	136	75	70	906	砂岩
584	碇石	下	---	66025	68	37	20	50	凝灰岩
585	碇石	下	---	70014	45	56	27	102	緑色凝灰岩
586	碇石	下	---	68011~13、16~18	70	60	39	125	凝灰岩
587	碇石	下	8FSD205	---	63	48	15	68	凝灰岩
588	碇石	下	---	69017	142	58	49	385	凝灰岩
589	碇石	下	---	66028	70	32	50	25	凝灰岩
590	碇石	下	7FSD10	66012	108	50	48	335	凝灰岩
591	碇石	下	---	63021	81	32	26	100	砂岩
592	碇石	下	---	69017	171	74	59	425	頁岩
593	碇石	上	---	6809・14	107	87	67	713	頁岩

土製品計測表

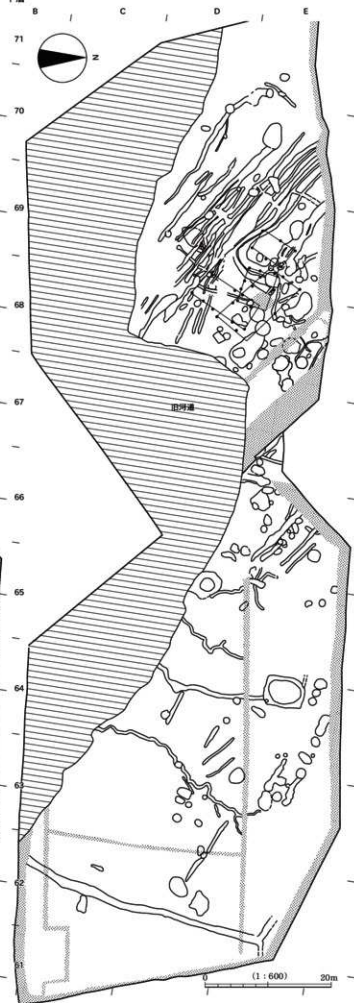
%	形状	単位	遺物	グリッド	構成	長さ (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重 (g)	備考
562	土師	下	---	6409	土師器	51	13	12	7	
563	土師	下	7FSS134	62023	土師器	4	0.9	14	7	
564	土師	下	7FSS134	62023	土師器	64	14	13	8	
565	土師	下	7FSD144	6303	土師器	43	12	12	5	
566	土師	下	---	6409	土師器	46	1	1	5	
567	土師	下	---	64814	土師器	5	15	14	9	
568	土師	上	8JSS11	6905	土師器	62	51	21	74	
569	土師	下	---	70013	土師器	62	60	42	70	
570	土師	下	7FSS021	6603・4	土師器	63	39	16	32	
571	土師	下	---	68025	土師器	38	38	12	19	
572	土師片割	下	7FSS111	62022	土師器	66	64	8	33	
573	土師片割	下	---	68019	須恵器	57	34	17	27	射石片、A群、回転へり入り、右割、内面磨滅無し、底径58
574	土師片割	下	---	68019	須恵器	84	79	13	63	27
575	土師片割	下	須恵器	69013・18・23	須恵器	73	74	15	68	射石片、A群、回転へり入り、右割、内面磨滅無し、底径54
576	土師片割	下	8FSS08、SD18L、P69	63017、67014、6804・14、69022、6902・12・13・21・22、71012	土師器	134	207	---	---	内カキメ、黒クロナダ
649	須恵器土製品	下	武507	---	土師器	131	65	---	---	クロナダ

# 圖 版

上層



下層







8上SK72

3.838m Δ



- 8上SK72  
 1 暗褐色シルト、  
 2 茶褐色シルト、  
 3 暗茶褐色シルト、  
 4 黄色粘土、  
 5 黒色炭化物、  
 6 茶褐色シルト、  
 7 暗茶褐色シルト、  
 8 地山。

8上SK72

3.838m Δ



- 8上SK72  
 1 暗褐色シルト、  
 2 黄色粘土、  
 3 茶褐色シルト、  
 4 黒色炭化物、  
 5 暗褐色シルト、  
 6 地山。

8上SK72

3.838m Δ



- 8上SK72  
 1 暗褐色シルト、  
 2 暗茶褐色シルト、  
 3 暗茶褐色シルト、  
 4 黄色粘土、  
 5 黒色炭化物、  
 6 茶褐色シルト、  
 7 暗茶褐色シルト、  
 8 地山。

8上SK82

3.760m Δ



- 8上SK82  
 1 暗褐色シルト、  
 2 暗茶褐色シルト、  
 3 白色粘土、  
 4 暗褐色シルト、  
 5 赤褐色土、  
 6 黄色粘土、  
 7 地山。

8上SK82

3.760m Δ



- 8上SK82  
 1 暗褐色シルト、  
 2 暗茶褐色シルト、  
 3 暗茶褐色シルト、  
 4 暗褐色シルト、  
 5 赤褐色土、  
 6 黄色粘土、  
 7 地山。

8上SK30

3.810m Δ



- 8上SK30  
 1 暗茶褐色シルト、  
 2 暗褐色シルト、  
 3 茶褐色シルト、  
 4 地山。

8上SK9

3.783m Δ



- 8上SK9  
 1 黒褐色土、炭化物片混じる、  
 2 黒褐色土、黄褐色シルトブロック混じる、  
 3 地山。

8上SK8

3.783m Δ



- 8上SK8  
 1 黒褐色シルト、  
 2 暗青灰色シルト、黒褐色粘土ブロック混じる、  
 3 地山。

8上SK16

3.783m Δ



- 8上SK16  
 1 茶褐色シルト、  
 2 茶褐色シルト、炭化物片混じる、  
 3 茶褐色シルト、灰白色粘土ブロック、炭化物片混じる、  
 3Cに比べ灰白色粘土ブロックの量が少ない、  
 5 地山。



8上SK70・71

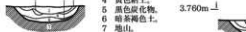
3.738m Δ



- 8上SK70・71  
 1 暗褐色シルト、  
 2 暗茶褐色シルト、  
 3 茶褐色シルト、  
 4 黒褐色シルト、  
 5 暗褐色シルト、  
 6 暗茶褐色シルト、  
 7 地山。

8上P318

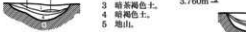
3.838m Δ



- 8上P318  
 1 暗褐色土、  
 2・3 黒色炭化物、  
 4 黄色粘土、  
 5 黒色炭化物、  
 6 暗茶褐色土、  
 7 地山。

8上P318

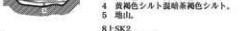
3.838m Δ



- 8上P318  
 1 暗褐色土、  
 2 黒色炭化物、  
 3 暗茶褐色土、  
 4 暗褐色土、  
 5 地山。

8上SK2

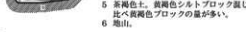
3.775m Δ



- 8上SK2  
 1 茶褐色シルト、  
 2 暗褐色炭化物、  
 3 黄褐色シルト混茶褐色シルト、  
 4 黄褐色シルト混暗茶褐色シルト、  
 5 地山。

8上SK2

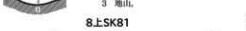
3.775m Δ



- 8上SK2  
 1 茶褐色シルト、  
 2 暗褐色炭化物、  
 3 茶褐色土、炭化物片混じる、  
 4 暗茶褐色シルト、  
 5 茶褐色土、黄褐色シルトブロック混じる、2に比べ黄褐色ブロックの量が多い、  
 6 地山。

8上SK2

3.775m Δ



- 8上SK2  
 1 茶褐色シルト、  
 2 暗褐色シルト、炭化物片大量に混じる、  
 3 地山。

8上SK81

3.765m Δ



- 8上SK81  
 1 暗褐色シルト、炭化物片少量混じる、  
 2 暗茶褐色シルト、  
 3 暗茶褐色シルト、炭化物片少量混じる、  
 4 暗褐色シルト、茶褐色粘土ブロック少量混じる、  
 5 暗茶褐色シルト、  
 6 黄色粘土、  
 7 地山。

8上SK58

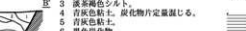
3.710m Δ



- 8上SK58  
 1 茶褐色シルト、  
 2 黄色粘土、  
 3 暗褐色シルト、炭化物片少量混じる、  
 4 茶褐色シルト、  
 5 地山。

8上SK3

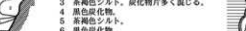
3.638m Δ



- 8上SK3  
 1 茶褐色シルト、  
 2 黄褐色シルト、  
 3 淡茶褐色シルト、  
 4 黄褐色シルト、炭化物片少量混じる、  
 5 青灰色粘土、  
 6 黒色炭化物、  
 7 青灰色粘土、  
 8 黒色炭化物、  
 9 地山。

8上SK3

3.783m Δ



- 8上SK3  
 1 茶褐色シルト、マンガン粒多量に混じる、  
 2 青灰色粘土、  
 3 茶褐色シルト、炭化物片多く混じる、  
 4 黒色炭化物、  
 5 茶褐色シルト、  
 6 黒色炭化物、  
 7 地山。

8上SK3

3.738m Δ



- 8上SK3  
 1 茶褐色シルト、  
 2 黄褐色シルト、  
 3 茶褐色シルト、  
 4 黄褐色シルト、  
 5 茶褐色シルト、  
 6 暗茶褐色シルト、  
 7 茶褐色シルト、炭化物片・焼土混入、  
 8 地山。

8上SK71

3.738m Δ



- 8上SK71  
 1 暗茶褐色シルト、  
 2 地山。

8上P428

3.760m Δ



- 8上P428  
 1 暗茶褐色土、  
 2 暗褐色土、  
 3 黒色炭化物、  
 4 暗褐色土、  
 5 地山。

8上P422

3.760m Δ



- 8上P422  
 1 赤褐色土、  
 2 青褐色粘土、  
 3 黒色炭化物、  
 4 青褐色土、  
 5 黒色炭化物、  
 6 青褐色粘土、炭化物片混じる、  
 7 地山。

8上P422

3.760m Δ



- 8上P422  
 1 赤褐色土、  
 2 青褐色粘土、  
 3 黒色炭化物、  
 4 青褐色土、  
 5 黒色炭化物、  
 6 青褐色粘土、炭化物片混じる、  
 7 地山。

8上SK80

3.765m Δ



- 8上SK80  
 1 暗茶褐色シルト、  
 2 暗褐色シルト、  
 3 黒褐色土、炭化物片少量混じる、  
 4 暗茶褐色シルト、  
 5 暗褐色シルト、炭化物片少量混じる、  
 6 暗茶褐色シルト、  
 7 暗褐色シルト、炭化物片大量に混じる、  
 8 地山。

8上SK66 3-5

3.760m Δ



8上SK66

3.760m Δ



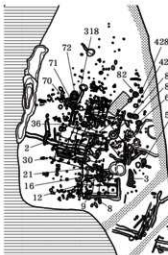
- 8上SK66  
 1 茶褐色シルト、炭化物片少量混じる、  
 2 暗褐色シルト、炭化物片少量混じる、  
 3 暗褐色シルト、炭化物片少量混じる、  
 4 地山。

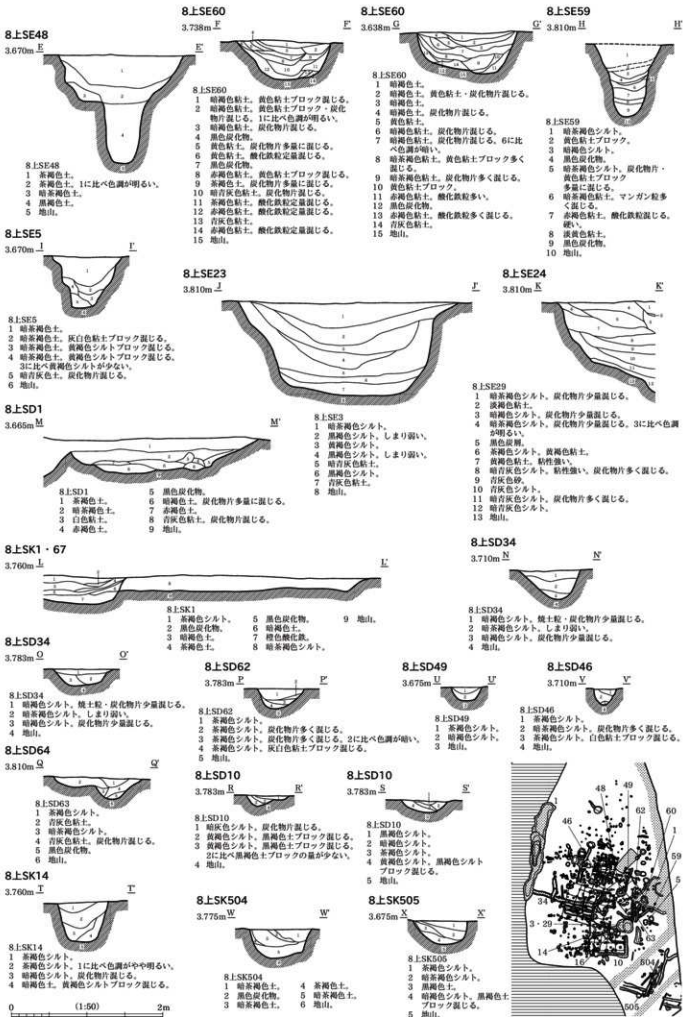
8上SK12、SD21

3.783m Δ

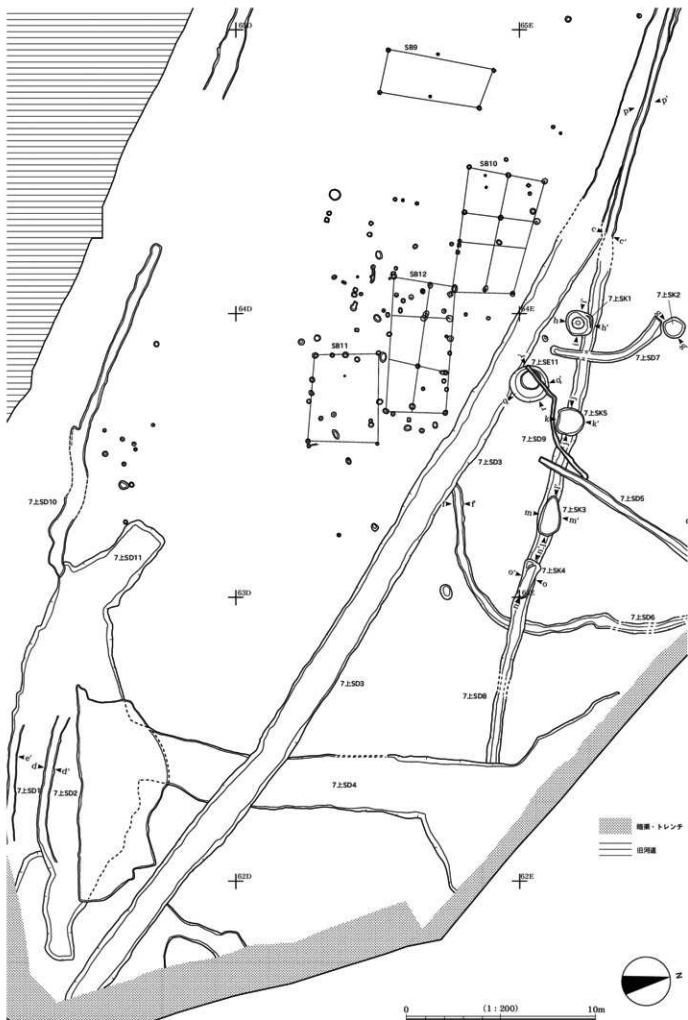


- 8上SK12・SD21  
 1 暗褐色シルト、炭化物片少量混じる、  
 2 暗褐色シルト、1に比べ色調がやや明るい、  
 3 黄褐色土、暗褐色シルトブロック混じる、  
 4 地山、  
 1: SD21、2・3: SK12









## 7上SD10

3.650m a



## 7上SD10

- 1 明褐色シルト、酸化鉄・マンガン靱着する。
- 2 地山。

## 7上SD8

4.050m c



## 7上SD8

- 1 明褐色シルト、マンガン靱多量に靱着する。基本順序IIa層。
- 2 明褐色シルト質粘土。基本順序IIb層。
- 3 褐色粘質シルト、マンガン靱多量に靱着する。基本順序IIa層。
- 4 地山。

## 7上SD6

3.850m f



## 7上SD6

- 1 茶褐色シルト。
- 2 明茶褐色シルト、白色シルトブロック靱着する。
- 3 暗茶褐色シルト、マンガン靱着する。
- 4 地山。

## 7上SD2

3.850m d



## 7上SD2

- 1 暗褐色粘質シルト、マンガン靱多量に靱着する。
- 2 地山。

## 7上SD1

3.850m g



## 7上SD1

- 1 茶褐色粘質シルト、マンガン靱多量に靱着する。
- 2 地山。

## 7上SD10

3.650m h



## 7上SD10

- 1 明褐色シルト、酸化鉄・マンガン靱着する。
- 2 明褐色シルト、白色シルト・マンガン靱着する。基本順序IIa層。
- 3 地山。

## 7上SK1

3.750m b



## 7上SK1 (b・d)

- 1 褐色砂質シルト、焼土粒・炭化物片(1mm以下)少量靱着する。
- 2 暗褐色シルト、焼土粒・炭化物片(2mm以下)少量靱着する。
- 3 黒褐色粘質シルト、焼土粒・炭化物片(2mm以下)多量に靱着する。
- 4 地山。

## 7上SK3

3.850m j



## 7上SK3

- 1 褐色シルト、焼土粒(5mm以下)・炭化物片(20mm以下)少量、マンガン靱多量に靱着する。
- 2 地山。

## 7上SK2

4.250m a



## 7上SK2

- 1 茶褐色シルト、基本順序IIa層。
- 2 明褐色シルト、基本順序IIa層。
- 3 明褐色シルト、マンガン靱多量に靱着する。基本順序IIb層。
- 4 明褐色シルト、上部に酸化鉄、下部にマンガン靱着する。基本順序IIa層。
- 5 茶褐色シルト、マンガン靱多量に靱着する。基本順序IIa層。
- 6 明褐色シルト質粘土。
- 7 青灰色粘土。
- 8 明褐色粘土。
- 9 黒褐色粘土。
- 10 褐色シルト。
- 11 黒褐色粘土。
- 12 青灰色粘土。
- 13 地山。

## 7上SK4

3.850m g



## 7上SK4 (n・o)

- 1 褐色シルト、炭化物片(2mm以下)・焼土粒少量、マンガン靱多量に靱着する。
- 2 明褐色シルト、炭化物片(1mm以下)少量、明褐色土ブロック少量、マンガン靱少量に靱着する。
- 3 黒褐色炭化物。
- 4 地山。

## 7上SE11

3.450m a



## 7上SE11

- 1 青灰色粘土、暗青灰色粘土ブロック靱着する。
- 2 暗青灰色粘土。
- 3 覆土。
- 4 茶褐色シルト。
- 5 青灰色粘土、暗青灰色粘土ブロック靱着する。
- 6 暗青灰色粘土ブロックと青灰色粘土ブロックの混在。
- 7 黄褐色粘土。
- 8 青灰色粘土、炭化物片靱着する。
- 9 青灰色砂質シルト。
- 10 黄褐色シルト。
- 11 暗青灰色シルト。
- 12 地山。

## 7上SE11

3.450m b



## 7上SE11

- 1 褐色シルト。
- 2 青灰色粘土、マンガン靱着する。
- 3 青灰色粘土、暗青灰色粘土ブロック靱着する。
- 4 暗褐色青灰色粘土。
- 5 暗褐色青灰色粘土。
- 6 暗青灰色粘土、青灰色粘土ブロック靱着する。
- 7 青灰色粘土、炭化物片靱着する。
- 8 黄褐色粘土。
- 9 暗青灰色粘土、青灰色粘土ブロック靱着する。
- 10 青灰色粘土。
- 11 青灰色砂質シルト。
- 12 青灰色粘土。
- 13 青灰色砂質シルト。
- 14 黄褐色シルト。
- 15 暗青灰色粘土。
- 16 地山。

## 7上SK5

3.850m j

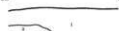


## 7上SK5 (j・k)

- 1 茶褐色粘質シルト、マンガン靱多量に靱着する。
- 2 灰褐色粘質シルト。
- 3 灰褐色粘質シルト。
- 4 茶褐色粘質シルト、マンガン靱多量に靱着する。
- 5 地山。

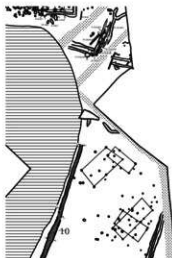
## 7上SD8

4.150m d

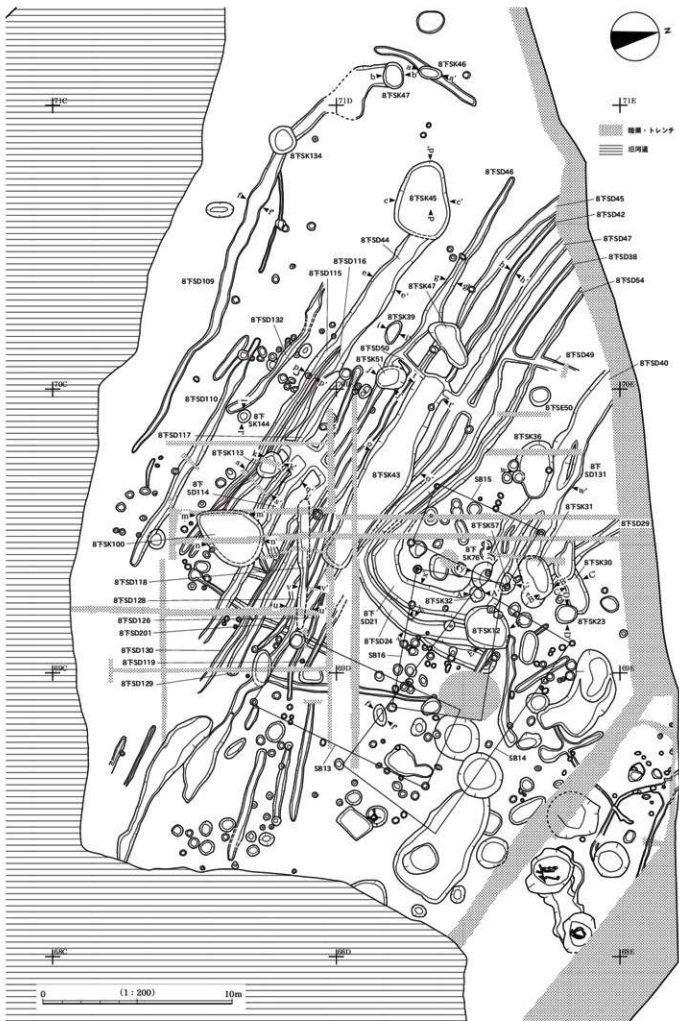


## 7上SD8

- 1 明褐色粘質シルト、基本順序IIa層。
- 2 灰褐色シルト質粘土、7上SD3の覆土。
- 3 明褐色シルト、マンガン靱多量に靱着する。基本順序IIb層。
- 4 明褐色シルト、マンガン靱多量に靱着する。基本順序IIa層。
- 5 灰褐色粘土、黄色シルトブロック・マンガン靱多量に靱着する。
- 6 暗褐色シルト、マンガン靱多量に靱着する。基本順序IIa層。
- 7 明褐色シルト質粘土。基本順序IIb層。古代の遺物を含む。
- 8 地山。

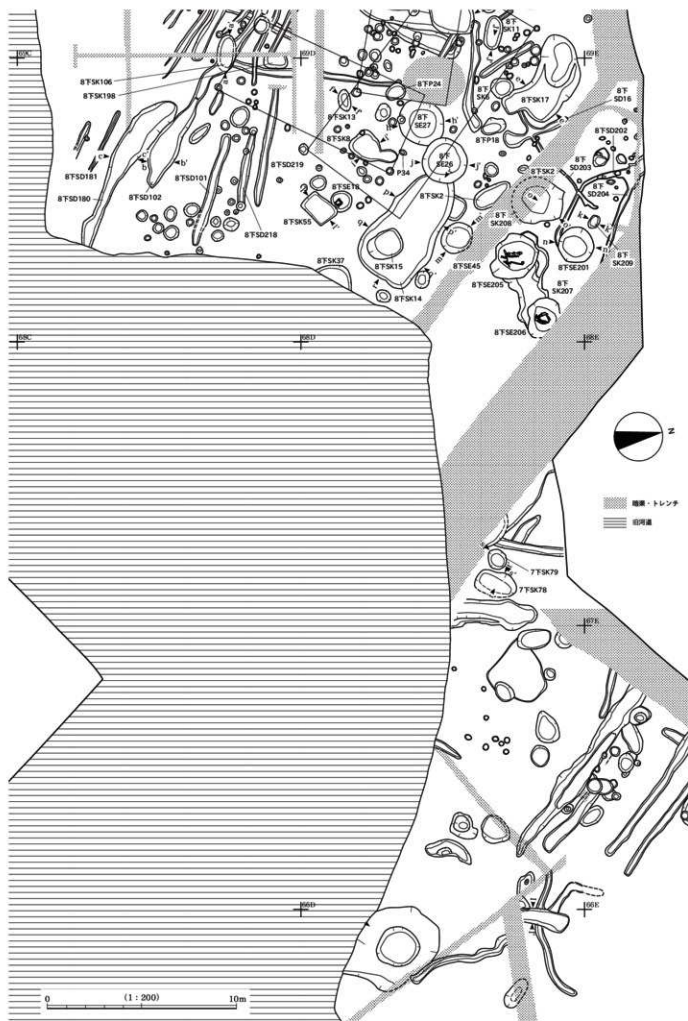


0 (1:50) 2m









8FSK106

3.210m



8FSK106

- 1 黒褐色粘土。
- 2 灰白色粘土。
- 3 黒色炭化物、青灰色粘土・暗茶褐色粘土ブロック混じる。
- 4 暗青灰色粘土。
- 5 褐色炭化物。
- 6 堆山。

8FSK17

3.900m

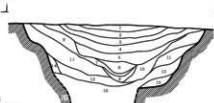


8FSK17

- 1 暗茶褐色粘土。酸化鉄粒・炭化物片混じる。基本層序VII層。
- 2 暗灰褐色粘土。赤褐色粘土ブロック多く混じる。
- 3 黒色炭化物。
- 4 暗灰褐色粘土。炭化物片・酸化鉄粒少量混じる。
- 5 褐色粘土。炭化物片多く混じる。
- 6 暗灰褐色粘土。青灰色粘土ブロック・炭化物片混じる。
- 7 青灰褐色粘土。青灰色粘土ブロック混じる。
- 8 堆山。

8TSE26

4.000m



8TSE26

- 1 青灰色粘土。
- 2 青灰色粘土。炭化物片多く混じる。
- 3 黒色炭化物。
- 4 黒色炭化物。青灰色粘土ブロック多く混じる。
- 5 黒色炭化物。青灰色粘土ブロック少量混じる。
- 6 黒色炭化物。青灰色粘土ブロック多く混じる。
- 7 青灰色砂。
- 8 黒色炭化物。
- 9 青灰色粘土。炭化物片混じる。
- 10 青灰色砂。
- 11 青灰色砂。
- 12 青灰色砂。青灰色粘土ブロック混じる。
- 13 青灰色砂。炭化物片多く混じる。
- 14 青灰色粘土。青灰色砂混じる。
- 15 青灰色粘土。炭化物片多く混じる。
- 16 暗青灰色粘土。炭化物片混じる。
- 17 堆山。

8TSE201

3.210m



8TSE201

- 1 暗茶褐色粘土。
- 2 黄茶褐色粘土ブロック・青灰色粘土ブロックの混合。炭化物片少量混じる。
- 3 暗茶褐色土。炭化物片混じる。基本層序VII層。
- 4 暗灰褐色土。炭化物片多く混じる。
- 5 黒色粘土。炭化物片多く混じる。
- 6 灰褐色土。炭化物片少量混じる。
- 7 堆山。

8TFSK14

3.210m



8TFSK14

3.310m



8TFSK14

3.310m



7FSK79

3.400m



7FSK79

- 1 暗青灰色粘土。炭化物片(〜10mm)少量混じる。
- 2 灰褐色土。炭化物片(〜5mm)多量に混じる。
- 3 堆山。

8TSD102

3.210m



8TSD102

- 1 暗茶褐色粘土。炭化物片混じる。基本層序VII層。
- 2 暗青灰色粘土。炭化物片混じる。
- 3 堆山。

8TFSK13

3.900m



8TFSK13

- 1 暗茶褐色粘土。炭化物片・酸化鉄粒混じる。基本層序VII層。
- 2 暗茶褐色粘土。酸化鉄粒多量に混じる。
- 3 黄褐色粘土。暗茶褐色粘土ブロック混じる。
- 4 堆山。

8TFSK8

4.000m



8TFSK8

- 1 暗茶褐色粘土。基本層序VII層。
- 2 暗茶褐色粘土。黒褐色粘土ブロック混じる。
- 3 淡黄褐色粘土。暗茶褐色粘土ブロック混じる。
- 4 堆山。

8TFSK209

3.138m



8TFSK55

3.110m



8TFSK55

- 1 暗灰褐色土。炭化物片混じる。基本層序VII層。
- 2 暗青灰色粘土。炭化物片混じる。
- 3 堆山。

8TFSK208

3.110m



8TFSK208

- 1 茶褐色粘土。炭化物片混じる。
- 2 暗茶褐色土。炭化物片多く混じる。
- 3 暗灰褐色土。炭化物少量混じる。
- 4 堆山。

8TFSK14

3.450m



8TFSK14

- 1 黄褐色砂。暗茶褐色粘土ブロック混じる。
- 2 黄褐色粘土。
- 3 暗青灰色粘土。遺物多く出土。
- 4 青灰色粘土。砂混じる。
- 5 青灰色粘土。砂混じる。4と5の境には薄く炭化物片が入る。
- 6 堆山。

7FSK78

3.450m



7FSK78

- 1 暗灰褐色土。炭化物片(〜30mm)少量混じる。
- 2 青灰色粘土。炭化物片(〜5mm)多量に混じる。
- 3 堆山。

8TSD180

3.210m



8TSD180

- 1 黄褐色粘土。
- 2 暗青灰色粘土。
- 3 堆山。

8TFSK11

4.000m



8TFSK11

- 1 黒褐色粘土。
- 2 黄褐色粘土。黒褐色粘土ブロック混じる。
- 3 堆山。

8TSE27

3.210m

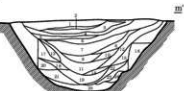


8TSE27

- 1 暗茶褐色粘土。炭化物片混じる。基本層序VII層。
- 2 青灰色砂。暗青灰色粘土ブロック混じる。
- 3 黒褐色粘土。炭化物片混じる。
- 4 青灰色粘土ブロック。炭化物片混じる。
- 5 青灰色砂。暗青灰色粘土ブロック・炭化物片混じる。
- 6 黒色炭化物。青灰色粘土ブロック混じる。
- 7 黒色炭化物。青灰色粘土ブロック混じる。
- 8 黒色炭化物。青灰色粘土ブロック混じる。
- 9 暗青灰色粘土。炭化物片混じる。
- 10 暗青灰色粘土。青灰色砂混じる。
- 11 茶褐色粘土。青灰色粘土ブロック混じる。
- 12 青灰色粘土。青灰色粘土粘土ブロック混じる。
- 13 暗茶褐色粘土。炭化物片混じる。
- 14 黒褐色粘土。炭化物片混じる。
- 15 青灰色砂。
- 16 暗青灰色粘土。炭化物片少量混じる。
- 17 堆山。

8TSE45

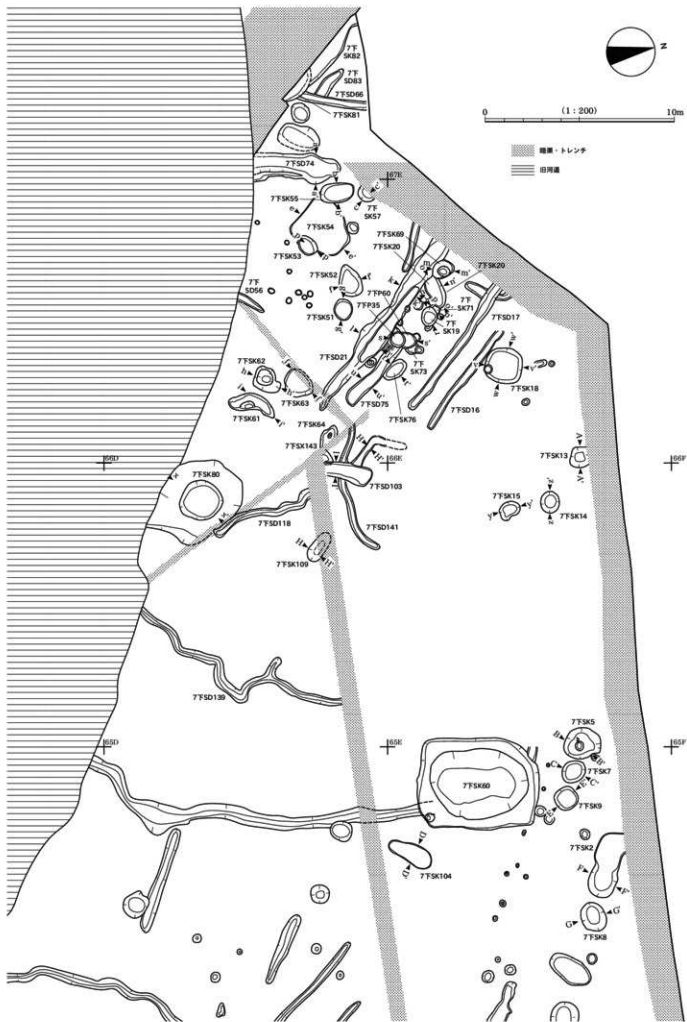
3.310m

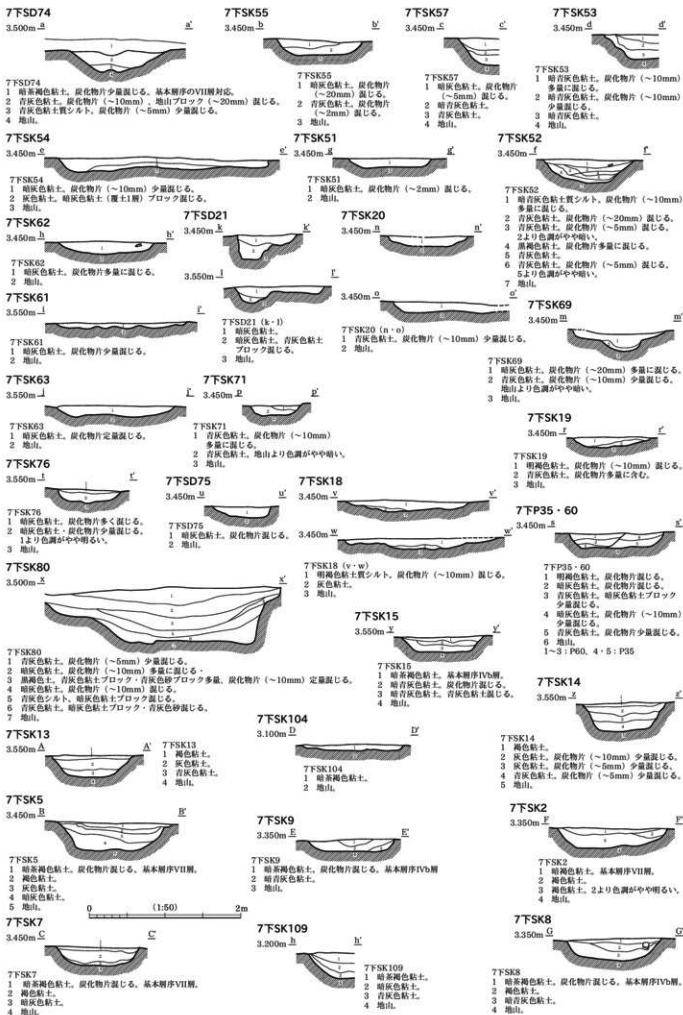


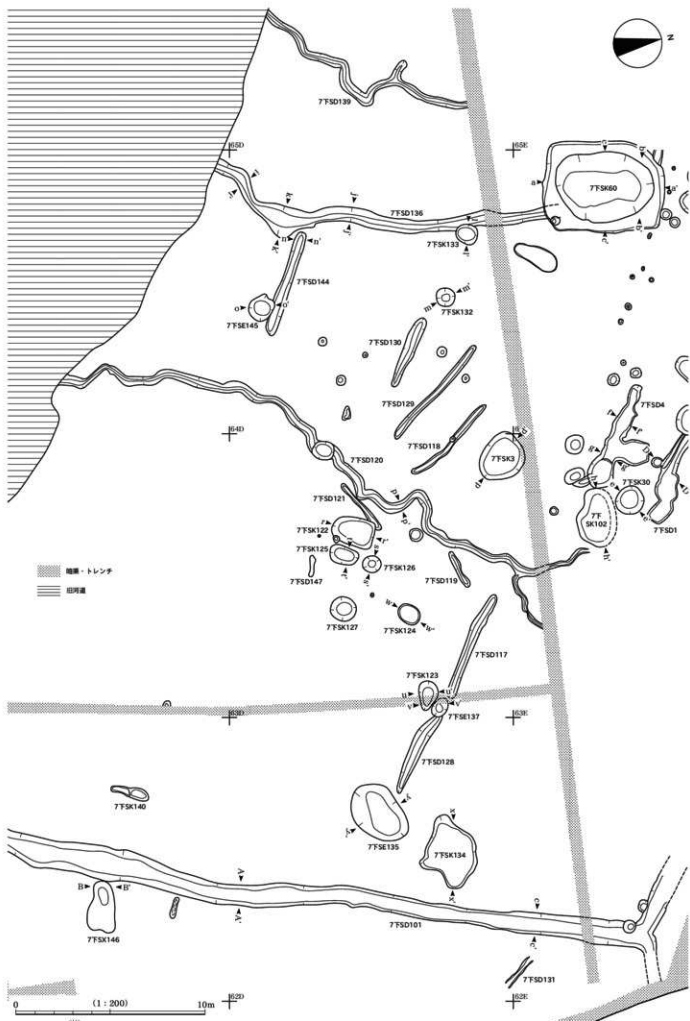
8TSE45

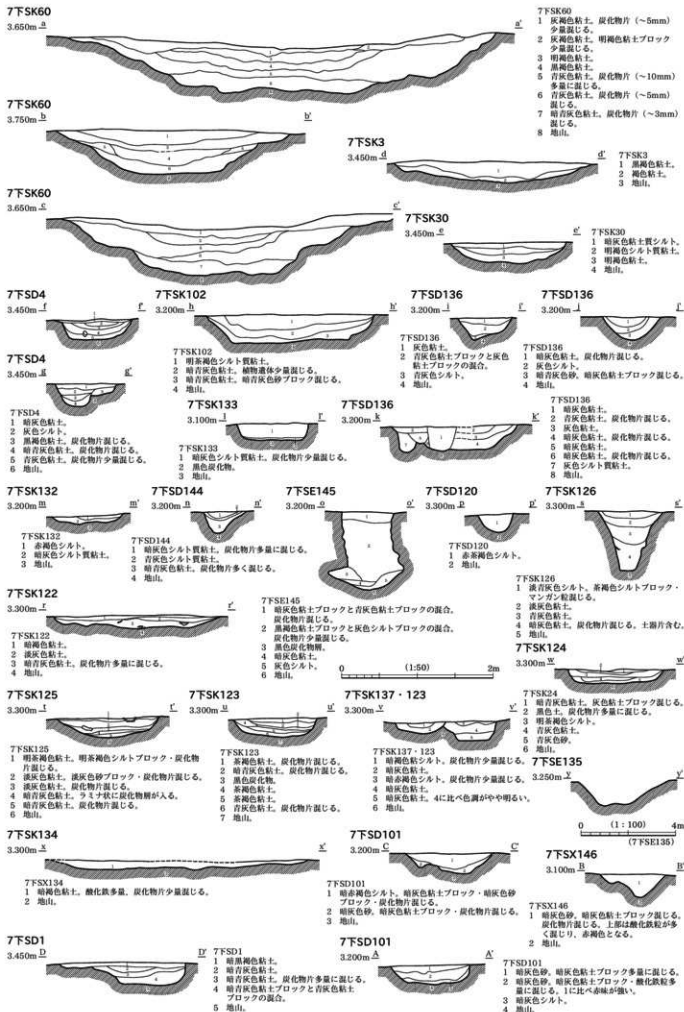
- 1 暗茶褐色粘土。炭化物片混じる。酸化鉄多量混じる。基本層序VII層。
- 2 暗灰褐色粘土。酸化鉄粒多く混じる。
- 3 暗灰褐色粘土。炭化物片多く混じる。
- 4 茶褐色土。酸化鉄粒多く混じる。
- 5 暗茶褐色土。炭化物片多く混じる。
- 6 暗青灰色粘土。炭化物片多く混じる。
- 7 黒褐色粘土。炭化物片多く混じる。青灰色砂混じる。
- 8 青灰色粘土。灰褐色土ブロック混じる。青灰色砂混じる。
- 9 黒褐色粘土。炭化物片多く混じる。
- 10 黒褐色粘土。炭化物片多く混じる。
- 11 黒色炭化物。
- 12 青灰色砂。黒褐色粘土ブロック混じる。
- 13 青灰色砂。炭化物片多く混じる。
- 14 黒褐色粘土。炭化物片・青灰色粘土ブロック混じる。
- 15 青灰色砂。
- 16 青灰色砂。黒褐色粘土ブロック混じる。
- 17 黒色炭化物。青灰色粘土ブロック混じる。
- 18 青灰色粘土。黒褐色粘土ブロック混じる。
- 19 黒色炭化物。
- 20 暗灰褐色土。炭化物片多く混じる。
- 21 青灰色砂。
- 22 青灰色砂。炭化物片混じる。
- 23 暗褐色粘土。
- 24 青灰色砂。
- 25 青灰色粘土。黒褐色粘土ブロック混じる。
- 26 堆山。

0 (1:50) 2m

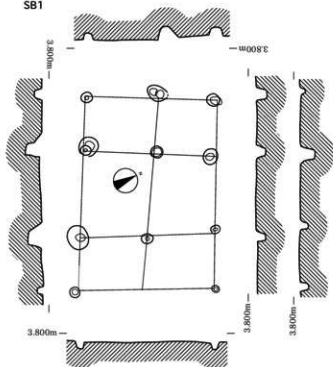




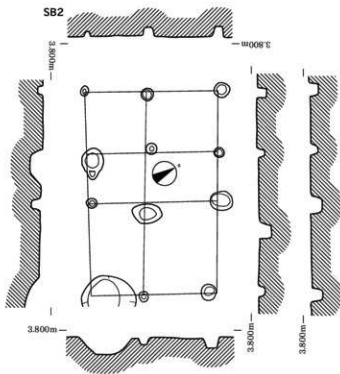




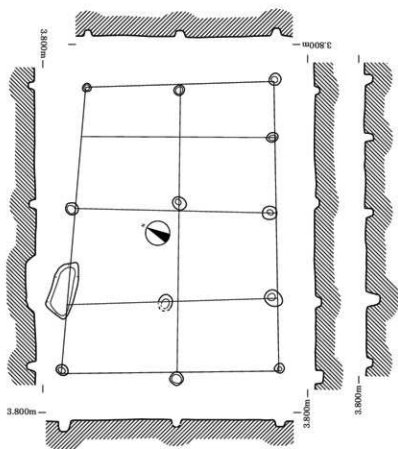
SB1



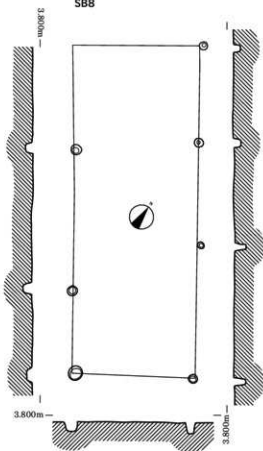
SB2



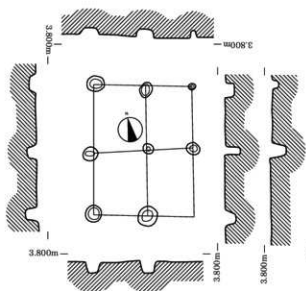
SB4



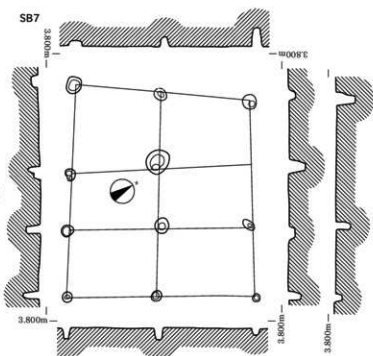
SB8



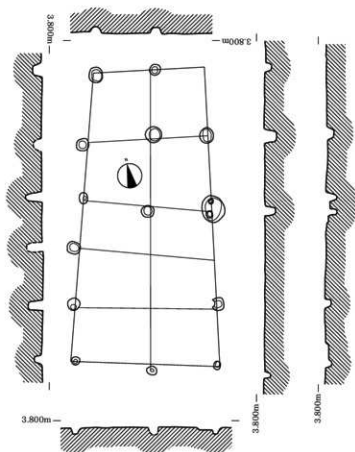
SB3



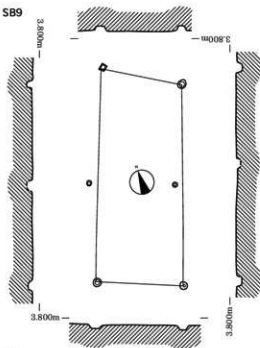
SB7



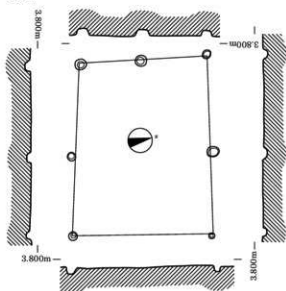
SB5



SB9



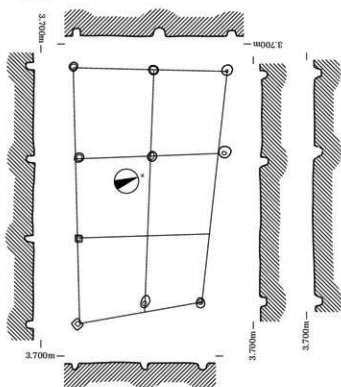
SB11



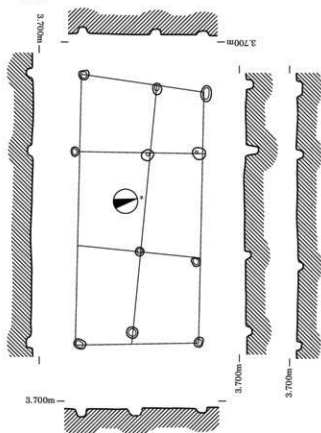
0 (1:100) 4m



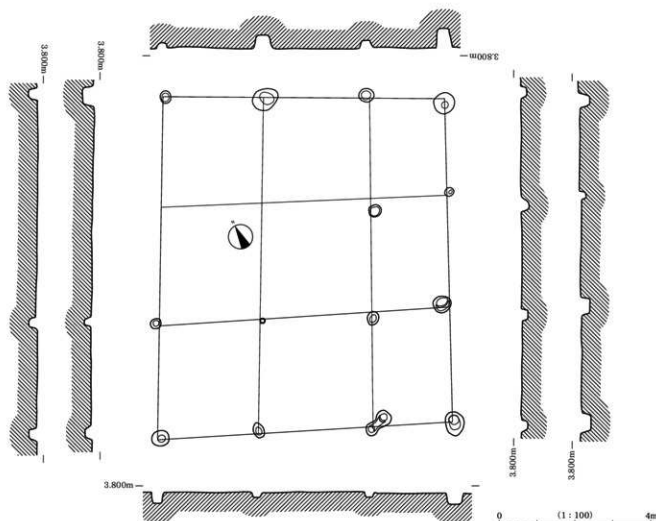
SB10



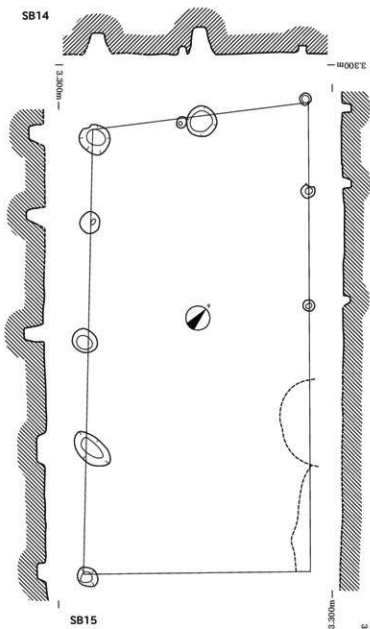
SB12



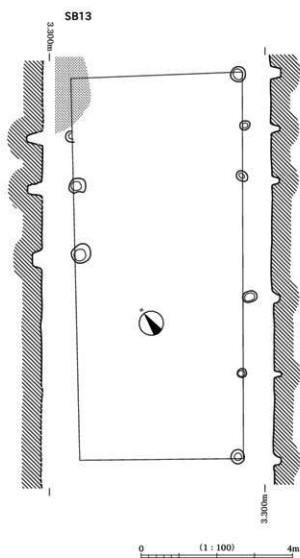
SB6



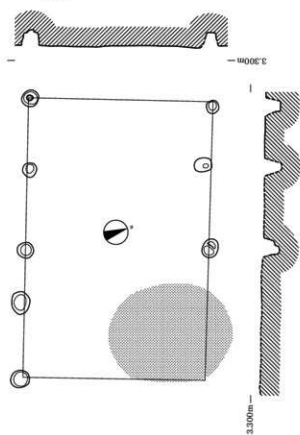
SB14



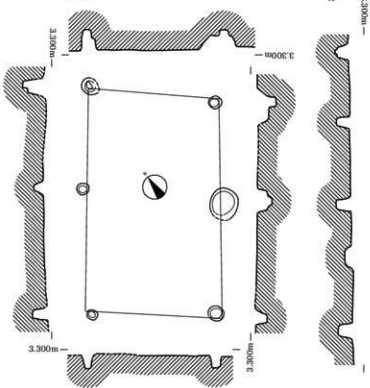
SB13



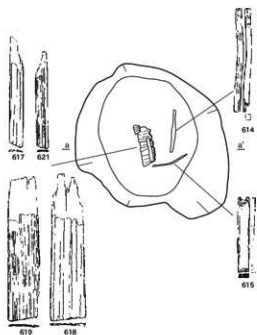
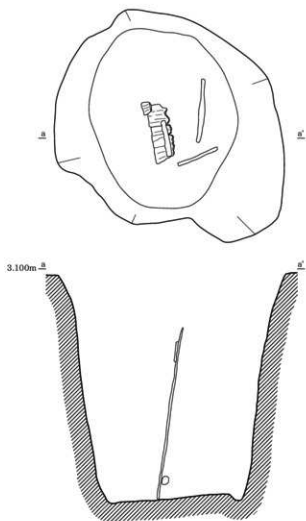
SB16



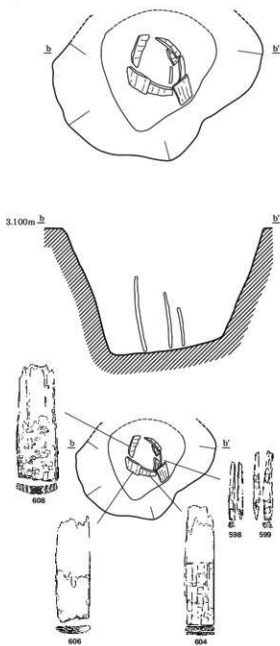
SB15



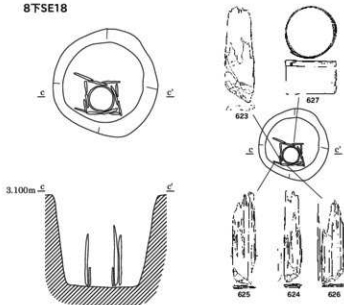
8FSE205

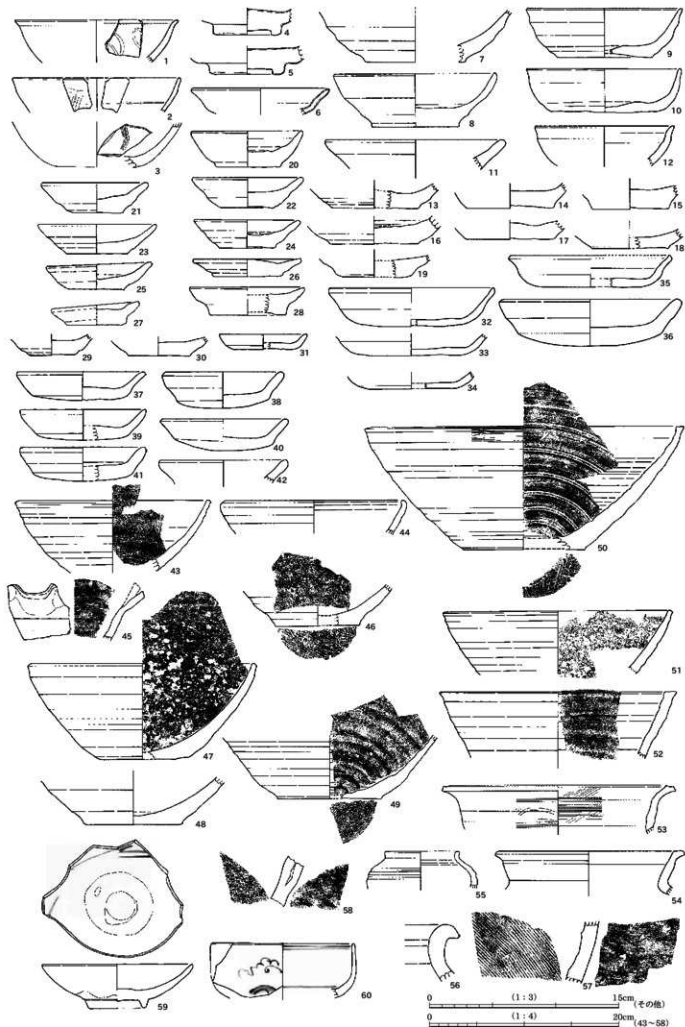


8FSE206

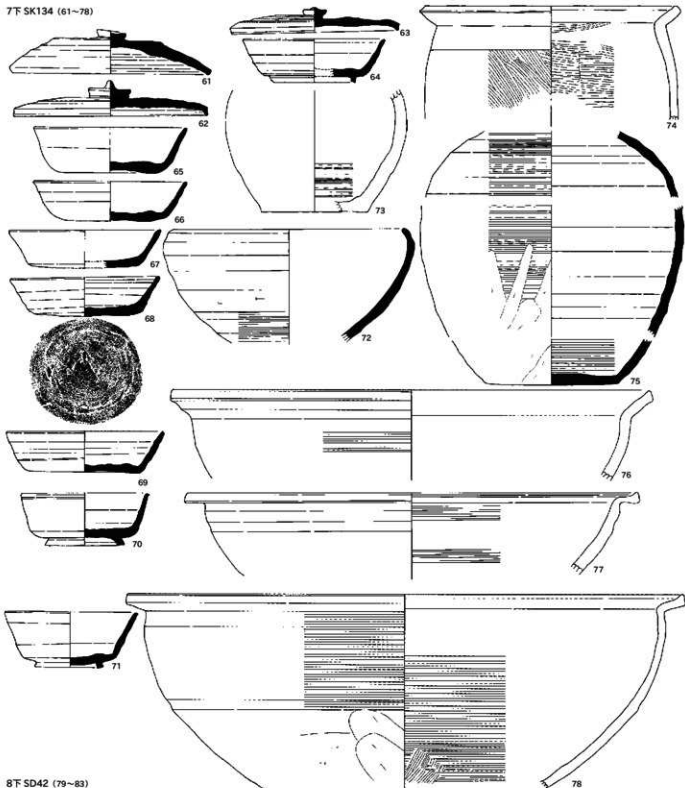


8FSE18

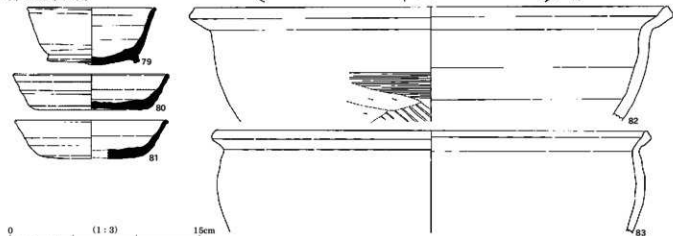




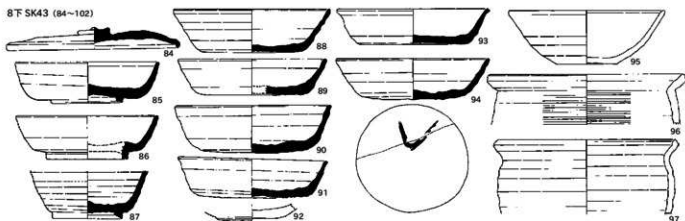
7F SK134 (61~78)



8F SD42 (79~83)

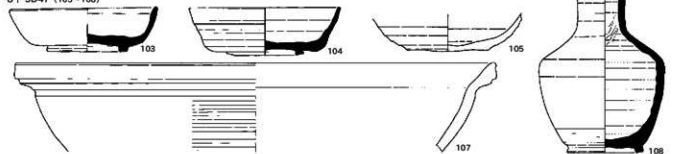


8F SK43 (84~102)

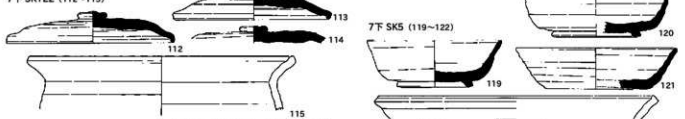


8T SK47b (109~111)

8F SD47 (103~108)



7F SK122 (112~115)



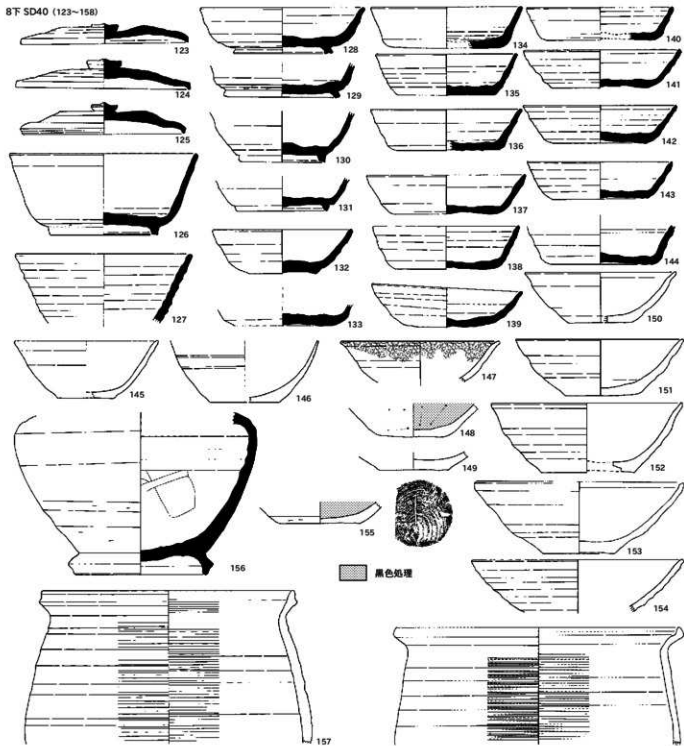
7F SK5 (119~122)



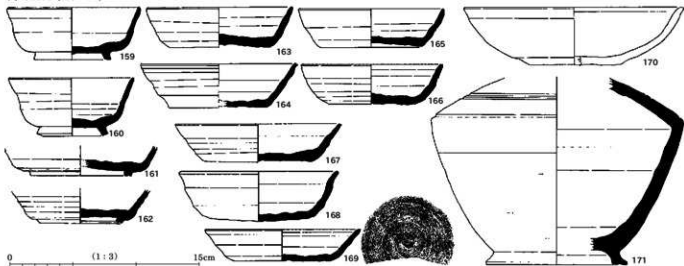
7F SK109 (116~118)



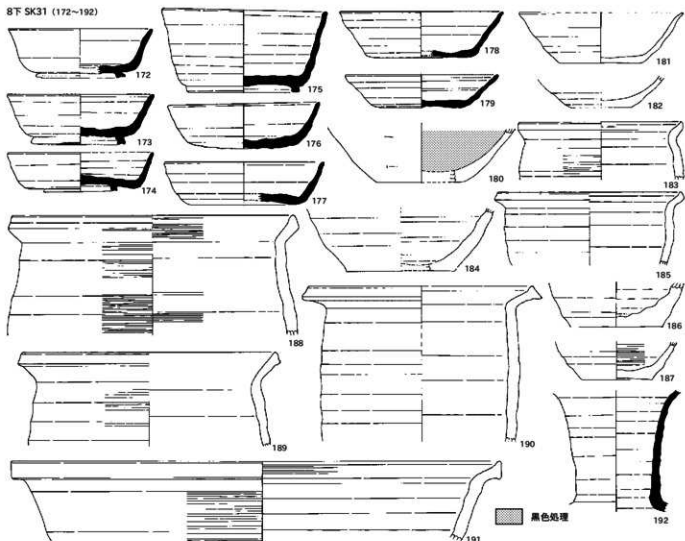
8下 SD40 (123~158)



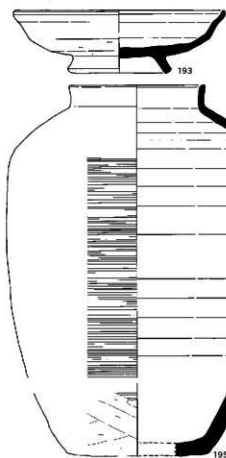
8下 SE205 (159~171)



8F SK31 (172~192)



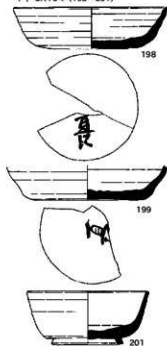
7F SD1 (193~195)



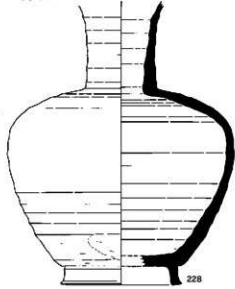
7F SD4 (196~197)



7F SK104 (198~201)

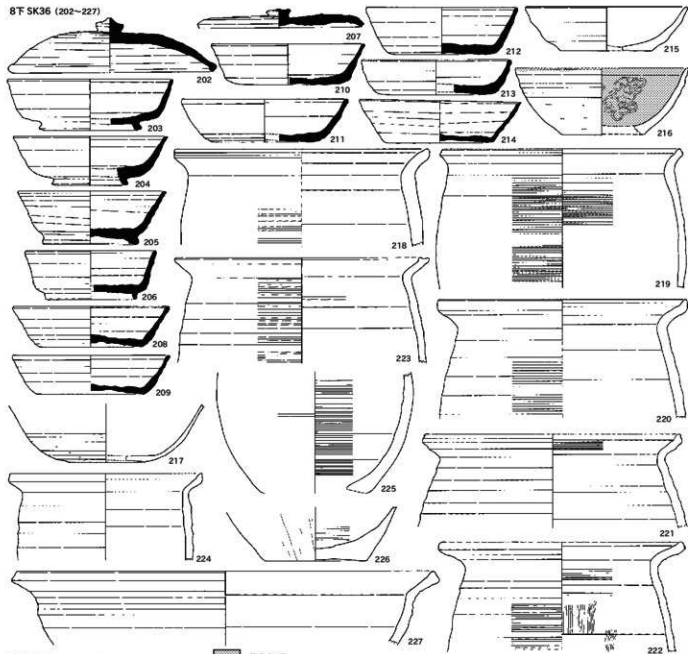


8F SK17

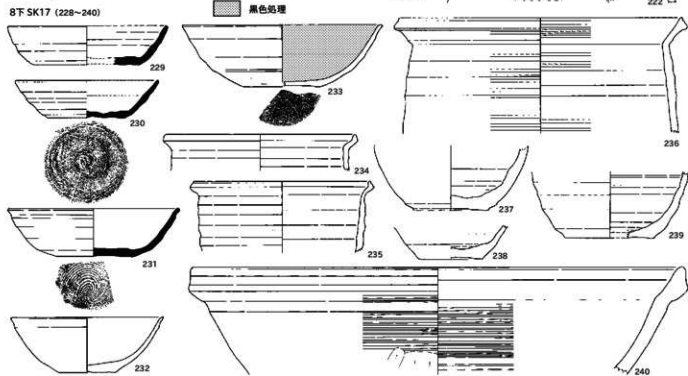




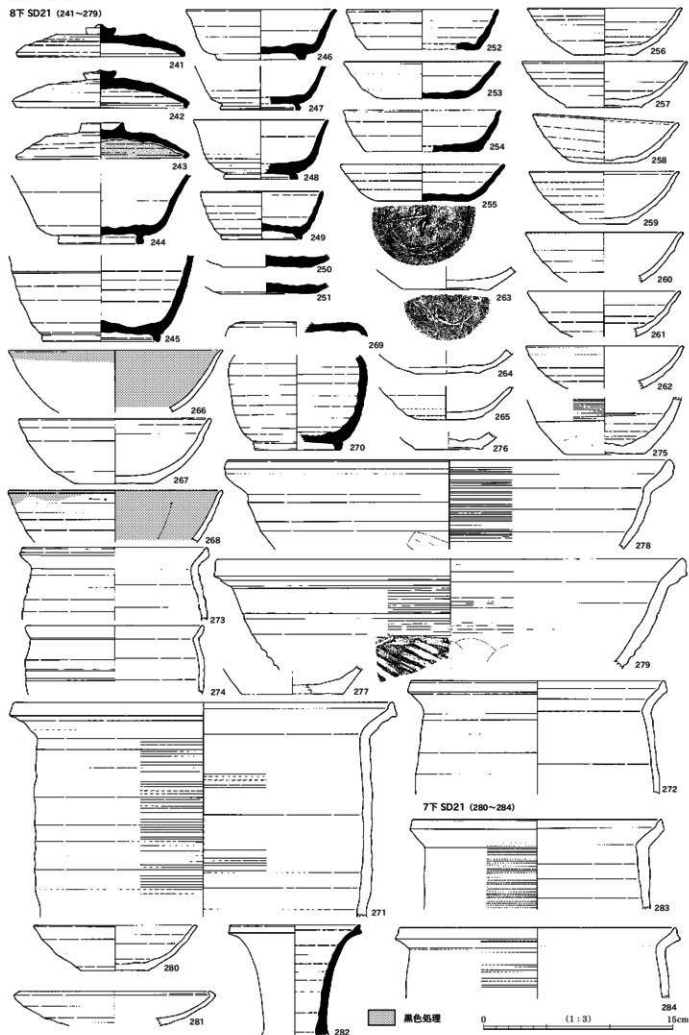
8F SK36 (202~227)



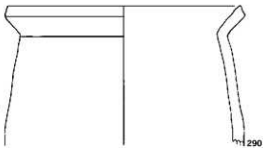
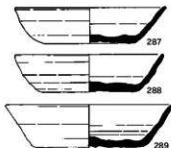
8F SK17 (228~240)



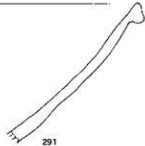
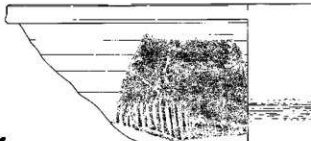
8下 SD21 (241~279)



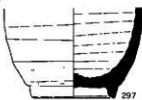
8T SD44 (285~291)



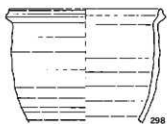
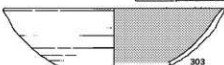
7F SK57 (292~293)



8T SE201 (294~298)



8T SD46 (299~304)

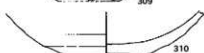
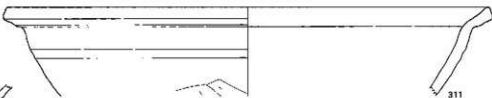


8T SD105 (305~307)



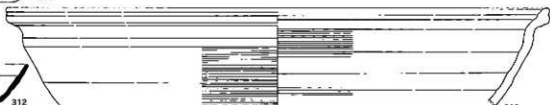
■ 黒色処理

8T SK51 (308~311)

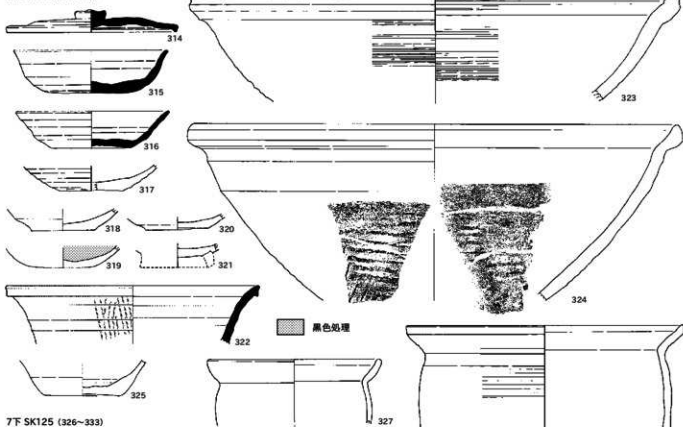


0 (1:3) 16cm

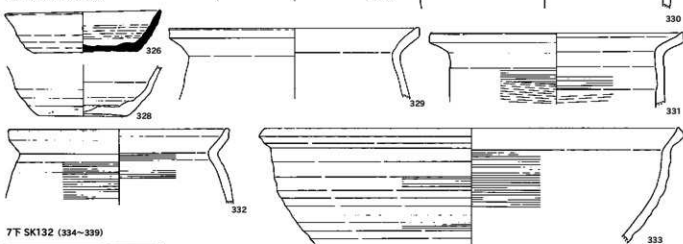
7F SK51-52 (312~313)



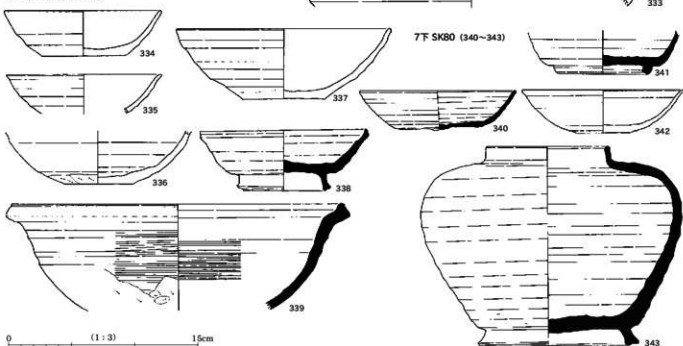
8F SD38 (314~325)



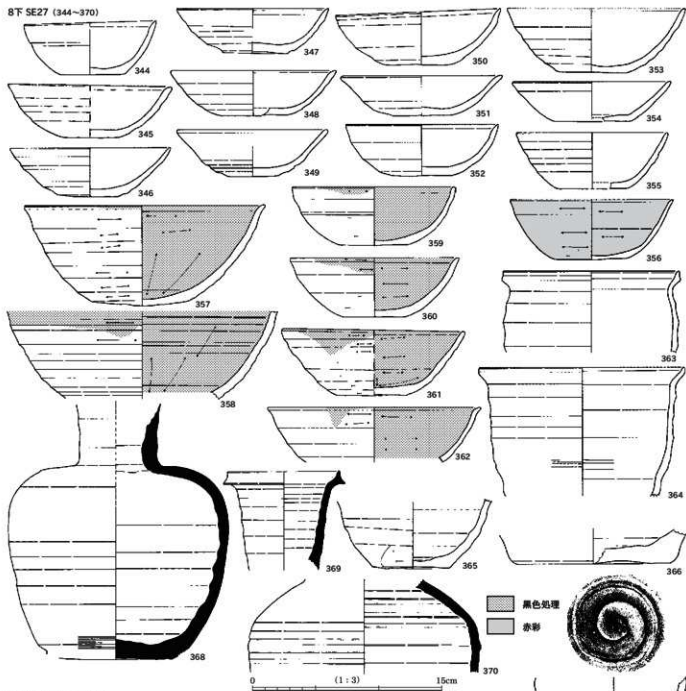
7F SK125 (326~333)



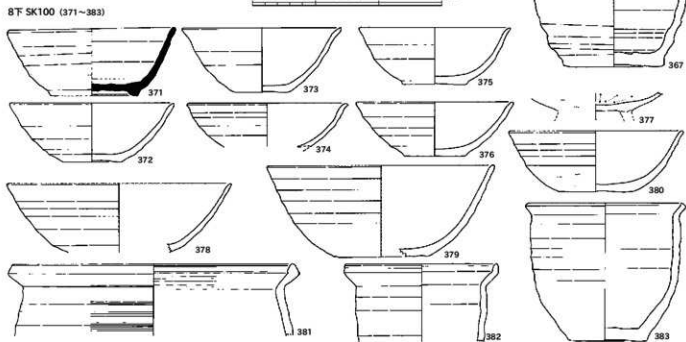
7F SK132 (334~339)



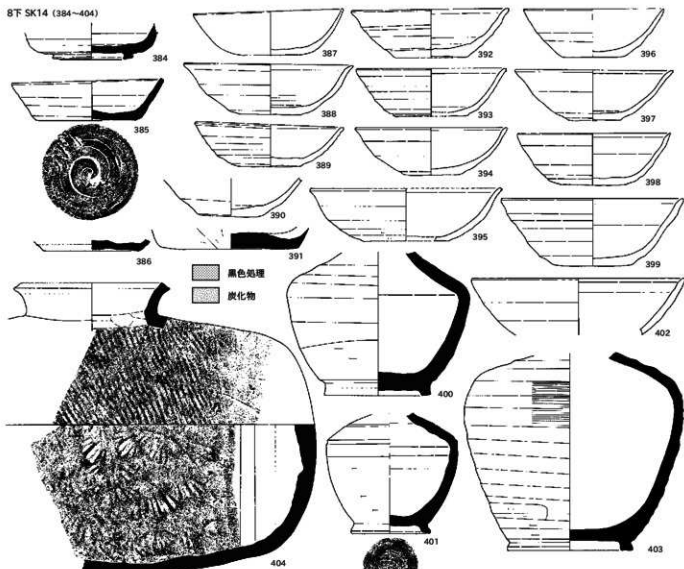
8F SE27 (344~370)



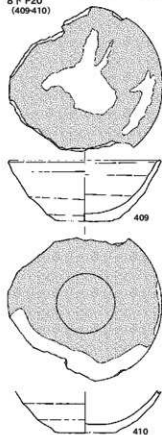
8F SK100 (371~383)



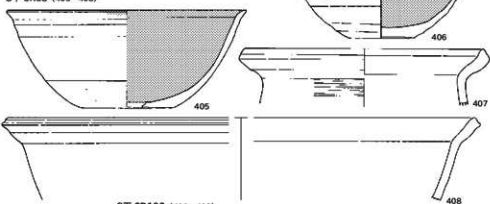
8T SK14 (384~404)



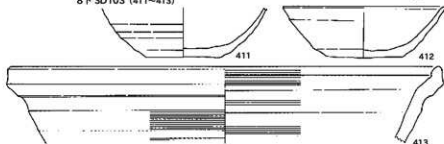
8下 P20 (409~410)



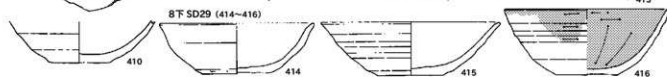
8下 SK58 (405~408)



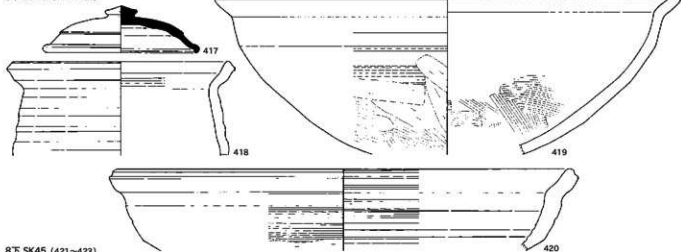
8下 SD103 (411~413)



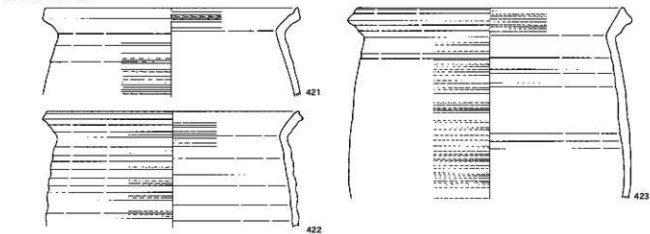
8下 SD29 (414~416)



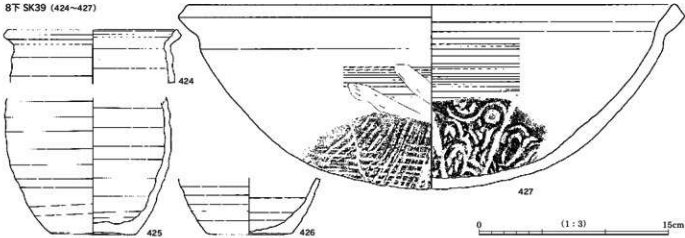
8F 5D45 (417~420)



8F 5K45 (421~423)

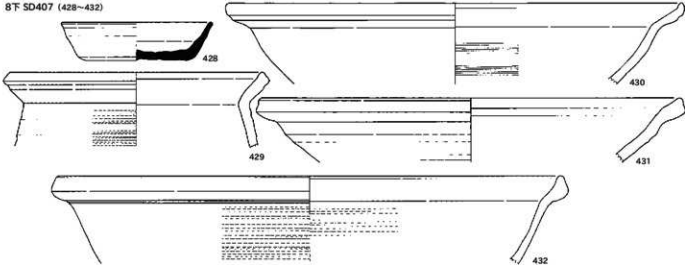


8F 5K39 (424~427)

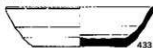


0 (1:3) 15cm

8F 5D407 (428~432)



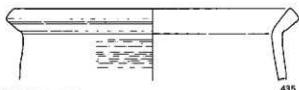
8F SD114 (433~436)



433



434



435



436

7F SK79 (437~440)



437



438



439

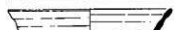


440

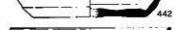
8F SD30 (441~445)



441



442



443



444

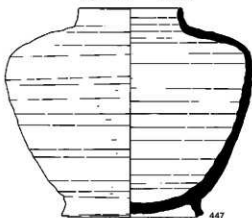
7F SK60 (446~447)



446



445

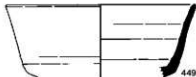


447

8F SD180 (448~449)

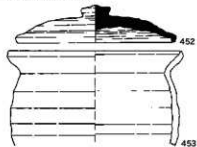


448

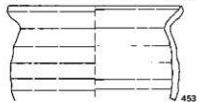


449

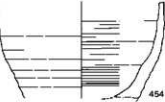
8F SK34 (452~455)



452



453



454

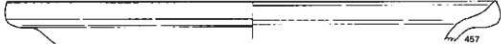


455

8F SD54 (456~457)



456

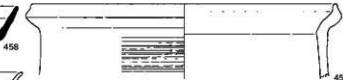
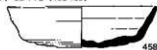


457

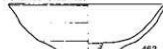
0 (1:3) 15cm



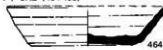
8F SD118 (458-459)



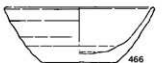
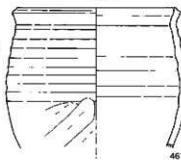
7F SK63 (462-463)



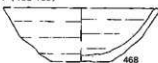
7F SK2 (464-465)



8F SK33 (460-461)



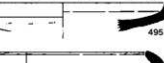
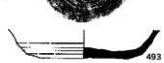
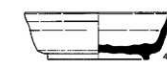
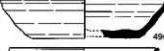
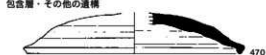
8F P14 (468-469)

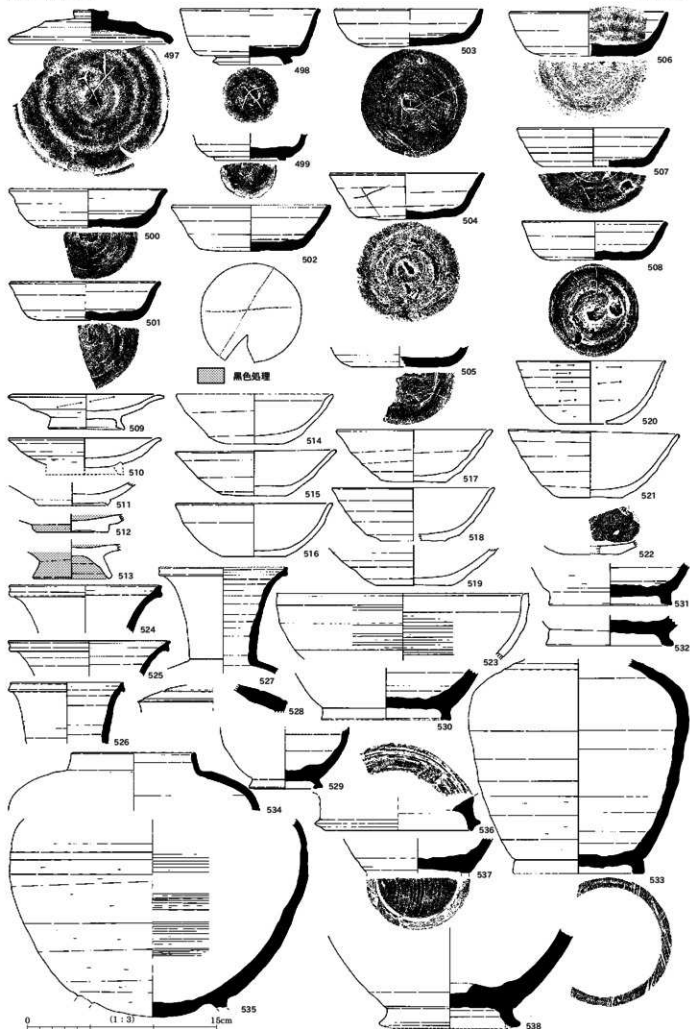


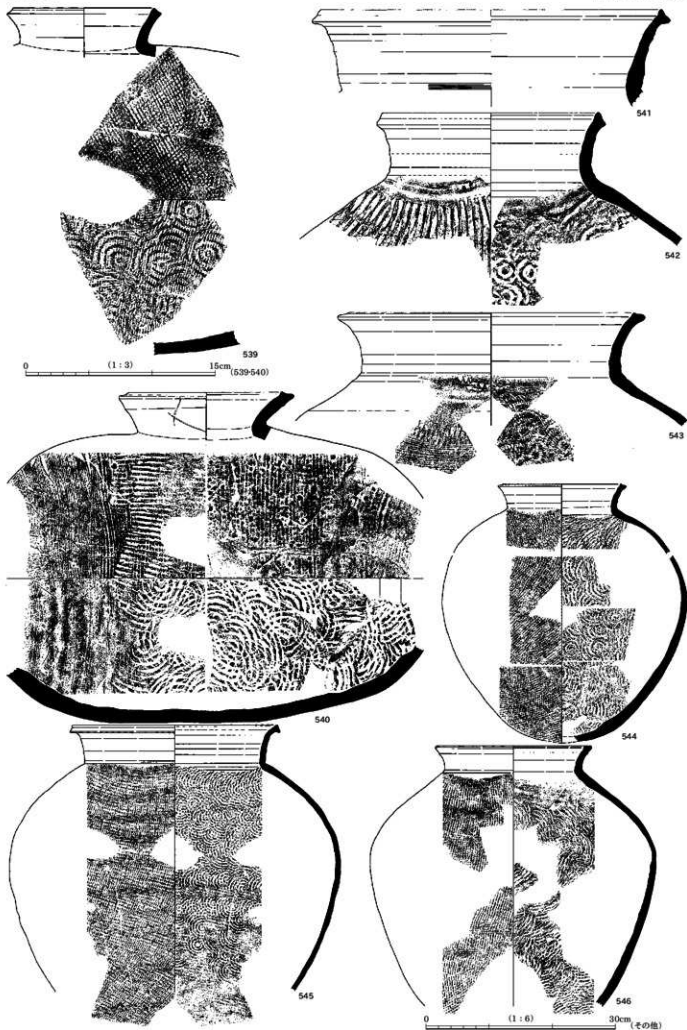
7F SD144 (466-467)

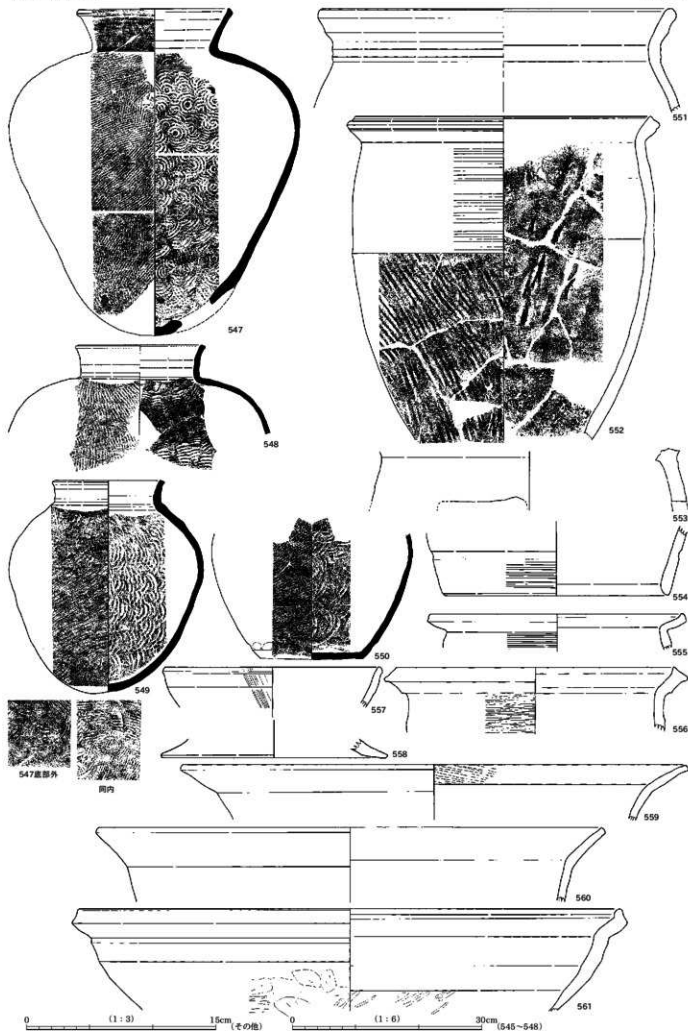


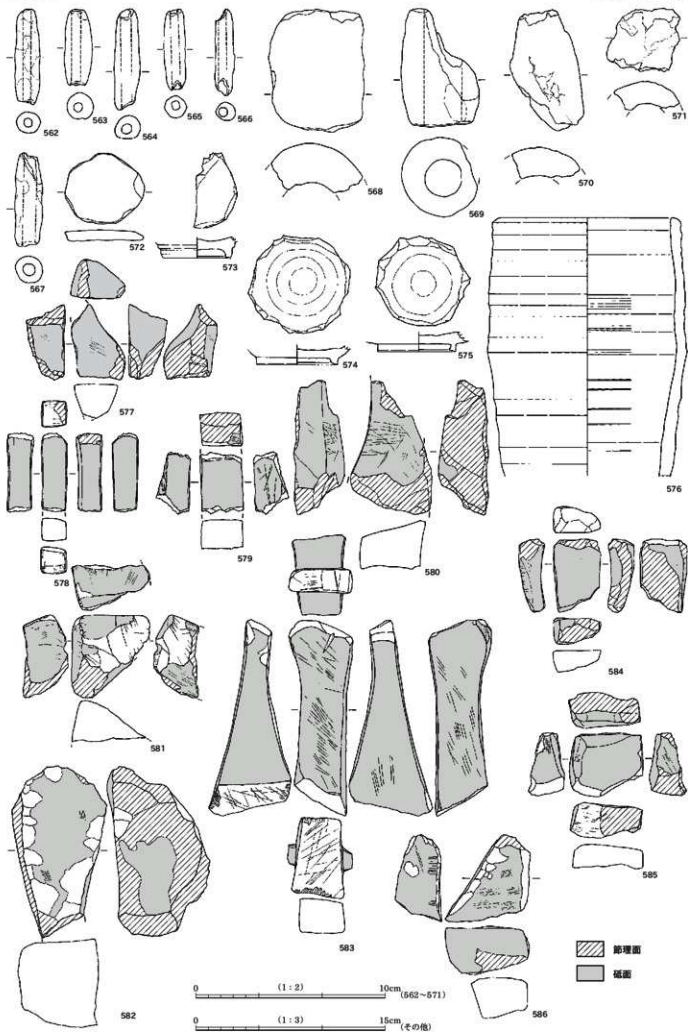
包含層・その他の遺構

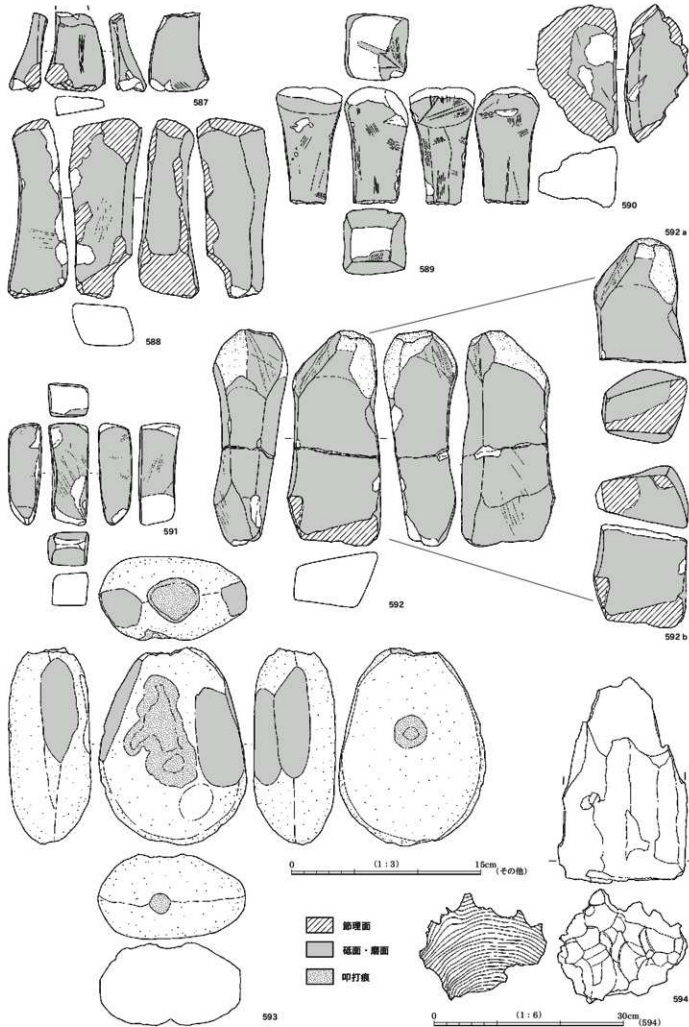




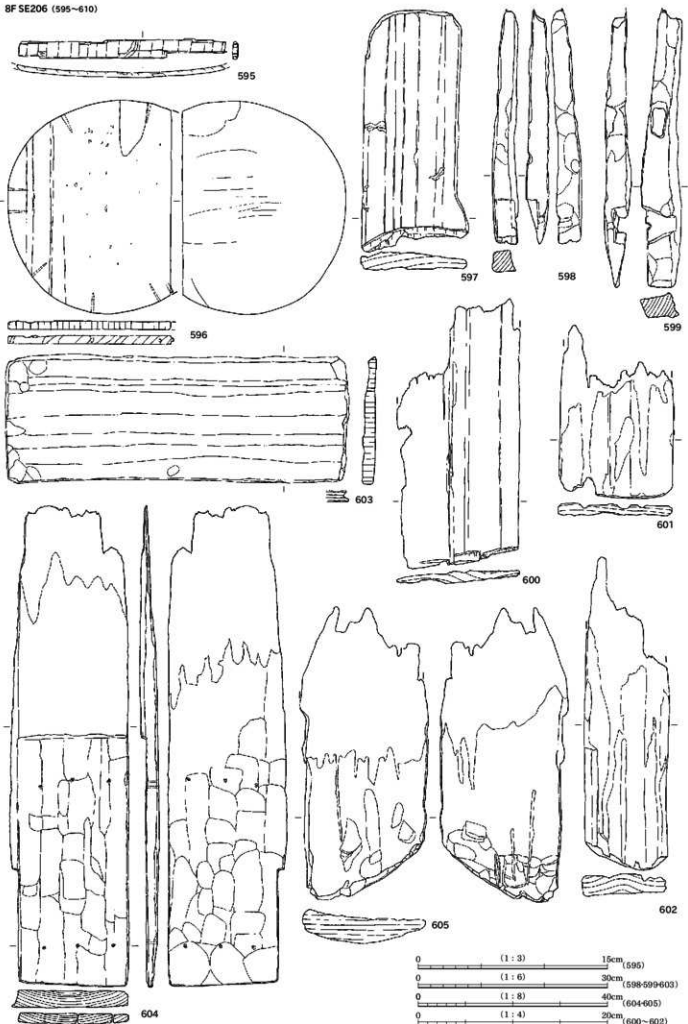


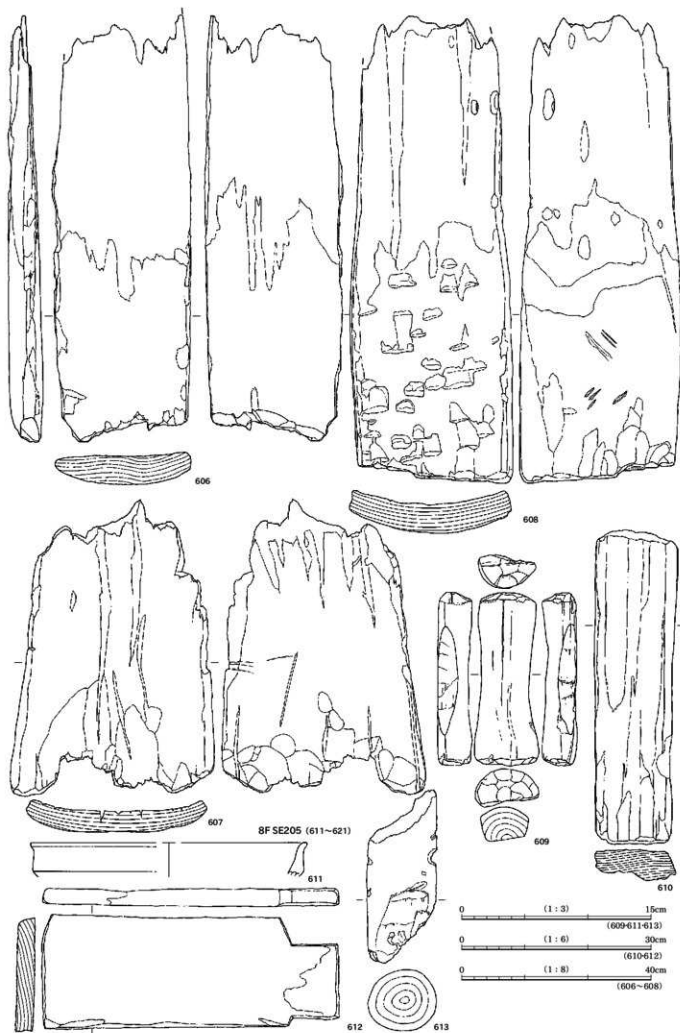




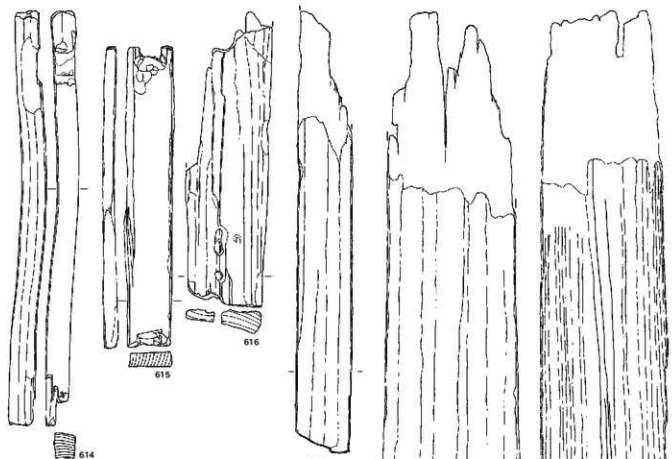


BF SE206 (595~610)

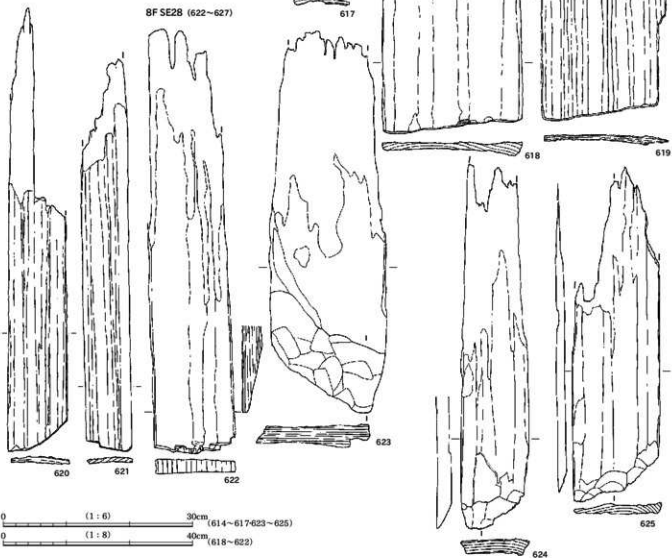




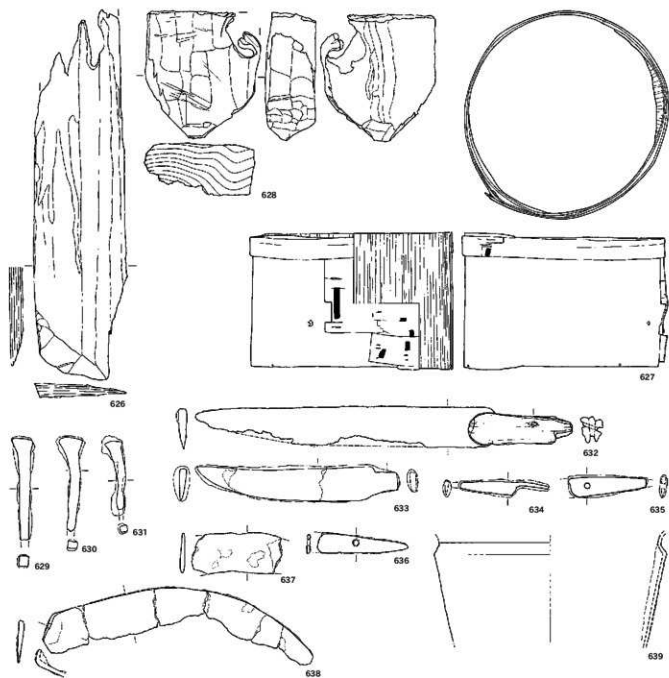




8F SE28 (622~627)

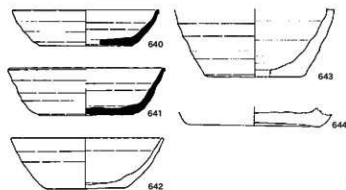


0 (1:6) 30cm (614~617-623~625)  
 0 (1:8) 40cm (618~622)

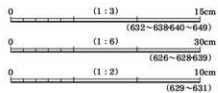
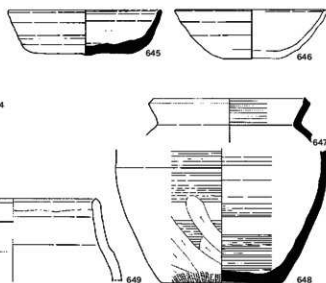


追加

8下SE205 (640~643)



その他 (645~649)





C地点7区上層完掘（西から）



C地点8区上層完掘（東から）



SB3 完掘 (東から)



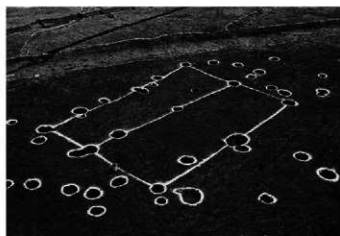
SB7 完掘 (東から)



SB9 完掘 (北から)



SB11 完掘 (東から)



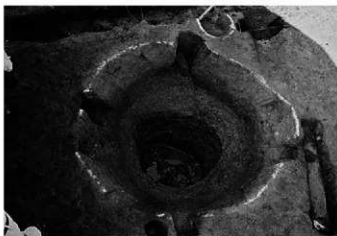
SB12 完掘 (北から)



SB11・12・13 完掘 (北西から)



8上SE48 断面 (東から)



8上SE48 完掘 (東から)



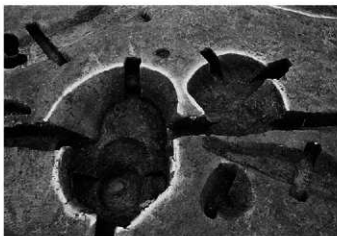
8上 SE60 断面 (東から)



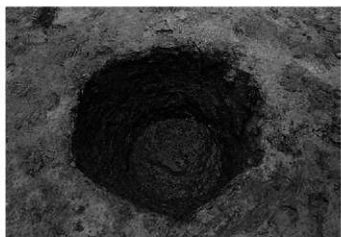
8上 SE60 断面 (北から)



8上 SE5 断面 (東から)



8上 SE5・SK58 完掘 (東から)



8上 SE59 完掘 (東から)



8上 SE23・24 完掘 (西から)



8上 SK1 検出状況



8上 SK1 遺物出土状況



8上SK72 (北から)



8上SK72 (北から)



8上SK70・71断面 (北から)



8上SK70・71完掘 (北から)



8上P428断面 (北東から)



8上P422断面 (東から)



8上P318断面 (北から)



8上SK36断面 (北から)



8上SK30断面 (北から)



8上SK30断面 (北から)



8上SK30断面 (北から)



8上SK30炭層上面 (東から)



8上SK30遺物出土状況 (東から)



8上SK30完掘 (東から)



8上SK3断面 (東から)



8上SK3完掘 (北から)



8上SK1断面 (北から)



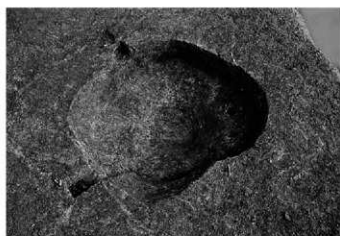
8上SK1遺物出土状況 (北から)



7上SK1断面 (北から)



7上SK1断面 (北から)



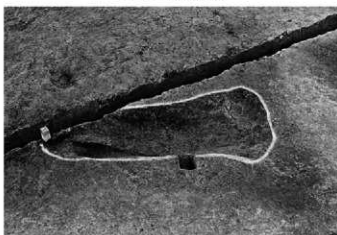
7上SK1完掘 (北から)



7上SK4断面 (北から)



7上SK4断面 (北から)



7上SK4完掘 (北から)





7上SK2断面 (北西から)



7上SK2完掘 (北西から)



7上SK3断面 (北から)



7上SK3完掘 (北から)



7上SK5断面 (東から)



7上SK5断面 (東から)



7上SK5完掘 (南から)



8上SD34完掘 (東から)



8上SD1断面 (東から)



8上SD1遺物出土状況 (東から)



7上SD8断面 (東から)



7上SD8完掘 (東から)



7上SD2断面 (東から)



7上SD10完掘 (東から)



7上SD11完掘 (西から)



7上SD11完掘 (東から)



C地点遠景 (平成4年度 東から)



7区完備 (平成4年度 上空から)



8区発掘 (東から)



7区発掘 (平成3年度 西から)



8下SE18横出状況



8下SE18断面 (北西から)



8下SE205断面 (西から)



8下SE205横出状況 (西から)



8下SE206断面 (南西から)



8下SE206横出状況 (北東から)



8下SE201・205・206完掘 (北東から)



8下SE201完掘 (北東から)



8下SE26断面 (東から)



8下SE26完掘 (東から)



8下SE27出土状況



8下SE27出土状況



8下SE27完掘 (東から)



7下SE137完掘 (西から)



7下SE145断面 (東から)



7下SE145完掘 (東から)



8下SK43断面 (北西から)



8下SK43出土状況 (北西から)



8下SK17断面 (南東から)



8下SK13断面 (南東から)



8下SK8断面 (北東から)



8下SK14出土状況 (北東から)



8下SK208断面 (南東から)



7下SK79断面 (南東から)



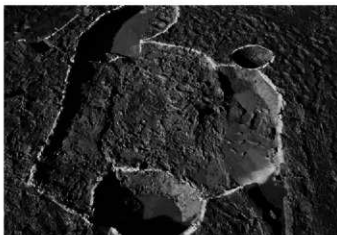
7下SK57断面 (北西から)



7下SK62断面 (北西から)



7下SK54断面 (南東から)



7下SK54完掘 (南東から)



7下SK52断面 (北西から)



7下SK51断面 (南から)



7下SK80断面 (北西から)



7下SK80 (南から)





7下SK7断面 (南東から)



7下SK9断面 (南東から)



7下SK8断面 (東から)



7下SK104断面 (北東から)



7下SK134完掘 (南から)



7下SK3完掘 (南西から)



7下SK60断面 (東から)



7下SK60完掘 (東から)



7下SK102断面(南から)



7下SK102断面(南から)



7下SK102完掘(南から)



8下SD44断面(南東から)



8下SD115・116・117断面(南東から)



8下SD115・116・117完掘(南東から)



8下SD102・114・119・129完掘(南東から)



8下SD21断面(北から)



7下SD16・17・21他完掘 (北西から)



7下SD4断面 (南東から)



7下SD4断面 (南東から)



7下SD1・4他完掘 (南西から)



7下SD133・136完掘 (南から)



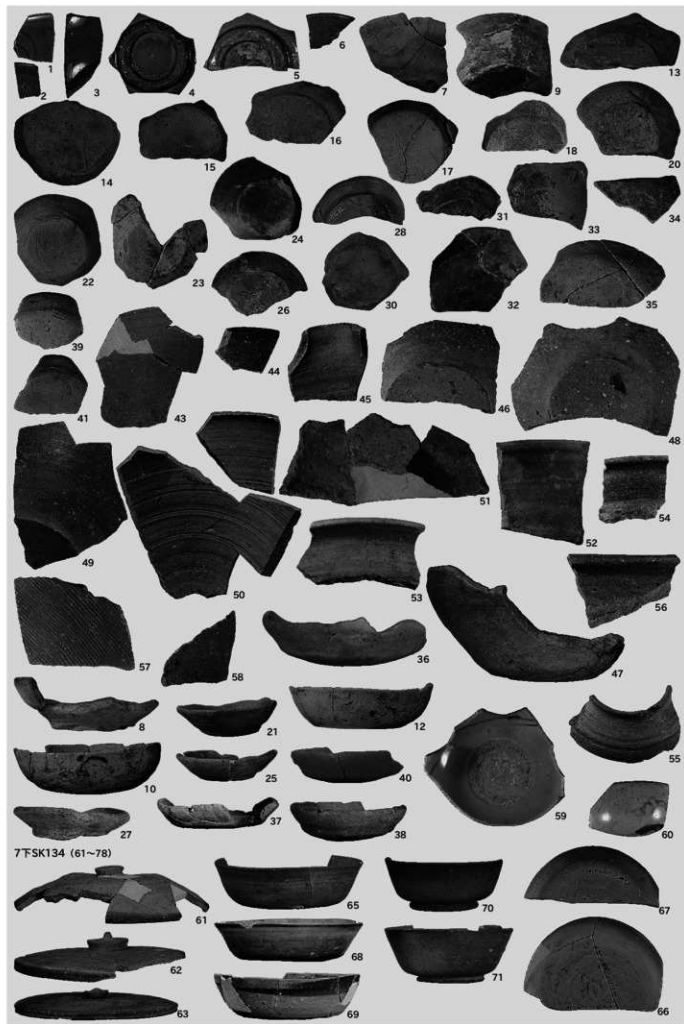
7下SD136

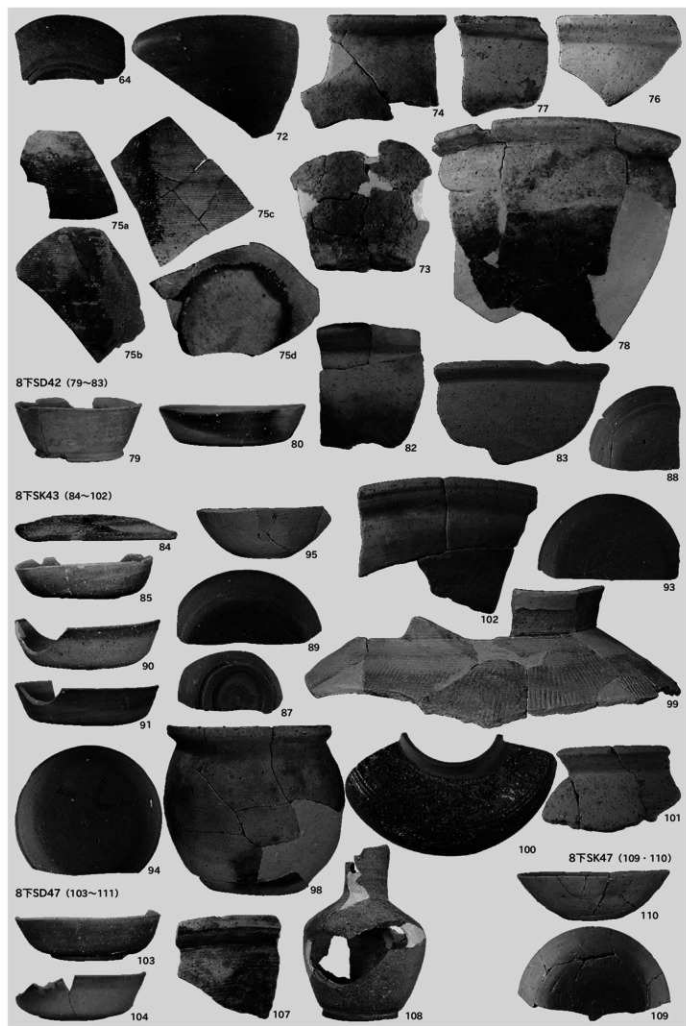


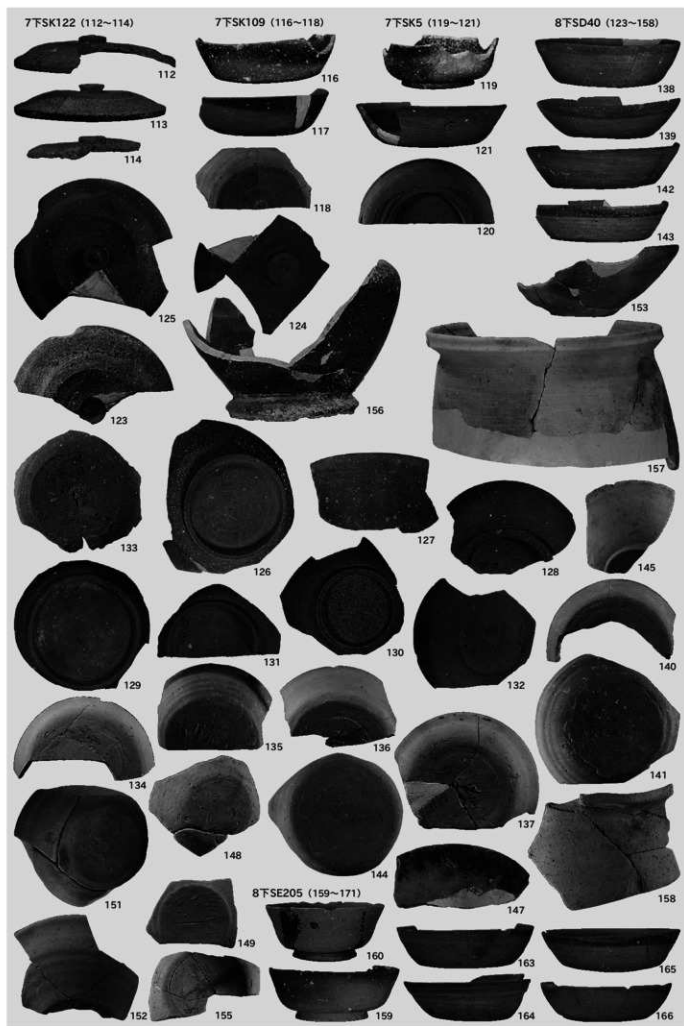
7下SD120完掘 (南から)

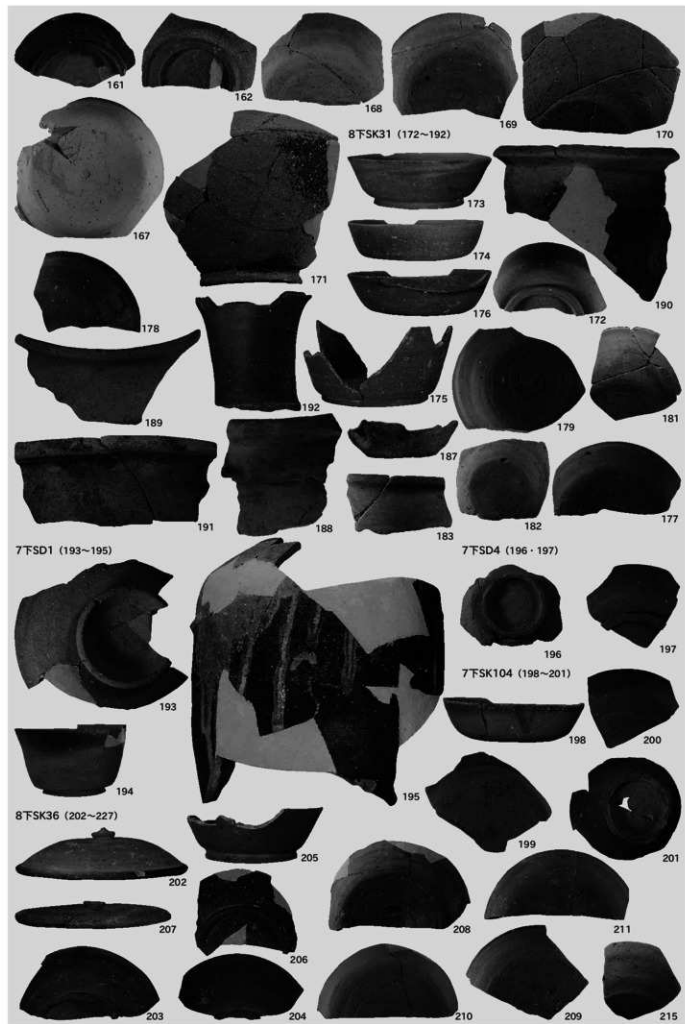


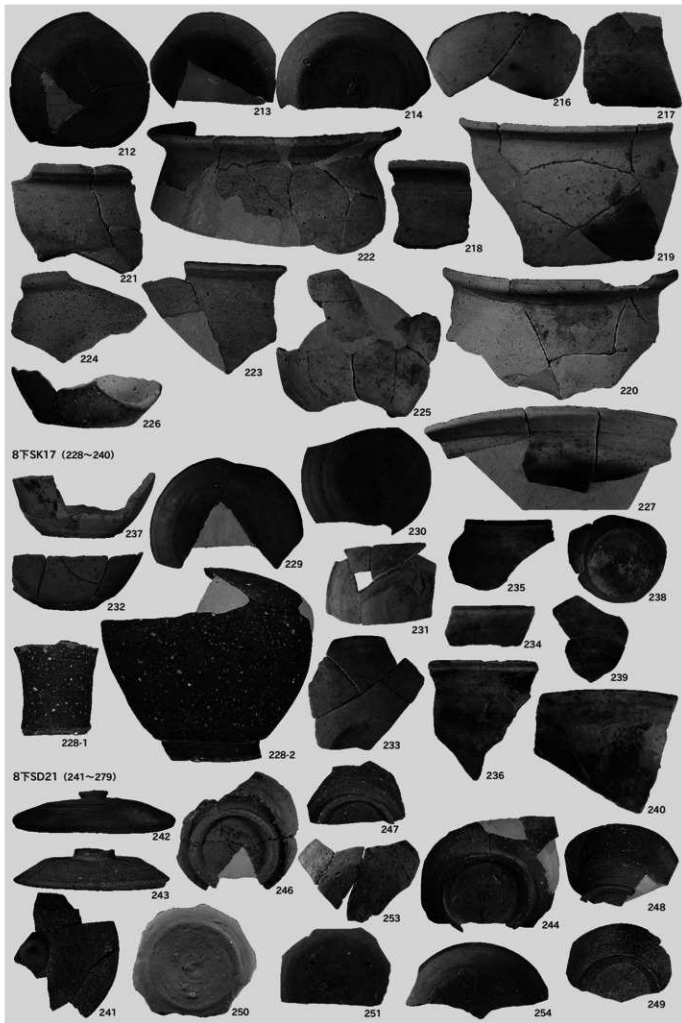
7下SD1断面 (南東から)



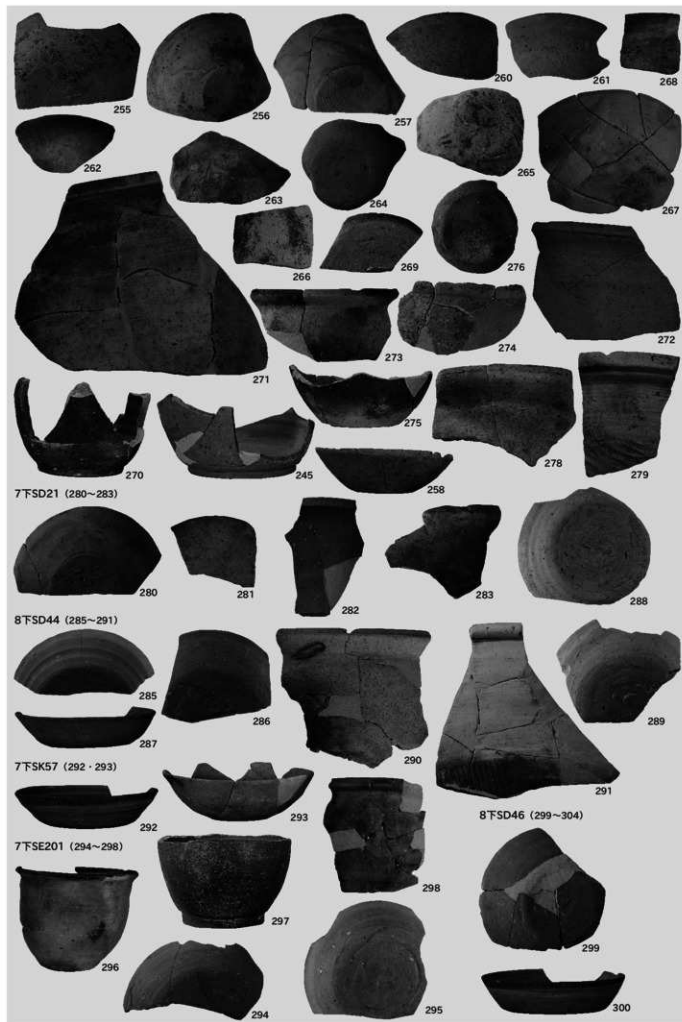


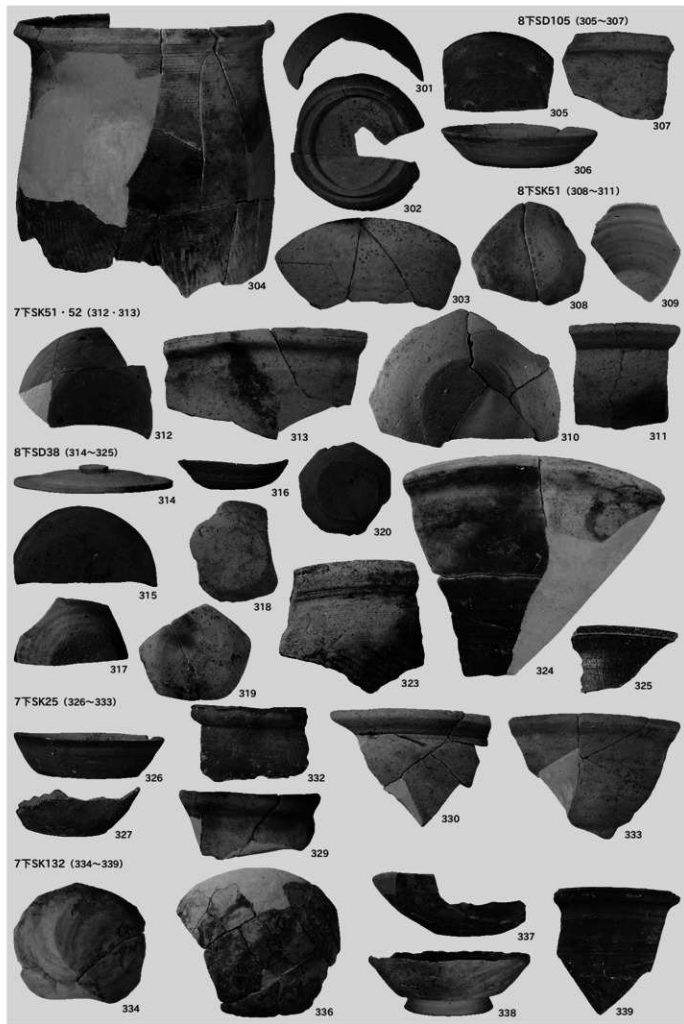


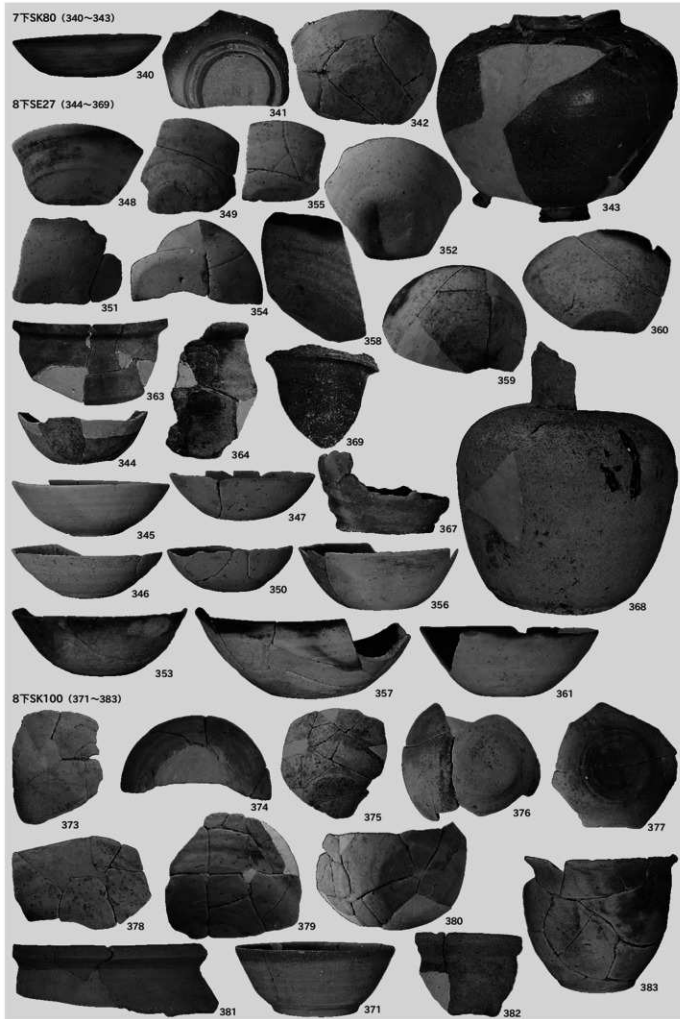


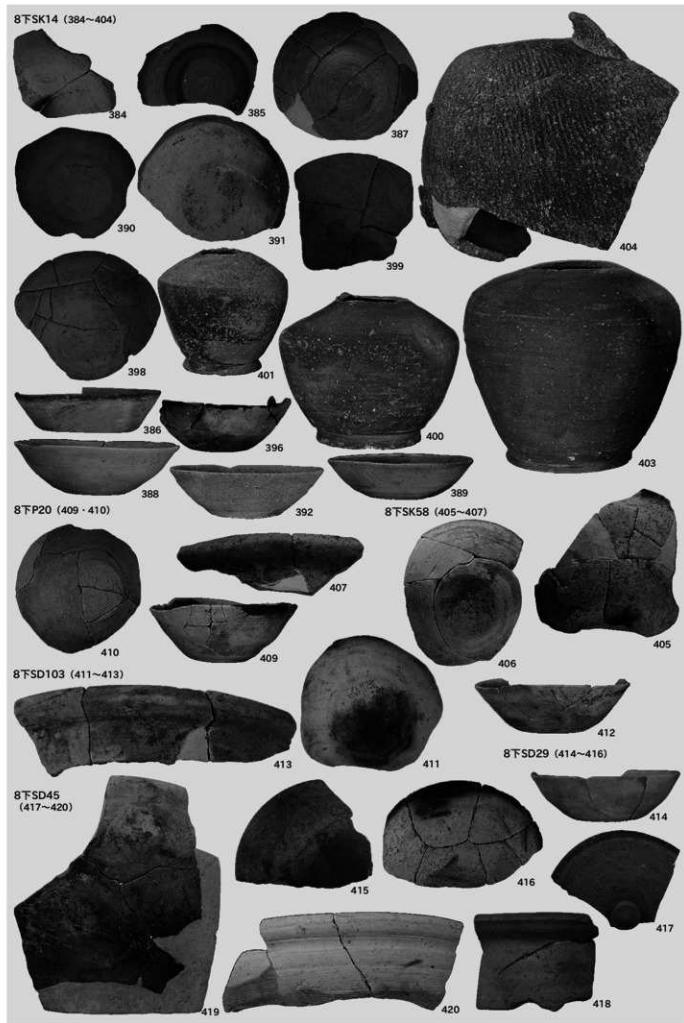


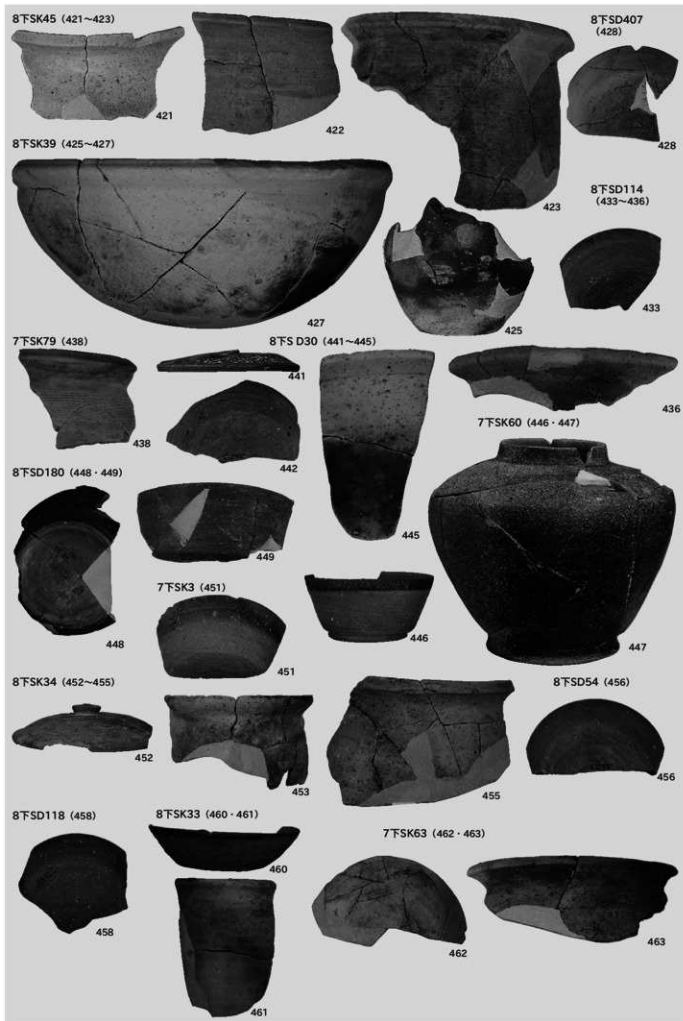


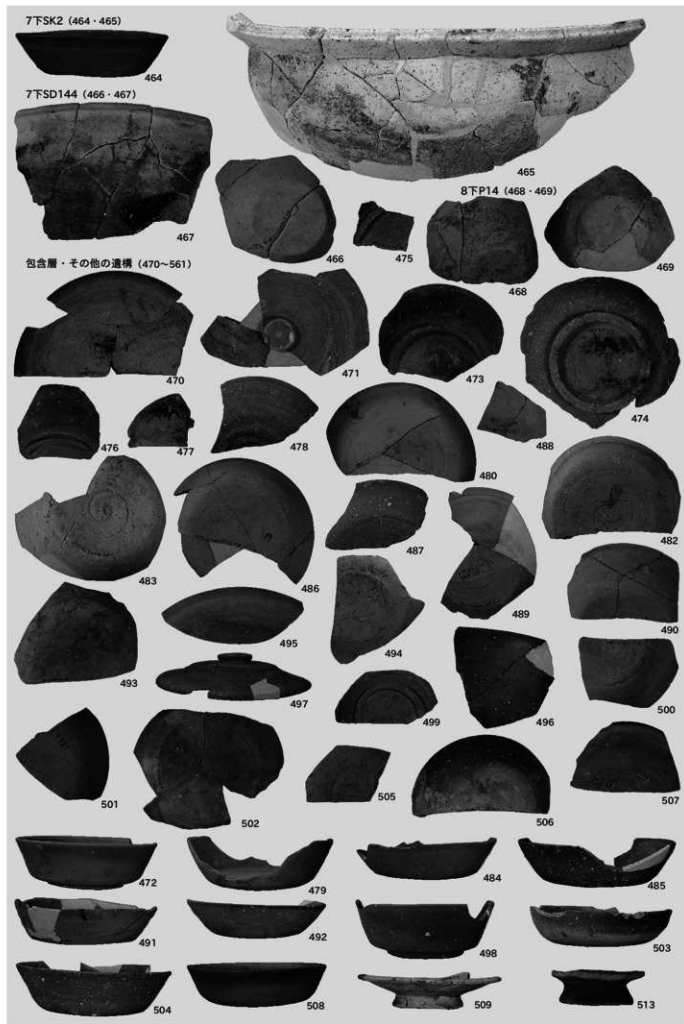




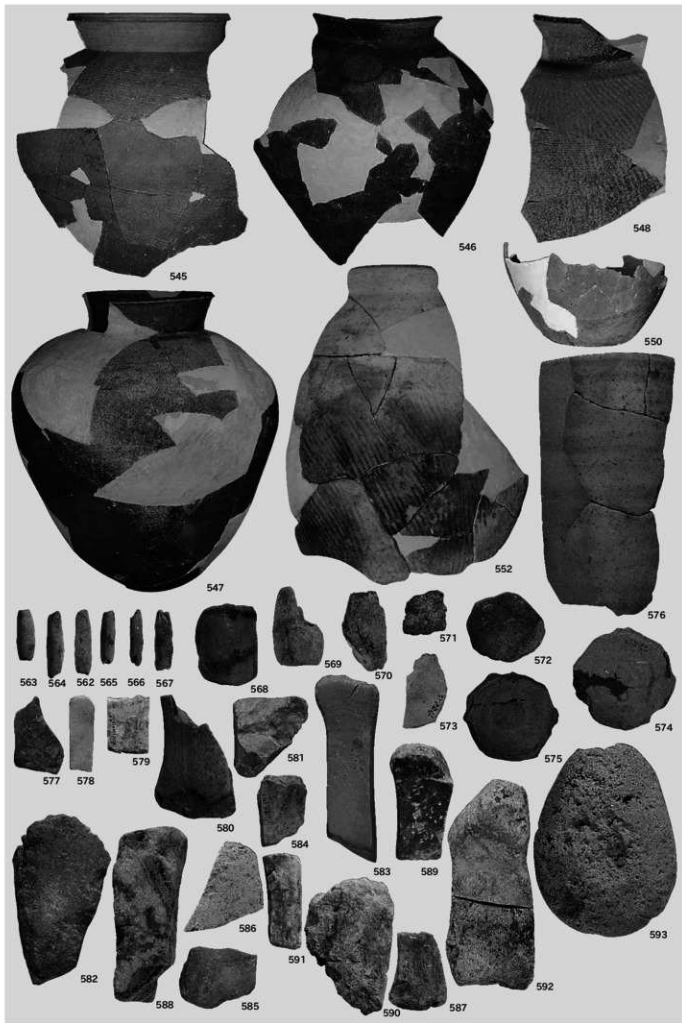




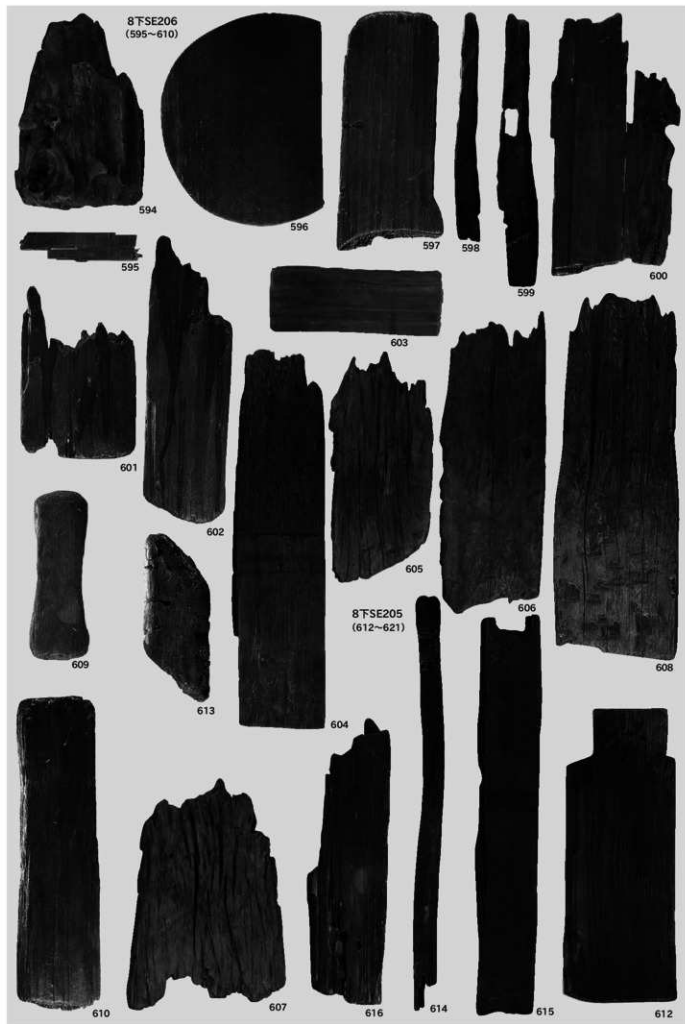


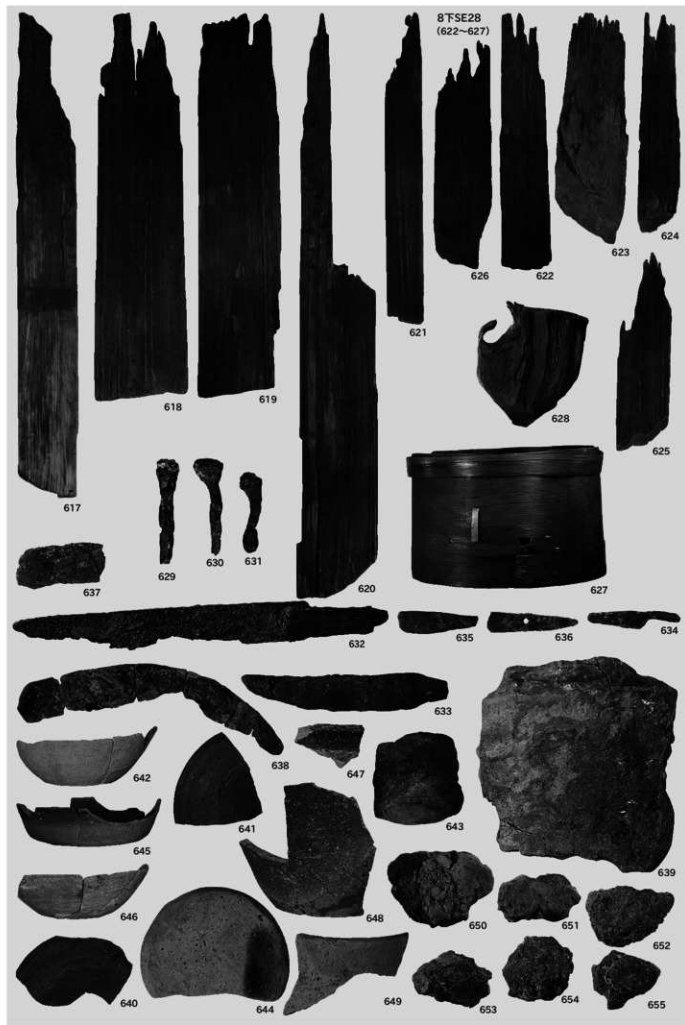












## 報告書抄録

ふりがな	おきのはいせきさん（しーちく）							
書名	沖ノ羽遺跡Ⅲ（C地区）							
副書名	磐越自動車道関係発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名	新潟県埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第123集							
編著者名	春日 真実							
編集機関	財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団							
所在地	〒956-0845 新潟県新津市大字金津93番地1 TEL 0250 (25) 3981							
発行年月日	西暦2003（平成15）年3月31日							
ふりがな 所取遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m <sup>2</sup>	調査原因
沖ノ羽遺跡	新潟県新津市 大字七日町字 沖ノ羽3255ほか	市町村	遺跡番号	° ° °	° ° °	19900412 ～19900630 19910415 ～19911219 19920409 ～19921210	6,100×2層 (12,200m <sup>2</sup> )	道路（磐越自動車道いわき～新潟線）建設
所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
沖ノ羽遺跡	集落・生産跡	中世 (12～14世紀)	掘立柱建物12、井戸6、土坑39、溝36、水田跡？		青磁・珠洲・珠洲系陶器・瓷器系陶器・土師器・砥石・刀子		特になし	
	集落・生産跡	古代 (9世紀)	掘立柱建物4、井戸11、土坑79、畝状遺構、溝		土師器・黒色土器・須恵器・円筒形土製品・土錘・砥石・木器・鉄器		特になし	

新潟県埋蔵文化財調査報告書 第123集	
磐越自動車道関係発掘調査報告書	
沖ノ羽遺跡Ⅲ（C地区）	
平成15年3月30日印刷 平成15年3月31日発行	編集・発行 新潟県教育委員会 〒950-8570 新潟市新光町4番地1 電話 025 (285) 5511 財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団 〒956-0845 新津市大字金津93番地1 電話 0250 (25) 3981 FAX 0250 (25) 3986
印刷・製本	北越印刷株式会社 〒940-0034 新潟県長岡市福住1丁目6番27号 電話 0258 (33) 0306

新潟県埋蔵文化財調査報告書 第123集『沖ノ羽遺跡Ⅲ（C地区）』正誤表追加

頁	位置	誤	正
抄録	北緯（旧座標）	37度49分02秒	37度49分00秒
抄録	東経（旧座標）	139度07分29秒	139度07分40秒

新潟県埋蔵文化財調査報告書第123集 沖ノ羽遺跡Ⅲ（C地区）正誤表

頁	行ほか	誤	正
7	5行	理解される <sup>(誤)</sup> 。	理解される。
24	第8表4段目	工具痕、指痕など。後述	工具痕、指痕など。
26	14行	壺広口壺・狭口壺	壺・広口壺・狭口壺
27	第41表3段目	須恵器C群（惣神）  6 (20%)   24 (80%)	須恵器C群（惣神）  24 (80%)   6 (20%)
30	第14表3段目1行	混入物の少ない精白な胎	混入物の少ない精良な胎
54	10行	古代の土器・陶磁器510点	古代の土器510点